かしか(名)　鮨魚、鰍、いしぶし(動物)
かじか(名)　河鹿、石鶏、錦嶺子、なくかはづ(美聲を發する蛙の屬にして溪川に多く住む、亦玉川に多くありと云ふ)(動物)
かしかり　貸借、かすことかること
かしかた(名)　貸方、債主、金主、貸主(かしぬし)、權利者
かしがましき(形)　諠聒、やかましき、かまびすしき
かしよ(名)　歌書(歌道の書)、うたのふみ
[かしよ](副)　假如、たとひ、よしや
かしよね(名)　粿米、あらひよね、とぎたるこめ
かしよう[する](他)　歌頌、うたひほむる
かじよう(名)　荷繩になは、にあひなは
かしよく(名)　佳色、美色、うるはしさ
かしよく(名)　稼穡、たねまきかりいれ、農作
かじつ　佳日、吉日、よきひ
かじつ(名)　暇日、ひまのひ、いとま
かしづく(自)　傅、もりする、冊侍、又あふぎうやまふ
かしづける(他)　貸附(金子を人人に貸し渡す)
かしづき(名)　傅、もりびと、つきびと
かしづきびと(名)　傅、ともびと
かしらがき(名)　髽頭、冠注、標注、かしらちう(書籍の)
かしらつつみ(名)　帕、帨巾、包頭巾、まつかう
かしらやく(名)　頭役、長官、主吏、をさ
かしらげ(名)　頭髮、あたまのけ、かみのけ
かしむら　櫟村(氏)
かじう(名)　家僕、けらい、家僕、しもべ
かしのき(名)　櫟、橿、橿、かたぎ(植物)
かしく(名)　可祝(婦人が文の終りに用ふる所)
かしぐ(他)　炊爨、めしたく
かしぐ(自)　傾、かたむく、まがる、欹
かしくわん(名)　下士官(海陸軍の下等士官)
かしや(名)　貸居、かすいへ、貸家
かしや(名)　假舍、こやがけ、かりたてや
がしや(名)　牙車、輔車、頰車、あごぼね、うらかまち
かしやう(名)　下棠、ゆもじ、下帶、したのれび
かしやう[する](他)　加尙、くはへる
かしやう　嘉祥、よきしるし、よきしらせ
かじやう(名)　下憫、しものあはれさま、民情
かじやう(形)　家釀てづくり、うちがもし(酒に謂ふ)
がしやう(名)　牙商なかがひ(仲買)
がしやう(名)　鵝掌、みつでうらぼし、鵝掌金星草、金雞草(植物)
がじやう(副)　雅常、つねづね
がじやう(名)　牙城、ほんまる、ねじろ、牙營
がじやう(名)　雅憫、みやびごころ
かしやく(名)ーする(他)　呵責、しかりせむる
がじやく(名)　賀鵲、よろこびがらす(動物)
かじま或かしま　鹿島、氏また地名)
かしまだち(名)　鹿島立、かどで、首途、たびだち
かしましき(形)　囂、かまびすしき、囂囂、喧噪、喧聒、姦嘈嘈、やかましき
かじける(自)　凍冷、こごえる
かじける(自)　憔悴、やせとろふ
かしふ(名)　歌集、うたよせ

がしふ(名)　我執固執、かたくな、我意
かしふつ(名)　杜父魚(動物)
かしこ(名)　彼處、彼許、此處、彼首、わすこ
かしこどころ(名)　賢所(三種の神器を祭れる天子の御宮)
かしこむ(他)　畏、畏敬、おそれうやまふ
かしこざま(名)　墾草、たで、利根草(植物)
かしこまる(自)　畏、畏承、つつしみうけたまはる。又ただしくすわる、正坐
かしこき(形)　可畏、おそるべき
かしこき(形)　賢、英才、俊秀、英智、賢哲、俊傑、伶俐、卓識、ちゑある
かしさげる(他)　貸下(政府より人民に金子等を貸渡す)
かしぎがて(名)　飯、ものをませたるいひ
かしゆ(名)　家主、あるじやぬし、戸主
かしゆ　下手(げしゆ)、てをくだす。又へた(上手の反)
がしゆ(名)　雅趣、雅致、みやびたるおもむき
がしゆつ(名)　哉遂(藥品植物)
かしゆう(名)　何首烏(かがいも、うばがつづら(植物)
かしゆく(名)　假宿、かりやどり
かじゆく(名)　家塾、私塾、てらこや
かしん(名)　家臣、家來(諸侯の臣)
かしん　嘉辰、佳辰、良辰、よきとき、めでたきひ
かじん(名)　歌人、うたよみ、うたびと
かじん(名)　佳人、うるはしきをんな、美人
がじん　(名)　雅人、みやびを(風雅の人)
がじん(名)　牙人、口入(くちいれ)
かおい　遐裔、とほきすゑ、遠孫
かえい(名)　牙營、本營(大將の本陣)
かえふ　荷葉、はすのは
かにん(名)　河堰、かはよけ
がにん(名)　賀筵、いはひのさかもり
かひ(名)　貝螺、介(介蟲および其殼)、かひうを。かひがら
かひ(名)　穎、ほさき(穀物の穗の末)
かひ　可否、よしあし、當否、良否
かひ(名)　飯匙、しやくし(飯もる具)
かひ　甲斐(東海道の一國)
かひ(名)　峽、はざま(山と山との間の狹き所)
かひ(名)　下婢、はしため、下女
かひ(形)　佳美、うつくしき、よき
かび(名)　殖饅、饅(腐れ或むれて生ずる細菌狀の物)
かび(名)　假猱、うたたね、かりね
かび(名)　蚊火、かやりび、かいぶし
がび(名)　蛾眉、ほそまゆ、みかづきまゆ
かひいぬ(名)　飼狗(やしなひれくいぬ)
かひいた(名)　梨鰲(菓子の類)
かひいれる(他)　買入、購入、かひもとめる
かひば(名)　聚八仙(植物)
かひば(名)　飼葉、飼草、牧草(馬などに食はする食物をいふ)、まぐさ、飼料
かひばをけ(名)　馬槽、槽櫪、うまぶね
かひはまる(自)　買陷、かひかぶる、たかくかふ(欺かれなどして)
かひばきり(名)　飼草薙、剪秣器、かひばきるもの
がびとう(名)　蛾眉豆、ひらまめ(植物)

かひぬし(名)　買主、かひて、かひかた、購買人
かひぬし(名)　飼主、やしなひて(犬猫等の)
かひる(名)　蛙、かへる、かはづ(動物)
かひれはひ(名)　貝覆貝合戯、かひあはせ(女兒の遊戯)
かひれく(他)　畜置、飼養、やしなひれく(犬猫等を)
かひわり(名)　甲坼(かいわりをみよ)
かひがかり(名)　買掛、かひがけ、かひたき
かひがね(名)　肩胛骨、かひがらぼね、かたぼね
かひがね(名)　甲斐之嶺、かひのくにのみや
かひがら(名)　貝殻、蝟、かひがち
かひかふ(名)　甲香、へなたり、ばいのふた(或貝の蓋にして之を香にまじへて焚けば香氣を増すと云ふ)
かひかぶる(他)　買被、たかくかふ、かひはまる
かひがひしき(形)　甲斐甲斐敷、忠實、まめまめしき。精悍、たのもしき、けなげな
かひたい　買度、かはんとねがふ
かひだるし(形)　腕萎、かひなだるし
かひだす(他)　買出、かひとる
かひたんたり(名)　甲比丹織(織物の名)
かひつ　加筆、かきそへる、ふでをくはへる
かひつく(自)　膠着、膠着、かびてひたつく
かひね(名)　峡、やまのあひ、かひ
かひつける(他)　馴養、養狎、かひならす(動物を)
かひねこ(名)　飼猫、やしなひれくねこ
かひな(名)　腕、臑、肱、臂、うで
かひなつける(他)　養狎、かひならす
かひなき(形)　無甲斐、無効、ひだ、いたづら

かひん　佳品、よきしな、良品
かひん(名)　廂廡、ひさがはら
かひん　下品鹿品、わしきしな
かひん　嘉賓、よきまろうど、珍客、めづらしききやく
かも(名)　鴨、鳧、水鳴、野鳴、のあひる(動物)
かも　加茂(山城愛宕郡の地名。また(氏)
かも(名)　哉(愛喜ともに用ふる嘆辞、かな
かもね(名)　鴨居、承塵戸の上に横はる闥の如き者)
かもかつら(名)　木蘭、かつら(植物)
かもうり(名)　冬瓜、とうがん、地芝(植物)
かものはし(名)　鴨嘴獣(濠洲に産する奇獣にして其口鴨の口喙に似たり、因て名く)
がもく(名)　鵝目、せに、鳥目
かもぐつ(名)　鴨沓(毬を蹴るに用る沓)
かもあふひ(名)　雙葉細辛、ふたばあふひ(植物)
かもめ(名)　鷗鷺、江燕、水鳥、うみにうかぶしろきとり(動物)
かもめつる(名)　白前の一種(植物)
かもめぎく(名)　鷗菊、苦意、きりんぎく(植物)
かもめもち(名)　細葉冬青(植物)
かもじ(名)　髢髦、髪、假髪、いれげ
かもじ(名)　家母、慈母、はは、はうへ(自己の母をいふ)
かもじか(名)　羚羊、麞、九尾羊、

(羚羊の圖)

かもしし、かましし、やまひつじ(動物)
かもしだる(名)　醸樽(酒を作る桶)
かもじぐさ(名)　鵜觀草、かづら(植物)
かもしし(名)　羚羊、かましし、かもしか(動物)
かもえ(名)　鴨栖(鴨居に同じ)
かもす(他)　醸、醞(酒を造る)又れこす
かもん(名)　勘文、かんがへぶみ(官府に上る考案意見等の書)
かもん(名)　家門、いへ。やから
がもん(名)　牙門、軍門(本陣を謂ふ)
がもん(名)　衙門、やくしよ(官署を云ふ)
かせ(名)　枷械、桎、鉗、手械、頸械、足鉄(手或足に繋くる刑具)
かせ(或かせいと)(名)　絕絲(絲にとりたる麻)
かせ(名)　掛、いとくり
かせ(名)　風天籟、ふくかせ(空氣の動揺する者)
かせ(名)　寒冒、ひきかせ、風邪
かせい(名)　家政(一家の經濟)
かせい(名)　家聲、いへのほまれ
かせい(名)　加勢、援兵、たすけのつはもの
かせい　苛政、暴政、虐政、しへたぐるまつりごと
かせい　佳聲、よきほまれ、美名
かせい(名)　假聲、そらごゑ、つくりごゑ
かせい　苛性、いらひどきさが。又(劇薬などの腐蝕するを謂ふ)
かせい　苛税、重税、重斂、酷税、聚斂、れもきとりかれもきせい

かせい(名)　家税、やちん、いへかしれう
かせいと(名)　總絲、かせにかけたるいと
かせいた(名)　梨糕、査梨膏、なしのもち
[かせいらふ](名)　加西蝮、かすていら(海綿菓子の名)
かせいらん(名)　賀正蘭、福壽草(植物)
かせる(自)　感染、受毒、かぶれる(漆等に)
かせる(自)　落痂、乾痘瘡、かわく(腫物などが乾くを云ふ)
かせる[する]　架設、かけまうくる、かけわたす(電線等を)
かせつ　佳節、めでたきひ、いはひどき
かせづゑ(名)　拐杖、横首杖(上に横木ある杖)
かせう(形)　可笑、わかしき、わらふべき
[かせう](副)　假饒、たとひ、よしや
かせのれと　風疊、颱颶
かせのかみ　風神、風伯、飛廉、巽二扉翳婆度(日本にては志那都比古の神)
かせのたより(名)　風聞、うはさ、かせのつて
かせぐ(自)　稼、出精、勞動、勞役、力役、勉役、稼働、はたらく
かせぐるま(名)　繅車、枠車、いとくりぐるま
かせぐさ(名)　知風草(植物)
かせけ(名)　風氣、かぜごち、かぜひきたるきみ
かせぶくろ(名)　風囊(旗の類)
かせき[する](他)　呵責(かし　　(風囊の圖)
やく、しかりせむる
かせぎ(名)　枠木(機の經糸を上下する具)
かせにるし(名)　風標、かざみ(風の方向を見る器)
かせひく(自)　感胃、さむさにあたる

かせん(名)　歌仙、うたのひじり(歌道の達人)
がせん(名)　牙錢、きもいりちん、てすうれう
がせん(副)　俄然、にはかに、突然
かせんがひ(名)　歌仙貝(動物)
かす(名)　粕、糟滓、をりくづ
かす(他)　貸貸與、賃貸、質貸、ようだてる、しばらくうかはする
かず(名)　數、員(物の幾何を記する語)
がす(名)　瓦斯、氣、氣狀體物(常に石炭より取て點火に供する物をいふ)
がす(名)　廢炭(石炭坑にて棄る石炭の類)
かすね(名)　河水、かはみづ
かずい　嘉瑞、祥瑞、よきしるし
かすべ(名)　鮃、うをのな(動物)
かずへのかみ(名)　主計頭(昔の官名)
がすとう(名)　瓦斯燈、煤氣燈、石炭の氣を以て燃す燈
かすり(名)　微利、うはまへ、あたまはること
かすり(名)　飛白(織物の縞の名)
かする(自)　輕觸、微觸、すこしふれる
かすを(名)　檜尾(馬の毛の斑白なるを云ふ)、かすげ
がすれち(名)　瓦斯落(石炭が砂石と混じたる屑をいふ)
かすか(形)　幽微、すこし、わづか、ぼんやり
かすがべ　春日部(氏)
かすがど(名)　白砥(砥石の名)
かすかた　春遂(氏)
かすがひ(名)　鍵鎖、鍵馬、鍵鉦、鴛鴦絆、つぎあはせくさ

かすれる(自)　微觸、わづかにさはる、かする
かすづけ(名)　糟漬(酒糟の中に漬たる物)、粕藏
かずならぬ(形)　不肖、とるにたらぬ
かすむ(自)　霞露、暈、くもる、うすくらくみゆる、耗、翳耗、眇(目等が)
かすう(名形)　遐阪、とほきくに、かたゐなか
かすう　嫁娶、とつぎめとり
かずのこ(名)　青魚卵、鰊鯑にしんのこ
かすや　糟谷、粕谷(氏)
かすけ(名)　鷸鷸鳥(動物)
かすげ(名)　糟毛、霞毛、驈油馬、驈馬、騮馬(馬の毛色ならびに是の如き馬)
かすていら(名)　加西底蝮、加西蝮、粽糕、蛋糕(菓子)
かすざめ(名)　黄沙魚(動物)
かすゆざけ(名)　糟湯酒(酒糟を湯に和したる飲料)
かすめとる(他)　劫取、刼奪、掠奪、うばひとる
かすめる(他)　罟、掠、奪取、うばふ
かすみ(名)　霞、烟霞、陰翳、山靄、きり(春の)
かすみわたる(自)　霞渡、朦朧、ぼろげなる
かすみさう(名)　亢實草(植物)
かすひ(名)　蚊母鳥(動物)
かすも(名)　雀斑、そばかす(面に生ずる小黒)
かすもみ(名)　臭酒の粕に漬けたる肉、かすづけにく
かん(名)[する](他)　烟燻、温(酒を煖るを謂ふ)
かん(名)　勘、かんがへ、さぐりわて(盲人の)
かん(名)　漢(支那古代の國號にして或時は支那の名として用ふ)、もろこし

かん(名)　韓、から、朝鮮を謂ふ)
かん(名形)　寒、さむさ、さむき
かん(名)　疳、癇(病名)
かん(名)　幹、みき(樹の)、から
かん(名)　諫、いさめ(諫に五有り諷諫、順諫、規諫、致諫、直諫、といふ)
がん(名)　鴈、かり、かりがね(動物)
がん(名形)　贋、にせ、僞作、擬製
がん(名)　眼、まなこ、め
がん(名)　龕神佛を安置する厨子、また棺)
かんい(形)　簡易、てがる、こともなく、な、簡單、平易、輕便
かんい(名)　乾飴、かたあめ
かんい(名)　寒衣、ふゆぎ、わたいれ
かんい　漢醫(漢方の醫者)
かんい(名)　汗衣、あせぎぬ、したぎ
かんね　寒威、さむさのいきほひ、寒氣
かんいう[する](他)　甘誘、あざむきよする、をびきよする、いざなふ
かんいう(名)　肝油、たらのあぶら、レイフルヲラン
かんいん(名)　翰音、にはとり(雞の異名)
かんいん(名)　姦淫、みちならぬいろごと、密通、まをとこすること
かんろ(名)　間路、ぬけみち、かくれみち、間道
かんろ(名)　甘露、あまきつゆ、つゆ
かんろ　寒露(二十四節の一)
かんろばい(名)　甘露梅、あまきうめ(植物)
かんろく(名)　閒祿(無用の俸給)

かんぱ[する](他) 看破、みぬく、みやぶる
かんぱ[する](自) 干破、ひわれる
かんば(名) 騍馬、あらうま
かんばい 汗背、せなかにあせかく(恥て)
かんばい[する](他) 感佩、ありがたくおもふ
かんばい(名) 酣梅、あんず(植物)
かんばい(名) 乾梅、うめぼし、うめづけ
かんばい(名) 寒梅、早梅、はやざきうめ(植物)
かんはとり(名) 神服、神衣、かむみそ(神に奉る衣服)
かんはた(名) 綺(絹の美き者)
かんばつ(名) 旱魃、ひでり、旱天
かんばら 蒲原(氏また越後の地名)
かんばう(名) 訐訟、そばかす(面上に出る)
かんばう(名) 看棚、ものみさしき、さじき
かんばう(名) 看坊(後見人を謂ふ)
かんばう(名) 監房、らうや、獄舎
かんばう(名) 干旋、うまじるし
かんばう[する](他) 閑防、ふせぐ、ふせぎとはざくる
かんばう(名) 感冒、ひきかぜ、風邪
かんばうい(名) 漢防己、たつのはかづら(植物)
かんばく[する](他) 絨縛、しばる、ゆはへる
かんばくぢやう(名) 看婆娘、おはかへり、すすめのまくら(植物)
かんばやし 上林、神林(氏)
かんばのらう 汗馬之勞(戦闘の苦労を謂ふ)
かんばせ(名) 顔容、面色、かほばせ、かほいろ
かんぱん[する](自) 乾反、ひぞる、かわきてそりかへる
かんぱん(名) 甲板、艦板(船の上床を云ふ)
かんぱん[する](他) 干犯、をかす(法律命令等を)、やぶる
かんばん(名) 乾飯、ほしいひ、ほしめし
かんばん(名) 號衣(從僕の上衣)、しるしばえてん
かんばん(名) 看板、招牌、記號、めじるし(商家の)
かんにち(名) 坎日(曆に言ふ所凡欠日とも書く)
かんにく(名) 乾肉、ほしにく、ほじし
かんにん[する](自) 堪忍、こらへる、がまんする。又[俗]ゆるす
かんぽ[する](自) 閑歩、しづかにあゆむ、散歩
かんぱ(名) 旱蒲(あやめの類)(植物)
かんぼう 奸謀、わるだくみ
かんぼく(名) 刊木、はんぎ(板木)
かんぼく(名) 翰墨、ふでずみ。また文學
かんぼく(名) 接骨木、にはとこ、山梁樹(植物)
かんぼくこう(名) 楓木工、よせぎざいく、きりはめざいく
かんぼくのはやし 翰墨之林(學問所等と謂ふ)、文場
がんぼくぎよ(名) 含墨魚、いか、烏賊墨魚、鰞鯽(動物)
かんぼしいひ 寒糒(寒中に製せし乾飯)
かんぼう(名) 感冒、ひきかぜ、傷寒
がんぼん 贋本、にせほん、偽書
かんべい 神戸(氏また地名)
かんべい(名) 斡米、わにしゆずだま(植物)
がんぺい 贋幣、偽造貨、にせがね(贋金)
かんべつ[する](他) 鑑別、めききする、みわくる
かんべう(名) 干瓢、ほしひさご(食品)
かんべん(名)。—する(他) 勘辨、かんにん、ゆるし。ゆるす

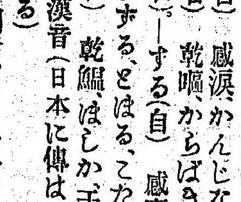
かんべん(形) 簡便、てがる
かんと(名) 乾土、かわきつち、くが
かんと(形) 閑都、みやびやか
かんど(名) 漢土、から、もろこし
がんど(名) 雁奴、ばんどり、鵝(動物)
かんどり(名) 楫師、かぢとり(船の柁をつかさどる人)
かんとりさう(名) 連錢草、かきどほし(植物)
かんとつ[する] 騍突、あれまはる(馬が)
かんとう 竿頭、さをのおたま
かんどう[する](他) 感動、かんじうごかす、みにしみさする
がんどう(名) 巖洞、いはや、ほらあな
かんとうし(名) 間投詞(文法上にて歎感の語を謂ふ)
かんとく[する](他) 看得、みすます、みとる
かんとく(形) 姦慝、よこしま、かたましき
かんとく[する](他) 感得、かんじうる。さづかる
かんとく(名)。—する(他) 監督、かんがみ、とりしまり。又僧正。みまはりする、とりしまる
かんどく[する] 閑讀、ひまよみする。なぐさみよみする
かんどく(名) 簡牘、てがみ、尺牘、ふみ
かんどこ(名) 勘處(三絃等の指を上下する處)。又かんがへどころ
かんどき(名) 霹靂、かみなりのわれつること、かみとけ。れ:ほがみなり

かんとも 神部(氏)
かんとん 廣東(支那の一省にして有名の大都會の名)
[かんどん](名) 酬壜、かんどくり、焼陶
かんち(名) 閑地、しづかなるところ、閑散之地(無職閑遊の地)
かんち(名) 奸智、わるぢゑ、かたましさ、悪智
かんち(名) 咸池、ひのいるいけ(日没池)
がんち(名) 片眼、隻目、瞎、かためくら
かんちから(名) 神税(昔し神に奉りし稻をいふ)
かんちよ(名) 礦儲、わをと、といしのたぐひ
がんちよへい 贋楮幣、にせさつ、贋札
かんちよく 奸直、よこしまなほき
かんちう(名) 寒中、ふゆのあひだ(重寒三十日の間をいふ)
かんちく(名) 寒竹、雪竹、紫竹、箬竹、漢竹、斡竹、やのたけ(植物)
がんちく[する](他) 含蓄、ふくむ、こむる(意味等を)、たもつ
かんちやう(形) 酬酢文章の流麗快活なるに云ふ)
かんぢやう(名)。—する(他) 勘定、計算、かぞへあげる(金錢を)、かぞへる。又擬律、つみにさだむる
かんぢやうかた(名) 勘定方、計算者
[がんちやうぎよ](名) 眼張魚、めばる(動物)
かんり(名) 監吏、にもつしらべやく(税關の)
かんり 姦吏、かたましきつかさびと(姦悪の官吏)
かんり[する](他) 幹理、管理、とさめつかさどる、すぶる
かんりやく(形) 簡畧、てみじか

がんりき　眼力、めのちから
かんりん[する](自)　監臨、さたりてとりしまりする(警吏等が)
かんりんがくし(名)　翰林學士(支那の最上學位)
かんりんし(名)　神主、神官、祠官、神職、はふり
かんるゐ(名)　感涙、かんじなみだ(感出す涙)
かんるう(名)　乾嘔、からばき、からえづき
かんれう(名)。—する(自)　感應、つうじこたへること、ささめ。つうずる、とほる、こたへる。しるしある、きく
かんをん(名)　乾餡、ほしか、干鰯、ほしいわし
かんをん　漢音(日本に傳はれる支那音の一にして今專ら行はる)
かんわ(名)　閑話、あそびばなし、よけいのはなし、いらぬものがたり
かんか(名)　間暇、ひま、いとま
かんか(名)　漢家(漢土の醫療法を用る醫者、漢方醫者
かんか(名)　坎坷、失望、のぞみどうしなふこと。きれち
かんか(名)　感荷、かたじけなさ、ありがたさ、感謝
かんか(形)　閑雅、みやびやか、しとやか
がんか(名)　眼瓜、めのした
がんか(形名)　諮嗟、ひろくはがらか。又れはくちあな、れはほら
かんがい[する](他)　間闕、さへぎる、ささへる
かんがい(名)。—する(自)　感慨(物に感じて大に心の動く事。かんじなげく、感動
かんがい[する](他)　陷害、おとしいれそこなふ

かんがみる(自他)　鑑、鑑、てらしみる。しらべみる
かんかん(副)　旰旰(ざかんなる貌)
かんかん(形)　旱乾、てりかわく
かんかん(副)　甘甘、ここちよく
かんかん(副)　閑閑、ゆるやかに、ゆつたり
かんかん(名)　陷坎、おとしあな、陷阱
かんがん　汗顔、かほにあせする(恥て)
がんがん(副)　巉巉、たかくけはしき(山の)
かんよ[する](自)　干預、あづかる、たづさはる。干渉
かんよ(名)　堪輿、あめつち、天地、宇宙
がんよう(名)　顔容、かほかたち、面容
かんだ　神田(氏また地名)
[かんだ](名)　乾唾、かたづ(片唾とも書く)
かんたい(名)　簡怠、をこたり。なげやり
かんたい(名)　寒帶、地球上氣候寒烈の部分を謂ふ、南北に各一帶あり)
かんたい(名)　乾苔、ほしのり、あさくさのり
かんたい(名)　艦隊、ふなて(戰艦の一隊)
かんたい(名)　釬鉄、かなぎ(刑具)
かんたい[する](他)　感戴、ありがたくれもふ
がんたい(名)　眼代、目代、代官
かんだち(名)　霹靂、かんどき、かみとけ、はたたがみ、れちがみなり
かんだち　神館(氏)
かんたちべ(名)　上等部、たふときひとたち
かんたりす(名)　芫菁、はんめう(動物)[洋語]
かんだから(名)　神寶、かみのたからもの

かんたう(名)　甘棠、あまなし(植物)
かんだう(名)。—する(他)　勘當、れひはあつこと(不孝の子等を)。れひだす。又しかりこらす(君父が臣子おとを)
かんだう(名)　間道、わきみち。ちかみち、ぬけみち
かんだう(名)　澗道、たにみち、たにまのみち
がんたう(名)　含桃、にはざくら(植物)
がんだうぎやうちん(名)　強盜提燈(手許は暗くして先計り照す者、遮眼燈
かんたく(名)　閑宅(閑居する家宅)
かんだく[する](他)　甘諾、こころよくうけひく
かんたまご(名)　寒鷄卵(寒中に生みし雞卵)
かんたん(名)　菡萏、はちすのつぼみ(蓮莟)
かんたん(形)　簡單、いりくまぬ、やさしき
かんたん(形)　簡短、てみじか
かんたん(名)　奸貪、むさぼり、强取
かんたん(名)　肝膽、きもだましひ
かんたん[する](他)　感歎、かんじほむる
かんだん(名)　間斷、たえまされま
かんだん(名)　閑談、ものがたり、よもやまのはなし。閑話
かんだん　寒暖、あつさざむさ
かんたんをくだく　摧肝膽、こころをくだく、れもひをめぐらす
かんたんのまくら　邯鄲枕、うきよのゆめ(盧生の故事)
かんだんけい(名)　寒暖計、寒温儀(温度を見る器)
かんれい(形)　悍厲、はげしき、つよき
かんれい(形)　閑麗、みやびやか、うつくしき
かんれい(名形)　寒冷、ひややか、つめたさ。つめたい


(圖の盧格更)

二六・三・廿六

かんれい　函嶺、はこね（相摸國足柄郡に在りて關東關西を分つ所の高山）箱根山
かんれい（名）　含靈、いけるもの、生靈、生物、いきもの
かんれいしや（名）　寒冷紗（薄き麻布）
かんれつ（自）　干裂、ひわれる
がんれう（名）　顏料、にのぐ、そめぐさ
かんそ（名）　甘鼠、おまくちねずみ（動物）
かんそう　閑窓、幽窓、しづかのまど、しづかのすまひ
かんそう［する］（他）　澁澈、あらひそそぐ
かんそう（名）　漢葱、わけぎ、かりぎ（植物）
がんそうざい　含嗽劑、うがひぐすり、ふくみぐすり
かんそく（名）　感觸、にぼに（さはりてわかゆること）
かんぞく（名）　寨粟、さふけだち、とりはだ
かんぞく（名）　奸賊、わるもの、逆徒、むほんにん
かんぞく（名）　寨族、いやしきもの
かんぞまつり（名）　神衣祭（四月十四日に執行ふ伊勢の神事）
かんそん（名）　旱損、ひでりそこなひ
かんそん　寨村、やせむら、まづしきむら
かんづかさ（名）　神官、祠官、社司
かんづかさのかみ　神祇伯（神社を主る長官）
かんづつみ（名）　帕、かぶりもの、あたまつつみ、づきん
かんつう［する］（自）　感通、かんじとほる
かんつう（名）（一する（自）　姦通、私通、まをとこする、密通
かんねい（形）　奸侫、ねじけ、よこしま
かんねん（名）　憾念、殘念、うらみ、くやみ
かんな（名）　鉋、板を平に削る器）鑢鉋

かんなぼし（名）　耳孫（雲孫の子）
かんなべ（名）　烟鍋（酒を煖める器）
かんなう　肝腦、きもなづき（肝臟と頭腦）
かんなうちにまみる　肝腦塗地（酷き死滅に譬ふ）
かんなくづ（名）　鉋屑、削屑、けづりくづ
かんなぎ（名）　巫、かうなぎ（神に事へ又占などする女）、みこ
かんなめまつり　神嘗祭（皇太神宮祭典十月十七日に執行す）
かんなん（名）　艱難、なやみ、くるしみ
がんらいこう（名）　雁來紅、はげいとう、にちにちこう（植物）
かんらう（名）　疳癆（病名）
かんらう（名）　漢郎、をとこ（男子の稱）
かんらく（名）　艱勞、なやみ、艱難
かんらく［する］（自）　陷落、れちいる（城が）
かんらふく（名）　干瀧蓟、はしだいこん（植物）
かんらん（名）　甘藍、はぼたん（大葉の菜）（植物）
かんらん（名）　橄欖（歐亞南部の產にして其菓の仁より最上の油を製すべく其葉は藥材と爲すべく其他効用多し）

（圖の橄欖）

かんらん（名）　坎壞、失望、ちからをとし、きたち、のぞみをうしなふこと

かんらんいろ（名）　橄欖色、なやかべいろ
かんむり（名）　冠、かふり（「かふり」の下と見よ圖もあり）
かんむりし（名）　冠師、かぶりし、かんむりづくり
かんう（名）　甘雨、よきあめ、潤雨
かんうん［する］（自）　斡運、めぐる、運轉
かんのがは　神河（氏）
かんのう（形）　堪能、わざにすぐれたる、たへる、よくできる
かんのこゑ（名）　清利聲（銳き聲）、かんばしつたるこゑ、清亮聲、きいろいこゑ
かんのざう　肝臟、きも
かんのきみ（名）　守頭、かんのとの、かんのぬし、かみ、つかさ
かんく　甘苦、苦樂、たのしみくるしみ
かんく（名）　艱苦、なやみ、くるしみ
かんくわ（名）　干戈、たてほこ（兵器）、いくさだうぐ
かんくわ（名）　感化、德化（感じて善きに改まる事）
がんくわ（名）　眼科、眼瘡（眼病をなほす事）
がんくわ（名）　眼華、ちらつきめ
かんくわい（名）　干瑰、ひがたまり
かんくわつ（形）　姦猾、わるがしこき
かんくわつ（形）　間闊、ひろらか、ひろき
がんくわう　眼光、めのひかり
かんくわん（名）　閑官、散官、ひまのつとめ
かんくわん［する］（他）　扞關、ふせぎとむる
がんくつ（名）　巖窟、いはあな、ほら
かんぐう（名）　旱藕、はつゆり（植物）

がんくび（名）　雁頸、火頭、させるのくび
がんくひまめ（名）　雁喰豆、雞烏豆、くろまめ（植物）
かんや（形）　閑冶、みやびやか、閑雅
かんやう（名）　甘野老、薯蕷、あまどころ、黃精、くさのな（植物）
かんやう［する］（他）　涵養、やしなふ（重に精神に關はる事に用ふ）
かんやく［する］（他）　添瀹、ひたす、浸潤、みづにつける
かんやく（形）　簡約、つづまやか
かんやい（名）　寒痎、つるいちご、まるばふゆいちご（植物）
かんやまゐり（名）　寒詣（寒中の參詣）
かんやう（名）　趕網、さであみ
かんやん（形）　簡慢、ものうたる
かんけい　姦計、わるだくみ
がんけい（名）　巖桂、もくせい（植物）
かんけつ（形）　簡潔、みじかくしてきよらかなる（文體に云ふ）
かんけつ［する］　甘結、むすばる、をはる
かんけつ（名）　欠缺、かけ、かけたるところ
かんけつねつ（名）　間歇熱、おこり（病名）
かんげき（名）　間隙、ひま、すきま
かんげき［する］（自）　感激（感じて心を振り起す）
かんげん（名）　間言、むだごと、むだことば
かんげん（名）　諫言、いさめごと、いさめ
がんけん（名）　眼瞼、まぶた
かんぶ（名）　姦夫、いろをとこ、まをとこ
かんぷ（名）　姦婦、まをとこをんな

かんぷ(名)　悍婦、たけだけしきをんな
かんぶつ(名)　干物乾物、ひもの
がんぶつ　贋物、にせもの、偽物
かんぷう(名)　絨毯、ふうじ、ふうじめ
かんぷう　寒風、朔風、涼風、さむかぜ
かんぷく[する](自)　感服、かんじしたがふ、感伏
かんぷん　漢文(支那文をいふ)
かんこ[する](自)　乾枯、乾涸、ひからびる、ひかわく
かんこ(名)　諫鼓(堯の時に設けし鼓にして諫をいれんとする者これを撃てりといふ)
かんこ(形)　簡古、みやびてふるき、つつましやかにいにしへぶりなる
かんご(名)(他)　監護、まもりやく。みまはりまもる
かんご　漢語、からことば、支那語
かんご(名)(他)　看護、みとり、つきまもり。せわする(病人狂人などを)
かんご(名)　閑語、ものがたり、はなし(用談に非る話)
がんこ(名)　贋戸、流民、さまよふたみ
がんご(形)　嵓巌、けはしき
かんこどり(名)　閑呼鳥、稍鵐、鷽鵐、布穀、かつこうどり、鳩鳩、としよりごひ(動物)
かんごり(名)　寒垢離(神佛に祈るために寒水に浴して身を清むる事)
かんこつ[にする](他)　簡忽、麁忽、ゆるがせにする
かんかう(名)　嵌工、ざうがん、はめざいく
かんこう　緘口、くちをとづる鉗口

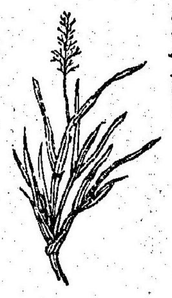
かんこう　汗溝、あせみぞ(汗の流るる路をいふ)
かんこう(名)　甘汞(水銀製の藥品)
がんこう　含垢(堪忍するを謂ふ)
がんこう(名)　眼孔、めのくぼみ、めのわな
かんこうそ(名)　甘口鼠、あまくちねずみ(動物)
かんこく　漢國、からくに、唐土
かんこく(名)　鴈鵠、かささぎ(動物)
かんごく(名)　監獄、ひとや、牢獄
かんこくさ(形)　紙焦、焦臭、きなくさき
かんごくしよ(名)　監獄署、らうやくしよ
かんこん(名)　甘根、白及、くすりになるくさのね(植物)
かんこん(名)　肝魂、きもだま
かんこん(名)　乾蒟、はしごんにやく
かんてい(名)(他)　鑒定、めきき。みわける
かんてい　漢廷(漢土の朝廷を云ふ)
かんていにん(名)　鑑定人、めききやく
かんてつ(名)　肝蛭(肝臓内の虫)
かんてつ[する](自)　感徹、しみわたる(心等に)
がんてつ(形)　含鉄、鉄を含める)
かんてふ(名)　間諜、まはしもの、しのびのもの(敵のてんびんでふ)俗(形)　岩疊、つよくたくましき
かんでき[する](自)　陷溺、れぼれちいる
かんてん　寒天、ふゆぞら、さむぞら
かんてん(名)　旱天、ひでりぞら
かんてん[する](他)　簡黜、えらむ、えりとる
かんてん(名)　石花菜、干心太、凍瓊脂、乾瀁、砂菜、ところてん

んぐさ、こころぶと(植物)
かんあ(名)　寒鴉、かんがらす(動物)
かんあう(名)　陷凹、くぼみ、へこみ
かんあく(形)　奸悪、かしましくわるき
かんあふひ(名)　冬葵、杜衡(植物)
かんさ(名)　竿叉、さんまた
かんさ[する](他)　鑑査、めききする、みわくる、鑑裁
かんさ[する](自)　感嗟、かんじなげく
がんさ(名)　眼渣、めやに、めのあか
かんさく[する](他)　陷擠、れしたとしいる、たしたふす
かんさい(名)　寒菜、あぶらな(植物)
かんざいにん(名)　監財人、かねわづかりびと
かんさりま(自)　殂落、かむあがりまします
かんさつ(名)　鑑札、免許札(商人等が官より受る)
かんさつ[する](他)　看殺、みごろしにする
かんさつ(名)　簡札、竹簡、たけのふだ
がんさつ　贋札、贋楮幣、にせさつ
かんざらし(形)　寒晒、寒製、寒中水にさらしたる)
かんさう[する]　敢爭、おへていさむる、諫爭、はばからずいさむる
かんさう(形)　乾燥、かわける、ひたる
かんさう[する](他)　諫諍、いさめわらそふ
かんさう(名)　旱草、ひでりぐさ(植物)
かんさう(名)　監倉、らう、わげや。をり、ひとや
かんさう(名)　乾瀁、かんてん(植物)
かんさう(名)　疳瘡、かさのふさで(陰莖に出る)、げかんさう、らやく(病名)
かんさう(名)　鹹草、おしたぐさ(植物)
かんさう(形)　悍壯、たけくさかんなる
かんさう(名)　汗瘡、あせぼ、あせいも
かんざう(名)　甘草、あまくさ(植物)
[がんさう](名)　雁瘡(がんがさ)、はばさがさ、すねぐさ
がんざう(名)　贋造、にせづくり
がんざうくわへい　贋造貨幣、にせがね
かんざうえん(名)　肝臓炎、肝臓厥衝(病名)
がんさく(名)　贋作、贋造、にせごしらへ
かんざくら(名)　藏報春(植物)
かんざまし(名)　畑酒、畑冷酒の、つめたくなりしさけ
かんざけ(名)　神崎(氏)
かんざき　鉾、釵、簪、金釵、花簪、かみさし(婦女の)
かんざし(名)　髪容、かみのかたち、かみつき
かんさん(形)　閑散、ひま、いそがしからぬ、いとまある
かんさん(名)　汗衫、はだぎ、あせじゆばん、あせとり
かんさん　甘酸、あまさすき。又快樂と辛苦
かんざんちく(名)　寒山竹(植物)
かんき　神吉(氏)
かんき(名)　寒氣、さむさ
かんき[する](自)　感喜、かんじよろこぶ
かんき(名)　勘氣(君父の嚴責を云ふ)勘當
かんぎ(名)　諫議、いさめごと
がんぎ(名)　贋木(厂行の如くなるが故に云ふ)
かんきよ(名)　傲慢、あな、ほらあな

かんきょ[する](自)　閑居、ひまにてをる
かんぎょ(名)　寒魚、にごり、凝魚
かんぎょ[する](他)　扞禦、ふせぐ、こばむ
かんぎょ(名)　乾魚、ほしうを、ひもの
かんきょく(形)　奸曲、姦曲、よこしま、ねぢけ、かたましき
かんぎう　汗牛、うしにあせかかする(重荷を負はせて)
がんきう(名)　眼球、めだま
かんぎく(名)　寒菊、冬菊、珠子菊(植物)
かんきやう(名)　干姜、干薑、ほしうやう(薬品)
かんきやう(名)　寒郷、僻陬、かたゐなか
かんきやう(形)　悍強、わるづよき
かんぎやう(名)　寒行(寒中に為す苦行)
がんきやう(名)　眼眶、めぶち、まぶち
がんきやう(名)　眼鏡、めがね
がんきやうぎょ(名)　眼鏡魚、みしまれこせ(動物)
かんきふ(形)　悍急性急、きばや、きのはやまる
かんきふ[する](自)　感泣、かんじなく、みにしみてなく
かんきこうぞく　姦究寇賊、朝廷の内外の賊徒を云ふ)
かんきん　嵌金(金の象眼を謂ふ)
かんきん(名)　汗巾、あせぬぐひ、あせふき
かんきん(名)　看經、讀經(經文を讀む事)
かんきん[する](他)　監禁、とぢこめる(牢獄等に)
かんきん(名)　旱芹、れらんだせり(植物)
かんぎん[する](他)　閑吟、くちずさむ(詩歌等を)
がんきん(名)　贋金、にせがね
かんきんさい(名)　旱芹菜、はたけせり、れらんだみつば(植物)

かんゆう(形)　姦雄、わるづよきひと、かたましきつよきひと
かんめい[する]　感銘、みにしみわたる(恩徳節義等が)
がんめい　鴈鳴、かりがね、かりのなきごゑ
かんみぞ(名)　神衣(神にささぐる衣)、かんはとり
かんみぞまつり　神衣祭(伊勢の大神宮に神衣を奉る祭式の名)
かんし(名)　柑子、かうじ、みかん(植物)
かんし(名形)　甘旨、うまさ、あまさ、うまき
かんし[する]　諫死、いさめしぬる
かんし(名)　監視、みはり、めをつくること(懲罰せらるる者等に)
[かんし](名)　韓紙、からかみ、唐紙
かんし(名)　乾柿、ほしがき、あまぼし、くしがき
かんし　甘死、しぬるをあまんずる、よろこんでしぬ
かんし(名)　汗馬、あぶらあせ
かんじ(名)　幹事、監事、勤事、せわやき、とりしまり、理事
かんじ　漢字、しなもじ、からもじ(篆隷草楷等の書法あり)
かんじ(名)　乾耳、からみみ、そらみみ
がんし(名)　龕子、かみばこ(神を安置する小厨子)、づし
がんし(名)　眼眵、めやに
かんしょ　漢書、漢籍、からぶみ
かんしょ(名)　甘藷、さつまいも(植物)
かんしょ(名)　簡書、てがみ、書状
かんしょ(名)　諫書、いさめぶみ
かんじょ　寒暑、さむさあつさ
かんじょ(副)　翰如(まひあがる貌)

がんしょ　鴈書鴈の足へ結びつけし書翰)、てがみ
かんしょう(名)　甘松、てうせんまつ、海松(植物)
かんじょう(名)　乾燕、からむし(雨無くして熱する事)
かんじょうべい(名)　乾燕餅、ビスケット、乾パン
かんじょうかう(名)　甘松香、かもぢぐさ(植物)
かんしょく[する](他)　啜食、かみくらふ
かんしょく　汗食、ゆふめし(日暮て食ふを謂ふ)
かんしょく(名)　寒食(火食せぬ事にて火にかけざる者のみを食ふ節句を謂ふにて介之推を弔ふ祭なり)
がんしょく(名)　顔色、かほいろ
かんしつ(名)　寒疾、ひえやまひ
かんしつ(名)　乾漆、ひうるし
かんしつ　乾濕、かわきしめり
かんじつ(名)　坎日、ねのひ
かんじつ(名)　間日、まび、あひだのひ
がんしつ(名)　厳室、いはや、ほらや
かんしつけい(名)　乾濕計、かわきしめりばかり、晴雨儀
かんしゃ(名)　閑愁、しづかのものもひ
かんしゃ(名)　檻車、らうごし(虎狼罪人等を容るるにも用ふ)、四車、四輿
かんしゃ[する](他)　扞遮、ふせぐ、さへぎる
かんしゃ(名)　甘蔗、さたうきび(暖國に産し此より砂糖を製す)(植物)


甘蔗の圖

かんしゃ　感謝、かたじけなさ、ありがたさ、禮謝を述る

かんじゃ(形)　奸邪、ねじけ、よこしま、姦邪
かんじゃ(名)　寒邪、かぜけ、風邪、ひきかぜ
かんじゃ(名)　間者、まはしもの、しのびのもの
がんしゃ(名)　眼遮、めがくし
かんしゃう　奸商、わるあきうど、わるごすきあきうど
かんしゃう(名)　疳症、癇症(病名)
かんしゃう(名)　寒蟬、ひぐらし(動物)
かんしゃう[する](他)　感賞、めでほむる、感歎
かんじゃう(名)　干城、まもりじろ、守衛城
かんじゃう(名)　感情、物に感ずるの情を謂ふ)
かんじゃう(名)　感狀、ほめぶみ
かんじゃう(形)　簡淨、簡潔に同じ)
がんしゃう(名)　巖牆、巖嶂、いはがき、たていは、あやふきかきね
がんじゃう(名)　顔狀、かほかたち
かんしゃうしゃ(名)　監掌者、ぶぎやう、つかさどるひと
かんしゃく(名)　癇積、疳癇、はらたちやまひ
かんじゃく(形副)　間寂、ものさびしき、ものしづか
[かんじゃく](名)　干鰯、ほしか、ほしいわし、乾鰛
かんしゃくだま(名)　爆玉(雷管の如き小兒の弄具)
かんしゃふ[する](他)　閑習、嫻習、ならふ、まなぶ
がんしょう(名)　眼子菜、ひるむしろ(植物)
かんしょき(名)　鑑識、めきき、めききする
かんじき(名)　樏、ゆきふみ、楯鞜(雪を踏ならす具)
かんしゅ(名)　監守、らうもり、ひとやもり
かんしゅ　竿首(獄門に掛る事)、梟首
かんじゅ(名)　燼燸、をとめ

かんしゆつ〔する〕〔自〕　間出、しのびでる
かんじゆく〔する〕〔自〕　甘熟、あまくうむ、よくうむ（果が）
がんしゆん（形）　巖峻、けはしき
かんしん（名）。—する（自）　感心、かんずる、ねどろく
かんしん（名）。する（自）　甘心、こころにあまんずる
かんしん〔する〕〔自〕　寒心、むねをひやす、きもをつぶす、ぞっとする
かんしん　奸臣、佞臣、わるだくみのけらい
かんしん（形）　肝心（肝要に同じ）
かんじん（名）　韓神、からのかみ
かんじん（名）　韓人、こまびと、朝鮮人
かんじん（名）　漢人、からびと、支那人
かんじん（名）　間人、まはしもの、間者
かんじん（名）　監人、ばんにん、みはりびと
かんじん より（名）　紙索「かんせんより」を見よ）
かんえい〔する〕〔他〕　扞衛、ふせぎまもる
がんえい（名）　眼翳、めぼし
かんえつ〔する〕〔自〕　感悦、かんじよろこぶ
かんえう（形）　肝要、緊要、重要、たいせつなる、かなめなる
かんえふ　乾葉、ひば
かんひ　罕比、たぐひまれなる
かんぴ〔する〕〔自〕　干圮、ひわれる
かんぴ〔する〕　翰飛、とびわがる（鳥等が）
かんぴ　堪否、たふるやいなや（能否）
かんぴ（形）　甘美、うまき、あまき
がんぴ（名）　鴈皮、鼠夏羅、鼠春羅、くさのな（植物）
がんぴ（名）　鴈皮、うすきかみのな
かんぴやう（名）　看病、みとり（病人の世話人）
がんびやう（名）　眼病、めやみ、めのやまひ
かんびやうにん（名）　看病人、みとりびと（病人を世話する人）
がんぴし（名）　雁皮紙、うすがみ
がんぴん　贋品、にせしな、にせもの
かんもりつかさ（名）　掃司（舊官名）
がんもく（名）　眼目、め、まなこ、又かなめどころ、かなめ、主眼、要點（重要の點、大主意（書物論辨等の中の大切なる處を謂ふ）
かんせい（名）　窈窕、坎阱、わとしわな、檻穽
かんせい（形）　閑靜、ものしづか、幽靜
かんせい　塞生、貧生、まづしきしよせい、まづしきひと
かんせい（名）　閑栖、幽栖、かすかのすまひ
かんせい（名）　間稅（間接に徴收する稅金）
がんせい（名）　眼睛、めだま、めのたま、睛珠
がんせいさう（名）　含生草、おんさんじゆ（植物）
かんせつ（形）　間接（直接の反對）、とほまはし、それとなき
かんせつに（副）　間接、とほまはしに。あひだをへて
がんせない〔俗〕（形）　無頂是（小兒の無心なるをいふ）
がんせう　含笑、わらひをふくむ、ほほえむ
がんせう（名）　巖礁、いはほ、いは
かんせふ（形）　簡捷、てばやくてみじか
かんせふ（名）。—する（自）　干涉干預、かかはる、たづさはる
かんせふ〔する〕〔他〕　戡捷、たたかひかつ、うちかつ（打勝）
がんせき（名）　眼睫、まつげ
かんせき（名）　干汐、ひしほ、ひきしほ、干潮

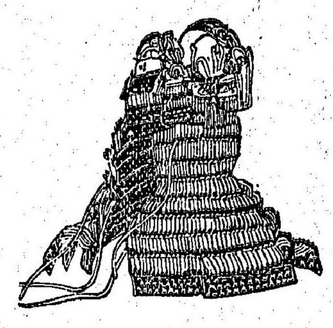
がんせき（名）　巖石、いはいし、いはほ
かんせん〔する〕〔自〕　寒戰、みぶるひする、ねどふるふ
かんせん（名）　寒蟬、ねふしせみ（動物）
かんせん　酣戰、いたくたたかふ、いくさたけなはなる
かんせん〔する〕〔自〕　斡旋（めぐらせん）、めぐる、まはる。周旋、とりまはらせわする
かんせん（名）　櫃泉、いづみ、ふきだしみづ
かんせん〔する〕〔自〕　感染、うつる、しみこむ（疫病等が）
がんせん　眼前、顏前、めのまへ、まのあたり
かんせんより（名）　簡箋撚、紙線、こより、紙索
かんす（名）　監司、監寺（佛寺の支配僧を云ふ）
かんすい〔する〕〔自〕　酣醉、いたくゑふ（酒に）
かんすい（名）　泔水、しろみづ、こめのわらひしる
かんずい（名）　甘遂、にはそ、鬼醜草（植物）
かんすゐせき（名）　寒水石、凝水石、凍石（色白くして氷の如き石にて大理石に屬す）
かんずる（自）　感、しみわたる、ねどろく、感心、感銘。うつる、感染

よ

よ　ヨ、與、餘、代　是は「ゆ」の父音と「れ」の母韻と合して生ずる音にして五十韻の中にては第八行第五段に位す
よ（名）　世、ときよ。代、じだい。せかい、よのなか
よ（代名詞）　余、予、われ
よ（名形）　餘、あまり、のこり。のこれる、あまれる
よ（名）　夜、よる
よ（名）　與、こし
よ（名）　節、ふし（竹の）
よい〔俗〕（形）　好、佳、善、可、眞、よろしき（「よき」をみよ）
よいくさ（名）　夜戰、夜軍、よるのたたかひ
よゐん　餘韻、あまりのこゑ（謠音樂等の）さえ　きらぬこゑ
よろぼふ（自）　蹉、よろよろする、蹌踉
よろよろ（副）　俊偆、逶迤、よろめきて、ひよろひよろ
よろよろわるく　蹣跚、よろめきまはる
よろづ（名形）　萬（十千を謂ふ。又大數をも然か稱ふ。すべての、もろもろの
よろづ（名）　針魚、さより（動物）
よろづよ　萬代、萬世、ひさしきよよ
よろける（自）　蹉、踉蹌、よろつく、よろめく
よろふ（他）　擬、戎裝、さる（鎧を）
よろこばしき（形）　悅豫、よろこぶべき、うれしき
よろこばす　令悅、うれしがらする（「よろこぶ」の他動體）
よろこぶ（自）　喜歡、欣、慶、愉、悅、豫、欣欣、欣然、怡然、歡喜、忻然、喜悅、歡娛、欣喜、悅樂、怡悅、欣悅、欣抃、雀躍、歡樂、慶賀、抃喜、抃舞、うれしくねもふ
よろこびなき（名）　感泣、うれしなき、よろこびのあまりになくこと
よろこびいさむ（自）　欣勇、うれしくてさがひきたつ
よろこびがらす（名）　喜鵲、かささぎ、まろうどがらす（動物）
よろこびなき（名）　感泣、うれしなき、よろこびのあまりになくこと
よろめく（自）　逶迤、よろぼふ、勃窣、蹉、俊偆、踉蹌、蹣跚、よろよろする、よろける

よろしく(副)　宜、まさに。よく。ほどよく
よろしき(形)　宜、
よき、善、良、可、
好、よい
よろひ(名)　甲、鎧、
鐵衣、介甲、介
冑、戎衣(身を
堅むる武具)
(此圖なるは
山城國鞍馬寺
藏義經朝臣所
用)

(鎧の圖)

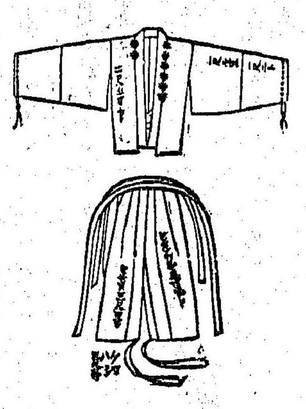


よろひどほし(名)　解手刀、匕首、
短劍、あひくち(此圖なるは
古へ千葉介常胤が用ひし者)
よろひつくり(名)　鎧作者、よろ
ひし
よろひむし(名)　甲虫、介虫(動
物)
よろひむしや(名)　甲冑武者、い
くさにん、よろひきたるつ
はもの
よろひぐさ(名)　白芷、綿澤瀉(植
物)
よろひざめ(名)　鎧鮫、さめのたぐひ(動物)
よろひきざめ(名)　着甲始(ちやくかふはじめ)
よろひし(名)　函人、鎧師、よろひつくり

(解手刀の圖)

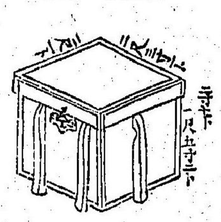
よろひひたたれ(名)
鎧直垂、よ
ろひのうへ
にきるひた
たれ(本圖
なるは毛利
家藏足利義
輝公所賜と
云ふ)

(鎧直垂の圖)



よろひびつ(名)　鎧櫃、よろひいれ
(本圖なるは山城國鞍馬寺藏
義經朝臣所用)
よろん(名)　輿論、公議(人民一般の
公論)
よは(名)　夜半、よなか
よは(名)　餘波、のこれるなみ。あご
りのかなしみ
よばはる(自)　喚、呼、叫、わめきさけぶ、號呼
よばたらき(名)　夜働、よしごと。又どろぼう
よばう(名)―する(他)　豫防、あらかじめふせぐこと。まへ
もつてふせぐ
よばうぐすり(名)　豫防藥、ふせぎぐすり(疫病等の
よはく　餘白、あまれるしらかみ(紙聞紙等の)
よはひ(名)　齢、歯、歯歴、とし
よばひ(名)　喚婚(女の許に通ひ誘ふ事。俗に夜分婦人の處
に行くを然かいふ)
よばひぼし(名)　夜這星、流星(りうせい)、なかれぼし、奔星

(櫃鎧の圖)



よはひぐさ(名)　齢草(植物)
よばん(名)　夜番、よまはり、よるのものみ
よにくわんたる(形)　冠世(一世に第一なるを謂ふ)
よほろ(名)　颯、ひかがみ
よほろ(名)　丁、丁男、つかはれびと(官府の御用をつとむ
る人夫、役夫、えだちにいづるひと
よほど[俗](副)　餘程、だいぶ、たくさん
よぼの　丁野(氏)
よべ(名)　昨夜、昨夕、よんべ、ゆふべ
よへう(名)　預表(後年に起るべき事を預め表示しする物)
よど(名)　淀、澱(河水の深くして流れぬ處)、汜
よどほし(副)　夜通、徹夜、よもすがら
よどむ(自)　淀、はやくながれぬ、とどこほる(水が)。また、諺
(言語のしぶりてすらすらとせぬを云ふ)
よどう(名)　輿同、同類、なかま、くみ
よどの(名)　寢殿、ねや、ねま
よとく(名)　餘得、もうけ、利益
よとく　餘德、餘澤、のこれるいさを(先君等の)
よとで(名)　夜外出、よるそとにいづること、よあるき
よとぎ(名)　夜伽、夜陪(夜分寐ずして病人等の傍に侍べる
事)
よどみ(自)　淀、泥(水の滯ほる處)。また諺(言語の速かなら
ぬ事)
よち　餘地、あまれるところ、ば
よち(名)　輿地、全地球(全世界を謂ふ)
よち[する](自)　輿知、あづかりしる、預知
よぢいむ(名)　沃陳、沃鉞(藥品)
よぢる(他)　攀、攀援、つかまる、とりすがる、賓縁
よちをぎし(名)　鰬(魚と串に貫きし者)
よちづ　輿地圖(萬國の地圖をいふ)
よぢのぼる(自)　攀躋、つかまりのぼる
より(名)　結毒、かたまり(瘡瘡などの)
より(後置詞)　從、自、於、から、よりてきたる
よりいと(名)　撚絲、雙線、綯絲、線絲、紕糸、辮糸、縷、線、綫、搓
絲、よりあはせたるいとすぢ
よりぼう(名)　棹棒、とりてのぼう、金吾棒、木棒
よりどり(名)　擇取、選取、にらみとること
よりどる(他)　擇取、揀取、にらびとる
よりどころなき(形)　無根據、もとづくところなき
よりぬく(他)　擇拔、選拔、えりぬく
よりわや(名)　寄親、やしなひわや、やしわや、養親
よりわける(他)　擇分、選分、えりわける
よりかかり(名)　憑儿、靠儿、よりかかるだい、れしまづき、
ひぢつきだい
よりかかる(自)　倚靠、靠着、もたれかかる
よりがら(名)　殘物、よりくづ、よりのこり
よりより(副)　屢、數、時時、をりをり
よりよく　餘力、あまれるちから
よりたかる(自)　簇擁、よりあつまる
よりだす(他)　擇出、選出、えりだす
よりそふ(自)　依添、そばへよる
よりつく(自)　寄着、寄附、そばへくる
よりつぐ(他)　搓續、よりたす
よりつき(名)　寄付(最初の手合せの義にて相場取引など

よりかん　名　(余)明かりをとる窓
よりきよ　依田氏(代木氏)
よりたか　依田氏(名)夜征夜の未だ明けざる中に出発する事
よりたり　四人よりたかる名
よりたる　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりたか　名　怪鳥鵂梟等の夜飛び木兎夜食鳥動物
よりたか　名　隠売女(ひとつばりともいう)ばら売女娼婦
よりたち　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりたち　副(古語)終夜よもすがら
よりたれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりたれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりたれつぎ　名　羊桃植物
よりだつ　自　助勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりだな　名　簾幌障子襖等のこれるなかの物
よりだけ　名　篠竹ふしだけ植物
よりだけ　名　夜闇よりぬけるなかの夜闇
よりたま　名　御烈のこれるはらはし先人の
よりどころ　名　他所外所他人の
よりなし　形　頼りなきさま
よりはし　他　儀式をはじめる船を繋ぎとめる
よりはじめ　名　事をはじめる
よりはじめ　形　比堆比擬比較などうたがう
よりはち　四十歳
よりびき　名　四手綱曳網曳方張四隅を持て下す
よりびと　名　規範(他)比堆比擬比較などうたがう
よりびと　名　撰入選人えらばれたる人
よりふし　名　夜骨夜分やふし
よりまじ　名(他)接いねる糸等を継紐
よりまし　名　依憑(自)倚憑もたれかかる寄縁
よりまし　名　依憑(自)倚憑もたれかかる寄縁
よりめ　名　依田氏(代木氏)
よりもと　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりやく　名　四人よりたかる名
よりやく　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりやま　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりやま　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりやま　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりよる　副　終夜よもすがら古語
よりれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりれつぎ　名　羊桃植物
よりろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわたり　名　羊桃植物
よりわたる　自　助勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわら　名　余(余)明かりをとる窓
よりわら　名　依田氏(代木氏)
よりわら　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわらし　名　四人よりたかる名
よりわらし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわらし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわらし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわらし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわらし　副　終夜よもすがら古語
よりわれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわれつぎ　名　羊桃植物
よりわろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろし　名　四人よりたかる名
よりわろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よもすがら古語
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれ　名　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれかけ　名　遮断流水峰端等ねかけ
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろれつぎ　名　羊桃植物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　助　勢あたかも身の毛が剛堅硬然らばよう
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　自　漏壺口より垂る滴液
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　余(余)明かりをとる窓
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依田氏(代木氏)
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ　名　依明いまだ夜の未だ明けざる中に出発する事
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　四人よりたかる名
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　形　情誼親睦厚く交りからなさま
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　怪鳥鵂梟等みみづく木兎夜食鳥動物
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　名　隠売女ひとつばりともいうばら売女娼婦
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　彼此諷刺嘲罵するようす
よりわろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろし　副　終夜よ

網）

よつあし(名)　四足、けもの。けだもの

よつめ(名)　四目(圖此形をいふ)

よづめ(名)　夜詰(夜分の勤番)

よつめがうし(名)　方眼格子(四角の目の格子)

よつめがき(名)　四目垣(竹を十文字にして作れる垣)

よつめごろし(名)　綴五(圍碁に云ふ詞)

よつめぎり(名)　四稜錐、方錐、交錐(四角の錐)

よつしろ(名)　四白(驄、騮(膝の上の四足ともに白き馬。つまじろ、踏雪跡の白き馬)(動物)

よつえだ　四肢(両方の手足をいふ)

よつびく(他)　勁弩、持滿、つよくひく(弓を)、強引(射法に云ふ詞)

よね(名)　宿女(遊女を云ふ)

よね(名)　米、こめ(稻の實)

よねはら　米原(氏)

よねつ　餘熱、殘暑、殘炎、のこれるあつさ

よねづ　米津(氏)

よねつきむし(名)　叩頭虫、こめつきむし(動物)

よねう(名)　餘醜、あまりすぎたるもの

よねくら　米倉(氏)

よねまんぢう(名)　米饅頭、こめまんぢう

よねざは　米澤(氏また地名)

よねん　餘念、ほかのれもひ、他念

よねんなき(形)　無餘念、ほかのれもひなき、なにもれもはぬ。つみなき

よねん　餘年、のこれるとし、餘命

よなべ(名)　夜業、夜作、夜工、油工、よしごと

よなか(名)　夜半、午夜、中夜、よるのなかば

よなが(形)　夜長、よのながき、夜脩

よなよな(副)　夜夜、每夜、每晚、まいや、よるよる

よなむし(名)　蛞蝓、蛤蜊蟹、よねむし、ほり蟲(動物)

よなき(名)　夜啼、夜泣(小兒に云ふ)。夜鳴(鳥獸に云ふ)、よるなくこと

よむ(他)　讀誦、いひつづける(文字を)。みてまなぶ

よう(名)　用、もちひ。ようじ(用事)、もちひかた、功用

よう(名)　俑(古代に在りし藁人形の如き者にて葬事に用ひし者)、殉蠶

よう(名)　膕、かいぞへ、よめのとも、よめにつきそひゆくもの(男女に通ず)

よい　庸醫、へたいしや。やぶいしや

よい(形)　容易、たやすき、わけもなき

よい(名)　用意、こころもちひ。準備、設備、豫防、豫備、そなへ、したく

よういに(副)　容易、たやすくは。なかなか(大抵打消しの語に先だつ)

ようろつぱ　歐羅巴(五大洲の一にして最も開化したる處)

ようば[俗](名)　用場、後架、かはや、せついん

ようはう[する](他)　擁抱、かかえいだく

ようばう(名)　容貌、なりかたち、すがた

ようにたたぬ(形)　無用、無効、屬書餅、失効、やくにたたぬ

ようにん[する](他)　孕妊、はらむ、こをやどす

ようにん(名)　用人、家監、家掌(大名の家令扶の如き者)

ようへい[する](他)　塞閉、壅蔽、ふさへふさぐ

ようへう(名)　山貓、はひとりぐも(動物)

ようべん[俗](名)　用便(用をたす事)、ようたし

ようど[俗](名)　用度、用途、つひえ、いりか

ようど(名)　沃度、よおじむ(藥品)

ようち(名)　夜討、夜襲、よせめ

ようちつ[する](他自)　壅塞、ふさぐ。ふさがる

ようちやう(名)　臃脹、はれふくれ

ようちん(名)　傭賃、やとひちん、てまちん

ようわく[する](他)　惑惑、まどはす。そそのかす

ようかい[する](他自)　溶解、とかす。とける

ようがい(名)　擁蓋、うへのれはひ、てんがいのごときもの

ようがん(名)　容顏、みめかたち、かほばせ

ようよう(名)　臃腫、たかかがし、案山子(鷹の形の)

ようよう(形)　庸庸、よのつねなる、凡庸、平凡

ようよう(形副)　溶溶(水の流るる貌また光り輝く貌)

ようたい(名)　容態、すがた、なりかたち

ようだい[俗](名)　容體、容態、容躰、ありさま、病狀、診斷書、ありさま(病人の)

ようたいがき(名)　容體書、患狀、病狀、診斷書、ありさま(病人の)

ようたいぶる[俗](自)　容體振、ぶる

ようだてる[俗](他)　用立、まにあはする。かしわたす

ようだん(名)　用談、ようじのはなし

ようだんす(名)　用箪笥(帳簿其他種種の物をいれる箪笥)

ようれつ(形)　庸劣、れとれる、かしこからぬ

ようそ(名)　癰疽、あしきはれもの(病名)

ようそく[する](他自)　壅塞、ふさぐ。ふさがる

ようむき[俗](名)　用向、用事(ようと)

ようぐ(形)　庸愚、凡愚、れろか

ようぐわ[する](他)　鎔化、とかす

ようくん　庸君、なみなみのきみ、凡庸の君

ようやう[する](自)　鷹揚、たかのごとくまひあがる。ほこる。たかぶる

ようやく[する](自)　踊躍、をどりあがる。はねる

ようけん(名)　擁劍、てんぼがに、がざめ(動物)

ようふ(名)　傭夫、やとひをとこ、やとひにん

ようふ(名)　傭婦、やとひをんな

ようふ(名)　孕婦、はらみをんな

ようぶん[する](他)　鎔分、ふきわける(金を)

ようぶんしやう　用文章、てがみのぶん(書名に用ふ)

ようご[する](他)　擁護、まもる守護(神等が)

ようこう(名)　鎔工、いものし、いかたや、ふきや

ようこう(名)　傭工、やとひびと

ようてう(形)　窈窕、れくふかくみやびやかなる。又うつくしき

ようさい　庸才、なみのちゑ

ようさい(名)　蕹菜、つるな、はまな(植物)

ようさう(名)　鷹爪、れだま(植物)

ようざう[する](他)　鎔造、いてつくる(造化の造作にも譬へ謂ふ)

ようぎ(名)　容儀、なりふり、かたち

ようきん(名)　用金(官用の金)

ようめいてんわう　用明天皇(人皇第三十一代の帝)

ようし(名)　容姿、すがた、なり、みなり

よくとし　翌年　明年。つぎのとし。あくるとし。
よくとし［する］（他）　翌年になる。
よくばり　欲張り　物事を自分の利益のみ考えて、むさぼること。また、その人。
よくばる［する］（他）　欲張る　物事を自分の利益のみ考えて、むさぼる。
よくばん　翌晩　明晩。つぎの晩。あくる晩。
よくばん　翌晩　明晩。つぎの晩。あくる晩。
よくばん　翌晩　明晩。つぎの晩。あくる晩

よくすゐ　浴水、ゆあみみづ
よやく(名)　豫約、まへもつてのやくそく(書物の出板等に
つきて多く用ふ)
よまはり(名)　夜廻行夜人、よばん
よまひごと(名)　苦情、くどくどいふこと、つぶやき、呟。う
はこと、譫語
よけい　餘慶、のこれるさいはひ(先祖の善行の餘徳)
よけい(形)　餘計、あまり、あまる
[よけいぼく](名)　厭憩木、をけのき(植物)
よける(他)　除、避、忌、回避、開避、避去、さける
よげつ(名)　餘蘗、のこれるもの、のこり、遺類
よけう(名)　輿轎、あげごし
よけうふ(名)　舁轎夫、ろくしやく
よげん(名)　豫言、先知、前言、あらかじめいふこと、先言
よふ(名)　舁夫、かごかき
よふ(自)　酔、酩酊、さけにうかさるる、名ひしづむ、名ふ
よぶ(他)　呼、召、喚、よびかける
よぶろ(名)　丁、下部、男丁、よぼろ
よぶろ(名)　胴、よぼろ、ひかがみ
よぶろこ　丁子(氏)
よぶり(名)　漁炬、いさりび、ずなどりび
よふかき　夜深、三更、よふけたる
よふね(名)　夜船、夜航、よるゆくふね
よふう　餘風、遺風、緒風、のこれるならはし
よぶの　丁野(氏)
よふけ(名)　夜更、深更、闌夕、深夜、夜闌、午夜、夜半、よふか
きこと

よぶこどり(名)　呼子鳥、喚子鳥、呼兒鳥(動物)
よぶこのふえ(名)　呼子笛(人を呼ぶ等に吹く笛)
よぶん(名)　餘分、のこり、あまり
よこ(名)　横(右より左に渉るが如きを謂ふにて竪「たて」
の反對なり)
よけい　餘慶、余語(氏また地名)
よご　預後(病氣の狀態を前以て言ふ事)
よこゐ　横井(氏)
よこいと(名)　緯(機の横にわたる糸)
よごろ(副)　夜來、れはくのよ、よるわまた
よこはき(名)　横刀、たち、れはがたな
よこぼり　横塹、横にわたる塹)
よごと　毎夜、まいや、よなよな、毎晩
よごと(名)　祝詞、ほぎごと、いはひことば、嘉詞
よことぢ(名)　横綴、横本、横册(横に長き綴本或は綴方)
よことり(名)　横取、かたはらよりとること
よこちやう(名)　横町、傍巷、陋巷、曲巷、かたはらのちひさ
きまち
よこわへび(名)　白花蛇(動物)
よこがく(名)　横額、横扁、よこにながきがく
よこがみ(名)　車軸、くるまのよこぎ、ぢく
よこた　横田(氏)
よこたはる(自)　横、衡、よこにわたる
よこたへる(他)　横、よこにする。又よこにたづさへる(矛
槍などを)
よこたて　經緯、縦横、たてぬき

よごれる(自)　汚穢、きたなくなる、涙、洟、涎
よごれぎもの　垢衣、汗衣、きたなききもの
よごれめ(名)　汚目、きたなきあと
よこぞつて　擧世、よみな、一世
よこづち(名)　横槌、梜、槭、臥杵(横に打つ槌)
よこづな(名)　横綱(角力の第一等なる者が腰にしむる綱
にして朝廷より賜はる者)
よこつら(名)　横面、よこがは。側面、よこがは
よこね(名)　痙、便毒、横痃、魚口瘡、かさのこぶ(病名)
よこなはて(名)　横畷、陌、よこのたみち
よこなかぎ(形)　横長、よこにながき
よこなまり(名)　轉訛、なまれること(音または語が)
よこなまる(自)　譌訛、轉訛、なまる(言葉が)
よこなぐ(名)　横薙、よこになぐこと、よこにきりはらふこ
と
よこむき(名)　横向、よこにむかふこと、側面
よこく(名)　輿國、なかまぐに、同盟國
よこぐも　横雲、たなぐも、東細帯、たなびくくも
よこやり(名)　横槍、横擊、よこよりつきかかること
よこやま　横山(氏)
よこまち(名)　横町、よこちやう
よこぶえ(名)　横笛、篪、横に吹く笛)
よごころ(名)　色情、いろけ(男女の色欲)
よごころづく(自)　發色情、いろけづく
よこでをうつ　打横手(喜び等に當て横に手を打つ事)
よこてぎり(名)　横手斬、よこなぎ、よこぎり
よこあめ　横雨、よこよりふりくるあめ

よこわひ(名)　横合、かたわき、よこて
よこさまに(副)　横樣、よこに
よこざん(名)　横産、わうざん(胎兒の横に生れ出る事)
よこぎ(名)　横木、衡、よこさまのき。軨(車轅の)、よこにわ
たるき
よこぎる(自)　横切、よこにとほる。よこたはる
よこめ(名)　横目、斜視、よこにみること。又いろめ
よこめ(名)　警人、獄奸、めつけ(官名)
よごみ(名)　夜擊、夜襲、ようち、よせめ
よこみち(名)　横道、よこさまのみち、わきみち
よごし(名)　夜越、よるこゆること(山などを)
よごし(形)　過夜、よどほし、よをこしたる
よこしま(形)　邪、邪姦邪曲、邪枉、姦邪、邪僻、ねぢけまがれ
る、わしき
よこしまに(副)　横、よこさまに、よこ
よこしぶき(名)　斜雨、よこあめ、よこにふきつくるあめ
よこじめ(名)　横帯、よこづな
よこひき(名)　夜焦引(獵者の用ふる具)
よごもり(名)　夜籠(神佛の堂に夜分止りて祈る事)、さん
ろう
よこもの(名)　横物、横披、横軸、横卷、よこはばのひろきか
けもの、はばびろきかけもの、よこおくのかけもの
よこもじ(名)　横文字、洋文、横文、歐文(西洋文字)
よこす(他)　遣、れこす、つかはす、れくりきたる
よごす(他)　汚、けがす
よこすぢ(名)　横筋、横線、よこにわたるすぢ
よこすぢかひ(形)　横筋違、横斜、ななめ

よてい[する](他)　豫定、かねてさだむる、あらかじめさだむる
よでふはん　四疊半(足利東山殿の書院の制なり後世これに倣ひて茶室を作る)
よおるき(名)　夜行、よるあるくこと(道等を)。又よあそび
よおそび(名)　夜遊、よあるき、夜行
よおそびし(名)　夜遊者、よるあそびまはるひと(上を見よ)
よあう　餘殃、殘禍のこれるわざはひ
よあけ(名)　夜明、平旦、詰朝、曉天、東天。黎明、雞明、五更、あかつき、しののめ
よあけがらす(名)　曙鴉、曉鴉、あけがらす
よあけのかね　曉鐘、晨鐘、あしたつぐるかね
よあきなひ(名)　夜商、よみせあきなひ
よさむ(名)　夜寒、よるさむきこと
よさう(名)　豫想、かねてのれもひ
よさみ　依網、依羅(氏)
よさす(他)　任、ゆだぬる、まかす、托、委任
よさん(名)　餘餐、くひのこり。くひあまり
よさん[する](自)　豫參、わづかる、たづさはる
よさん(名)　豫算、みつもり、まへもつてのつもり
よざん(名)　餘殘、あまり、のこり
よき[する](他)　預期、かねてごする、まへもつてたもん
よき(形)　吉懿能美、嘉祥好、良、佳、淑、善良、良好、淑美、よろしき、うるはしき
よき(名)　鉞、鉄斧、樵斧、ひろばをの、ひろまさかり
よき(名)　鴛鴦、ひえどり(動物)

よきすみ　佳墨、陳玄、よろしきすみ
よめ(名)　夜視、よるみること、よるのめ
よめ(名)　夜眼(やがん)、附蟬(馬の前足の膝上に在る堅き處)
よめ(名)　嫁娵、媳婦、子婦、むすこのつま。又新婦、婦、妻、つま
よめい　餘命、殘命、のこれるいのち
よめいり(名)　嫁入、出嫁、適夫、とつぐこと
よめいりだうぐ　嫁具、嫁産、嫁資、奩粧(嫁ぐ婦人の携ふる品物)
よめとりむこどり　嫁娶、とつぎむこどり
よめがはぎ(名)　薺蒿、よめな、のぎく(植物)
よめがさら(名)　蝨、よめざらがひ(動物)
よめつかひ(名)　勝(嫁ぐ婦人に從ひ來る女)、よめのとも、かいぞへ
よめな(名)　雞兒腸、雞腸菜、薺蒿、(植物)
よめのちち　婦翁(妻の父)、岳父、しうと
よめふり(名)　白楊、はこやなぎ、やまならし(植物)
よめざらがひ(名)　蝨(皿の形の貝)(動物)
よみ(名)　黄泉、よもつくに(冥府、陰府、死人の往く處)
よみ(名)　訓、くん(漢字の)、和譯
よみにくい(形)　難讀、よみがたい
よみほん(名)　讀本(どくほん)、よみならふほん
よみち　夜道、よるゆくみち
よみぢ(名)　黄泉路、冥途、よみへゆくみち。又よみ
よみがへる(自)　冥反、甦、蘇生、蘇息、復活、いきかへる(死人が)再生
よみかき　讀書、よむことかくこと
よみそこなふ(他)　讀損、よみちがふ
よみづと(名)　黄泉苞苴、よみのみやげ
よみなれる(自)　讀慣、慣誦、よみくせがつく
よみうり(名)　讀賣、よみわるさてうること
よみや(名)　宿宮、宵宮(祭日の前夜を謂ふ)
よみごゑ(名)　讀聲、よむこゑ、訓詁、よみかた
よみわはせる(他)　校合、校正、校讎、てらしわはせてよむ(寫本校合などを)
よみあやまる(他)　讀誤、よみちがふ
よみあげる(他)　讀上、朗讀、こゑたかくよむ
よみきり(名)　讀切、讀了、よみをはり
よみきる(他)　讀了、よみをはる
よみきかせる(他)　讀聞、よみてみみにいるる(人の)
よみもの(名)　讀物、ほんよむこと
よみせ(名)　夜店、夜肆、露店、露肆、夜賣、夜商、よあきなひ
よし　餘師、あまれるをしへびと(學習に十分なるを謂ふ)
よし(副)　由、假令、よしや、たとひ
よし(名)　因、縁、わけ、ゆゑ
よし　餘賞、よぶんのたから、あまれるかね
よし(名)　昇子、かごかき
よし(名)　蘆、葦、葭、はまをぎ、あし(植物)
よし　餘時、ほかのとき
よし　餘事、ほかのこと、他事
よしね　吉井(氏)
よしろ(名)　圍頭、こしきのかしら
よしと(名)　夜尿、尿床、よつばり、ねせうべん
よぎ(名)　夜着、夜衣、夜衾、臥被、被衾、ふすま、よるのもの
よきいへすぢ　貴胄、いへがら門閥、華胄
よきほまれ　善譽、令聞、令名、佳聲、よきな、名譽
よきとき　良時、良辰、嘉辰、佳節、よろしきじせつ
よきり(名)　節切(竹の一節を切りて作れる印籠の類)
よぎる(自)　過、すぐる、とほる
よきをとこ　美男子、好男兒、うるはしきをとこ
よきをんな　美女、美婦、淑媛、うつくしきをんな
よぎよ(名)　鰯魚、せんはら(動物)
よきよう　餘興、そのうへのなぐさみ
よきた　沃田、上田、腴田、こえたるた
よきつち　沃壤、沃土、膏腴之地、衍沃土、肥壤、こえたるつち
よぎなき(俗)(形)　無餘義、よんどころなき
よきうま　良馬、駿馬、すぐれうま
よきやう　餘響、さしひびき、あまれるひびき
よきやくにん　善役人、循吏、良吏
よきけしきのち　勝地、名區(好景色の地)
よきあめ　好雨、膏雨、甘雨、よろしきあめ
よきさかな　佳殽、佳肴、よさくひもの
よきさけ　美酒、芳醪、醇酒、白玉腴、うまきさけ
よききくわい　好機會、時機、機會、事機、時運、よきをり
よききもの　美服、錦衣、うるはしきころも
よきひ　吉日、良辰、穀旦、さひはひのひ
よきひと　善人、吉人、吉士、淑人、好人
よきもの　佳品、佳物、奇物、珍物、尤物、よろしきしな
よきすぢめ　甲族、名門、右族、望族、門地、よきいへがら、よきいへすぢ

よしとり(名)　鵠(動物)
よしわりすずめ(名)　剖葦「よしむしり」を見よ、ぎやうき
やうし(動物)
よしかは　吉川(氏)
よしとよう(名)　輿、乘、こし、のりもの(重に天子の)
よしだ　吉田(氏)
よしたけ(名)　荻、蘆竹(植物)
よしつ　餘日、おまれるひ。ばかのひ
よしなき(形)　無由、無爲、無因、無縁、すべなき。又、きなき、つまらぬ
よしむしり(名)　剖葦、よしきり、よしすずめ、ぎやうきやうし、よしわりすずめ、鵠、鷦けけし、反舌、轄軋鳥(動物)
よしの　吉野、芳野(氏また大和の山の名)
よしのしづか(名)　樟牙菜、おけぼのさう(植物)
よしのす　蘆洲、よしのはにたるす
よしや(副)　由假令、たとひ、よし
よしやう(名)　檣樟、くすのき(植物)
よじやう(名)　興情(其國一般の人民の情を謂ふ也)、輿論、たみのこころ
よしやく(名)　豫借、まへがり、さきがり
よしふ　餘習、のこれるくせ、のこれるならはし
よしご(名)　蘆芽、よしのめ
よしごひ(名)　獨春鳥(動物)
よしあし　善惡、淑慝、若否、美惡、可否、休否、吉凶、良否、臧否、否否泰、よきとあしき
よしざは　吉澤(氏)
よしきり(名)　葦切、剖葦、よしむしり(動物)

よしゆ〔する〕(他)　昇轜、かつぎはこぶ
よしみ　吉見(氏)
よしみ(名)　好、情好、情交、好誼、情義、通好、好和、したしみ、まじはり
よしみをむすぶ　結好、まじはりをむすぶ
よしみね　眞峯(氏)
よしひろ　吉弘(氏)
よしもなき　無所由、すべなき
よしず(名)　葦簀、葦簾、よしすだれ
よしずみ　善澄(氏)
よしすずめ(名)　鵠鷸「よしむしり」を見よ、けけし(動物)
よしん(名)　輿人なかま、くみのもの
よじん(名)　餘燼、もえのこり
よにい(名)　餘裔、末流、すゑ
よえい(名)　餘煙、殘煙、のこれるけふり
よひ(名)　宵、初更、ひともしごろ(日暮て間もあらぬ頃)
よひ(名)　醉、さけにゑひたること、ゑひ、酩酊
よび(名)　豫備、よういあらかじめのそなへ
よびいだす(他)　呼出、召、めしだす
よびいける(他)　呼活、呼救、呼魂、なをよびていかす(死人を)
よひと(名)　世人、よのなかのひと、江湖人、世間人
よびりん(名)　呼鐘、よびがね
よびかへす(他)　呼返、よびもどす
よびがね(名)　呼鐘、ひとをよぶにうつかね、よびりん

よびよせる(他)　呼寄、まねきよせる、めしよせる
よびだしじやう(名)　呼出狀、官署の、召喚書
よびつぱり〔俗〕　宵張、ながれき(夜分の)
よびつぐ(自)　呼繼(人より人と續ぎて呼ぶ)
よひづき　宵月、よひのまのつき
よびね(名)　宵寐、早睡、はやねばやくねること
よびな(名)　呼名(普通の稱呼)、となへ
よびむかへる(他)　呼迎、まねぐ。めとる
よひのみやうじやう　宵明星、太白星、長庚(暮に見ゆる光る星)、ゆふづつ
よひくるふ(自)　醉狂、ゑひくるふ、さけによひておばれる
よびぐん(名)　豫備軍、あらかじめそなふるつはもの
よびやう　餘病、ほかのやまひ
よひやみ(名)　宵闇、よひのまのくらきこと(月なくして)
よびぶえ(名)　呼笛、よぶこのふえ
よひふす(自)　醉臥、ゑひてねる
よびこむ(他)　呼入、喚入、よびいるる
よひごし(形)　宵越、ひとよこすこと、ひとばんごし
よびこゑ(名)　呼聲、よびこゑ。また音、ねん
よびわつめる(他)　呼集、喚聚、召聚、めしわつむる
よひざめ　醉醒、さけのさむること
よびもどす(他)　呼還、喚反、叫醒、よびかへす
よも　四方、四面(東西南北をいふ)、四表
よもだ　四方田(氏)
よもつかみ(名)　黃泉神(冥界の神)
よもつくに(名)　黃泉、よみ、冥府、陰府
よものうみ　四海(天下を指していふ)

よもやま　四方八方、四表八表、四極八極、もろもろさまざま
よもぎ(名)　艾、灸草、艾草、やいとぐさ、さしもぐさ、もぐさ、蓬(植物)
よもぎ(名)　遠(ところしきくさ(植物)
よもぎがしま(名)　蓬萊洲(ほうらいしう)、とこよのくに(仙境の名)
よもぎむし(名)　蚖(動物)
よもぎふのやど　蓬生宿、蓬戸、蓬蓽、くさふかきいへ
よもぎもち(名)　艾餅、くさもち
よもすがら〔副〕　終夜、通夕、盡宵、徹宵、終宵、盡夕、竟夕、よつぴて、よどほし
よせ(名)　寄寄席、ひとよせば(話家等の)、よせせき
よせ(名)　寄信任、たのみ(君王等の)
よせいのち　餘生、のこりのいのち、餘命
よせば(名)　寄場、よせ、よせせき、ひとよせば(講談師浄瑠璃太夫などか出る家)
よせばしら(名)　枻、馬枻、つなぎはしら(馬を繫ぐ柱)
よせどうふ(名)　豆乳(豆腐の一種)
よせつ(名)　豫折、まへびき、てんり(まへもつてさしひくこと)
よせつぎ(名)　寄接、合接(木と木をよせあはせて接く事)
よせぶみ(名)　寄文、投書、たくりぶみ(新聞社等への)
よせて(名)　寄手、せめよするつはもの
よせあつめる(他)　寄集、蒐集、纂集、纂輯、かりあつむる
よせざん(名)　寄算、加法、加算(數を合する算法)
よせき(名)　礬石、ねずみころし、砒霜(毒藥品)

よせき(名)　寄木、百衲、いろいろのきぎれ(細工に用ふる者なり下を見よ)
よせきざいく　寄木細工、嵌木工、きりはめざいく(各種の名木を切りて合せて作れる物)
よせめ(名)　夜攻、夜襲、ようち
よせん　餘喘餘息、のこれるいき
よす[俗](他)　止、罷、やめる
よず　四十(氏)
よすが(名)　因、便、縁、よし、てだて、すべ
よすてびと(名)　世捨人、隠遁者、桑門、沙門、僧、ばうず
よすぎ(名)　度生、活計、くちすぎ、くらし
よすみ　四隅、よつのかど
よすみ　四十住(氏)
よんべ(名)　昨夕、前宵、昨夜、ゆふべ
よんどころなき(形)　無據、せひなき

た

た　タ、多、太。ダ陀、馱　是は「と」の父音と「わ」の母韻と合して生ずる音にして五十韻中に在ては第四行第一段に位す
た(形名)　他、ほか、よそ、異
た(形)　多、れほき、許多、あまた
た(名)　田、みづた苗を植る泥地)
た(代名詞)　誰、たれ、なにびと(何人)
だ(形)　憐、よわき、いくぢのない。しだらなき
たい(名)　體、からだ、躰、身、軀幹。すがた、かたち
たい(名)　胎、はら(婦人の腹中なる子の居る所)
たい[する](自)　對、むかひあふ、ならぶ
たい(名)　隊、くみ(兵卒の)群
たい(名)　臺、うてな(蓋なき高き建物。また高き塔或は樓)
だい(名)　題(詩歌等を作る時に據る所と爲る趣意又は議論等の種とする者)
だい(名)　弟鷹、めだか(雌鷹と云ふ)
だい(名)　第、邸、邸宅、いへ(貴顯豪族等の家を重に謂ふ、やかた、たち、館
だい(名)　臺(物をのする者。榻(几案の類)。銃架(てつぱうだい)
だい(形)　大、れほいなる、れほきい
だい[する]　題、かきつける。つくる(詩歌等を)
だい(名)　代、よ、世、時世、時代
だい(名)　闍維(茶毘[火葬]に同じ)
たいい　大醫(上手なる醫者)、名醫
たいい　大意、あらましのこころ、れほよそのわけ、大體
たいい(名)　胎衣、えな(赤兒の頭に蒙りて生るる物)、胞、胎盤
たいい(名)　大姨、おねこじうとめ
たいお(名)　滯頤(小兒が涎を流して常に頤頷を潰すを云ふ)(病名)
だいいち(形名)　第一、はじめ、最初(順序を數ふるに用ふ)
たいいつせい(名)　太一星(北星の大星)
たいいう　大猷、れほいなるはかりごと
たいいん(名)　太陰(月を謂ふ)つき、玉兎、月輪
たいいん[する](自)　退隠、いんきよする。よをすてる

たいおん　退院(寺又は病院等を出去るを謂ふ)
たいいんれき　大陰曆(月の盈虧に依りて造りたる曆を謂ふ、今云ふ舊曆即ち是なり)
たいろ　大路、れほぢ、れほどほり、街道、わうくわん
たいろひ(名)　大蘆葩、をはりだいこん(植物)
たいろん[する]　對論(差し向ひて議論する)、むかひてあげつらふ
たいは　大破、れほやぶれ
たいは　大波、れほなみ、激浪
たいは[する](自)　顙破、やぶれる、くづれる
だいば(名)　臺場(大砲を打ち出す爲に築きたる要害の障壁)
たいはい[する](他)　帶佩、れぶる(腰に)
たいはい　大旆(天子の旌旗を謂ふ)
たいはい[する](自)　顙敗、顙廢、やぶれる、くづれる(風俗などにも云ふ)ずたずたなる
たいはい(名)　舶背、ふくたふせなか(八九十程の老人を謂ふ、是舶の背の如く皺よるが故なり)
だいはちぐるま(名)　大八車、人奔車、役車、にぐるま(荷物と載る大車)
だいばかり(名)　臺衡(臺の附きたる權衡)、せいやうばかり
たいはつ(名)　胎髮、うながみ、うぶげ
たいはう(名)　大砲、れほづつ(戰爭等に用ふる大なる鐵砲)
たいはう　大方、こころひろきひと。ものにわかるきひと。又れほかた
たいばう　大望、れほいなるのぞみ
たいはうたい(名)　大砲隊、れほづつかた
たいばうぎよ(名)　戴帽魚、やがらうを(動物)
たいはく[する](自)　滯泊(舟の長く止まりをるを謂ふ)
たいはく(名)　太白、しろざたう
たいはく(名)　太白、れほさかづき、盃、大杯
たいはく(名)　顙魄、かけたるつき(十五日後の月)
たいばくぼ(名)　大麥蛾、こせういちご(植物)
たいはくあめ(名)　太白飴、しろあめ
たいはくしん(名)　太白神、ひとよめぐり(神の名)
たいはくせい(名)　太白星、ゆふづつ、よひのみやうじやう(金星をいふ)
たいばふ(名)　顙馬風、ないら(馬の息切れする病)
たいはん(副形)　大凡、れほよそ、れほかた
たいはん　大半(半分以上を謂ふ)過半、れほかた
たいばん(名)　盥盤、えな、胎衣、胞
だいばん(名)　臺盤(食器を載する臺)、飯臺、せん
だいばんどころ或だいばんしよ(名)　臺盤所(宮中女房等のをる室。また禁中の食堂の稱)
だいばんせう(名)　大蕃椒、たうがらし(植物)
だいに　大貳(太宰府の長官)
たいにん(名)。—する(自)　耐忍、たへしのぶこと、かんにん。こらへしのぶ
たいにん[する](他)　體認、こころにかけてわすれぬ、しかとこころえる
たいにん　大任(大切の役)、重任、れもきつとめ
だいにん(名)　代人、かはりのひと。名代、代理人

たいほ(名)　昔晴、ほしのり(植物)
たいほ[する](他)　逮捕ていほ)、からめとる、めしとる(罪人を)
たいほ[する](自)　退歩、あとしさりする、あともどりする、しりごみする
たいぼ(名)　太母、ばば、祖母
たいぼう(名)　大鵬、れほとり(小說寓言の鳥にして非常に大なる者)
たいぼく　大木、れはいなるき
たいへい　退兵、つはものをしりぞくる、班師
たいへい(形名)　太平、泰平、れだやか、しづか、治世、昇平、平安
たいへい[する](自)　頽敗、くづれやぶれる
たいへいかい　太平海(五大洋の一にして日本と米國との間に横はる者)太平洋
たいへいらく　大平樂(音樂の名。また傲慢自負の語)
たいへいやう　太平洋(五大洋の一にして日本と米國との間に横はる大海)
たいへいせう(名)　大平簫(樂器の名)
たいべつ[する](他)　大別、れほきくわかつ(大体に依て區別をる)
だいへう[する](他)　代表(代人と成りて出るを謂ふ。かはりてあらはす、かはりてしめす
たいへき　大辟、大罪、れはいなるつみ
たいへん　大變(大なる異變の事。また[俗]れほごと。又たくさん(澤山)
だいべん　大便(人糞をいふ、くそ、屎、てうづ
だいべん(名)　代辨(代りて事を執行なふ)、代理
だいべんしや(名)　代辨者(かはりて事をとりれこなふ者)、代理人
たいほ(名)　大斗、れはます(物を量る器)
たいぼ(名)　態度、すがた、なりふり
たいぼ　大度(れはいなる心)、ひろきこころ
たいぼう　擡頭、かしらをもたげる
たいぼう(形)　對等、ひとしき、れなじき同等
たいぼう(名)　對頭、あひて、敵手
たいぼう　胎動(胎内の子の動く事)
だいぼう　大統(天子の業をいふ)
だいぼうろう(名)　臺燈籠(臺ある燈籠)
たいぼうめ(名)　大冬米、秫米、赤米、占稻、たうぼし(稻の類)(植物)
たいぼうさい(名)　大頭菜、かぶらな(植物)
たいぼく　大德(名僧知識又は一般の僧を尊稱する詞)
たいぼく[する]　退樸、しりぞきかくるる
たいぼく(名)　胎毒(母の腹に在る内に受けたる毒を云ふ)
たいぼくわい　大都會、れはいなるまち
だいぼころ(名)　臺所、庖厨、かつて、くりや
だいぼころをとこ(名)　厨丁、厨役、めしたき料理人
だいぼころをんな(名)　厨婦、厨婢、めしたきをんな、みづしめ
たいぼ[する](自)　對峙、むかひそばだつ、あひむかひてたつ。ならぶ
たいぼ(名)。—する(他)　退治、うちたひらぐる、うちほろぼす

だいぢ　大地(此地球をいふ)
だいぢよ　大豬、れはぶた(動物)
だいちやう(名)　隊長、くみがしら、兵卒の一群の長)
だいちやう　台聽(將軍其他の高貴人が耳に聽く事と謂ふ)
だいちやう(名)　大腸、れはらわた
だいちやう(名)　臺帳(商家肝要の本賬簿)
だいぢやうぶ　大丈夫、ますらを、こころづよきをとこ。又[俗]かならず。まちがいなき。たしか。つよき。かたき
たいぢん[する]　對陣、むかひあひてぢんどる(兩軍が)
たいぢん　退陣(陣營を引て退く)
たいり(名)　對理、むかひあひてのしらべ(原被の)對審
だいり(名)。—する(他)　代理、みやうだい、かはりびと。かはりてとりれこなふ、代辨
だいり　内裏(天子の御所をいへり)、禁裏、大裏、れはうち
だいりにん(名)　代理人、かはりのひと(代理を見よ)
たいりよく(名)　耐力、こらへるちから
たいりう[する](自)　滯留、しばらくとどまる、逗留、淹留、滯在
たいりく　大陸、大洲(島國ならぬ大土地をいふ)
たいりやう　大量、ひろきこころ、れはやう。れはいなるのみぢから(酒の)
たいりやく(名副)　大畧、あらまし、概畧。ほぼ、れはよそ
たいりき　大力、れはいなるちから、剛力、怪力
だいりしや(名)　代理者(代理人に同じ)
だいりせき(名)　大理石(堅き光澤ある石)、蠟石
たいるね[する](他自)　堆累、つみかさぬる。つみかさなる
たいをう　乃翁、ないをう」をみよ)
だいをく(名)　第屋、いへ、すまひ(第を見よ)
たいをく　頽屋、あばらや
だいをん　大音、れはごゑ
だいわんけうしゆ　大恩教主(釋迦牟尼を云ふ)
たいわ(名)　對話、さしむかひのはなし、晤談、會話
だいわう(名)　大黃(植物)
だいわこく　大和國、やまとのくに(大日本國を云ふ)
たいわん　臺灣、大宛、東寧、支那海の一島)
たいか　大家(大學者をいふ。また富豪家、かねもち
たいか　大厦、大屋、れはいへ、れはいなるいへ
たいが(名)　餒餓、うゑ、つかゑ
だいか(名)　代價、あたひ、ねだん、代金
たいかい(名)　怠懈、をこたり
たいがい(名副)　大概、れはむね、れはよそ、あらまし
たいがい(名)　體骸、からだ、形骸、身躰
だいかい　大海、れはうみ、太洋
だいかつ　大喝、れはごゑ、れはいなるしかりごゑ
たいかう[する](他)　帶行、つれゆく、携挈
たいかう　大綱、れはづな、れはくくり(人道の大本を然かいふ)
たいかう[する]　退耕(官途を引て農業をするを謂ふ)
たいかう　退校(學校を退ぞく)
たいがう(名)　怠傲、れこたり、怠慢
だいがう(名)　題號、な、となへ、表題(書物等の)
たいかううんどう　對抗運動(兩軍に分かれ行ふ實地戰爭の操練)

だいかうぎ　大講義（教導職の位階の名）
たいかく　待客（客をまつ、或あしらふ）
たいかく（名）　體格、からだづくり、かつぷく
たいがく　台嶽、台巒比叡山をいふ
だいがく　大學（最高等の學問所、また四書の中の最初の書）、大學校、國子監（支那）
だいがくかう　大學校（最高等の學科を授くる學校）〔上を見よ〕
だいかぐら（名）　大神樂、ししをどり（獅子の面を蒙りて舞ふ事）
だいがくしや　大學者、博士、碩儒（學問の達人）
〔だいかくしよ〕　大角集、れはづめ、れとつめ（氏）をへらいたいかふ　太閤（關白たる者の隱居したるを太閤といふ　豐臣秀吉公しか稱せらる）
だいがさ（名）　蠟笠（大名等の行列に携さへさせたる長柄の大傘）
たいかん　大旱、れはひでり
たいがん〔する〕　對顏、かはをあはする面會
たいがん　台顏、尊顏、貴顏（貴人の面を尊稱する詞）
たいがん　對岸、むかひぎし、前岸、むかふのきし（河の）
だいかん　大寒（二十四節の一にして極寒き時節）
たいがんじやく（名）　太眼雀、はぎましき（動物）
たいよ〔する〕（他）　貸與、かしあたふ
たいよう　體川、からだ及はたらき（本躰と效用）
たいよう（名）　胎孕、はらみ、はらみご
たいだ（形）　怠惰、なまける、をこたる、懶惰
たいたい（名形）　對待、あひむかふこと、あひならぶ

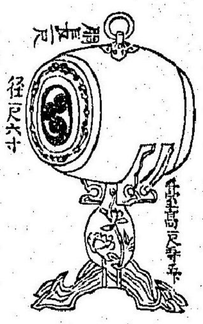
だいたい　大隊（兵士の一の大なる組）
だいたい　大體、れはよそ、あらまし、大要
だいだい　代代、よよ、世世
だいだい（名）　橙、やまたちばな、おへたちばな、金毬、鵄穀、回生橙（回青橙（植物）
たいたう　帶刀、れびたるかたな、腰刀（腰に帶びたる刀劍を謂ふ又「たてはき」と讀む）
たいたう〔する〕（自）　顚倒、くづれたふる
たいたう　大唐（支那の唐朝を云ふ）
たいだう　或ないだう（名）　逍堂（母の稱）、北堂、ははぎみ
だいだう　大道、れはいなるみち（世人が行ふべき者）、又れはぢ、れはどほり、大路
たいたうぎよ（名）　太刀魚、たちのうを（動物）
だいだうじ　大道寺（氏）
たいたく　大澤、れはいなるさは、又（氏）れはさは
たいだん　對談（向ひ合ふて話す事）面談
だいたん　大膽、大胆、きもふとき、不敵
だいたんさい（名）　大膽者、きもふときもの、不敵者
だいたんもの　大膽もの、しもべ
たいれい（名）　僵斃、またもの、しもべ
たいれいいふく　台嶺比叡山を云ふ、台嶽、台巒
たいれいふく　大禮服（大儀式の時に着る禮服）
だいれう（名）　大蓼、せんにんさう（植物）
だいれう（名）　代料（品物等の代りに與ふる金子）、代價、代金
たいそ　太祖（帝王の祖父を然か稱ふ）
たいそつ（副）　大卒、れはもはら、大概

だいそう　代僧、かはりのぼうず
たいそうそう　大匆々、ばなはだはやき、れははやまり
だいそうじやう　大僧正（僧位の最も高き者）
たいそく　大息、れはいき、ためいき
たいぞく（名）　大簇（正月の異名）
たいそん　大孫（皇太子の長子を云ふ）
たいづ（副）　大都、れはよそ、大凡
だいづ（名）　大豆、まめ（植物）
たいない　胎內、子宮內、はらのうち（母の）
だいないき　大內記（古昔禁裏の書記官の如き者）
たいなう　大腦（頭腦の前部の大なる分）
たいなふ　怠納、をさめをこたり（上納の）
だいなごん　大納言（官名、唐にて亞相と云ふ）
だいなごんあづき（名）　猪肝赤豆（植物）
だいなし〔俗〕（副形）　無策、まるでわるく、よごれくさつたる
だいなん　大難、れはなやみ
たいらう（名）　大老（德川政府の總理官）、閣老
たいらう（名）　太牢、牛（祭式に用ふる肉）
たいらう〔する〕　退老（隱居するを謂ふ）
たいらん（名）　台覽（將軍其他の高貴人が目に見る事）
だいり（名）　臺宇、たかどの、樓臺
たいうぬきやう（名）　大黃香（植物）
たいうん　泰運（泰平の氣運）
たいのや（名）　對屋（宮中女御の居る所）
たいく（名）　體軀、からだ、身幹、身体、み
たいく（名）　大工、木匠、巧工、工匠（家屋を造る者を云ふ）、たくみ、いへつくり、建築者
たいくわ（名）　胎禍（月數滿たずして子をうむ事）、半產、流產
たいくわ　耐火、ひにたへる、ひにもつ、ひにやけうせぬ
たいくわ（名）　苔花、貝母、ばいも（植物）
たいくわ　大科、れはいなるとが、大罪
たいくわ（名）　滯貨、ろうずもの、うれぬしなもの
たいぐわ（名）　大瓦、れにがはら
たいくわい　大塊（造化主宰を謂ふ）
たいくわい（名）　大魁、かしら、張本、巨魁、れやかた
たいくわい　大會、れはいなるあつまり
たいくわいにち　大過日（曆中の惡日の名）
たいくわと（名）　熒火斗、だいじふのう
たいくわうほう（名）　大黃蜂、くまばち（動物）
たいくわうたいこうぐう　太皇太后宮（天子の御祖母）
だいくわん（名）　代官（代理官、今の縣知事の類）
たいくつ（名）（他）　退屈、わぐみくたびれ、あき、倦怠、疲倦、倦厭、わく
たいくう（名）　大空、あはぞら
たいぐう（名）（自）　待遇、對遇、あひしらひ、あつかひ、もてなす、あしらふ
だいぐうじ（名）　大宮司、れはかんぬし
だいくうじゆ（名）　大空樹、うりのき（植物）
たいくん　大君（皇帝をいふ、又外人等は將軍をも然か稱へ來れり）
たいぐん　退軍、いくさびとをひきしりぞくる
たいくんゐ　大勳位、れはいさをのくらゐ（特別の勳章を

謂ふ)

たいや(名)　對屋(たいのや)をみよ)
たいや(名)　逮夜(忌日の前夜を云ふ)
たいやう　大洋、たはうみ、大海
たいやう(名)　太陽(日をいふ)、日輪
たいやう[する](自)　對揚、つりあふ、にあふ
たいやう(名)　頽陽、いりひ、日沒、くれあひ
たいやうれき　太陽曆(太陽の循環に依りて造りたる今日用ふる所の曆)
たいやうけい(名)　太陽系(太陽と諸行星の一組織)
たいやうさう(名)　太陽草、くさのを(植物)
たいやうせんきう(名)　御苧環、くさのを(植物)
たいやく　退役(官職を罷めらるを謂ふ)
だいやもんど　金剛石(鑽石(金石中の至堅至貴なる物)[英語])
たいま(形)　對馬、ごかく(將棊に言ふ)
たいま(名)　大麻、ぬさ、ごへい(御幣)
たいまい(名)　瑇瑁、玳瑁、かめのかふ
たいまいべう(名)　玳瑁猫、みけねこ(動物)
たいまつ(名)　松明、燒松、炬火、束苣、火把、續松、篝燈(草の束或は松等に火をつけたる者)、ついまつ
たいまつもち(名)　火把手、たいまつとたづさふるやとはれびと
たいまう　大望、たいなるのぞみ、青雲之志
たいまうちう(名)　大毛蟲、けむし(動物)
たいまん(名)　怠慢、おこたり、怠懈、なまけ
たいけ　大家、かねもちのいへ、豪家

だいぶつ　大佛、おほぼとけ、大佛像
[だいぶつ]　大佛、おさらぎ氏)
たいふう　頽風(廢れたる風俗)、又のわき
たいふう　大風、おほかぜ
たいふう(名)　颱風、にしかぜ(西風)
たいふうし(名)　大風子(植物)
だいふくちやう(名)　大福帳(商家の出入帳)
だいふくちやうじや　大福長者(金滿家をいふ)
たいぶん(名)　聖聞(將軍其他尊貴の人が耳に入るる事)、台聽
だいぶん(副)　大分、よほど、隨分
たいこ　大呼、おほよばはり、大聲
たいこ(名)　大皷、たたくつづみ(樂器)(河內國磐田八幡宮藏)



たいこ(名副)　太古、おほむかし、いにしへ、上古
たいこ　大戶、大家、かねもち
たいご(名)　隊伍、くみ、そなへ(兵卒の)
たいご　對碁、たいまのご、ごかくのご
たいご(名)　退後、あともどり、あとしざり
だいこ(名)　大根(「だいこん」をみよ)
だいご　醍醐(氏)
だいご(名)　醍醐(牛乳と精製したる美味の飲物)
たいこばち(名)　皷桴(太皷うつ木)
たいこばれ(名)　皷脹、はらはり、ちやうまん

たいこたう(名)　大胡桃、おほぐるみ(植物)
たいこう　乃公、迺公(ないこう)をみよ)
たいこう(名)　堆紅、つゐしゆ、堆朱
たいこう(名)　大煩、おほづつ、大砲
たいこう　大功、おほてがら、大勳
たいこう　太后(天子の御母)
たいこうち(名)　皷手(太皷たたく人)
たいこうしゆ　太公主(天子の伯母)
だいこく(名)　梵妻、梵嫂(寺院の僧の內密の妻)
だいこくばしら(名)　大黑柱(家屋の眞中なる最も大切なる大柱)
だいこくむし(名)　石蠶、むしのを(動物)
だいこくてん(名)　大黑天(富有財寶の神の名)
だいごくでん(名)　大極殿(禁裏政廳の名即ち朝堂院の正殿にて又最大殿とも名く)
たいこや(名)　大皷屋、鞁屋(太皷を作る者)
たいごふうさう　大吳風草、たけぶき(植物)
だいごてんわう　醍醐天皇(人皇第六十代の帝)
たいこもち(名)　幇間、牽頭、幫漢、どうけをとこ(人と笑はせ樂しまするを事とする人にて遊女屋などにも屬す)、たいこ
たいこん　苔痕、こけあと
だいこん(名)　大根、蘿蔔、おほね、しろね(植物)
だいこんさう(名)　水楊梅(植物)
たいてい(副)　大抵、おらまし、おほよそ、大概
たいてい(名)　太弟(天子の御弟)
たいていさう(名)　大丁草、せんぼんやり、むらさきたんぽ

たいげ(名)　帶下、ながち、しらち(婦人の病)
たいけい(名)　大薊、おにあざみ、おほあざみ(植物)
だいけいし(名)　大警視(舊警視廳の長官)
たいけつ(名)　對決、對審、對理、對質、むかひあひのしらべ(原被の)
だいけうゐん　大敎院(宗敎事務取扱本院)
だいげうさい(名)　大凝菜、ところてんぐさ、こりぐさ(植物)
だいけうせい　大敎正(神佛敎導職の最高官)
だいげき(名)　大戟、のうるし(植物)
たいけん(名)　怠倦、うみをこたり
たいけん　帶劍、おびたるつるぎ、佩刀、佩劍
たいけん　大權、おほいなるちから(政治上の)
たいげん　大言、おほきくものいふこと、ほこりたかぶることば
だいげん　代言(人の爲に詞訟を扱ふ業)
だいげん(名)　題言、まへがきことば、題辭
だいげんにん(名)　代言人(人に代りて訴訟を辨ずる法律家を云ふ)
だいげんすい　大元帥、總大將(軍旅の大將の最も上なる者)
たいふ　太傅、かしづきびと(太子の)
たいふ[する](自)　頽仆、たふれる
たいふ(名)　大布、ふとぬの
だいふ(名)　貸附、かしつくる
だいふりてん　大夫(舊五位の通稱)
　大貌利顚(英吉利國の一稱)

（植物）
たいてう(名)　帯鳥、練鵲、かささぎ(動物)
たいてん[する](自)　退轉、しりぞきうつる
たいてん[する](自)　顛顛、くづれる
だいでん　大殿、たゞほどの
だいてんね　大典、醫(天子の侍醫)
だいてんふ(名)　蜀葵(植物)
たいざ[する]　對坐、さしむかひにすわる
だいざ(名)　臺座、台座、すわるところのだい
たいさい(名)　苔菜、せり(植物)
たいさい(名)　體裁(ていさい)、なり、かたち、さま、ふう
たいさい　大才、すぐれいなるちゑ
たいさい　大祭、すぐれまつり
たいざい　待罪、つみとまつ(刑罰を蒙るを待つ)
たいざい[する](自)　滯在、とどまる、逗留、滯留、とどこほる
だいざい　大罪、すぐれいなるつみ、重罪
だいさいにち　大祭日、すぐれまつりび(現今十あり)
たいさう[俗](副)　太壯、はなはだ、すぐれほく。かずすぐれはき
たいさう(名)　大棗、なつめ(植物)
たいさう(名)　體操(身體を運動する法)
たいざう(名)　胎藏、やどそはら、胎内(佛書に三味を胎藏となすなど見ゆ)
たいざうかい　胎藏界(密宗に云ふ奥義なり、兩部を見よ)
たいさうけい　大早計、すぐれはやまり
たいさうさい(名)　大草菜、からすのにんどう(植物)
たいさく(名)　對策(支那の學者が試驗を受る時に試驗者の策問に對ふる答を對策といふ)
たいさん(名)　大蒜、にんにく、すぐれひる(植物)
たいさん[する](自)　退散、しりぞきちる、ちりうせる
だいさん(名)　代參(代理參詣)、かはりまうで
たいざんふくん　泰山府君
（櫻樹の類)(植物)
たいき　大器、すぐれいなるうつは。また大器量の人
たいき(形)　殆危、あやうき
たいき(名)　大氣(空氣と謂ふ)
たいぎ　大義(重大なる義理)。大道
だいぎ(名)　臺木(接木の下の方の樹)
だいぎにん(名)　代議人、代議士(人民の代りに撰ばれて議院に出る人)

（泰山府君の圖）

たいきよ[する]　退居、隱居、いんきよする
たいきよ(名)　大虛、すぐれほぞら、大空
たいきよ(名)　大鋸、すぐれほが、すぐれほのこぎり
たいきよ(名)―する(自)　退去、たちさること(過激の政事論者など凡て治安に妨害ある者と認定したる者を數年間數里外へ退かしむる事を謂ふ。しりぞさざる、たちのく)
たいきよ[する]　大擧、大軍を起すを謂ふ)
たいきよく　太極(萬物の根本)
たいきよく　對局(碁盤に對するを謂ふ)
たいきう　耐久、ひさしきにたふる(長く辛抱される)
だいきう(名)　大弓、すぐれはゆみ、すぐれはやなりなるゆみ
たいきやく―する(自)　退却、あとしさりする、あともどり

する
たいきやくか(名)　大脚蝦、てんぷら(動物)
たいきん　大禁(國家の法律の禁ずる所)
だいきん(名)　代金、あたひ、代價
たいゆ(名)　大柚、じやがたらみかん(植物)
たいめい(名)　臺命(將軍其他尊貴者のすぐれはせごと)
だいめいし(名)　代名詞(物の名に代る言葉にして彼我汝の如きを謂ふ)
たいめん(名)　體面、すぐれ、名譽(人の人たる分)
たいめん[する]　對面、かほをあはせる
だいみやう　大名(諸侯を謂ふ皆一萬石以上の土地を有せり)
だいみやうにち　大明日(最上の吉日の名)
だいみやく(名)　代脈(弟子が師に代りて病人を診察するを謂ふ)
たいみん　大明(支那明朝をいふ)
たいみんちく(名)　大明竹、たけのたぐひ(植物)
たいし(名)　大指、すぐれはゆび
たいし(名)　太子、よつぎのみこ、儲君、儲王、冢子、副君(まうけのきみ)を見よ)
たいし(形)　怠惰、をこたり、怠慢
たいし(名)　大使、くにのつかひ、公使
たいし　太后、はなはだをごる
たいし[する]　胎死、はらにてしぬる(胎兒が)
たいし(名)　胎兒、はらごもりのこ
だいし　大師(僧の最高の尊號)
だいし　大吏、ふみびと、吏官(古昔太政官の屬官)
だいじ　大事、すぐれいなること、大事件
だいし(名)　題辭(書物の初に加添へたる格語言の類を然かいふ)
だいじり(名)　銃頭(鉄砲の手許の處)
だいしかう　大師講(弘法大師の忌日の法會)
たいしよ　大暑(廿四節の一にして夏の眞中にあり)
だいしよ　代書、かはりてかくこと(人に代りて訴狀願書等を書く事)
だいしよ(名)　大薯、やつがしら(植物)
だいしよ[する]　大書、ふとがきする(大字に書く)
だいしよにん(名)　代書人(代書をする人)
たいしよう(名)　戴勝、やつがしら、きくいただき(首に羽の冠を戴だく美しき候鳥)(動物)
だいじやう　大乘(佛教の極深き法門)
たいしよく[する]　退職、つとめをしりぞく
たいしよく　大食、すぐれはぐらひ
たいしよく[する]　對食、しやうばんする、陪食
たいしよくくわん　大織冠(往古正一位相當の官位)
たいしよくてう(名)　大食鳥、すぐれはをそどり(動物)
たいした[俗](形)　莫大、すぐれいなる
たいしつ[する]　對質(原被を突き合せてしらぶる)
たいしつ(名)　體質、かたち
たいしう　大洲(亞、歐、米等の大陸を謂ふ)
たいじう(名)　大銃、すぐれはづつ(大砲)
たいしや[する]　退社(組合即ち會社を脫ける)、脫社
たいしや(名)　大赦(全國の囚徒を悉く恩赦する事)
たいしや(名)　泰奢、をごり、奢侈

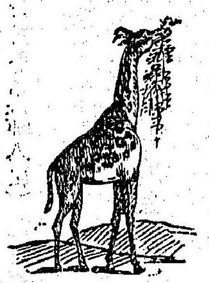
だいしや(副)　乃者、このごろ
だいしや[する](自)　代謝、うつりかはる
たいしやう(名)　大將、いくさのきみ(軍勢を指揮する最高地位の人)
たいじやう(名)　怠狀、おやまりぶみ、おやまりじやうもん
たいじやう[する](自)　退讓、じたいする、ゆづる
だいじやう[する]　代償、かはりてつぐのふ
だいじやうだいじん(名)　太政大臣(政府の最高官の古稱にして今日の總理大臣に當る)
たいじやうのはた　太常旗(天子の旗を謂ふ)
たいしやうぐん(名)　大將軍(大將に同じ)
だいじやうさい(名)　大嘗祭(天子即位の後に行ふ祭の名)
だいしやうじ(名)　大聖寺(氏)
だいじやうし(名)　大床子(古へ禁裏にて食せられし公然たる大食事を云ふ)
たいしやく　貸借、かしかり
たいしやく(名)　對借、おひたいがり
たいしやく(名)　帝釋(佛書に謂ふ天上の主宰神)
たいしやせき(名)　代赭石(赤き土の名)
だいじふのう(名)　臺火斗(火をすくふ器にして下に臺ある者)
たいしこう(名)　大師講(十一月廿四日に行ふ天台大師忌日の法會)
たいしゆ(名)　貸主、かしぬし、かねかしぬし
たいしゆ(名)　堆朱、つゐしゆ
たいしゆ(名)　大酒、れはざけのみ

たいしゆ　大守(一國一州の總督官)
たいしゆ(名)　對手、わひて、敵手
たいじゆ　大儒、鴻儒、碩學(學業秀でたる儒者)
たいじゆ(名)　大樹(德川將軍の尊稱)
だいしゆ　大衆、れはせい、れはくのひと
たいしゆつ[する](自)　退出、しりぞきいづる、まかりいづる、ひけていづる
たいしゆく[する](自)　退縮、ちじまる、ひるむ
たいしん　大身(身分の重き人)
たいしん　大清現時の支那國をいふ)
たいしん(名)　對審、對決、つきあはせしらべ(原被兩造の)
たいじん(名)　戴冠、戴勝、やつがしら、さくいただき(動物)
たいじん　大人、うし(人の尊稱)、又をとな
だいじん[俗](名)　大臣(國政を執る最高の官人)、れとと
だいじん(名)　大臣(國政を執る最高の官人)、れとと
だいじんがさ(名)　兎兒傘(植物)
だいじんぐう　大神宮(伊勢國渡會郡に在る日本第一の社)
だいじんけ　大臣家(政府の大臣となる家柄)
だいえい(名)　題詠(題に隨て詠じたる歌)
たいえいちやう　大營帳、れはてんと、れはてんまく
たいえう(名)　大要、大體、かなめのところ
たいえう(名)　體要、かなめのところ
たいえふれき(名)　大葉櫟、かしは(植物)
たいえふさう(名)　大葉薊、あまも(植物)
たいえん(名)　大圓(太陽を謂ふ)、日輪
だいえん(名)　題緣、ほうが(奉加)

たいひ(名)　太祕、ふすま、よぎ
だいひつ(名)　大疋(諱正の長官)
だいひつ(名)　代筆、かはりてかくこと(人に)
だいひつ　大筆、れはふで、又れはがき
だいもつ[俗](名)　代物(物の價即ち代金)、あたひのかね
だいもく(名)　題目、なまへ(書物等の表題殊に法華經の名にいふ)。また名稱
だいもくかう(名)　題目講(日蓮宗の徒が集て題目を稱ふる講)
だいもじがひ(名)　海燕、たこのまくら(動物)
だいもじさう(名)　虎爾草、じんじさう(植物)
たいもん　對問、とひこたへ問答
だいもん(名)　大紋(大なる衣紋の禮服)
たいやう(名)　大青、あゐ(植物)
たいやう(名)　大政(天下の政事)
たいやう(名)　體裁、かたち、ありさま
たいやう(名)　泰西(西洋の諸國を云ふ)
たいやう　胎生、はらよりうまるる(鳥の如く卵よりならず人畜の如く胎より生きて生る)
たいやういば(名)　戴星馬、ひたひじろ(動物)
たいやうやう　大西洋(五大洋の一にして米國と英國との間に横はる者)
たいやうてい(名)　大蜻蜓、れはとんぼ(動物)
たいやうでん　大成殿(孔子の廟を謂ふ)
たいやうやうさう(名)　戴星草、はせをさ(植物)
たいやく(形)　大切だいし、大節緊要、必要
たいやく(名)　類雪、なだれ、ゆきあだれ、雪崩

たいやく　大節茶、やぶしらみ、こまのひざ(植物)
たいやう[する]　對照、くらぶる、てらしあはせる
たいやう　待詔、みことのりをまつ
だいやう　大小、れはきいちいさい。又かたなわきざし
たいやき[する](自他)　堆積、つみかさなる。つみかさねる
だいやきにき(名)　大斷蝎、れはとかげ(動物)
たいやま　大川、れはかは。又(氏)
たいやう(名)　苔蘚、こけ(植物)
たいやく　大船、れはぶね、巨船、巨艦
たいやく(副形)　泰然、れちつきかへりて、自若
だいやく　大膳(天子の食膳を掌る官)、かしはで
だいやす(名)　靈芝、とし、かまだい(茶の湯の)
だいやす　大呪陀羅尼の類をいふ)
たいやする　大水、れはみづ、でみづ、洪水
たいやく(自)　對、むかひあふ、むかふ
だいやすう(名)　代數算法の名)點竄
たいやく　東把、把束、たばこ、つかね
たいやく[する]　打破、うちやぶる
だいやく(名)　蛇婆、海蛇、みづへび、えらぶうなぎ(暗褐色の海蛇にして琉球の永良邊島に殊に多く産すといふ)(動物)
だいやく(名)　馱馬、にれひうま、にうま
だいやく(名)　駝馬豹駝(獸類中最も長高き者にして支那人の所謂麒麟に似たり、亞非利加

(駝馬の圖)



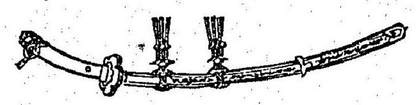
洲に産す(動物)
たはい(名)　疱瘡、駝背、せむし
だはい(名)　駝背、せむし、くぐせ、せぶんこ
たはいない〔俗〕(形)　無感覺、無正体、ちからなき、しやうなき、また不足取、つまらぬ
たはわん(名)　打破碗、めじろはばつき(植物)
たばかる(他)　誑、瞞、欺騙、だまかす、あざむく、すかす
たはれを(名)　遊士、あそびとこ、遊冶郎
たはれめ(名)　遊女、あそびめ、うかれめ、遊君、ぢようろ
たばね(名)　束子、たば、つかね
たばねる(他)　束、把握束、裝束、つかぬる、ゆはひる
たばねがみ　束髮、そくはつ、つかねがみ
たばなす(他)　手放、てばなす、はなしやる
たはら(名)　俵、俵藥等にて造りて米鹽炭等を入るる者)
たはらむし(名)　蚖蛇(動物)
たはれる(自)　戯、嬉遊、なぐさみあそびする。淫、婬、淫戯、みだれまじはる(婦に)
たはれがたき(名)　戯友、あそびなかま、ともだち
たはれがき(名)　戯書、狎書、漫題、いたづらがき
たはれごと(名)　戯事、いたづらごと
たはう　他方、よそ、ほか
たはう(副)　多方、いろいろ、さまざまに
たはう　他邦、とつくに、外國、よそぐに
たばう(形)　多忙、いそがはしき、繁忙、多用
だばう(名)　兌坊、りやうがへや、兌換店
たはやすき(形)　容易(たやすきに同じ)
たはけ(名形)　白癡、俚侗、れろか、しれもの、ばか、蠢愚

たはける(自)　奸、婬、淫、奸通、いろごとをする(婦人に)
たはけき(形)　婬、みだらなる、嫖
たはふ(他)　貯、たくはふ、蓄保存、藏留
たはふれる(自)　戯(「たはむれる」をみよ)
たばこ(名)　烟草、けふりぐさ。烟葉(たばこのは)。煙絲(きざみたばこ)(植物)
たばこいれ(名)　烟袋、烟囊、切芬袋(煙葉を入れて携ふる具)
たばこぼん(名)　烟草盆、烟盤、烟盒、芬盤、烟架(喫煙の火を蓄ふる器)
たはこと(名)　戯言、むだごとばなし、癡言、おろかごと
たばさむ(他)　挾、わきばさむ
たはし(名)　把稿(刈茅棕櫚等にて作りて物を磨き洗ふに用ふる者)
たばしる(名)　瘡液、かさのしる
たに(名)　谷、谿、澗(山と山の間の深き處)
だに〔俗〕(名)　蚋、鹿蝨、あぶのたぐひ(犬などにたかる者)(動物)
たにわたり(名)　猿猴花(植物)
たにわたし(名)　歪頭菜、なんてんはぎ(植物)
たにがは(名)　溪川、谷川、澗(山間の川)
たにかぜ(名)　谷風(山間の風)
たにそこ(名)　澗底、谷底、たにのふかみ
たにうつぎ(名)　楊櫨(植物)
たにわひ(名)　谷間、谿間、たにま(山間の谷と谷との間といふ)
たにさま(名)　谷狹間、たにのあひだのせまきところ

たにみち(名)　澗道、山間の路、やまあひみち
たにし(名)　田螺、田嬴、たつぶ(田に生ずる螺貝)(動物)
たにせり(名)　前胡(植物)
たにん(名)　他人、よそのひと、ほかのひと
たにんず　多人數、おほくのひとかず
たぼ(名)　髻(女の髮の前後等の出張りたる所をいふ)
だは〔する〕(他)　拿捕、ひつとらへる
だぼく〔する〕(他)　打撲、うちたたく
たへ(名)　栲、かぢぬの(上古の布の類)
たへ(形)　妙、ふしぎなる。たどろくほどよき
たへい(名)　舵柄、かぢつか
たへに(副)　妙、たへなるさまに
たへる(他自)　堪、任、勝、よくする。耐、耐忍、不屈、不撓、こらえる、がまんする。得、できる
たべる(他)　食、喫、くらふ、くふ
たべかす(名)　食滓、くひのこし
たへなる(形)　妙、ふしぎなる、靈妙(「たへ」を見よ)
たべしのぶ(他)　堪忍(かんにん)、こらへしのぶ
たべもの(名)　食物、くひもの
たへず　不堪、不勝、不任、こらられず。よくできぬ、あたらぬ
たべん(形)　多辯、ことばはきゝ。れしやべりなる
たとへ(名)　喩、譬、譬喩(物になぞらへて言ふ詞)。また例、ためし
たとへ(副)　假令(たとひ)にれなし)
たとへば(副)　例、ためしをあぐればたとへばなし(名)　譬喩言、なぞらへばなし

たとり(名)　鷄、冠雉、鶏鳩(冠ある小鳥にてつてつてと鳴く者即ち家厩雀を謂ふ)(動物)
たどる(自)　迚、模行、躑躅、さぐりあるく、そろそろあるく
たどたどと(副)　迚迚、そろそろと、さぐりさぐりて
たどたどしき(形)　迚迚敷、おぼなかしき、さだかならぬ
だとう(名)　朶頭、えださき、枝末、ほつゑ
だとう(名)　饒豆、まめまき、れにやらひ
たどうし(名)　他動詞(活用言にして其働きと他の語に及ぼす者、例へば「人を殺す」といふ句なる「殺す」の如し)
たどころ(名)　田所、糧地、たつくるところ、たんぼ
たとひ(副)　假令、設令、藉使、假饒、有如、縱使、縱然、就使、直饒、縱、設(假に定めて他を推す詞)。たとへ、よし
たどん(名)　炭團、炭餅、香餅、炭墪、歡喜團(炭を粉にして丸めたる者)
たち(名)　館、やかた、れはいへ、又やどや
たち(形)　多智、ちゑれはき
たち(名)　太刀、刀劍、腰刀、ながが
たな(此圖なるは伊豫國三島社藏大塔宮所用)
たち(名)　質、うまれつき
たちね(名)　起居、たちすわり、ふるまひ(身の)
たちいへ(名)　建家、たてや
たちいる(自)　立入、はいる
たちいでる(自)　立出、いでゆく。いできたる。

(太刀の圖)



たちばれ(名)　腹腫(馬の病)
たちばな　橘立花(氏)
たちばな(名)　橘橙,柑,百両金,みかん,からと(植物)
たちはめ(名)　屬打,鞭しきれ(賤き者のはきもの)
たちどころ(名)　立所,たちどころ
たちとり(名)　太刀取,劍手,くびきるひと(刑場にて)
たちどまる(自)　立止,趑趄,躑躅,彷徨,躑躅,延停,とどまるすすまぬ
たちどころに(副)　立所,企踵,立,すぐさま,ただちに,即時
たちぬひ(名)　裁縫(さいほう),きりぬふこと
たちかへる(自)　立歸,もどる
たちがれ(名)　立枯,椁(木の立死といふ)
たぢから(名)　田租,ねんぐ(年貢)
たちよる(自)　立倚,とふ(訪),ゆく
たぢたぢ(副)　退縮,たじろきつつ
たちつけ(名)　裁着,たつつけ(袴の類)
たちむかふ(自)　立向,はむかふ
たちうり(名)　裁賣,きりうり
たちうを(名)　太刀魚,帶魚,鱭魚(太刀の如き形の魚)(動物)
たちのぼる(自)　立登,まつすぐにあがる
たちのく(他)　立退,すてさる,しりぞく
たちぐらみ(名)　眩暈,頭眩,めまひ
たちやう(名)　立食(立ちながら物をくふ事)
たちやく(名)　壇腸(腸の壇ち下る事)
たちやすらふ(自)　立役,正末,立役生,をとこやく(演劇の)彷徨,徘徊,儲與,たともとほる,ただずむ

たちまはる(自)　立回,徘徊,徧遶,あちこちゆきめぐる
たちまち(副)　忽,乍,倏忽,忽然,にはかに,すぐさま
たちまちづき　立待月(滿月の次の夜の月)
たちまちぐさ(名)　牛扁,當時草(植物)
たちまじる(自)　立交,いりまじる
たちまひ[俗](名)　賃錢(ちんせん),まうけ,利得
たちふるまひ(名)　擧動,擧止,起坐,動靜,れこなひ
たちこり(名)　日日(氏)
たちこえる(自)　立超,たちまさる
たちあがる(自)　起上,起立,蹉躓,興起,むきあがる
たちあふ(自)　立合,いであふ,あひむかひてたたかふ
たちあふひ(名)　蜀葵,はなあふひ(植物)
たちあひにん(名)　立會人,いであふひと
たちあひさいばん　立合裁判(二國或は數國の裁判官が合并して開く裁判)
たちさはる(自)　立障,さはりになる
たちさわぐ(自)　立騷,さわぎたつ
たちき(名)　立木,樸,たちをるき
たちきる(他)　截斷,切斷,きりはなす
たちぎき(名)　立聞,傾聽,側聽,倚聽,ぬすみぎき
たちぎに(名)　立消,きえうせること
たちゆく(自)　立行,ゆきたつ
たぢひ　丹比(氏)
たちひよとり(名)　龍珠(植物)
たちもとほる(自)　盤桓,躊躇,彷徨,踟躇,猶豫,趑趄,たちやすらふ,徘徊

たちもどる(自)　立戻,立返,還來,歸反,たちかへる
たちもの(名)　建物,たてもの,たてや
たちもの(名)　斷物,禁物,食はじと定めし物)
たちすくむ(自)　立縮,たちちぢまる。たちわうじやうする
たちすみれ(名)　革革菜植物)
だちん(名)　駄賃,馬に荷物をつけたる賃錢)
たり(名)　鱈(馬脚屈りて重きをいふ)
たりう　他流,ほかのりうぎ,ほかのしかた
だりう(名)　龍龍,かわいまん(動物)
たりやう　多量,かさねほき
たりき　他力,ほかのちから
たぬま　田沼(氏)
たぬき(名)　狸貍,貒(動物)
たぬきねいり(名)　貉睡,そらねむり,佯眠,陽睡,假眠
たる(自)　足,贍,充足,滿足,充滿,充實(十分にある)
たる(名)　樽,樝,樽,まるをけ(酒を容るる)
たるい[俗][形]　淫,わぢはひよからぬ
だるい[俗][形]　倦怠,疲勞,重,つかれたる,よわりたる
たるね　垂井(氏また地名)
たるぬき(名)　醂柿(澁柿のしぶを酒氣にてぬきたるを云ふ),たるがき
たるだい(名)　樽代(婚禮前納結の時の進物の一)
たるむ(自)　弛緩垂,ゆるむ
だるま(名)　達磨梵語なり譯して法と云ふ)
だるま　達磨(南天竺の香至王の子跋陀羅氏と號す,有名の祖師にして梁の世に支那に來りて禪道を傳ふ)
だるまき(名)　達磨忌(十月五日に行ふ達磨の年忌)

だるまぎく(名)　佛頭菊(植物)
たるき(名)　椽,榱,桷,榱,間朮(屋根の下に渡す材木)
たるめる(他)　弛緩,ゆるめる
たるみ　垂水(氏)
たるみ(名)　垂氷,たるひ,冰柱,氷筋,つらら
だれぼひ(名)　駄覆,體掩(馬の上に掛て掩ふ物)
たをる(他)　手折花を)てにてをる
たをやか(形)　婀娜,窈窕,嬝娟,嬌嬽,嬽弱,要紹,猗儺,柔徒,柔撓,やさしき,しなやか,かよわき
たをやぎたる(形)　纖弱,たをやか,しなやか,しんなりしたる
たをやめ　手弱女(婦人の一稱,蓋し其纖弱なるに取る)
たをさ(名)　田長,しでのたをさ(杜鵑の一名なり,田家其鳴くを候て農事を起すが故に云ふとぞ),ほととぎす(動物)
たわ或たわみ(名)　平窪,ひらたくくぼきところ(山の上の)又たわめるさま
たわわ(形)　褒嫋,しなしな,靡然
たわむ(自)　撓,橈,しなはまがる。褒,なびく
たわやか(形)　柔輭,たをやか,をみよ)
たわめる(他)　揉,煣,撓,まげる,しなはせる
たわめかす(他)　撓,たわめること。まがり
たわみ(名)　橈,たわめること。まがり
たか(名)　鷹,鷂,鷂,鶻,題肩,征鳥,鷹風,鷂鳥(鳥を執り食ふ荒き鳥)(動物)
たか(名)　額(物數の),かさ,ほど,つもりだか
たが(代名詞)　誰,たれが,何人

たが(名)　箍、箇束、斯輪(桶等を束る具)
たが　多賀(氏)
だか(名)　駄架、にぐら(馬の)
たかい　他界、あのよ、黄泉、冥途、よみぢ。死去、逝去
たかい[する](他)　打拐、かたりとる。かどわかす
たかいぬ(名)　猴、かりいぬ(動物)
たかいぬ　蒼黄、いぬたか(黄犬と蒼鷹を云ふ)
たかば(名)　鷹場、たかがりば
たかばかり(名)　竹量、たけのはかり
たかはた(名)　高機(絹織る器)
たかばたけ　高畠(氏)
たかはな　隆準(高き鼻)、たかさはなばしら
たかはら(名)　竹林、たけやぶ、たかばやし
たかばうし　高帽子、たかきかぶりもの(西洋風の)
たかはし　高橋、高階(氏)
たかべ(名)　刁鳴、すずかも、沈鳧(形鴨に似たる鳥)(動物)
たかべ(名)　鱸魚、うをのな(動物)
たがへる(他)　違、ちがはする
たかべや(名)　鷹部屋、鷹房、鷹室(鷹を養ふ處)
たがへし(名)　相扠、拗腕、うでねじ(腕力をためす遊戯)
たがへす(他)　耕、畝田を墾き返へす
たかとうだい(名)　大蕗、くさのな(植物)
たかどの(名)　樓、高臺、樓閣、高樓、觀閣、臺宇、樓觀、重屋、金殿、玉閣、たかきいへ。にかい
たかどま(名)　高土間(劇場内なる一層高き場所)
たかとも(名)　高輔、たかきとも(「とも」をみよ)
たかちよく(名)　高脚盃(脚つきたる高き杯)

たかる(自)　集、多集、群集、よりあつまる(虫等が)
たかれがみ　靈神(貴船の一座にて水を主る神)
たかわらひ　高笑、わはわらひ
たかがり(名)　鷹狩、放鷹、鷹を放ちて小鳥を捕らしむる事を云ふ)
たかいぬ(名)　鷹飼、たかかふひと
たかかひべ　鷹飼部、たかかふつかさ
たかだ　高田(氏)
たかたぬき(名)　鞴(鷹飼の用ふる手袋)
たかだか[俗](副)　高高、せいぎり。又たかく
たかたかゆび(名)　中指、なかゆび、たけたかゆび
たかたふ　高任(氏)
たかだんし　高檀紙(陸奥紙と云ふ紙)
たかつかさ　鷹司(氏)
たかつかひ(名)　鷹匠、たかじやう、たかかひ
たかつくゑ　高案、高檯、たけたかきつくゑ
たかつき(名)　高坏、丁盆、承盤、托盤(一本脚の盆)
たかね(名)　高嶺、高峯、たかきみね、やまのみね
たかね(名)　飴、あめ(古語)
たがね(名)　鑿、鑿錐(鐵等に刻し或は之を切る具、また岩等を穿つ器)
たがねさう(名)　崖樓、くさのな(植物)
たかな(名)　大芥、はばがらし、からしな、蕓薹植物)
たかなみ　洪波、高潮、つなみ、はばなみ
たかなし　高梨、小鳥遊(氏)
たから(名)　寶、財貨、貲、珍寶、貨財、財寶、貨幣、たふときしなもの

たからかに(副)　高、たかし、又こゑたかく
たからがひ(名)　寶貨貝、貨貝、貝子、紫貝(動物)
たからのいけ　寶池(極樂の八功德池を云ふ)
たがらし(名)　石龍芮(地椒、毛蔓、猴蒜、回回蒜、皆此類に屬す)(植物)
たからもの(名)　寶物(はうもつ)、たから
たかむろ　高室(氏)
たかむら(名)　竹叢、篁、篔竹の叢生する所、たかやぶ
たかむく　高向、たかむこ(氏また地名)
たかむしろ(名)　竹席、篁(竹にて編たる席)、蘧曲、筵席
たかう　多幸、さいはひれはき、しあはせよき、多福
たがう　多毫、多筆、ふでまめ
だかう[する](他)　打拷、ぶちたたく
だかう(名)　駄向(旅中の飯をいふ)、たびのかて
たかうながたな(名)　笄刀、竹刀、たかこがたな
たかうじ　尊氏、高氏(足利貞氏の次男にして足利將軍家の創立者)
たかの(名)　鷹野、たかがりば。又たかがり
たかのやま　高野山、かうやさん(紀伊國に在る名山にして弘法大師の開基に係る)
たかくら　高倉(氏)
たかくらてんわう　高倉天皇(八皇第八十代の帝)
たかくさかしき(形)　峥嶸、嶷嶷、さかしし、けはしくたかき
たかや　高屋、高谷(氏)

たがや　多賀屋(氏)
たかやま　高山、たかきやま、又氏)
たがやさん(名)　鐵樹、鉄刀木、からぎのひとつ(植物)
たがやす(他)　耕、耘機、農具(農業の器具)
たかまのはら　高天原(天の中央にして諸神の住居する處)
たかまさき　高蒔繪(蒔繪を地より少しく高くせる者)
たかげた　高屐、高木履、たかきはきもの
たかふ(名)　竹生、たかやぶ、たけのそのふ
たがふ(自)　違、忤、戻、忤、反對、齟齬、差違、參差、天淵雲泥、霄壤、氷炭、水火、枘鑿、そむく、もとる、まちがふ
たかぶる(自)　亢、傲慢、ようだいぶる。ほこる、をごる
たかふだ(名)　高札、標牌、告牌、榜文、懸令、掲示、掲牌
たかてこて　高聲、大聲、わはごゑ
たかてこて　高手小手(手を後にまはして罪人を縛する事)
たかき(形)　高、峻、崇、隆、崇喬、高穹、蒼喬、嶕嶢、ぬきんでがれる
たかき(名)　高城、たかみ、たかきところ
たかぎ　高木(氏)
たかきや(名)　高樓、峻宇、高屋、樓臺、たかどの
たかきやま　高山、崇丘、大山、嶽、巍
たかきひくき　高下、高低、凸凹、甲乙、尊卑、貴賤
たかゆく(自)　高行(高く飛び行くを謂ふ)
たかゆび(名)　中指、たけたかゆび、なかゆび
たかめる(他)　高、崇、たかくする。あがめる

たかみ(名)　高所、たかきところ
たかみむすびのかみ　高皇産靈神(造化の男神)
たかみくら　高御座、たかきすわりどころ(天子が禮式の時に坐したまふ位座)
たかし(名)　鷹師、たかつかひ、たかじやう
たかしほ　高潮(海潮の高く滿ちたる者)
たかしな　高階、たかはし(氏)
たかじやう(名)　鷹匠、たかづかひ
たがじやうのひ　多賀城碑(陸前國宮城郡に在る古碑にして其處より京都蝦夷等への里程を記す、之を壺の石碑と稱し來れり)
たがしやくし(名)　多賀杓子(近江國犬上郡より出す所の一種の杓子)
たがひに(副)　互、遞、迭、わひともに、かたみよ、あひたがひに彼此
たがひにくらべる　參互、くらべわはする
たがひちがひ(形)　參差、交叉、交互、交加、あちこち
たかびく(名)　高低、凸凹、たかきひくき、あがりさがり
たがも(名)　鷄鴣、とりのな(動物)
たかせ　高瀬(氏)
たかせぶね(名)　高瀬舟、艇(迅くはしる川舟)
たかんな(名)　筍、笋、鞊籜、初筠、竹萌、竹胎、竹子、竹芽、たけのこ(植物)
たかんまた　田麥殿(氏)
だがんさう(名)　蛇含草、つばめぐさ(植物)
だかん(名)　衆鞠、玉札、玉章、たまづさ、てがみ(人の)
たより(名)　便、音信、音問、消息、書信、耗息、たづれ

たよわき(形)　手弱、柔撓、かよわき、よわき
たよう(形)　多用、ことれば多務、繁務
だよう(形)　惰慵、ものうき、なまけ
たよく(形)　多慾、よくふかき
ただ(副)　唯、只、止、啻、惟、翅、但、祇、これのみ、ばかり
ただ　多田(氏)
だだ(俗)(名)　諛諂、だだけること
だだ(副形)　朶朶、木の枝の花咲て垂るる貌。また雲等の重なりわふ貌
だたい(名)。—する(自)　墮胎、こをれろすこと。こをれろす
ただいま(副)　只今、即今、如今、いまのとき。又ただちに
ただちに(副)　直、ただちに(古語)
ただに(副)　徒、徒然、ただ。いたづらに
たたへる(他)　稱、ほめる、稱揚、稱讃
たたへな(名)　美稱、稱號、ほむるな、尊稱、尊號、あがむるよびな。また諡、わくりな
たたへごと(名)　稱詞、祝詞、讃詞、ほめことば
ただちに(副)　直、徑、すぐに、即刻、即坐、すぐさま
たたり(名)　絡絹(絲を巻く具)
たたり(名)　祟、わざはひ(神佛が蒙らする)
たたりがた(名)　栃、つかばしら(柱上の小柱)、ひめばしら、楽
ただをる　只居(何もせずに居る)
たたかふ(自)　戰、鬪、いくさする。ぶちわふ
たたかひ(名)　戰、いくさ、戰鬪、戰爭、爭鬪、ぶちわひ
たたかひをいどむ　挑戰、いくさをしかける、搦戰
ただよはす(他)　令漂、ながれあるかしむ

ただよふ(自)　漂蕩、洋洋、漂泊、漂蕩、流離、なかれあるく
ただれる(自)　爛、やけこはれる(肉が)。くさりこはれる
ただれめ(名)　瞎眼に水いでて痛む病)
だだつこ(俗)(名)　驕兒、わがままのこ
ただなか(名)　正中、まんなか(真中)、當中
たたら(名)　蹈鞴、ふいごのたぐひ(鍛冶が火をおこす具)
たたら　多多羅(氏)
たたらぼし(名)　斐宿(二十八宿の一。斐を見よ)
たたむ(他)　疊(紙を)。襲、褶(衣を)、摺(扇などを)
ただむき(名)　贅、ひだ、腕、うで、かひな
ただうど(名)　平常人、凡庸人、凡俗、凡人、ただびと、なみのひと
たたうがみ(名)　疊紙帖紙、たたみがみ(物を包む)
たたく(他)　叩、敲、敂、拍、擲、柝、殴、敲叩、敂拍、推敲、打鎚、ぶつ、うつ
ただま(名)　手玉、てだま(手遊びの名)
だだける(自)　諛諂、すねる(小兒などが)
ただごと　日常事、平常事、なみのこと
たたき(名)　叩土、三和土、泉水等に塗る土)
たたき(名)　細末肉(鷽鳥の)。魚醤(魚の)、つぶしにく
たたきばらひ(名)　敂拂、箸放、むちうちてゆるすこと(罪人を)
たたきがね(名)　鉦、かね(寺院内等の)
たたきだす(他)　擲出、うちだす
たたきやた(名)　但他揭多(如來の梵語)
たたきまげる(他)　敲彎、擲彎、うちまげる
たたきころす(他)　殴殺、打殺、うちころす
たたきて(名)　箸手(畢人の)。擊者、うつもの
たたきひらめる(他)　敲匾、擊平、うちてひらたくする
たたみ(名)　疊、たたむこと。又席薦、暖席床に敷く、むしろ
たたみいと　疊絲、席薦糸、たたまるべきこしかけ)、交椅
たたみいす(名)　摺倚子、たたみぬふいと
たたみばり(名)　疊針、席薦針、たたみぬふはり
たたみはしご(名)　摺梯子、たたまるべきはしご)
たたみれもの(名)　疊表、席薦表、しきものがは
たたみかけて(副)　疊掛、いくたびもかさねて
たたみや(名)　疊屋、席薦職、たたみをこしらふるもの
たたみやうき(名)　摺揚貫、摺揚、たたみいす
たたみこむ(他)　摺收、たたみいれる
たたみわふぎ(名)　摺扇、たためるわふぎ
たたみさし(名)　疊刺、たたみや、席薦職
たたみさし(名)　摺尺、たためるものさし
たたみざん(名)　疊算、席薦卜(數物の上に箸等を仆して占ふ法)
たたみものさし(名)　摺尺、たたみさし
ただし(副)　但、しかしなから、されども
ただしき(形)　正、公直、公正、至直、正直、まつすぐなる、なほたたえる(自他)　澹、たまりみつる(水が)。みたす(水を)。漾、潴
ただびと(名)　凡庸人、凡人、よのつねびと。平常人、なみのひと
たたひとり　唯獨、唯一人、ひとりのみ
ただす(他)　糺、審糺、糾問、糾明、審問(以上しらべる)、規、訂

正、督董、ただしくする

ただずむ(自)　彳、佇立、たちとどまる

ただずまひ(名)　唯住居、何もせずに居る事)

ただずまひ(名)　佇立、栖遅、ただずむこと

たたん(形)　多端、ことには多事

たれ(代名詞)　誰、孰、嚊、なにびと

たれどき(名)　誰時、たそがれどき、くれわひ

たれぬの(名)　帳、幃、幔、幄、とばり、まく

たれる(自)　滴、したたる

たれる(他自)　垂、さげる、くだす、さがる、つるさる

たれかす(名)　垂糟、和滓、こしかす

だれつ(形)　懦劣、よわよわしき、いくぢのない

たれこめる(他)　垂籠、たれめぐらす(幔幕等を)

たれこめてをる　垂籠居、いへにとぢこもりをる(上を見よ)

たれみそ(名)　溜醤、したじ(醤油の類)

たれみみ　垂耳、耽、たれさがれるみみ

たれす(名)　垂簾、すだれ

たそがれ(名)　黄昏、誰彼時、たそがれどき、ひくれ、ゆふがた

たそがれどき　垂暁、薄暮、黄昏、誰彼時、ひぐれ、ゆふまぐれ(「たそかれとき」と讀むを正しとす)

たそく〔俗〕(名)　多足、たし(不足を補ふ者)

たつ(名)　龍(りう)(動物)

たつ(他)　絶、たやす、裁、きる(衣を)、斷、斷絶、きる、やむる

たつ(名)　辰(十二支の第五)

たつ(自)　立、たちてある、起、たちわがる

たづ(名)　田鶴、丹頂、鶴、鶴、つる

だついで〔する〕　打鎚、たたく、うつ

だつい　脱衣(衣をぬぐ)

だついば(名)　脊衣婆(三途川の「しやうづかのばば」をいふ)

だつろ(名)　脱路、ぬけみち

だつろう(名)。—する(自)　脱漏、もれ、たち。もれる、たちる

たつばい(名)　答拝、馳走、よきあしらひ

だつばうし(名)　鞨帽子(帽子の一種)

だつばん　脱藩、大名の藩中より脱走する)

たつべ(名)　竹瓮(漁具)

たつべん(形)　達辯、くちだつしや、能辯

たつとく(名)　達徳、徳行の至れるを謂ふ)

たつとき(形)　貴、尊、くらゐたかき。又うやまふべき。れもんずべき。たからなる

たつときいやしき　尊卑、たかきひくき、貴賤

たつちう(名)　塔頭(禪家の役僧の名)

だつり〔する〕(自)　脱離、ぬけはなれる

だつりやく〔する〕(他)　奪畧、奪掠、うばひとる、かすむる

たつをけばな(名)　碎米薺(植物)

だつかふ　脱甲、よろひかぶとをぬぐ

たつかゆみ(名)　手束弓(弓の一種)

たつがしら(名)　龍首、龍頭、りうのかはのかたち

だつかん　脱監、らうやぶり、破牢、破獄

だつかん　脱簡、ぬけたるかみ(書物の)

だつたいくわんこつ　脱胎換骨、つくりかへること(人の詩文等の意を剽みて言語を變へて己れの作とする

たつだう　達道、大道(一般に貴び守るべき道)

だつたう　脱刀(腰より刀を取り去る事)、まるごし

だつたん　韃靼(支那の北方の地)

だつたんな(名)　薹藁、をち、油菜、胡菜(植物)

だつそ(名)　脱疽(肉の腐る病)

だつそう〔する〕　脱走、ぬけはしる、逃亡、亡命

だつぞく(形)　脱俗(世俗の臭味を脱したる)

たつつまひ(名)　立舞、傀儡、あづまをどり(立て舞ふ一流)

たつね(名)　命根(木の重なる大根)、直下根

たづねいだす(他)　尋出、さがしだす、捜出

たづねる(他自)　尋、訊、問、温、原、繹、討、しらべさがす。尋問、訊問、とひただす。諮問、諮詢、とひはかる。訪問、訪、みまふ、とふ

たづねきはめる(他)　尋究、研究、根刷

たづな(名)　手綱、轡、靭、韁、馭馬を御する綱)

たつなみ(名)　直漪、直波(眞直の波文)

たつなみがひ(名)　立波貝(動物)

だつらく〔する〕(自)　脱落、ぬけおちる

たつのくちご(名)　海馬(海獣の名にして其形馬に似たり)

たつのした(名)　龍舌草(植物)

たつのひげ(名)　龍鬚、りうがひげ、うしのひたひ、石龍芻、繖雲草(植物)

たつくり(名)　農夫、ひやくしやう、耕夫

たつくる(自)　農作、耕作、ひやくしやうする、たがへす

（立波貝の圖）

たつくわん(名)　達官(重き官職)、顯官

たつくわん(名)　達観(事物の理に通達したる觀念)

たつまき(名)　龍巻、旋水、龍騰水(河海の水が旋風等にて空に巻き揚がるを云ふ)

たつけ　田付(氏)

たつぶ(名)　田螺、たにし(動物)

たつぷり〔俗〕〔副〕　湛然、いつぱい(水等が)、十分

だつぷん　脱糞(大便するを謂ふ)

だつぶん(名)　脱文(脱落したる文字)

だつご(名)　脱誤、ぬけたちがひ(文章等の)

だつこう(名)　脱肛(肛門の脱出する病を云ふ)

だつざい(名)　脱罪、つみをのがれる

たづさはる(自)　關、かかはる

たづさへる(他)　携(手に提げる)、携帯、提携、もつ。ひきつれる

たづき(名)　鐍、ひろばをの(廣刃斧)

たづき(名)　手着、方便、てだて、てがかり

だつきよ〔する〕(自)　脱去、ぬけでる

だつきう(名)　脱臼、はねちがひ

だつきやふこ(名)　脱御破袴、としよりこひ、かんこどり(動物)

たつみ　辰巳、巽(南東隅を云ふ)

だつし　脱屣、わらぐつをぬぐ(容易の事に喩ふ)

だつじ(名)　脱字、ぬけじ、落字

たつしがき〔俗〕(名)　達書(政府より出るふれがき)

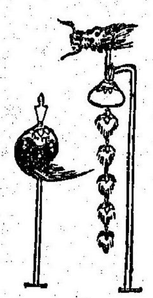
たつしや(名)　達者(物事に達したる人を云ふ。又俗に健剛の義に用ふ)

だつしや[する]　脱酒、さつぱりする、ぬけいづる
だつしゆ[する](他)　奪取、ばひとる、うばひとる
だつしゆつ[する](自)　脱出、ぬけいづる
たつじん(名)　達人(事物に通達したる人)名人、達者
だつしん　脱身、みをぬきてにげのびる、からうじてのがるる
たつぴつ(名)　達筆(能く筆のはたらく事)能筆
たつもの(名)　直幅、かけもの、ながきかけもの
だつせい　脱世、よをのがれる、遁世
だつせき　脱籍(人別帳より除き去る)
だつぜん(副)　脱然(ぬけいづる貌)
たつする(自他)　達、とどく、いたる。くはしくなる。とぐる
だつする(自他)　脱、ぬける。ずてる
たね(名)　種、種子(植物の)
たね(名)　胤、こども、わとつぐもの
たねほん(名)　種本(作者等の材料とする本)
たねとり(名)　探訪者(新聞紙の材料を拾ひあつめる人)
たねどり(名)　種鳥(子を殖す爲にかふ鳥)
たねちがひ(名形)　胤違、胤替、異父子、皮たねがはり
たねわり(名)　核針(胡桃等の如き堅き者を砕く器)
たねわた(名)　實綿、わたのみ
たねがみ(名)　蠶卵紙(かひこの子を生みつけたる紙)
たねがしま　種島(多禰島大隅國熊毛郡に在る嶋。また鐵砲、此嶋に始めて傳はれるが故に言ふ)
たねだ　種田(氏)
たねつけばな(名)　砕米醬(植物)
たねむら　種村(氏)

たねまき(名)　播種、たねまくこと(穀物等の)
たねあぶら(名)　菜油、子油(菜種より取れる油)
たねもの(名)　種物、たなつもの(米穀の類をいふ)、又たねとするもの
たねすみ(名)　田鼠(鼬鼠(動物)
たねん　多年、ねほくのとし
たねん　他年、ほかのとし、おるとし
たねん　他念、ほかのれもひ、餘念
たな(名)　店、みせ(物を賣る)。皮、とだな(食物器具等を藏むる)。棚、架(物をのする)
たなゐ(名)　田井(播くべき稻種を浸す池)
たないけ(名)　田池(「たなゐ」に同じ)
たなばた(名)　織女、たなばたつめ、たりひめ。また七夕、星夕、たなばたまつり(舊暦七月七日をいふ)
たなちん(名)　店賃、家稅、舖賃、やちん
たなぬし(名)　店主、肆主、みせぬし
たなれろし(名)　店卸(舖の貨物を悉くしらぶる事)
たなをしまふ　閉店、閉肆、鎖塵、閉舖、みせをとぢる
たなか　田中(氏)
たながへ(名)　店替、みせがへ
たながり(名)　店借、僦居、稅宅、僑居、僑寓、いへかり
たなかた(名)　店戸(商家を謂ふ)
たなだて(名)　店立(借家人を退かしむる事)
たなれ(形)　手馴、てになれたる、ならしたる(騰駒琴などに云ふ)
たなつもの(名)　穀物、小田種子米穀の類をいふ
たならし(名)　田盤(田をならす事)

たなぐも(名)　棚雲、たなびくくも
たなぐも(名)　土蜘蛛(動物)
たなまた(名)　手股、てのまた
たなご(名)　店子、たながり、借家人
たなごころ(名)　鰧魚、鱸鰶(動物)
たなごころ(名)　掌、てのひら、たなそこ。鰧(獸の足の掌)
たなごころをかへす　反掌、翻手、てをひるがへす(容易すき事を云ふ)
たなごころをさす　指掌(容易すくまた明かなる等の譬に用ふ)
たなごひ(名)　手拭、手巾てぬぐひ
たなさき(名)　掌前、てのさき。又たかのひだりのはね
たなみぼし(名)　辰宿星の名)
たなしし(名)　膜(肉間の薄皮)、うすかは
たなひぢ(名)　手肱、てのひぢ
たなびく(自)　棚引、薄靡、霏微、靉靆、靄(雲烟等が横に長くひきてわたるを謂ふ)
たなもの[俗]名)　店者(商家の奉公人)
たなすゑ(名)　手末、てのさき、ゆび
たなすゑのみつぎ(名)　手末の調(古へ人々が我が手にて作れる物を朝廷に納めたるを謂ふ婦女の如きは手作りの布を貢したりと云ふ)
たら(名)　多羅、槌木(植物)
たら(名)　鱈、雪魚、黃魚、大口魚、黃菜魚(動物)
だら(名)　陀螺、ぶしやうごま(玩具)
たらはぬ(形)　欠乏(物の)。不敏(心の)、たらぬ
だらに(名)　陀羅尼(梵語なり此には譯して神呪、總持、眞言等と云ふ)
だらにすけ(名)　陀羅尼介(賣藥の名)
たらちを(名)　生親男(父をいふ)。乳乳男
たらちね(名)　乳乳根、はは(慈母の義)
たらちめ(名)　生親女(母をいふ)。乳乳女
だらり[俗](副)　墮落離(物のたれさがる貌)
たらを　多羅尾(氏)
たらかす(他)　詭、だぶらかす、欺騙、あざむく
だらだら(副)　慢慢、そろそろ(遲緩なる貌)。又たくたく(水の滴る貌)
だらだられり(名)　平坂、ゆるさか、ひらさか
たらう　太郎(長男の義にして多く嫡子の名に用ふ)
たらうづき(名)　太郎月(正月を謂ふ)
たらのき(名)　槭木、桜(植物)
だらく[する](自)　墮落、れつる、れちくだる(悪き方にまたは地獄等に)
だらくもの(名)　墮落者、よこしまもの、みちにそむくもの、ならずもの
だらける[俗](自)　倦乏、弛遲、よわりなまける
たらふく[俗](副)　滿腹、はらいつぱい
たらし(名)　滴、たれ、したたり
たらし(名)　侯白(男の盜賊。侯黑(女の盜賊)
たらしこむ(他)　滴込、したたらしいるる
たらじゆ(名)　多羅樹(一名俱多。天竺に產する樹)(植物)
たらえふ(名)　婆羅樹(植物)
たらえふ(名)　多羅葉(多羅樹の葉)
たらひ(名)　盥盤、浴盆、洗盤、ものあらふうつは。又てあら

ひをけ
たらびら(名)　似喜魚(動物)
たらす(他)　賺、だます、すかす、欺、あざむく
たらす(他)　滴、したたらす(水を)
たらずまへ(名)　不足前、缺、闕、たらぬところ
たむろ(名)　屯、營、あつまりどころ、屯舍、屯集、屯在、あつまりをること(多く兵士に用ふ)
たむかひ(名)　手對、てむかひ
たむなで(名)　空手、からて、むなしで
たむら　田村(氏)
たむらさう(名)　鼠尾草、たまばうき(植物)
たむけ(名)　獻納、ささげ、納物、祭物、幣物、ささげもの(神佛への)
たむさけ(名)　酣宴、おまささけ
たむし(名)　癬瘡、風癬、頑癬(皮膚病)
たう(形)　當、あたりまへ、適當、また(此或は本の義に用ふ　即ち此月を當月といひ此人を當人といふがごとし)
たう(名)　蘸、れにがしら、毛羽幢(聳牛の尾或は毛羽等を以て之を作る支那にて天子の行幸又は大軍の征伐の時大將の前等に建たり、其頂に怖ろしき物の形を施すが故に我國よりては此類を「たにがしら」と呼ぶ此字又「とく」とよむ)


（蘸の圖）

たう(名)　薹子、くくたち、はなぐき(蕪菜等の花莖)
だう(名)　艢羽、れもひば(鳥の)
だう(名)　堂院、寺覩、又れはいなるたてもの
たうい(名)　唐衣、からぎぬ、からごろも
たうい[する](他)　討夷、うちたひらぐる
たういと(名)　唐絲(舶來の木綿糸をいふ)
たういそくめう　當意即妙、さそくのはやぢゑ
たういつ(名)　蕩逸、放逸、おそびぐらし
だういう[する](他)　導誘、みちびきいざなふ
たういん[する](自)　逃隱、にげかくれる
たういん(名)　唐音(支那の字音)
だういん[する](自)　導引、みちびく。また(名)[俗]揉療治人
たうろ(名)　當廬、さかや、ねざかや
だうろ(名)　當路、みちにあたる(政府の要路に立つ)當局
だうろ(名)　道路、みちすぢ、みち、徃來
たうろん(名)。—する(他)　討論、議論。論じ合ふ
たうは(名)　塘陂、つつみ(水溜池等の)
たうば[する](他)　謝罵、わざけりののしる
たうば(名)　湯婆、たんぱ、ゆたんぽ
たうばつ[する](他)　討伐、せめうつ(叛逆者等を)
たうばな(名)　鳳輸菜(植物)
たうはう　當方、こちら(此の方)、こなた
たうば(名)　刀鉾、きつさき、はさき(刀劍の)刀端
たうばう[する](自)　逃亡、にげうせる、かけちする、脫走
たうばう(名)　套房、きものべや、納戸(なんど)
たうばきやう(名)　唐婆鏡、ひまはり(植物)
たうはせ(名)　烏臼木、なんきんはせ(植物)
たうはん(名)　刀瘢、かたなきず、たちきず
たうはん(名)　跳板、わたりいた(船より岸に架し渡す)

たうばん(名)　當番、ばんび、當直、宿直、つとめび
たうばん(名)　湯盤、ぎやうずゐだらひ、ゆあみをけ
だうばん(名)　堂番、だうもり(堂守)
だうばん(名)　道伴、みちづれ
たうにん(名)　當人、そのひと、本人
たうにん(名)　桃仁、ももの核(桃の核にて藥品に用ふ)
だうにん(名)　道人(高尚なる道學に志せる人の稱)
たうぼう(名)　兜鍪、かぶと
たうぼく(名)　唐墨(支那製の墨)
たうぼけ(名)　唐木瓜、榠樝、からぼけ(植物)
たうべに　唐紅(紅に染る舶來染料)
たうべる(他)　賜、たまはる、あたへる
だうへん　道邊、みちべ、みちばた
たうと(名)　兜肚、むあて
たうど(名)　陶土(陶器を造る土)、やきものつち
たうど(名)　唐土、支那國、もろこし
たうど(名)　唐土(たうのつち)ばつちり(れしろいの名)
たうとつ(形動)　傖突、搪突、あらやくなき、とつせんにいづる、無遠慮、しつれい。ですぎる
たうとう(副)　到頭、つまり、つひに
たうどう[する](自)　蕩動、ゆりうごく
だうとう(名)　標頭、さいづち
だうどうし(名)　堂童子(法會の時に花籠を取る童子を云ふ)、ちご
だうとく(名)　道德、道義(人の行ふ可き道を謂ふ)
だうとくがく(名)　道德學、人倫學、修身學(人の人たる道を講ずる學)
たうとん[する](自)　逃遁、のがるる、かけちする、出奔
たうち(名)　嶋地、しまぐに
たうち[する](他)　倒置、さかさまにわくぎやくにわく
たうち　當地、このち(此地)當所
たうぢ(名)　湯治、温泉療治(温泉に浴して病を治る事)
たうぢば(名)　湯治場、ゆば、温泉場
たうちよく(名)　當直、たうばん、とまりばん、とのゐ
たうちよく(形)　當直、まつすぐ、なほき、へつらひなき
たうちう(名)　湯注、ゆつぎ、湯注子
たうちう(名)　條虫、さなだむし(動物)
だうぢう(名)　當住(寺院現在の住職)、現住和尚
だうちう　道中、みちなか。又(俗)たびあるき、旅行
だうちうき(名)　道中記、行册(旅行の記錄、また旅路案内記)
たうちくらん(名)　桃竹蘭、萬壽竹(植物)
たうちや(名)　皐蘆、瓜蘆、苦苣(植物)
だうぢやう(名)　道場(道を講ずる場また磬古場)
たうちやく(名)。—する(自)　到着、つき、來着、到達、いたるきたりつく
たうちさ(名)　唐苣、白苣、萵苣菜、ちさのたぐひ(植物)
たうり(名)　桃李、すもも(植物)
だうり(名)　道理、ことわり、みち、すぢ
たうりう　當流(此の流義、本流
たうりうとう(名)　桃柳藤、うばがつづら(植物)
たうりふ(名)　糖粒、金米糖(こんぺいたう)
たうりてん(名)　忉利天(佛書にて須彌山の上に在りといふ天界)

たうりじゆ(名)　棠梨樹、かたなし(植物)
たうりんご(名)　苹婆(植物)
たうるゐ(名)　黨類、くみ、なかま、同類
たうれはばこ(名)　車前草(植物)
たうをう(名)　陶泓(墨の異名にて文房四友の一)
だうわ(名)　道話、みちのはなし(心學の如き)
たうわく(名)。—する(自)　當惑、まどひ。まよふ
たうわん(名)　湯椀、ゆのみ[茶椀]
たうか(名)　蹈歌、あらればしり(昔正月十四五六日內裏にて行なはせられし舞樂をいふ)
たうか(副)　當下、當時、そのとき。目下、いま
たうが(名)　桃牙、こはぜ
だうか(名)　道家(老子の道を信奉する學士をいふ)
だうか(名)　道歌(道學の歌)。さとりのうた
たうかい(名)　唐卉、たうがらし、蕃椒(植物)
たうがい(形)　當該、その、かかりの(官吏等に謂ふ)
たうがへで(名)　雅楓(植物)
たうがらし(名)　唐卉、白卉、蕃椒、辣茄、秦椒、蜀卉、蕃辛、胡卉、大蕃椒、豆蕃椒、天上守、辣椒殼、なんばん(植物)
たうかむり(名)　虎頭螺(動物)
たうかう[する]　禱祈、いのる、いのりする、ねがふ
たうかう[する](他)　綢交、よりあはする(繩等を)、なふ
たうかう(名)　塘篙、れらんだせり(植物)
だうがう(名)　道號、のりのな(僧徒の名等を云ふ)
だうかうだな(名)　道幸棚(茶室に言ふ所)
だうがく(名)　道學、道家の學。また心學
たうかふ(名)　奮甲、ことづめ(琴爪)

たうぞく(名)　盜賊、ぬすびと、どろばう
だうぞく　道俗(僧徒と俗人)、緇素
だうそじん(名)　道祖神(岐路神)。ちまたのかみ
たうそん(名)　稻孫、ひつじいね(植物)
たうづ(名)　刀豆、なたまめ(植物)
たうつは(名)　棗吾、つはぶき(植物)
たうづくゑ(名)　唐机、唐風の机
たうねう(名)　糖尿、あまきいばり、消渇病(せうかつびやう)
たうねふし(名)　倒捻子、こきのこ(植物)
たうねん　當年、このとし。又そのかみ
たうな(名)　菘菜、からな(植物)
たうなす(名)　南瓜、かぼちや、ぼうぶら(植物)
たうなん　盜難、ぬすびとのわざはひ
たうらい(名)　當來、未來、後來、將來、このののち
たうらう[する](自)　到來、いたりきたる、到着
たうらう(名)　蟷螂、いぼむしり、いぼじりむし、かまきり、螳螂(動物)
だうらく(形)　道樂、放蕩、のらくら
だうらくむすこ　敗家子、放蕩子、遊蕩子
たうう　禱雨、あまごひ、あめといのること
たううちさう(名)　地楡、われもかう(植物)
たうのいも(名)　紫芋、半蹉芋渠、いもがしら(植物)
たうのとり(名)　鳩獨豹(雁に似たる水鳥)、れほかり(動物)
たうのつち(名)　唐土粉錫鉛華、解錫、じねんれしろいばつちり
だうぐ[俗](名)　道具、うつはもの、器具
たうぐは(名)　鑽錯所、鳥鑽、くはのたぐひ(農具)
たうくるみ(名)　胡桃(植物)
たうくわ[する](他)　陶化、をしへならす(善き風俗に)
たうぐわ　唐書(支那風の書)
たうくわい[する](他)　蹈潰、ふみつぶす。ふみちらす
たうくわてう(名)　桃花鳥、とき、つき(動物)
たうくわさい(名)　桃花菜、とき(植物)
たうくわせつ(名)　桃花節(三月三日の節句をいふ)
たうくわん(名)　湯罐、やくわん
たうくわんちう(名)　刀環蟲、げじげじ(動物)
だうくわんさう(名)　道灌草、王不留行(植物)
たうくわんしん(名)　套管針(外科用具にして身體の內より水を取る者)
だうぐだて[俗](名)　道具立、うつはぞろへ(芝居等の)
たうくねんぼ(名)　香蘗(植物)
たうくらげ(名)　海蜇(動物)
だうぐや[俗](名)　道具屋、ふるものや、骨董家
たうぐし(名)　箆櫛、疏篦、密篦子、こまかくくし、すきぐし
たうやう[する](自)　蕩漾(水の溢れ流るる貌)
たうやく(名)　胡黃連、せんぶり(植物)
たうま(名)　蹈磨、ふみうす
だうま(名)　馱馬、につけうま、にうま(荷馬)
たうまい[する](他)　塘埋、うづむる
たうまちくね　稻麻竹葦數の莫大なるに譬ふ)
たうまる(名)　鷸鷄(動物)
たうまう(名)　塘網、さで、ひきあみ(漁具)
たうまうば(名)　桃毛馬、さびつきげうま(動物)

走出奔逐竄

たうけ　當家、このや、このいへ
たうげ(名)　峠、到下(坂路の最も高き者)、やまさか
だうけ(名形)　道戲、滑稽、たどけ、しやれ
たうけい　倒景、いりひのかげ
たうけい　稻畦、いねばたけ
たうけい(名)　刀圭、醫者の器具。醫術
たうけいか(名)　刀圭家、醫者を謂ふ)
たうげつ　當月、このつき、今月、本月
だうけう(名)　道敎(老子の敎に牽強附會せる道家の敎をいふ)
たうけさう(名)　倒掛草、いぬわらび(植物)
たうげき[する](自)　滔激、みなぎりのぼる
だうけしばゐ(名)　滑稽戲、たどけしばゐ
だうけゐ(名)　戲嵬、しやれゐ、ざれゐ。とばゐ
たうけん(名)　刀劍、たち、かたな
たうけん(名)　唐犬、からいぬ(動物)
たうけん(名)　倒懸、さかしまにかかること、さかさつるし
たうげん(名)　讜言、まつすぐなることば、へつらはぬことば、直言
たうげん(名)　套言、ありきたりことば、陳言、ふるめかしきはなし
たうふ(名)　桃蕪、計里、けり(動物)
たうふ(名)　刀布(漢錢の名)。貨幣
たうふ[する](自)　倒仆、たふれる
たうぶ(名)　蹈舞、をどり、まひ(西洋風の)
たうぶつ(名)　唐物、舶貨、たうもの、わたりもの、舶來品、洋貨

唐胡麻の圖

たうわつ[する](他)　蹈壓、ふみつける
たうわづき(名)　相思子、こひまめ、紅豆(植物)
たうわう(名)　唐鶯、からうぐひす(動物)
たうわうてう(名)　桃櫻鳥、しまひよどり(動物)
たうわみ(名)　唐網、撒網、投網、うちわみ
たうゐ[俗](副名)　當座、目下、時下、當分、さしわたり
だうさ(名)　磐沙(紙等の上にひく物)
たうさい　當歲(生れて一年を終らざるをいふ即一歲の義)
たうさい(名)　湯菜、しる、あつもの
たうさいご　當歲兒(一歲の兒)
たうさう(名)　湯槽、ゆぶね(浴室の)
たうざう(名)　盜賊、ぬすみもの
たうさうかう(名)　桃草香、みつみどり(植物)
たうさく　綯索、なはをなふ
たうさく[する](自)　倒錯、いりまじる
たうさく[する](他)　討索、しらべたづぬる
たうさん(名)　倒產(財產と傾むける事)、破產、身代限
たうさん(名)　倒產、さかご、さかさまうまれ(子が逆に生るる事)
たうさん[する](自)　逃散、にげちる
たうざん(名)　唐棧(織物の名)、さんとめ
たうざん　當斬首を斬る罪に當る)
たうざん(名)　唐山、もろこし、唐土
たうさん(名)　當歸、やませり(植物)
たうき(名)　謾戲、おどけ
たうき(名)　讜旗、おにがしらのはた(讜の下を見よ圖あり)
たうき(名)　陶器、やきもの、せともの、瓦器、磁器
たうぎ(名)　讜議、ただしきいさめことば、直言
たうぎ[する](他)　討議、わげつらひただす、議論、討論
だうぎ(名)　道義、道德(人間の大道)
たうぎばうし(名)　玉簪(植物)
たうぎり(名)　唐桐、桐頽、おかめぎり(植物)
だうぎがく(名)　道義學、道德學、修身學
たうきよ(名)　刀鋸、のこぎり
たうきよ[する](自)　逃去、にげさる
[たうきよ](名)　唐苣、たうちさ(植物)
たうきよく　當局、きよくにわたる、當路(其筋の官途に在りて事務に當ると謂ふ)
たうきよくしや(名)　當局者(其筋の官途に在る者)、當路者
たうきう[する](他)　討究、たづねきはむる
たうぎやく(名)　謔謔、ねどけ、あざけり、嘲弄
たうきふ(形)　閙急、せわしき、いそがはしき
たうきび(名)　蜀黍、蘆粟、木稭、木穭、荻粱、もろこし(植物)
たうきん[する](他)　蹈均、ふみならす
たうきん(名)　唐錦、からにしき
たうぎん(名)　當今(現今の天子を云ふ)
たうきんだやう(名)　桃金孃、てんにんくわ(植物)
だうゆ[する](他)　導諭、みちびきさとす
たうめ(名)　專女、媼(老女の稱)。また老狐、ふるぎつね
たうめい(自)　蹈迷、ふみまよふ(道に)
たうめい　唐名、からなしなのな

たうめいけい(名)　盜鳴鷄、ゆふなきどり(宵に鳴く雞)
たうめん(名)　盜眄、しのびめ、ぬすみみること、よこめ
たうめんに(副)　當面、あひむかひて、まのあたり
たうみ(名)　唐箕、風扇車(穀物の粃糠等を簸る器)
たうみつ(名)　糖蜜、さたうみつ
たうし　絢絲、よりいと
たうし(名)　唐紙、毛邊紙、もろこしがみ
たうし(名)　唐子、まよひご、まひご
たうし(名)　唐詩、からうた(重に唐代の詩を謂ふ)
たうし(名)　倒死、たふれじに、のたれじに
たうし[する](他)　瞠視、めをみはりてみる
たうじ　當寺、このてら、本寺
たうじ(名副)　當時、そのかみ、當年。いま現時
だうし(名)　導師(法會等を主る僧をいふ)
だうし(名)　道士(道學を修むる者)
たうしよ(副)　當初、そのかみ、はじめ
だうしよ(名)　道書(道家の書)
たうしよく　當職、このつとめ(又官吏が自ら呼ぶ語)
[たうしつ](名)　湯室、ゆや(身體を洗ふ家)。ふろば
たうじつ(副名)　當日、そのひ、即日
たうじう(他)　蹈躪、ふみにじる、ふみつける、
たうしや(名)　陶車、すゑものろくろ、せともののつくるろくろ
だうしや(名)　道者、道士(巡禮人の類を俗にしか曰ふ)
たうしやう　藩翰、かいをねす(舟をこぎだす)
だうじやうにん(名)　堂上人、くものうへびと、公卿(公家を云ふ、くげ、雲上人)

だうじやうしう　堂上衆、くものうへびとたち
たうしふ[する](他)　蹈襲、まねる、あとをまねる(他人の)
たうじさう(名)　當時草、たちまちぐさ(植物)
たうしゆ[する](他)　盜取、ぬすみとる
たうしゆ　當主、いまのあるじ
だうしゆ(名)　堂衆(僧侶を云ふ)
たうしん　蕩心、こころをとらかす
たうしん[する](他)　淘振、ゆさぶる、ふるふ
たうじん(名)　唐人、からびと、漢人、支那人
たうじん[する](他)　蕩盡、つかひつくす(家産等を)
だうじん(名)　道心(道義の心。また菩提心)。また[俗]僧、坊主
だうじん(名)　道人(道學に志す人)
たうじんまめ(名)　落花生、なんきんまめ(植物)
だうしんじや(名)　道心者、よすてびと、沙門
たうえふゑいぼう(名)　桃葉衛矛、まゆみ(植物)
たうゑん(名)　塘園、いけす
たうひ[する](自)　倒廢、たふる
たうひ(名)　湯皮、ゆば
たうひ　當否、あたりはづれ、よしあし
たうひ[する](自)　逃避、のがれさくる
たうひつ　唐筆、からふで
たうひつのり　刀筆之吏、かきものやくにん書記、筆生
たうびん(名)　湯瓶、ゆがま、ゆわかし
たうもろこし(名)　玉蜀黍、たまきび(植物)
だうもり(名)　堂守(堂の留主居人)
たうもくいふ　湯沐邑(身を洗ひ髮を結ふ等の費用に充つる土地)

たうもめん(名)　唐木綿、澗機布、かなきん
たうせい　當世、いまのよ、今世
たうせつ(名)　盜竊、ぬすむこと、ぬすみ、偷盜
たうせつ　當節、このせつ、當時、當今
たうせつ(名)　蹈雪、よつじろ(馬に云ふ)
たうせん　唐船、もろこしぶね、からふね
たうせん　當籤、くじにあたる
たうせん　當選、えらみにあたる、えらまるる
たうせん　當千(千人に當る)
たうせん(形)　當然、まさにしかるべき、あたりまへ
たうせん(形副)　陶然、たのしき、よろこばしき。たのしく
たうせんだん(名)　唐栴檀、川楝、くろせんだん(植物)
だうえん(名)　朶雲(他人の書翰をいふ)
たのむ(自)　依頼、恃憑頼、憑恃、よりたのむ。委托、倚託、囑託、たくする
たのう(形)　多能(藝能の多き)、多藝
たのうね　畦、畝(田圃の苗等を植ゑる高き處)
たのくさ(名)　田草、畷田の中の雜草、萎、はぐさ
たのごひ(名)　手拭、手巾、てぬぐひ
たのき(名)　田際、たのきは、たのはた、たのそば
たのみ　田實(氏)
たのみの(名)　萎、たのくさ、はぐさ
たのしむ(自)　樂娛、逸豫、歡娛、歡樂、歡喜、雅興、逸遊、よろこぶ
たのしも(名)　田宇草、うきくさのたぐひ(「うきくさ」をみよ(植物)

たのひげ(名)　龍常草、くさのを(植物)
たのもし(名)　憑子錢、むじん、頼母子講、無盡錢
たのもしげなき(形)　無頼、不可倚頼、たのみにならぬ
たのもしき(形)　頼母敷、可属望、たのみになるべき
たく(他)　燒、焚、炷灼、焇、もやす(火を)、又炊、かしく
たく(名)　卓、つくゑ、机
たく(名)　栲(昔布繩等を製造したる木(植物)
たく[する](他)　謫、左遷(官吏を遠地に貶し退くるをいふ)、しまながしにする
たく(名)　鐸、れはす丈(金鐸木鐸の二種あり金鐸は軍中に用ひ木鐸は文教に用ふ)

（圖の鐸）

たく[する](自)　託、たのむ、依托、囑
たく(名)　宅、いへ
だく(他)　抱、懷抱、だきかかへる、いだく
だく[する](自)　諾(承知するをいふ)、うけがふ
だく(形)　懦愚、ねろか、いくぢのない
たくね(名)　卓圍、うちしき
たくいん(名)　栃青、へうしぎのれと
たくはへる(他)　貯蓄、ためる、貯藏、貯蓄藏蓄、蓄積、かこひれく
たくはつ(名)　托鉢(僧侶が民家に施物をもらひあるく事)
たくばつ[する](他)　擇拔、よりぬく、ぬきだす
たくばつ[する]　謫罰、ねとしつみする(官吏を)、しまながしにする
たくはん　澤畔、さはのほとり、さはべ
たくばん(名)　托盤、たかつき、さんばう(盆の類)

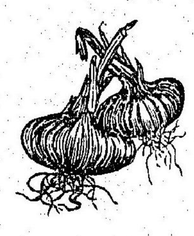
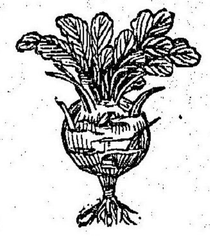
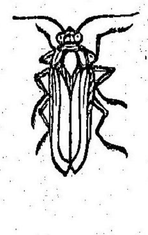
たくぼく(名)　啄木(白黒青緑を交へて組みたる紐を云ふ)
だくぼく(名)　凸凹、たかびく、高低
たくぼくてう(名)　啄木鳥、きつつき、てらつつき(動物)
たくち　拓地(土地を開拓するをいふ)
たくち(名)　宅地、やどころ、やしき
たぐち　田口(氏)
たくちう(名)　礎柱、はりつけばしら
たぐりだす(他)　手操出、捲出(手にて操て出す)
たぐりつ[する](自)　卓立、すぐるる
たぐりこむ(他)　手繰込、捲込(手許へくりよする)
たくりん(名)　斷輪、たが
たぐる(他)　拷(縄を)手操、把繰手繰、把繰寒、くりよする
だくれん　濁音、にごりごゑ(字音の)
たくわ　多寡、おほきすくなき、多少
たくわい[する](他)　打壞、うちこはす
だくわん[する](他)　兌換、かへる(金銀と紙幣等を)
だくわんぎんけん　兌換銀券(正貨に換へらるる紙幣)
たくがい[する](他)　濯漑、そそぎあらふ
たくだ(名)　橐駝、駱駝、らくだ(動物)、又にはつくり
たくたく(形副)　濯濯(樂み遊ぶ貌)
たくたく(形副)　橐橐(靴音などを謂ふ)
たくだし(名)　橐駝師、うまかや、にはつくり
たくれる(自)　綯しわよる
たくれう(名)　澤蘭、いぬたで(植物)
たくなむ(他)　計畫、計策、たくむ、かんがへはかる
たくら　田倉(氏)
たくらべる(他)　較比、校方、比較、比準、比照、對照、比例、くらべわはせる
たくらむ(他)　計畫、たくむ、たくなむ
だくらう(名)　濁醪、もろみざけ、にごりざけ
たくらく(形)　拓落、おちぶれる、落魄
たくらく(形)　卓落卓犖、ぬきんでたる、すぐれたる(不群の貌)
たくらん(名)　澤蘭、さはあららぎ(植物)
たくむ(他)　計、計策、計畫、企圖、たくらむ、はかる
たくぐ(名)　鷦鷯、をすめどり、さはもり(動物)
たくやく(名)　橐籥、ふいご、鞴
たくま[する](他)　琢磨、とぎみがく
たくま(名)　託摩(氏)
たくましき(形)　逞、ふとぶとしき、たつしやなる、强壯
たくけう(名)　礫梟、はりつけ
たくげき(名)　椓撃、あひづち
たくけん　卓見、すぐれたるかんがへ
たくげん(名)　託言、かこつけ、いひまへ
たくふん(名)　澤芬、白芷、よろひぐさ(植物)
たくこ(名)　澤胡、さはぐるみ(植物)
たくこ(名)　託孤、みなしごをあづける、たのみになるべき
たくご(名)　橐吾、たうつは、つはぶきてうせんつばき(植物)
たくご(名)　卓午、ひる、亭午、日中
たくてん(名)　澤添、よつばゆきのした(植物)
たくわんづけ(名)　澤庵漬(蘿蔔の鹽漬を云ふ是は品川の東海寺の僧澤庵和尚の發明に係る故に此名あり)
たぐさ(名)　田草、たのくさ、莠、はぐさ

たぐさ(名)　手草、てわざ、てづさみ
たくさい[する](他)　濯洒、すすぐ、あらふ
たくざい(名)　礫罪、はりつけのつみ(刑名)
たくさん(俗)[副形]　澤山、おほく、さはに、れほき
たくきよ(名)　謫居(左遷の地)、配處
たくきよ[する]　宅居、いへにをる
だくきよ(名)　諾許、許諾、うけひき、ゆるし、承諾
たくぎよく　琢玉、たまをみがく
たくきう(名)　謫躬、とがめ、せめ
たくみ(名形)　巧、てぎはよきこと、じやうづのわざ。てぎはよき、巧妙
たくみ(名)　工夫、かんがへ、こころはかり
たくみ(名)　工匠(大工を謂ふ)、番匠、こだくみ
たくみ(名)　内匠(官名)
たくみどり(名)　巧婦鳥、巧鳥(動物)
たくみづかさ(名)　内匠寮(禁裏に古へ設けありて工作の事を主さどりし處)
たくし(名)　卓子、しよく、つくゑ
たくし(名)　托子、ちやだい、うてな
たくし(名)　託辭、かこつけ、託言
たくし[副形]　卓爾、ぬきんでて、すぐれたる
だくし(名)　濁渚、をり(流動物の)、しづみかた
たくしよ(名)　謫所(左遷して居る處)、謫居、配所
たくしよく(名)　擇食、つはり、悪阻(婦人妊娠の初の病)
たくしつ(名)　澤漆、すずふりばな(植物)
たくじつ　擇日、ひどり、ひをえらぶ
たくしう(名)　濯枝雨(仲夏の大雨)
たくしや(名)　澤瀉、みづなぎ、まるばれもだか、れもだか(植物)
たくしやう(名)　擢槳(舟を推す具を云ふ)、かいろ
たくしき　卓識(卓然たる見識)、すぐれたるかんがへ
だくしゆ(名)　濁酒、にごりさけ、おかくみ、もろみ、濁醪
たくゑつ[する](自)　卓越、すぐれる、まさる、こゆる
たくえう(名)　擢要(肝要なる處を擢き書きたる者)、摘要
たくひ(名)　擇皮、たけのかは
たぐひ(名)　類、彙、比、屬、流、にたるもの、れなにもの、黨、なかま
たぐひなき(形)　無類、希世、不世、ならびなき
たぐひまれなる(形)　罕比、少比、寡儔、たぐひすくなき
たくせい　柝聲、へうしぎのね
だくせい　濁世(おとよくせ)、にごれるよ、わしきよのなか
たくせい　濁聲、にごりごゑ、又どすごゑ、だみごゑ
たくせつ　卓說、すぐれたるせつ
[たくせつ]〔名〕　擇屑、えりくづ、よりくづ、よりたるあとのくづ
たくせつ[する](自)　卓絶、すぐるる、卓越、まさる
たくせき(名)　謫責、とがめ、せめ(政府よりの)
たくせん[する](他)　擇選、にらむ、よる
たくせん(名)　託宣、かむがかり(神等が人に憑りてものいふ事、またその語)
たくせん[する](自)　謫遷、しまながしになる
たくせん　擇善、よきをにらぶ
たくせん(副形)　卓然、すぐれて、ぬきんでる
たくせんしや(名)　託宣者(神託を受る人)

たくえふ(名)　托葉、はなのかかえ、はなばかま
たや(名)　他屋(月水の婦人が居る別家を云ふ)
たやにいる　入對屋、めぐりになる、つきのさはりがくる
(婦人に云ふ、上を見あはせよ)
たやす(他)　絶、令絶、なくならする
たやす　田安(氏)
たやすき(形)　容易、輒、やさしき、そうさもない
たま(名)　魂、たましひ
たま(名)　丸、鉛子(鐵砲の)
たま(名)　玉、璣、璞、珏、瓊、瑤(皆寶石也)、球、まるきもの。珠、かひのたま
たまはばき(名)　漏蘆(植物)
たまはばき　玉箒(玉を飾れる箒なり東大寺正倉院に藏す往古孝謙天皇の天平寶宇二年正月三日の子の日に用ひさせたまひし儀式の具)
(玉箒の圖)

たまはる(他自)　賜、たまふ、あたふる。又あたへらるる
たまばら(名)　藜莧、さるとりいばら(植物)
たまに(副)　偶、まれに、たまさか
たまとり(名)　弄丸、しなだまつかひ
たまり(名)　溜(水の)、みづたまり、潦
たまり(名)　溜、ひかへどころ。屯、たむろ
たまり(名)　豆醬豆油、しやうゆ(食品)
たまりのま(名)　溜間(宮殿の前房にて人人の居りて待つ處)

たまりきる　絶默、無言、ことばをいださぬ
たまりみづ(名)　溜水、澁汗、澁瀦、みづたまり
だまる(名)　喋默、嘿、喰(物言はぬをいふ)
たまをのはし(名)　兎宿(星の名)
たまか(形)　儉約、つづまやか
たまがは　玉川、多摩川(武藏國多摩郡に在り、其水を東京に引て飲む)
たまがつま(名)　玉籠、たまのかご(籠の美稱)
たまがき(名)　玉垣、瑞籬、いがき、みづがき(神の宮の垣)
たまかしは(名)　玉柏、千年松、萬年松(植物)
だまかす(俗)(他)　欺瞞騙、わざむく
たまよばひ(名)　招魂(せうこん)、たままつり(死者の靈を祭る事)
たまよけ(名)　堡篳(鐵砲の)、たけたば
たまだな(名)　靈棚(祖先の靈を安置する棚)
たまたま(名)　適、會偶、をりよく。又まれに
たまだすき(名)　玉襷、玉手繦(たすきの美稱)
たまつばき(名)　玉椿、女貞、ねずみもち(植物)
たまづづ(名)　薏苡、づづだま(植物)
たまつくり(名)　玉造(氏また地名)
たまづさ(名)　玉章、ふみ、書翰、てがみ(人よりの)
たまづさ(名)　赤雹子(植物)
たまつき(名)　玉蜀、たまうき
たまつき(名)　玉突、突球(球を突きて遊ぶ戲)
たまつきだい(名)　玉突臺、たまつくだい
たまつきあそび(名)　玉突遊、たまつくたはふれ
たまつしま　玉津島(氏また地名)

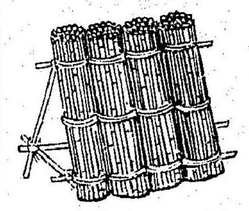
たまねぎ(名)　玉葱、洋葱、たまぶき(西洋にては一般に之を食料に供す。殊に久しく貯ふべき便利あるが故に航海に用ふるに善し)(植物)
たまな(名)　球菜(甘藍の一種にして歐米人の最も好むものにて其味甚だ佳し)(植物)
(玉葱の圖)

(球菜の圖)

(蛭の圖)

たまらぬ(形)　不堪、不勝、不任、こらにきれぬ
たまむし(名)　蛭、玉蟲、椿象、金花蟲、吉丁蟲、金龜子(即ち「こがねむし」の類にして雄は金色を帶び極めて美麗なり婦女鏡奩に納れて之を愛す)(動物)
たまうち(名)　打毬(正月の遊戲)、だきう
たまうき(名)　玉盞、たまのさかづき(杯の美稱)
たまのちり(名)　玉塵、ゆき(雪)
たまのを(名)　玉緒、壽命、魂緒、いのち、いきのを
たまのを(名)　玉緒、みせばや(植物)
たまのかんざし(名)　玉簪(植物)。また(玉にて作れる髮挿)
たまくら(名)　手枕、てまくら(手を以て枕とせる者)
たまぐし(名)　玉串、ごへい(御幣)、ぬさ
たまくしろ(名)　玉釧、うでわ(腕環)

たまくしげ(名)　玉匣、玉櫛笥、たまてばこ
たまぐすり(名)　彈藥、硝藥、銃藥、鐵砲の)
たまや(名)　靈屋、靈舍、廟宇、靈廐(高貴の人の祖先の廟を云ふ)
たままつり(名)　靈祭(祖先の祭)、聖靈會、招魂祭
たまげ(名)　玉笥、たまてばこ
たまげる(自)　魂消、飛魂、喪心、驚駭、きもをつぶす
たまふ(他)　賜、給、たまはる、あたふる
たまねぎ(名)　洋葱(「たまねぎ」の下に圖あり見る可し)(植物)
たまご(名)　卵、蛋(鳥の子)。鷄卵、にはとりのたまご
たまごいろ(名)　卵色、卵黃色、牙色、たまごのごときいろ
たまごかへしうつは(名)　卵形、いびつなり
たまごなり(名)　卵形器(卵をかへす器械)
たまごなすび(名)　金瓜茄(植物)
たまごうち(名)　蛋打、たまごをうつうつは
たまごのから　卵殼、たまごのかは
たまごのきみ(名)　蛋黃(卵中の黃色質)
たまごや(名)　卵商、たまごうるいへ又ひと
たまござけ(名)　卵酒、鷄卵酒、金絲酒、玉子酒(卵をいれて温めたる酒)
たまごさじ(名)　蛋匕、たまごをすくひくらふさじ
たまごゆ(名)　卵湯(卵を湯にかきませたる者)
たまごめ(名)　丸込、裝彈(鐵砲の)、たまつめ
たまてばこ(名)　玉手函、玉匣、たまのはこ
たまあられ(名)　珠霰、へう(雹)。また雹形の物
たまさか(副)　邂逅、まれに、わくらはに

たまざん(名)　珠算、順算、そろばん
たまき(名)　釧、環、うでわ、ひぢのたまき
たまき(名)　環、くわん、わ
たまき(名)　玉置(氏)
たまきはる(形)　魂、霊、魂限、みじかき(生命の枕言)
たまきのには(名)　玉散庭(禁裏を謂へり)
たまきび(名)　玉蜀黍、玉高粱、南蠻黍、たうもろこし(植物)
たまみそ(名)　玉味噌、玉醤食品)
たまみづき(名)　女真(植物)
だましとる(他)　欺取、すかしうばふ
たましだ(名)　貫衆(植物)
たましづめまつり　鎮魂祭(十一月廿二日新嘗祭の前日の祭)
だましこむ(他)　欺籠、わざむく
たましひ(名)　魂魄、霊魂、神魂、神、たま、六神
たましひま(名)　間暇、てすき、てまひま
たまも(名)　玉藻、うみくさ(美稱の語)
たまもの(名)　賜物、たまはりもの、くださりもの、恩賜物、拝領物
たまもひ(名)　玉瓶、玉罐、たまのみづゐれ(美稱の語)
だます(他)　欺騙、賺詐、欺瞞、瞞着、蠱誘、誑誘、すかす、あざむく
たますり(名)　玉人(玉を琢く工人)
たまだれ(名)　珠簾(美麗なる簾)
たけ(名)　嶽、嵩、嶽、岳(山の高峻なるを云ふ)
たけ(名)　竹、此君、千尋草、石母草(植物)
たけ(名)　他家、よそのいへ、ほかのいへ

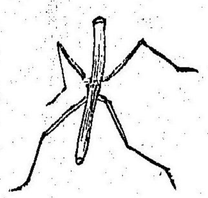
たけ(名)　丈(衣服の)、長身の)、ながさ
たけ(名)　菌、蕈、茸、栮、くさびら、きのこ(植物)
たけし(形)　多氣(氏)
たけいち　武市(氏)
たけいし　武石(氏また地名)
たけばはき(名)　竹掃帚(竹にて作れる箒)
たけばやし　竹林、たかむら、たかやぶ、竹林
たけばしご(名)　竹飛梯、竹梯子(竹のはしご)
たけべ　建部、武部(氏)
たけべら(名)　竹篦(竹にて作れる薄片)
たけり(名)　石子(羊の外腎をいふ)
たける(自)　哮、吼、嘷、ほゆる、ほえくるふ(猛獣が)
たける(自)　長ひいでる、たくみよなる
たけを(名)　壮士、武夫、ますらを、たけきひと
たけがり(名)　菌狩、きのことり
たけかご(名)　竹籃、篭、たけのかご
たけだ　武田(氏)
たけだいす(名)　竹臺子(竹にてつくれる茶の湯の釜の臺)
たけたば(名)　竹束、竹把、竹立牌(武田信玄の家臣米倉丹後始めて之を作れりと云ふ當時戰に用て石銃丸を防ぎし者)

(圖の束竹)



たけたかき(形)　長大、頎大、偉長、せいたかき
たけたかゆび(名)　長指、中指、なかゆび、たかたかゆび
たけだびし(名)　武田菱(衣紋の名)
たけつ(形名)　多血、ちたはき、ちがすぎる
だけつ　唾血、ちをはく、吐血
たけづつ(名)　竹筒(竹を切て作れる筒。ひとよぎり)
たけづな(名)　竹索、竹綱、たけなは
たけづゑ(名)　竹杖、節、たけのつゑ
たけなは(形)　酣(酒を十分に飲みたるを云ふ。闌(夜の深くなりたるをいふ)よりけたる
たけむしろ(名)　竹席、簟(竹にて編たる席)
たけうま(名)　竹馬、篠驂(小兒が乗て遊ぶ具)
たけのかは　籜皮、竹籜、竹皮(竹の外皮)
たけのかはぞうり　竹皮草履、籜屨(竹の皮よて作れる履物)
たけのよりかかり(名)　竹几、竹姫、竹筴、竹夫人、たけれしまづき
たけのうち　竹内(氏)
たけのふし　竹節、硬節、よ
たけのふしむし(名)　竹節虫、ななふし(東京王子駒込谷中邊よ産する大毒虫なり)(動物)
たけのこ(名)　筍、笋、龍孫、たかんな(植物)
たけのこがさ(名)　箬笠(竹にて作れる笠)
たけのこがひ(名)　竹箘貝(動物)

(圖の虫節竹)



たけのこじる(名)　笋羹、玉版羹(笋にて作れる羹)
たけのあまはだ　竹茹、たけのうすかは
たけのあぶら　竹瀝、竹油)
たけのみ　竹實、篠、篠簜(竹に結ぶ果にて形ち小麥に似たり)
たけくぎ(名)　竹釘、たかくぎ(竹にて造れる釘)
たけやり(名)　竹槍(竹にて造れる槍)
たけぶき(名)　大呉風草(植物)
たけぶんがに(名)　武文蟹、かにのたぐひ(動物)
たけあみざいく　竹編細工(竹をあみて作れる物)
たけき(形)　猛、勇猛、剛勇、強勇、猾悍、武、勇、健、つよくいさましき
たげき[する](他)　打撃、うちたたく
たけきけもの　猛獣、あらきけもの
たけじらみ(名)　竹蝨(動物)
たけす(名)　簀、たけすのこ
たけすだれ(名)　竹簾、湘簾(竹を編たる簾)
たけん　他見、ひとのみること
たげん　多言、ことばれほき
だけん(名)　打拳、こぶしのうちあひ
たふ(名)　荅布、太布、ふとぬの
たふ(名)　塔(佛寺等にある各樣の高き建物樓臺等)。浮圖
たぶ(名)　瞋恚珠(耳の下部)、耳朶、耳球、みみたぶ
たぶ(他)　給、たまふ、たまはる
だふ(名)　懦夫、れくびやうもの、いくぢなし
たふば(名)　塔婆(死者の爲に供養する墳塔或は之に代用する板)

たふはう(名)　答報、へんじ、こたへ、むくい
たふはくきん(名)　搭膊巾、かたかけ(婦人等が肩を覆ふ物)
たふべん(名)。—する(自)　答辨、こたへ。こたふる(訴訟等にて)
たふべんしよ(名)　答辨書、こたへがき
たふとき(形)　貴、くらゐのたかき。尊、崇、上、わがむべき
だぶりん　都伯林(愛爾蘭の首府)
たふわ(名)　答話、こたへのはなし
たふかん(名)　答翰、へんしよ(返書)、こたへぶみ
たふたう(名)　塔糖、ぼうざたう(棒砂糖)
たぶたぶ(副形)　漾漾、洋洋、湛湛(水の湛へて動く貌)
たふれい(名)　答禮、へんれい(返禮)、むくい
たふれる(自)　踣、倒、仆、趨趺、僨、絕倒、卒倒、蹶倒、倒廢、こけまろぶ、ころぶ、僵、斃、たふれしぬる
たふれふす(自)　仆臥、ころびふす、倒臥
たふれごころ(名)　狂心、たはれごころ
たふれじに(名)　倒死、殪死、轉死、顚死、斃、ゆきだふれ
たぶね(名)　田舟、農艇(田植に用ふる舟)、たうそぶね
たぶらかす(他)　誑、詐惑、蠱惑、瓢掌、だまかす
たふのや(名)　答矢、いかへすや、かへしや(人の射たるに答へて又我より射てやる矢をいふ)
たふく(形)　他腹、別腹、はらがはり
たふく　多福、さちおほき、しあはせよき
たふげ(名)　嶺、山頂、やまのいただき、みね
たふげき(する)(他)　搭撃、うつ、たたく
たふげん　納言、ことばをいるる、きき入るる

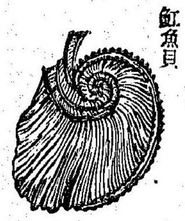
たぶて(名)　礫、こいし、つぶて
たふさ(名)　諂詐、いつはりごと
たぶさ(名)　髻、もとどり
たふさき(名)　犢鼻褌、ふんどし、下帯
たふぎ(名)　答議、こたへ(議論の)
たふきやく(名)　搭客、ふねにのるひと、のりて、乘船人、船客
たぶみ(名)　田文、みづちやう(水帳)
たふし(名)　楊子、いす、こしかけ
たふし(名)　鎚指、ゆびぬき
たふし(名)　塔柿、みのがき(植物)
たふし(名)　答紙、返事、かへしぶみ
たふじ(名)　答辭、へんじ、こたへ
たふしよ(名)　答書、こたへぶみ、返書
たふじゆつ[する]　答述、こたへのぶる
たふひ(名)　搭庇、さしかけ
たぶせ(名)　田廬(田の側に假に設くる小屋)
たふせん[する]　搭船、ふねにのりこむ
たふす(名)　塔主、はかもり
たぶん[俗](形副)　多分、おほき、おびただしき。おほかた
たぶん　他聞、ほかにきこゆること
たこ(名)　章魚、蛸、蛄(動物)
たこ(名)　胼、胝皸、蠶(摩擦等よりして皮肉の堅くなれる者)
たこ(名)　脊瘠(馬の脊に生ずる瘡)
たこ(名)　紙鳶、春聲君、紙老鴟、凧、いかのぼり(小兒の弄具)
たご(名)　田子、田兒(田植をする者を云ふ)

たご(名)　擔桶、桶子、になひをけ
だこ(名)　唾壺、つばきするつぼ。(また塵壺といふ者よて座席の塵等を入るる者)

(唾壺の圖)

たご　多胡(氏)
たごとのつき　田毎月(田の面に凡てうつれる月)
たごをけ(名)　尿桶、こいをけ、こやしをけ、こえつぼ
たこつぼ(名)　章魚壺(たこを捕る具)
たこむら(名)　手肘(腕の先きの柔らかき肉ある處)
だこう(名)　枕杠、かぢつかたこのまくら(名)　海鼈、ひとで、ききやうがひ(動物)
たこく　他國、他邦、他州、他鄉、ほかぐに、よそぐに
だごく　墮獄(地獄に墮る)
たこぶね(名)　魟、魟魚、たこぶねがひ(動物)

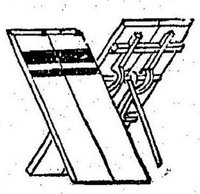
(魟魚の圖)


魟魚貝

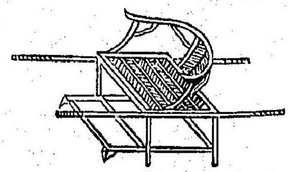
魟魚

たごし(名)　手輿、轎、版輿、轎輿、腰輿、兜子、兜轎、肩輿、のりもの、てごし
たごん　他言、ひとにかたること
たて或たち　館、いへ、やかた、又(氏)
たて(名形)　竪、縦、經、まつすぐにながき(横に對ふ)
たて(名)　盾、干、楯、厭、牌、戰牌、嗟沓(敵の射る矢等をふせぐ板)
たで(名)　蓼、辣蓼、蓼牙菜、かしこぐさ、水蓼、香蓼、犬蓼(植物)
だて　伊達(氏)
だて[俗](名)　伊達、粧飾、きかざり(衣服等の)
たていと(名)　經線、まつすぐのいと(織物等の)
たていた(名)　楯板、たてのいた
たていし(名)　標石、しるしいし
たていし　立石、楯石(氏)
たてば(名)　立場、歇處、短亭場、やすみば(宿驛の)。また停車場(鐵道のステーション)
たてばな(名)　立花(りつくわ)、いけばな
たてはき(名)　帶刀(舊官名)
たてごゆ(名)　注管、承雷、あまだりうけ
たてぬき　經緯、たていとよこいと(織物の)

(楯の圖)

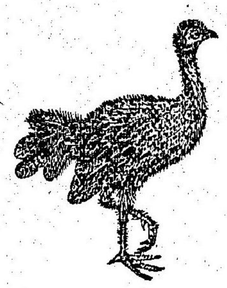


(興手の圖)



たてる(他)　闔、とづる(門戸と)、しめる
たてる(他)　建、建築、營築、築造、建設(家等と)。立(法律等を)。立たたせる
たてる(他)　點いれる、にる、こしらへる(茶を)
たてかへる(他)　建替、再建、たてなほす
たてかへる(他)　立替、代出、かはりていだす(金を人の爲めに)
たてがふ(自)　抗拒、抵抗、抗爭、拮抗、對敵、牴牾、あひあらそふ
たてがみ(名)　鬣、鬣髦、髯、騣(馬獅子等の頸の長毛)
たてよこ　竪横、縦横、經緯、縦衡
たてだし(名)　建出、つくりだし(家の)
たてつぐ(他)　建續、たてつづける
たてつける(他)　立着、たてあはする。又ひきつづきてする
たてなはて(名)　竪畷、阡、たてのあぜみち、縦畷
だてう(名)　駝鳥(亞非利加洲及亞剌伯國に產する所の巨鳥にて頸長く脚太く形駱駝に似たり故に斯く名づく)(動物)
たてうす(名)　舂臼(地上に居うる臼)
たてぐ(名)　立具、建具(障子、襖、戸の類の惣稱)
たてぐや(名)　立具屋、建具屋、たてぐづくり、さしものや
だてくぎ(名)　伊達釘、かざりくぎ、飾釘

（圖の鳥駝）



たてや(名)　建家、たてたるいへ、たてもの
たてまつる(他)　獻、奉、進、上、享、さしあぐる
たてぶえ(名)　竪笛(縦に吹く笛)
たてこむ(自)　雜遝、こみあふ
たてこめる(他)　建籠(戸障子等を多くたて塞ぐ)
だてこき(俗)(名)　粧飾子、きかざるひと
たてこもる(自)　楯籠、とぢこもる(城等に)
たてあかし(名)　常夜燈、よもすがらともすあかり。あかりのともしび
たてあかし(名)　東苣、たいまつ
たてあみ(名)　搶網(魚網の類)、まきあみ
たてさま(名)　縦、まつすぐゆき、すぐのみち
たてきる(他)　立切、しめきる。又とりきる
だてしや(名)　伊達者、花公子、艶妝者、粧扮子、はでずきのひと
たてにま(名)　竪編、たてのすだ(衣服等の)
たてえぼし(名)　立烏帽子(古昔用ひし高き帽子の名)
たてひく(他)　立引、たてかへたすくる
たてもどき(名)　蠶繭草(植物)
たてもち(名)　楯持、牌手、たてをもつひと
たてもの(名)　立物、建物、たてや又たてもなるもの
たてずな(名)　立砂、もりすな
たてい(形)　多才、ちゑあれはき
たてい(形)　任俠(志を失ふて悵然たるを云ふ)、ちからなし
たてい[する](他)　打碎、うちくだく
たてい　多罪、つみにはき

だてい(名)　舵柒、かぢたけ(植物)
だざい　太宰(氏)
だざいのそつ(名)　太宰帥(舊太宰府の長官)
だざいふ(名)　太宰府(古へ筑前國御笠郡に在りし外務の官署)
ださつ[する](他)　打殺、たたきころす
たき(名)　多喜(氏)
たき(名)　瀧、瀑布、飛泉(山より落る水)
たき(形)　多岐、にだみちにはき
だき(名)　儸儸、ねにやらひ、なやらひ
だき[する](他)　打毀、うちやぶる、うちこはす
だき(名)　彈碁、はじきご、はじくごのあそび
たきぼこり(名)　烟埃、煤焔、すす、たきびのすす
だきとめる(他)　抱留、いだきとめる
たぎりゆ(名)　沸湯、にえゆ
たぎる(自)　激、泌、滾、沸、わきかへる、にる、にえたつ
だきれこす(他)　抱起、いだきてたたしむる
だきかかえる(他)　懷抱、いだく、だく
たきがら(名)　香炉、もえがら(燈火等の)
だきかご(名)　抱籠、竹ル青奴、竹奴、竹夫人、たけのよりかかり
だきがしは(名)　槲柏(柏の葉の二つ相對ひたる紋)
たきつぼ(名)　瀧壺(瀧の水の湛たる處)
だきつく(自)　抱着、いだきつく、とりつく
たきつけ(名)　燒付(火をもやしつくること又其物)
たきつける(他)　慫慂、惑誑、詐惑、だだてる、けしかける
たきつける(他)　起火、着火、もやしつける(火を)

たきつせ(名)　激湍、はやせ、急流
だきう(名)　打球、たまうちあそび
だきうば(名)　保姆、もりするひと、からちら
たきぐち　瀧口、ゆどのつかさ(古禁中の浴室と主どりし人にて之を瀧口といふは水を此にひきたる瀧口の處に侍べるが故なり)
たきやう　他鄉、たこく(他國)、よそのくに
たぎやう　他行、よそゆき、外出、他出
だきこむ(他)　抱籠、抱入、かかえいれる。だましてつりこむ
だきあふ(自)　抱合、いだきかかえあふ
たきさし(名)　爐、ねにはさし、ねにがら
たきぎ(名)　薪、燒木、まき、もやすき、しば、柴
たきぎつみ(名)　薪堆、たきぎのつみかさね
だきみやうが(名)　抱若荷(衣紋の名)
だきしめる(他)　抱緊、かたくいだく
たきび(名)　焚火、もやすび、もしび
たきもと　瀧本(氏)
だきもり(名)　抱傳、だきうば、からちち(ちちをのませぬかしづきをんな)
たきもの(名)　薫物、燒物、かをりもの、香
たきもの(名)　焚物、もやすもの、薪、たきぎ
たきもののこ(名)　薫物籠、ふせご
だぎんぱ(名)　兌銀舖、りやうがへや(兩替屋)
だゆ(形)　惰緩、疎惡、もろき、よわき
たゆたふ(自)　猶豫、ためらふ、浮漂、ゆれながれる
たゆだゆしき(形)　怠遑、たいだいしき(打棄てれく貌)

たゆく(副)　緩、ゆるく、かたからぬ
たゆげ(名)　怠氣、をこたりごころ
たゆむ(自)　弛、緩、怠、弛、ゆるむ
たゆふ(名)　太輔(各省長官の次官)
たゆふ(名)　太夫(淨瑠璃等の名人を然かいふ、又遊女の上等なる者にも名く。古は高貴の人の稱)
たゆひ(名)　手纏、たまき、てにまけるもの
ため(名及後置詞)　爲、ゆゑ
だめ(名)　徒目、失、敗、うしなひたるめ(碁等の)
だめ[俗](名)　闕、脫落、むだ
ためいけ(名)　溜池、湖池、沼、湖、潴、池、潴、みづためいけ(飲用の爲めなどの)
[ためいさう](名)　他名草、わだなぐさ(植物)
ためいき(名)　太息、歎息、噓唏、長息、嗟歎、浩歎、痛歎、咨嗟、といき、ねいき
ために(後置詞)　爲、ゆゑに、わけにて、ゆゑに
ためともゆり(名)　天香百合、はかたゆり、てつぱうゆり(植物)
ためぬり(名)　溜塗、くろぬり(漆の)
ためる(他)　藥弓弩を。揉(木を)。まぐる
ためる(他)　矯直、矯正、まつすぐにする、なほくする。又指向、ねらふ
ためつもの(名)　味物、饌餚、うまきくひもの(朝廷より百官に賜はりし珍味などを然か云へり給賜物の意なるべし)
ためらふ(自)　猶豫、狐疑、躊躇、遲疑、逡巡、踟躕、たゆたふ
ためみづ(名)　溜水、防虞水用心水を謂ふ。また潴水の溜る所、みずため
ためし(名)　例、先例、しきたり
ためす(他)　試驗、經驗、試用、試、檢、こころみる
だめんごろも(名)　打眼衣(襞の衣)、ふだんぎ
たみ(名)　民、甿、黔首、蒼生、黎元、黎首、黎民、人民(政府に對す)、おほひとくさ
だみ(形名)　濁(野鄙の語氣音聲をいふ)
たみち(名)　畷、畛、あぜみち、なはて
たみをまぞはす　惑民、たみをまよはす
だみたる(形)　訛、なまれる、濁、にごれる
たみぞ(名)　田溝、畎、洫(田間の小溝)
たみくさ(名)　民草、蒼生、人民をいふ、おほひとくさ
たみやう　他名、他の家の名をいふ、ひとのいへな
だみごゑ(名)　粗聲、濁聲、にごりごゑ、おなかじみたるこゑ
だみゑ(名)　丹青繪、濃繪、濃繪(丹青の色を塗りて飾れる繪を云ふ)
たし(名)　足(不足を補ふ物)
たし(名)　打疵、うちきず
たじ　他事、よそごと、ほかごと
たじ　他時、いつぞや、ほかのとき
たじ　多事、ことにほき、多用
だし[俗](名)　煎汁、にしる、にだし
だし(名)　樂車、山車(祭禮の時に引出す飾車)、山鉾、頂花
だし[俗](名)　託、虛託、かこつけ、いひまへ
だしいれ　出入、出納
たしろ　田代(氏)

たじろく(自)　辟易、退縮、しりごみする、たぢたぢあとへさがる。まけいろになる
たしはうぎよ(名)　多刺柳魚、はりぶか(動物)
たじり　田尻(氏)また地名)
だしぬけに(副)　出拔、突然、忽然、ふいに、いきなり
たしか(形)　慥、確的、確實、確切、正覈、かたき、あやまりなき
たしかなるしようこ　的證、確證、實證、あやまりなきあかし
たしよ　他所、よそ、ほかのところ
たじつ　他日、ほかのひ。いつぞや
たしない　無足、たらない
たしなむ(自)　省愼、謹愼、つつしむ
たしなめる(他)　窘困、くるしむる、なやます
たしむ(自)　嗜好、すきこのむ、すく
たしう(形名)　多衆、いとれほき。れほくのひと
たしや　多謝、かたじけなし、ありがたし
たしや(名)　砲車、いしぐるま
たしやう(名)　打傷、うちきず
たじやう(形)　多情、なさけふかき(愛戀の情の深きを謂ふ)
だじやう(名)　掩床、柁牀、そり
たじやういつぺん　打成一片(他念無きを云ふ)、一心不亂
だじやうくわう(名)　太上皇(天子の御父の尊稱)
だじやうくわん(名)　太政官(內閣をいふ)
たしやく　他借、よそがり(他より借る事)
だじやく(形)　惰弱、懦弱、やくにたたぬ、つたなくよわき
たじま　但馬(山陰道中の國名)
たじま　田島(氏)
たしまへ[俗](名)　足前、たぎなひ、たし
だしまへ　出合、たがひにいだす、釐(金等を)
だしぎぬ(名)　出絹(古へ車駕のまはりに見えさせし布帛を云ふ)
だしぎぬ(名)　長裾、けだし、すそにいだすきぬ
だしゆ　唾手、てにつばきをる(事を爲すに當りて勢を付くるにする事)
たしゆつ[する](自)　他出、よそへゆく
だじゆく[する](他)　打熟、さたえる(鐵等を)
たしめ(名)　瞹、ただれめ、爛眼、濕眼
だしじる(名)　煎汁、煮汁、にしる
たじん(名)　他人、よそのひと、ほかのひと
だじん(名)　舵人、かぢとり、柁人
たしんけう(名)　多神敎(衆多の神を拜する敎)
たえいる(自)　絕入、氣絕、いきたゆる。悶絕
たえはてる(自)　絕果、たえきる、なくなりはてる
たえる(自)　絕、斷、なくなる、とぎれる
たえだえに(副)　絕絕、たゆるばかりに、ほとんどたえて
たえま(名)　絕間、間斷、きれま、とぎれま
たえず(副)　不斷、不絕、無息、たえまなく、いつも、つねに、ひきされず
だえん(形)　楕圓(圓形にして長く俵の如き形)、いびつまるく、こばんなり
たひ(名)　鯛、棘鰭魚、なるとだひ、平魚、紅魚、赤鰭、赤海鯽魚(動物)
たび(名)　旅、羈旅、客中、逆旅(他國に出て居る事)

たび(名)　足袋、襪子、蹈皮、短襪、襪頭(足にはく物)
だび(名)。—する(他)　茶毘(僧家にて火葬を云ふ)。やく(死人と)
たびろかす　飄掌、てをひるがへす
たびと(名)　田人、耕人、農夫、ひやくしやう、たつくり
たびぢ(名)　旅路、たびのみち
たびがた(名)　襪模(足袋を作る雛形)
たびよそほひ(名)　旅裝(「たびにたく」を見よ)
たびだち(名)　旅立、發途、登途、かどで、かしまだち
たびたび(副)　度度、毎度、しばしば
たひつ　他筆(己れの筆跡に非ると云ふ)、ほかのひとのふで
たびづと(名)　行李、たびゆくときにもちゆくもの(衣食品などを謂ふ)
たびづかれ(名)　旅疲、たびぢのくたびれ
たびね(名)　旅寐、客宿、たびぢにやどることと
たひら　平(氏)
たひら(形)　平坦、ひらたき(凸凹なき)
たひらか(形)　平夷、坦、ひらたき、平夷
たひらのしらみ(名)　魚虱(魚類に生ずる虫)
たひらげる(他)　平、夷、たひらかにする。又ただやかにする平定、しづめる(亂等を)
たびらこ(名)　附地菜、かはらけな(植物)
たひらご　平子(氏)
たひらぎがひ(名)　蛾蠣玉珧、蛟、ゑぼしがひ(動物)
たびや(名)　襪店(足袋と作りまた賣る家)
たびや(名)　逆旅、旅邸、郵亭、旅館、たびやど、やどや、はたご

やつれ(名)　旅憔、たびづかれ
たびやう(形)　多病、やまひがち、やまひれはき
たびあきうど(名)　行商、旅商、處處を賣あるく商人)
たひみそ(名)　鯛味噌(鯛を味噌に和して作れる者)
だびし(名)　茶毘所、あだしの火葬場、だびするところ
たびしたく(名)　旅裝、客裝、行裝、行李、僞裝、たびよそほひ(旅路に出る准備)
たびびと(名)　旅人、遊子、旅客、たびぢにあるひと
たひびし(名)　鯛醢(鯛を切て鹽に漬たる者)
たびずまひ(名)　旅寓、僑居、寄寓、たびやどり
たもろき(形)　手脆、てのよわき
たもと(名)　袂、袪(衣の袖の下の廣き處)
たもとほる(自)　徘徊、たちもとほる、徃來
たもとれとし(名)　袂落、かねいれ
たもちぎ(名)　手持木(鷹方に言ふ所)
たもがみ　田母神(氏)
たもつ(他)　保、有、持、守、保持、保存、保有、保守、存留、もつ、うしなはぬ
たもん或たぶん　他聞、よそぎき、ほかへのきこえ
たもん(形)　多聞、ひろくききたる、博學、博覽
たもんまた　田麥殿(氏)
たせい　多勢、れはせい、大軍
たせり(名)　田芹、水芹(植物)
たせう　多少、れはすくなき、幾分、いくらか
だせん(名)　擲錢、あないち(小兒の戯)
だせん(名)　唾腺(唾の出る孔)

たす(他)　足、補充、補助、たぎなふ
だす(他)　出、いだす
たすかる(自)　助、たすけらるる
たすう　多數、れはくのかず、大數
たすまひ(名)　企停、稽遲、ただすむこと
たすけぼね(名)　助、あばらぼね
たすける(他)　助、佑、佐、副、扶、援、介、賛、輔、弼、救助、救援、輔弼、補助、媒助、輔翼、救正、補佑、ちからとそへる、てつだふ)
たすけのはね(名)　肋骨、あばらぼね
たすけのつはもの　援兵、加勢、援軍
たすけぶね(名)　救船、すくひぶね
たすき(名)　手繦、襷、禪、襷、脇(袖を束ねわぐる紐)
たすきぼし(名)　翼宿(廿八宿の一あり、翼「よく」の下を見よ)
たん「する」(他)　彈(琴等を)、ひく、かきならす
たん(形)　赧、あかき、あからめる(顔が愧て赤くなるに云ふ)
たん(形名)　丹、あかき。まことなる。あかいろ。酸化物。又ねりぐすり
たん(形)　單、ひとへ。いりくまぬ
たん(形)　淡、あはき。かすか。うすき
たん(形名)　短、みじかき。あしきところ
たん(名)　膽、きも、い
たん(名)　端、はし
たん(名)　痰(病の名)(喉にからまる液)
たん「する」(自)　嘆、なげく

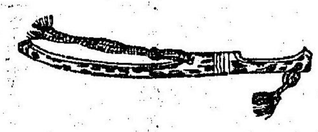
だん(名)　緞(青く黄なる色)
だん(名)　段、階墀、きざはし
だん(名)　談、はなし
だん(名)　男、をとこ。又五等爵の最下
だん　團(氏)
たんい(名)　單衣、うすぎぬ、ひとへもの
たんいつ(形)　單一、ひとへ、もつぱら
たんいうさう(名)　丹遊齋、はしりくさ、ふきでのやまひのな
たんおん　探韻、おんをさぐる(詩を作るに)
たんいん　貪婬、いろをこのむ
たんいん　耽淫、いろにふける
だんろ(名)　暖爐、ねろり、ひどこ
たんば　丹波(山陰道中の國名)
たんはい「する」(他)　端拜(拱して拜するを云ふ)、だだしくをがむ
たんはちじゆ(名)　膽八樹、はぼそ、しいとき、づくのき(植物)
だんぱつ　斷髮、かみをきる。きりかみ
たんはう(名)　端萌、めざし、めぐみ(草木の)
たんばう「する」(他)　探訪、さがす、さぐる
たんばう(名)　誕妄、うそ、そらごと、ねなしごと
たんばう「する」　貪冒、むさぼりかすむる
だんばう(名)　檀方、檀家(寺の)。巧徳主
だんばう(名)　鍛房、かぢや
だんばう(名)　暖房、わたましぶるまひ、やうつりいはひ
たんばうじや(名)　探訪者、たねとり(新聞社の)

たんぱく(形)　淡薄、淡泊、うそさ、あつさり、あはき
たんぱく(名)　蛋白(俗誤りて「しよはく」と讀むあり)、たまごのしろみ
たんぱくねう(名)　蛋白尿蛋白質の下る小水)
たんぱくしつ(名)　蛋白質、たまごのしろみのしつ
たんぱくせき(名)　蛋白石(鑛物の名)
だんばしこ(名)　唾壺、はひふき、つばきするうつは
たんばん(名)　丹礬(硫酸銅)、膽礬、さもいし
だんばん(名)　談判、かけあひ
たんばんかん(名)　擔板漢(一面のみに限りて全体を見る能はざる人)
たんに(副)　單、ただに、ひとへに
だんにう(名)　斷乳、あげち、ちばなれ
たんにん(名)　單寧(渋味ある藥材)
たんにん[する](他)　擔任、ひきうける
たんぱ(名)　湯婆(身體を煖むる器)、ゆたんぽ
たんぼ(名)　田畝(水田を云ふ)、いなだ
たんぼ　旦暮、あけくれ、あさゆふ、旦晡
たんぽぽ(名)　蒲公英、金簪草、つづみぐさ、ふぢな(植物)
たんぽう　短鋒、みじかばこ
だんぼく　淡墨、うすずみ
たんぼみち(名)　田畝道、あぜみち
たんぺい(名)　炭餅、たどん、炭團
たんぺい(名)　擔瓶花を挿す瓶)花瓶
たんぺい　短兵、みじかきつるぎ
だんぺい(名)　談柄、はなしのたね

たんぺいきふに　短兵急、いそぎせまりて(戰爭に謂ふ)、ちかづきて
たんべつ(名)　段別(田畑の廣狹大小の區別)
たんべう　簞瓢、めしびつ及さけづつ
たんべん　短篇(短き詩文を云ふ)
だんべん　斷片、されつぱし、きれ
たんと(名)　丹土、につち、わかつち
たんと[俗](副)　澤山、たはく、あまた
たんと(副)　湛水のなみなみたたえたる貌)
たんとう(名)　丹頭、丹頂、たづ、つる(動物)
だんとうだい(名)　斷頭臺、くびきりだい
たんとく[する](他)　探得、さがしうる
たんどく[する]　端謹、ただしくよむ
たんどく(名)　丹毒、はやくさ
たんどく(形)　單獨、ひとり
だんどく(名)　檀特、曇華、闕蕉、美人蕉(芭蕉の一種)(植物)
だんどくさう(名)　檀特草、だんとく(上を見よ)(植物)
たんとぎよ(名)　彈塗魚、めくらはぜ(動物)
たんとん[する](他)　啗食、むさぼる
たんな　丹治(氏)
だんち　暖地、あたたかきとち
たんちよ(形)　澹泞、きよくふかき(水が)
たんぢよ(名)　蜑女、あま、あまをとめ(魚とる婦人)
たんちう(名)　丹忠、あかきこころ、まごころ
たんちう(名)　擔櫚、たんす
たんちう(名)　短柱、つかばしら、たたりがた
たんちく(名)　淡竹、はちく、くろちく、まだけ(植物)

たんちやう(名)　丹頂、かしらのあかきつる(赤頭鶴)(動物)
たんちやう[する](他)　探聽、さがしきく
だんちやう[する](他)　擅張、ひろげはる
だんちやう　斷腸、はらわたをたつ、おはれむべき
だんちやう(名)　煖帳、たれぬの
たんちやうのぶん　單張之文、いちまいずりのほん。うすきすりもの
だんちやうくわ(名)　斷腸花、秋海棠(植物)
だんちやうさう(名)　斷腸草、のくず(植物)
たんり　唔利、りをくらはする(利をもて人をいざなふ)
だんり(自)　斷離、ちぎるる、されはなれる、たつ
たんりよ(形)　短慮、短氣、きみじか
たんりよく(名)　彈力、はじくちから
だんりやうくわ(名)　男眞花、をとこへし(植物)
たんりやく(名)　膽略、きもふときこころ、勇氣
たんりん(名)　貪吝、ものをしみ、しわさ
だんりん(名)　檀林、僧林(佛寺をいふ)、檀方
だんをつ　檀越(寺の檀家をいふ)、檀方
たんをう(名)　顓賀、かめ、もたひ
だんわ(形)　暖和、あたたか、のどか
だんわ(名)。—する(自)　談話、はなし。かたりあふ
たんわい(形)　短矮、ひくき(長が)
たんか(名)　單舸、はしけぶね
たんか(名)　短歌、みじかうた
だんか(名)　檀家(寺の檀那方)、檀方
たんがい(名)　痰咳、たんせき
たんがい(名)。—する(他)　彈劾、うつたへ(高官人に對する)。
だんかい(名)　段階、だんだん。きざはし
だんがい(名)　斷崖、きりぎし、絶壁、がけ
たんかつ(名)　短褐、單褐、みじかきもの(鹿衣をいふ)
たんがら(名)　丹柄、紅樹皮(染料にする木皮)
たんから　淡交、さつぱりしたるつきあひ
たんから(名)　炭坑、石炭の出る穴)
たんから[する](自)　單行、ひとりゆく
だんから　斷交、まじはりをたつ、絶交
だんから(名)　煖竈、わつもの、たつゆ、しるもの
たんかく[する](他)　擔閣、さしおく、とどむる
だんかく(名)　談客、はなしわひて、はなしてだんかふ[する]　談合、はなしあふ、かたらふ
たんかん[する]　貪看、みとれる、みほれる
たんかん(形)　膽敢、むかふみず、いさましきたんがん　赧顏、赤面、あかきかほ
だんかん[する](他)　擅干、ひろげかわかす
だんがん(名)　斷岸、きりぎし、斷崖、がけ
たんだい(名)　探題、だいをさぐりてうたよむこと。(又古昔の官名にて後世の知事の類)
だんたい(名)　暖帶(地球面の氣候中正の部分を謂ふ也、熱帶に次ぎて南北に各一あり)
だんだらじま(名)　波動縞、きものの
たんたう(名)　短刀、みじかがたな

(短刀の圖)



わきざし(此圖は楠正成卿所用藏末詳)
たんたう[する](他)　擔當、うけもつ、ひきうける
たんたう(名)　探湯、ゆをさぐること、くかたち、湯起請(ゆぎしやう)
たんだく(自)　手抱、てをいだく、拱、こまぬく(手を)
たんたん(形)　澹淡、あはき、さつぱりしたる
たんたん(副)　湛湛(水のたたえる貌)
たんたん(形副)　旦旦、あきらか
だんだん(形)　團團、まとか(月が)
だんだん(副)　段段、漸次、しだいに、ややや
だんだん(副)　斷斷、きれぎれ。又つつしみまもるかたち
たんたんせん(副形)　振振然(かはあからむる貌)
たんれい(形)　端麗、さらめく、きよらか
たんれん[する](他)　鍛錬、ねりきたふ
たんそ(名)　炭素(元素の一にて炭と同一なる者)
たんそう[する](他)　彈奏(琴等をかなづる)、ひく
たんそく(名)。—する(自)　歎息、ためいき、なげき、といきつく
だんぞく　斷續、きれつづき
[だんそくへい](名)　煖足瓶、ゆたんぽ
たんそくし(名)　歎息詞、なげくことば(文法の)
だんつう(名)　段通(毯子(敷物にする織物の名)
だんねん[する](自)　斷念、あきらめる
だんな(名)　檀那(寺の檀家また俗に主人尊長等を凡て稱す)[梵語]
たんなう(名)　膽嚢、きもぶくろ
だんなでら(名)　檀那寺(自分が屬する寺)、香華院

だんらうくわ(名)　男郎花、をとこへし、くさのお(植物)
たんらく　耽樂、たのしみにふける
だんらく(名)　段落、ひときり(書物の)
たんらん(名)　貪婪、よくばり、むさぼり
だんらん(名)　團欒、まとゐ(一家族等が共にまるく坐る事)、くるまざ、圓坐
たんうん　曇雲、くろくも
たんうん　短運、うんつたなき、薄命、不運
たんのう　淡濃、こさうすき
たんくわ　丹花、うつくしきはな、あかきはな
たんくわ(名)　曇華、だんどく(植物)
たんぐわ(名)　旦過(乞食僧等の夜宿を請ふ)
だんくわい(名)　團會、よりあひ
たんくわう　淡光、うすひかり
たんくわう(名)　蛋黃、きみ(卵の)
たんぐわや(名)　旦過屋、こじきのいへ、こじきごや、こじきべや
たんくわん(名)　丹欵、まこと、まごころ
たんくわん　端冠、かんむりをただしくする
たんぐわん(名)。—する(自)　嘆願、なげきねがひ。なげきねがふ
だんぐわん(名)　彈丸、てつぱうだま
だんぐわんこくしのち　彈丸黑子之地、ちひさきちめん、猶爾之地
たんぐん　單軍、孤軍、ひとてのつはもの
たんや　短夜、みじかよ
だんや(名)　鍛冶、かぢ、かぬち

たんやく(名)　丹藥、ねりやく、煉藥
だんやく(名)　彈藥、たまぐすり
だんまり(名)　默、無言、ものいはぬこと
たんまつ(名)　端末、はしをはり
だんまつま(名)　斷末魔、しにぎは、いまは
たんまう(名)　膽毛、きもふときこと
たんけ(名)　痰氣、たんのきみ(痰の喉にからまる病氣)
たんけい　單徑、ひとすぢみち
たんけい(名)　短檠、燈架、ともしびだい
たんげつ(名)　端月、はしつき(正月をいふ)
たんげつ(名)　淡月、ねぼろづき
だんけつ(名)　斷決、さばき
だんけつ(名)。—する(自)　團結、かたまり、むすびあひ(人民政黨などの)。ひとつにむすばる
たんけふ　赧顏、あかきかほ(愧たる面)
たんけん(名)　短劍、みじかきつるぎ、わきざし刀短(「たんたう」の下に圖あり)
だんけん[する](他)　擲見、ひらきみる
たんけん　短見、たらはぬかんがへ
たんげん(名)　誕言、いつはりごと
たんげん(形)　端嚴、れごそか(威儀正しき)
だんけん(名)　檀件、まゆみ(植物)
たんふ(名)　貪夫、よくばりもの
たんふ(名)　擔夫、かごかき、にもち
たんご　端午、おやめのせつ、五月節句(舊五月五日)
たんご(名)　單語、ひとつことば
だんご(名)　團子、糰子、糘子、摶子、丸餅、いしいし(食品)

だんごいし(名)　卵石黃(團子の如き石)
だんこつ(名)　斷骨、は(齒)
たんこう(名)　淡紅、うすべに、うすあか
たんこう(名)　短項、ねくび
たんこう(名)　短堠(一里塚)
だんこく　暖國、あたたかきくに
だんごく　斷獄、つみをさだめる(罪人の)
たんこぶ(名)　疾癇、からだのこぶ
だんこん　斷魂、たましひをたつ、うれふる、かなしむ
たんてい(名)　單丁、ひとりみ
たんてい(名)。—する(他)　探偵、れんみつ。又さぐること。探索、さぐりうかがふ
だんてい[する](他)　斷定、とりさばく、きめる
たんていぢやう(名)　短亭場、たてば、やすみば(道中の)
たんていり(名)　探偵吏、めあかし、れんみつ
だんてつ(名)　鍛鐵、きたへがね、熟練鐵
だんてつぢやう(名)　鍛鐵場、かぢば
たんてう(名)　丹鳥、ほたる(動物)
たんてふ(名)　短牒、ひめがき、ひくきいしがき
たんてきに(副)　端的、まのあたり、覿面
たんでん(名)　丹田、下腹、したはら
たんさ[する](自)　嘆嗟、なげく
たんざ　端坐、ただしくすわる
だんざ(名)　團坐、くるまざ、まとゐ、團欒、團居、(圓く坐るところ)
たんさい(形)　短才、わろか、不才、ちえたらぬこと
たんさい(名)　淡菜、いがひ、いのかひ(動物)

だんさい[する](他)　斷裁、きりたつ
だんざい(名)　斷罪、しざい、斬罪、死刑
たんざつ　短札、眞紙、みじかきてがみ
たんざく(名)　短冊(短冊を掛る物)
たんざう　淡粧、うすげしやう
たんさう　彈箏、ことをひく
たんさく[する](他)　探索、さがす、探偵、捜査、捜索、探捜
たんざく(名)　短冊、短尺、たんじやく(和歌を書く細き紙)
たんざくかけ(名)　短冊掛(短冊を掛る物)
たんざさう(名)　丹砂草、いはひば(植物)
たんさん(名)　單衫、ひとへもの、なつのきもの
たんさん(名)　炭酸(炭素の酸化)
たんさんう(名)　鰺魚(動物)
たんさんがす(名)　炭酸瓦斯(元素の名)
たんさんそうだ　炭酸曹達(藥品)
たんき(名)　膽氣、いきほひ、勇氣
たんき　單騎、いつさがけ
たんき(形)　短氣、きみじか
たんき(名)　彈棋、いしはじき
だんき　男氣、ととこぎ
だんき(名)　暖氣、あたたかさ
だんき[する](他)　斷棄、そてたつ
だんき(名)　彈機、たまぐすりのはこ
だんぎ(名)　彈機、はじきばね
だんぎ(名)　談義(法談、說法、講義等と云ふ)
だんぎぼう(名)　鮫、かまづか(動物)

たんきり(名)　截痰(痰を除く事或は物)
たんきりまめ(名)　鹿霍、野扁豆、きんちやくまめ、穭豆(植物)
たんきりめ(名)　琥珀餳、洋糖(あめの類)
たんぎよ(名)　丹魚、きんぎよ(動物)
だんきよ(名)　蹲居、まるね、くるまざ
たんきよう[する]　端拶、ただしくてをこまぬく(坐禪などの貌)
だんぎそう(名)　談義僧(法を說く僧)
たんきう[する](他)　探究、さがしきはむる
だんきう[する](他)　彈糾、ただしらぶる
だんきうを(名)　鰺魚(動物)
だんきふ(名)　段級、きざみ、きだ、だんだん
だんきん　彈琴、ことをひく
だんきん(形)　斷金(交の甚だ深きをいふ)、刎頸
だんきんのちぎり　斷金契、ふかきちぎり、ふかきまじはり
たんゆうてう(名)　丹雄鳥、あぶらにはとり(動物)
たんめい(名)　旦明、よあけ、あけがた
たんめい　短命、わかじに、夭死
だんめい[する](他)　彈明、ただしあきらむる
だんめつ[する](自他)　斷滅、たえる、たやす
たんめん　赧面、赤面、赧顏、あかきかほ、はぢたるかほ
たんみ　淡味、うすあぢ、さつぱりしたるあぢはひ
たんし(名)　端士、ただしきひと

たんし(名)　短視、ちかめ
たんし(名)　丹志、あかきこころ、まことのこころ、丹心
だんし(名)　檀紙(紙の名)
だんし　彈指、ゆびをはじく
だんし(名)　男子、をのこ、をとこのこ、をとこ
だんじ　談次、はなしついで
だんじ(名)　男兒、をとこのこ、をとこ
たんしとうから(名)　簞食豆羹、わりごめしまめじる(鹿末の食物)
だんじり(名)　檀輿、まつりのやたい、樂車、山車、だし(祭禮に出す)
たんじやう(名)　端緒、いとぐち、はじめ
たんじよ(名)　短處、みじかきところ、あしきところ、闕點、缺典
たんじよ(名)　端書、ただしくかくこと、又はしがき、はがき
たんしよう　探勝(山水の景色を探りて遊び歩くを謂ふ)
たんしよく[する](他)　啖食、くらふ、たべる
たんしよく　淡色、うすいろ
たんしよく　貪食、くひものをむさぼる
たんじつ(名)　誕日、うまれび、華生、生辰、誕節
たんじつ　短日、みじかきひ
だんしつ(名)　煖室、ひろ、あたたかきへや
たんじつ(名)　短銃、てづつ、みじかづつ
たんしや(名)　丹沙、あかすな、辰沙(朱を謂ふ)
だんしや[する](他)　彈射、はじきいる
たんしやう(形)　端莊、つつしみある、ただしき(品行行狀の)
たんしやう[する](他)　擔掌、つかさどる
たんしやう[する](他)　嘆賞、ほめそやす
たんじやう　單情、かたれもひ
たんじやう(名)　簞食、わりご、べんたう
たんしん(名)　單身、ひとりみ

たんしん(名)　丹心、まごころ、まことごころ
たんじん(名)　丹參、くはがたさう(植物)
たんじん(名)　短人、ちひさご、せびく、俑儡
たんそふ　丹藥、わかきこのは、紅葉、もみぢ(植物)
たんそふしやう(名)　丹藥松葉の短くして赤みたる小松、わかまつ(植物)
たんたん(名)　澹淡、まつ(松の異名)
たんたん　淡烟、うすきけぶり。かすみ
たんたん　淡曛、あまにはしほのからくわらぬこと
たんたん[する]　歎美、ほめる、讃歎
たんたん[俗]　毎度、たびごと
だんびら(名)　大刀、たはだち
たんもの(名)　反物、疋布、貨段(布帛を云ふ)
だんもの(名)　段物(箏瑠璃の類にて一段一段に分かれをる故に名く)
たんせい(名)　丹青、いろどり彩色。ゑ
たんせい(名)　丹精、丹誠、まごころ、赤心。又かせぐこと、勉強
たんせい(形)　淡清、あはき、さつぱりしたる
たんせい(形)　淡晴、のどかなる、ただやかにはれたる(天氣にいふ)
たんせい(形)　端正、ただしき、端嚴方正
だんせい(名)　男性、をとこのしつ、陽
だんせい(名)　談說、ときすすめ(自分の說を說き進むる事)
たんせつ[する][自]　短折、わかじにする、夭死
たんせつ(名)　淡雪、あわゆき
だんせつ[する][自他]　斷絶、たえる。たやす
たんせう(形)　短少、ちひさき、みじかき
だんせう(名)　談笑、はなしわらひ
だんせふ(名)　男妾、をとこめかけ
たんせき[する][自]　袒楊、はだぬぐ
たんせき(名)　痰咳(病名)
たんせき　旦夕、あさゆふ、朝夕
だんせき(名)　暖廂、たたみ、とこ
たんせん(名)　端船、はしぶね、はしけぶね
たんせん(副形)　赧然(恥て赤面する貌)
たんせん(名)　痰喘、せんそく(病名)
たんせん(副形)　湛然、たつぷり(水が十分たたへたる貌)
たんせん(形副)　端然、ただしげ。ただしく、ちやんと(端然と坐すなど云ふ)
だんせん(名)　團扇、うちわ
だんぜん(副)　斷然、はつきり、かたく
たんす(名)　簞笥、段子、簞子、擔櫥、衣櫃、衣厨、かたみばこ
たんすゐ(名)　膽水、にがみづ、膽汁
たんずる(他)　彈、ひく、かなづる(琴あどを)
たんすう　單數、ひとつかず(二つ三つならざるを謂ふ)

れ

レ、禮、戾、黎　是は「る」の父音と「い」の母韻と合して生ずる音にして五十韻中に在ては第九行第四段に位す。是も「らりるろ」と同じく純粋の日本語の首に在る

事殆ど無し、此音ある字は、重に支那より取れる者なりと知れ

れい(名)　禮、ゐや、れいぎ(人人相交るの儀式作法)。また感謝之辭、謝禮、謝詞、謝辭。また謝金、つかひもの、禮金、謝儀

れい(名)　零(算數の語にて空位を謂ふ、即ち一位の下の位是なり)

れい(名形)　靈、たま、たましひ、からだなきもの。めにみえぬ、からだなき(肉ならぬを謂ふ即ち虛靈の義)

れい(名)　例、ためし、つね。さだめ、きまり、れきて

れい(形)　冷、ひやゝか、ひやつこい

れい(形)　令、めでたき(節會などに用ふ)。めづらしき(人の妻女などに蒙らせて美稱となす令孃令閨などの如し)

れい(名)。—する(他)　令、れきて。いひつけ。いひつける、めいずる

れいろ(名)　蕨薑(りろ)をみよ(植物)

れいろう(名)　櫺欞、まど、れんじまど

れいろう(形副)　玲瓏、てりかがやく、さえる、すきとほる、あきらか。なりひびく(玉石等が)

れいはい(名)　靈牌、靈寶、ねけい(位牌)

れいはい(名)。—する(他)　禮拜、をがみ、崇拜。をがむ

れいはいばい(名)。—する(他)　禮拜堂、會堂、敎會堂。てら、みや

れいはう(名)　靈寶、たからもの、かんだから、みたから(寺社の)

れいはう(名)　靈棚、たまだな、招靈棚(死者の靈を安置する棚)

れいばう(名)　禮帽(禮式の時にかぶる帽子)

れいばう(名)　令望、人望、ほまれ、令聞、令名

れいはく(名)　玲玓、あらたま、たま、璞

れいはふ(名)　禮法、ぎしき、さはふ、禮儀

れいはん　冷飯、ひやめし、つめたいめし

れいはん　令範、よきてほん、よきのり

れいぼう(名)　枠棓、ひさかき(植物)

れいぼく(名)　靈木、かみぎ(神木)、あやしきき、あらたかなるき(神怪を示す樹)

れいぼく(名)　隷僕、しもべ、めしつかひ、奴僕

れいほん(名)　零本、はほん、はぐぼん、缺本

れいへい[する][自]　伶俜、伶竮、さそらひあるく、さまよふ。ひとりさびしくある

れいへい(名)　例幣、さだめのみてぐら(常禮の奉納物)

れいへいし　例幣使(伊勢等への常例の官幣使を謂ふ)

れいへう(名)　澪標、みをつくし、みをぐひ(海水潮汐の淺深を見る杭)

れいべう(名)　靈廟、たまや、靈屋、ねはいどころ

れいべう(名)　靈猫、靈貓、かをりねこ、麝香貓(動物)

れいべん[する][自]　勵勉、はげみつとめる

れいど　零度(寒暖計の一度以下の度と謂ふ)

れいど(名)　隷奴、やつこ、こもの、しもべ

れいど(名)　物奴、龍眼(植物)

れいとう(名)　黎豆、くろまめ、はつしようまめ、ねしやらくまめ(植物)

れいとく(名)　令德、よされてなひ、美德

れいち(名)　靈地、靈區、聖地、きよきところ(有名の神佛等の在る地)
れいぢやう(名)　令嬢、令孃(他人の女子を尊稱する詞)
れいぢやう(名)　黎杖、おかざのつゑ
れいぢやう(名)　靈場(靈地に同じ)
れいり(形)　伶俐、はしこき、かしこき、利口、智
れいりやうかう(名)　零陵香(草科)(植物)
れいりん(名)　伶倫、伶官、樂人、伶人、れんがくし
れいをいふ　拜謝、禮謝、鳴謝、厚謝、深謝、感謝、致謝、遺謝、陳謝、ゐやをのぶる
れいをく(名)　靈屋、たまや、れたまや
れいかい[する](他)　擾開、ねぢひらく、ねぢあける
れいから(名)　伶行、ひとりあるき、獨行
れいかく(名)　例格、きまり、さだめ格式
れいかく　唳鶴、なきわたるつる、鳴鶴
れいがく　禮樂(禮法と音樂)
れいがく(名)　伶樂(音樂に同じ)
れいかん(形)　厲悍、はげしくつよき
れいかん(名)　靈感、あらたかのききめ(神佛の感應を謂ふ)
れいかん(名)　囹圄、をり、ひとや、牢獄
れいかん(形名)　冷寒、つめたき、つめたさ
れいがん　厲岸、けはしききし、斷崖
れいよ(名)　零餘、わまり、はした、殘餘
れいよう(名)　禮容、禮貌、ぎやうぎ、ただしさかたち
れいよし(名)　零餘子、ぬかご、むかご(山芋の實)
れいたい(名)　靈臺、觀望臺の類、うてな、ものみだい
れいたい　靈體(靈體にして肉體ならざる者、卽ち神の體の如き是也)
れいたん(形)　冷淡、つめたき。ねつしんならざる。さびしき
れいれい(副形)　麗麗、あきらか、きらきら
れいれい(形副)　冷冷、つめたき。とんぢやくなき
れいそく(名)　令息、ごしそく(他人の子を尊稱する詞)
れいぞく(名)。—する(自)　隷屬、附屬者。つきしたがふ
れいそん(名)　令尊、ちちうへ(他人の父を尊稱する詞)
れいねつ　冷熱、ひややかさ及あつき
れいねん　例年、いつものとし。毎歲
れいなんちく(名)　嶺南竹(植物)
れいら(名)　靈螺、かぶとがひ、うに(動物)
れいらく(名)。—する(自)　零落、れちぶれ、落魄、滅亡。つぶれる
れいむ(名)　靈夢、あやしきゆめ、ふしぎのゆめ
れいう　冷雨、秋雨、ひやこきあめ
れいう　靈雨、よきしめり、よきあめ、甘雨
れいうとう(名)　零烏豆、がんくひまめ(植物)
れいく(名)　靈區(靈地に同じ)
れいく(名)　靈供、そなへもの(神佛への)
れいくわ(名)　靈華、いなびかり
れいくわい(形)　靈怪、あやしき
れいくわい(形)　例外、きまりのほか、きそくはづれ、格外
れいくわん(名)　伶官、樂人、音樂師
れいくつ(名)　靈窟、きよきいはや(神佛鎭坐の)
れいぐう(名)。—する(他)　禮遇、あつきあひしらひ。ねんごろにあしらふ

れいけい　令閨(他人の妻女を尊稱する詞)
れいけい(名)　禮敬、あつきうやまひ
れいけい　令兄、尊兄(他人の兄を尊稱する詞)
れいげつ　例月、れいのつき。毎月、つきなみ
れいげふ　勵業、わざをはげむ
れいけん[する](他)　冷嫌、いみきらふ
れいけん(形)　怜賢、かしこき
れいけん(名)　囹圄、をり、らう(牢)、ひとや
れいげん(名)　靈驗、いちぢるしきしるし(神佛よりの應驗)
れいげん(名)　黎元、れはみたから、たみ、百姓、黎民
れいげん(名)　例言、書物の初に添る凡例の言
れいげんのにやう　鴻原之情(兄弟の間の情を謂ふ)
れいげんてんわう　靈元天皇(人皇第百十二代の帝)
れいふ(名)　靈符、まもりふだ、ごふ、れまもり
れいぶつ　靈佛、いきぼとけ、あらたかのほとけ
れいふう(名)　勵風、いぬゐかぜ(西北のはげしき風)
れいふう(名)　冷風、おきかぜ、すずかぜ
れいふく(名)　禮服、はれぎ(儀式の時に着る衣服)
れいぶん(名)　令聞、よききこえ、ほまれ、美名、令名
れいぶん　例文、わけがき、まへがき
れいぶん(名)　零碎、はしたはすう(端數)
れいぶん(名)　靈山、きよきやま(有名の神佛を安置せる山)
れいき(名)　冷氣、ひややかさ、すずしさ
れいき(名)　靈器、みづのみ
れいき(名)　例規、さだめ、のり、法則
れいき(名)　厲鬼、疫鬼、にやみがみ、疫病神
れいき(名)　靈鬼、亡魂、たましひ(死者の)
れいき　靈龜、あやしきかめ
れいき(名)　零畸、はしたはすう(端數)
れいご(名)　囹圄(れいぎよ)、らう、ひとや、獄舍
れいご(名)　冷語、つめたきことば(冷淡無貪着の言語)
れいこう(名)　鈴口、すずぐち
れいこん(名)　靈魂、たましひ、魂神、魂魄
れいてい　令弟、尊弟(他人の弟を尊稱する詞)
れいてい[する](自)　零替、すたる
れいてん(名)　零點(寒暖計等にて一度の下を謂ふ)零度
れいてん(名)　禮奠、禮典、禮法、ぎしき
れいてん(名)　令典、法則、おきて、のり
れいわい(名)　令愛、れむすめご(他人の女子を尊稱する詞)
れいさい(名)　例祭、さだめのまつり(定例祭)
れいさい(名)　零碎、こまかれ、はした。くだけ
れいさい(形)　零細、こまか、こまごまとした
れいさつ(名)　零冊、はばん(帙本
れいさう(名)　齡草、よはひぐさ(菊の異名)(植物)
れいざう(名)　靈像、かみほとけのかたち(木像石像等)
れいさん[する](他)　禮讚、うやまひほむる
れいざん(名)　靈山、きよきやま(有名の神佛を安置せる山)
れいき(名)　冷氣、ひややかさ、すずしさ
れいき(名)　靈器、みづのみ
れいき(名)　例規、さだめ、のり、法則
れいき(名)　厲鬼、疫鬼、にやみがみ、疫病神
れいき(名)　靈鬼、亡魂、たましひ(死者の)
れいき　靈龜、あやしきかめ
れいき(名)　零畸、はしたはすう(端數)

れいぎ(名)　禮儀(人人交際間の擧動の法)
れいぎょ(名)　囹圄、らう、ひとや、獄舍
れいきゃく[する](自)　冷却、さめる、ひにる
れいきん(名)　禮金、謝金(人の功勞に報ゆる金)
れいめい(名)　令名、よきな、ほまれ、名聞
れいめい(名)　黎明、あかつき、ほのぼのあけ
れいめう(形)　靈妙、くすしき、ふしぎなる、神妙
れいめん(名)　冷麪、ひやむぎ
れいみん(名)　黎民、萬民、たみ、百姓
れいし　勵志、こころざしをはげます
れいし　令子、ごしそく、令息、賢息(他人の子を尊稱する詞)
れいし(名)　令旨(春宮太子親王のおほせぶみ)
れいし(名)　靈祀、たままつり
れいし(名)　櫺子、れんじ、まどがうし
れいし(名)　荔枝、りちあん、りちい、柘枝紅(植物)
れいし(名)　靈芝、ひじりたけ、さいはひたけ、まんねんたけ(菌の如くにして堅き者にて仙家の尙とぶ所(植物)
れいし(名)　苦瓜、にがうり、つるれいし、くされいし(植物)
れいしょ(名)　黎庶、蒼生、たみ、百姓、黎民
れいしょ(名)　隷書、書法の一体にして又佐書といふ
れいしょ(名)　鈴杵(獨鈷三鈷五鈷の類にして僧侶の祈禱に用ふる者)
れいじょう(名)。—する(他)　例證、ためし、あかし。(例を引て證を立る)
れいしょく(名)　令色、かほいろをよくすること(諂ふ等の爲に)
れいしょく(名)　麗色、春色、うららかなるけしき。又美色、かほよきこと
れいしつ　令室、令閨(他人の妻を尊稱する詞)
れいしつ　麗質、よきうまれつき、うるはしきたち
れいじつ(名)　例日、さだめび、きまりび
れいじつ(名)　鸚鵡、えつさい、すずめだか(動物)
れいしゃ(名)　靈舍、たまや(死人の靈魂を祀る處)
れいしゃ(名)　禮謝(れいをいふこと)、謝禮
れいしゃう(名)　伶倡、うたひまひ
れいじゃう(名)　禮讓、ゆづり、謙退、へりくだり
れいじゃう(名)　禮狀、謝書、れいてがみ
れいじゃう(名)　令狀、れふせがき、いひつけがき(官府よりの)、命令書
れいじゃう　冷情、不親切心、無貪着心、かまはぬこころ、淸情
れいじさう(名)　鈴兒草(植物)
れいしき(名)　禮式禮儀、禮法、れいぎのさだめ
れいしぎょ(名)　荔枝魚、まつかさうを(動物)
れいしゅ(名)　黎首、たみ、百姓、黎民
れいしゅ(名)　醴酒、ひとよざけ、あまざけ
れいしゅ(名)　醴酒、美酒、よきさけ
れいしゅ(名)　冷酒、ひやざけ
れいじゅぼく(名)　靈壽木、にのき(植物)
れいじゅつ(名)　靈術、ふしぎのはふ、魔法
れいしゅんくわ　麗春花、ひなげし、美人草(植物)
れいしん(名)　令辰、めでたきとき、良辰
れいしん(名)　靈槇、ひつぎ、棺、くわんをけ

れいじん(名)　伶人、樂人(音樂する人亦舞ふ人)
れいじん(名)　麗人、美人、うつくしきをんな
れいじん(名)　隷人、しもべ、奴僕、つぶね
れいじん(名)　靈神、あらたかなるかみ
れいじんさう(名)　牛扁(植物)
れいえん(形)　麗艶、うるはしき。うつくしき
れいびやう(名)　冷病、ひえわたり
れいもつ(名)　禮物、れいぐりもの、つかひもの
れいせい(名)　禮制、ゐやさだめ(禮儀の法則)
れいせい　勵聲、こゑをはげます
れいせい[する](自)　勵精、はげむ、せいだす
れいせい(名)　令正(人の妻を尊稱する詞)
れいせい(形)　冷淸、ひややかにきよき、すずしき
れいせい(名)　箬笠、かご、あみたるかご(漁夫等が持つ者)
れいせい　冷泉(氏)
れいせいてんわう　冷泉天皇(人皇第六十三代の帝)
れいせつ(名)　禮節、ゐやれいぎ
れいせつ(名)　令節、めでたきいはひび、嘉辰、佳節
れいせう(名)。—する(自)　冷笑、にがわらひ。せせらわらひする
れいせき(名)　礪石、あらと(荒砥)
れいせん(名)　禮錢、褒錢(神佛に獻ぐる錢)
れいせん(名)　醴泉、わきいづみ、さけみづ
れいせん(名)　靈籤、みくじ
れいせん　靈泉、ふしぎなるいづみ(甘泉の類を稱す)
れいせん　靈前、みたまのまへ(死者の靈の前)
れいす(名)　線帶、ひも、くみひも(英語)
れいすゐ　冷水、ひやみづ
れいずい(名)　靈瑞、あやしきしるし、くすしきしるし
れいすう(名)　零數、あまりのかず、はした
れいろれろ　遼來遼來(小兒の啼泣を賺し止むる詞)
れいだま(名)　鷹爪(草科の植物にて此名元は希百來語より出づ)(植物)
れつゐ　列位、ならべるかたがた、諸君、各位、きみがた
れつはく(形)　劣薄、わとれる
れつはん　列藩諸藩、もろもろのはん
れつはん(名)　列班、ならび、くみ、くらゐ
れつち[する](自)　列置、ならべおく
れつぢょ(名)　烈女、みさををただしきをんな、烈婦、こころざしつよきをんな
れつりつ[する](自他)　列立、ならびたつ。ならべたてる
れつわう　列王、よよのきみ(代代の王)
れつわうき　列王紀(代代の王の紀にして重に誓約書の中にある者を指す)
れつかん(名)　裂間、さけめ、われめ、罅
れつたう(名)　列當、はまうつぼ(植物)
れつれつ(副形)　烈烈(火の熾にもゆる貌)
れつそ(名)　列祖、累祖(代代の先祖)
れつそつ(名)　列卒、せこ、くみこ、つはものども
れつそう(名)　列宗(先祖代代)、列祖
れつくわ　烈火、はげしきひ、さかんにもゆるひ
れつくわう　列皇、列聖(代代の天皇)
れつくわん　列官、諸官人、もろもろのつかさびと
れつけつ(名)　列缺、いなづま、いなびかり、電

れつげき(名)　裂隙、さけめ、われめ
れつけん[する]　列見、ならびまみゆる(古へ二月十一日六位以上の人を撰出するに云へり)
れつぶ(名)　烈夫、こころざしつよきをとこ、烈士、愛國者
れつぶ(名)　劣夫、怯夫、懦夫、つたなきもの
れつぷ　裂創、はだへをつんざく(寒氣が)
れつぷう　烈風、はげしきかぜ、つよきかぜ、猛風
れつこう　列侯、諸侯、もろもろのきみ
れつこく　列國、くにぐに、諸國
れつざ[する](自)　列坐、ねならぶ、なみゐる
れつし　列肆、ならべるみせ
れつし(名)　裂繒、たちうを、刀魚(動物)
れつしや(名)　列車、つなぎぐるま(蒸汽車等の)
れつじやく(形)　劣弱、れとりてよわき
れつじゆ　列樹、なみき、ならべるき
れつじゆく　列宿(天の諸星宿　即ち二十八宿の如きを謂ふ)
れつえふう(名)　裂葉風、おきのわらし、のわき
れつびん　劣品、たとりしな
れつせい　列聖、代代の天皇を尊稱する詞)、列皇、列王
れつせき[する]　列席、ならびすわる、列坐
れつ(名)　寮、つかさ、局、官署、また別莊
れつ[する](他)　了、さとる、をはる
れつ(名)　料、材料、しな、もの、また代料、あたひ
れつる[する](他)　繚圍、とりまく、めぐりかこむ
れつい(名)　寮友、僚友、つかさともだち、わひやく、同役、同僚

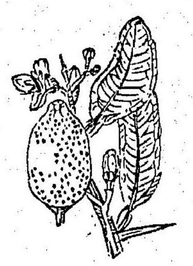
れつろう[する](他)　撩弄、もてあそぶ
れつはい(名)　寮輩(寮友に同じ)
れつとうのねのこ　遼東家、しれきつたこと(新説等に非るを謂ふ)
れつとく[する](他)　了得、さとる、のみこむ
れつぢ(名)。—する(他)　療治、わつかふ(病を)、いやす、なほす、醫療
れつり(名)。—する(他)　料理、とりわつかひ、處辨。(又俗に割烹の義に用ふ)
れつりにん(名)　料理人、庖人、庖宰、膳夫、庖厨人、くりやびと
れつりや(名)　料理屋、酒肉店、熟食店、割烹店、飲食店、ちやや
れつりやう(形)　寥亮、かすか、さびしき
れつりごしら(名)　料理掖、調理、庖丁、治饌、くひものごしらへ。こんだて
れつかい[する](他)　了解、さとる、わかる
れつかく[する](他)　了覺、さとりしる、さとる、了知
れつれつ(副)　了了、さとるかたち、はつきり(會得する貌)
れつれつ(副)　遼遼、はるばる、とほどほ
れつれつ(形)　寥寥、わづか、まれに、さびし
れつら(名)　蔥蠃、あをにし(動物)
れつらく(形)　寥落、ものさびしき、あれはてたる
れつらく[する](自)　遼落、おちぶれる、落魄
れつくわ(名)　燎火、にはび(庭火)
れつくわく(形)　寥廓、ひろびろ、かぎりなく(天の如く)
れつくわん(名)　僚官、つかさびと、やくにん

れうやう(名)。—する(他)　療養、保養、やまひをなほす、療治
れうけん[俗](名)　料見、了簡、かんがへ所存。又かんにん
れうけんする(自)　料見爲、かんにんする、ゆるす
れうご[する](他)　了悟、さとる
れうさ(名)　僚佐、寮佐、すけやく(助役)、補助、したやく
れうさつ[する](他)　瞭察、あきらかにみぬく、しりわきまへる
れうさう(名)　藁草、たでぐさ(植物)
れうさうきん(名)　療創金、きずてあてがね、療治代、きずだい
れうし(名)　料紙、ものかくかみ
れうし(名)　寮試(昔し行なひし大學寮の試驗を然かいへり)
れうし(副)　聊爾、卒爾、かるがるしく
れうしや(名)　寮舍、いほり、僧房、わん
れうえん(形)　遼遠、はるかにとほき
れうせう[する](自)　繚繞、まとひめぐる
れうせん(副)　瞭然、あきらか
れうせん(副形)　了然、すつかり、さつぱり
れふ(名)。—する(自)　獵、かり、かりする
れふば[俗](名)　獵場、かりば
れふば[俗](名)　獵漁(俗字)、漁濱、すなどりどころ
れふく(名)　鼯狗(鼬を有する猛獸にして亞非利加に多く產す動物)
れふでん(名)　獵田、かり、けものがり

（鼯狗の圖）

れふあみ[俗](名)　漁網、うをとるあみ
れふさう(名)　獵槍、かりやり
れふし[俗](名)　獵師、かりびと。又漁夫、すなどり
れふし(名)　鰡子、からすみ(鯔の子)
れふじう(名)　獵銃、かりづつ(獵に用る鐵砲)
れふしや(名)　獵者、かりうど、猟者
れふしてう(名)　獵子鳥、わとり(動物)
れふせん(名)　獵船、すなどりぶね、漁舟
れてぐ(名)　蘆等、りんだめ(毫蘆を正す小き桴子)
れきは(名)　礫署、づんばい、ふりづんばい、いしなげ
れきがく(名)　暦學、こよみのみち
れきだい(名)　歷代、代代、累世、よよ
れきれき(名形)　歷歷、擢紳、貴顯、貴族、豪族、名門、右族、いへがら、たふときいへ
れきれき(副)　歷歷、あきらかに、いちいち、ありあり
れきねん　歷年、年年、としながく
れきらん(形)　歷亂(花艸の咲みだれたる貌)
れきらん[する](他)　歷覽、歷觀、みわるく、みめぐる
れきくわい(名)　礫塊、こいしのかたまり、つぶて
れきやう(名)　瘧瘍、はれもの(病名)
れきてう　歷朝、歷代(天子の)、みよみよ
れきでん[する](他)　歷傳、へつたへる、つたへくだる
れきし(名)　歷史(人世進步の記錄即ち代代の記事)
れきしよ(名)　暦書、こよみぶみ
れきじつ(名)　暦日、こよみ
れきしや(名)　暦者、こよみはかせ、こよみつくり

れきえふ(名)　歴業歴代、累世、よよ
れきせい(名)　歴世、よよ代代
れきせい(名)　瀝青、ちやん(土中より出る汕の如き者にて物を塗るに用ふ)
れきぜん(形副)　歴然、あきらか。はつきり
れきすう(名)　暦數、天數、てんのさだめ、數(天命の如き事)
れきもん(名)　檸檬、利檬、黎檬(此圖は米國より傳へし小笠原島産の者なり)



(檸檬の圖)

れもんすゐ(名)　檸檬水、枸櫞水(酸き飲物の名)
れず(名)　沥鉛板、うすなまりいた
れん(名)　蓮はちす(植物)
れん(形)　廉、やすき(價の)又清淨潔白
れん(形)　練、ねりたる(手等にて。煉火にて。錬(打鍛ひて)
れん(名)　聯(詩句の一對を謂ふ)
れんい(名)　連漪、さざなみ、小波(河湖等にたつ)
れんいん　連陰、つづけぶり。つづけぐもり
れんいん(名)　連印、連署、連判(相並んで印を捺す事)
れんろ(名)　輦路、みゆきみち(天子の通路)
れんろう(名)　簾幃、のきすだれ、のきにたるるすだれ
れんろく(名)　欒肋、あばら
れんぱつ(名)。—する(他)　連發、つるべうち。つづけうつ(鐵砲を)
れんぱう(名)　蓮房、はすのみのさや、緑房(蓮の實を包みたる殻)
れんはく(名)　簾箔、すだれ。みす
れんはん(名)　連犯、同類、共犯(罪惡の)。なかまぐるみ
れんぱん(名)　連判(連印に同じ)
れんにう(名)　練乳、ねりぢち
れんにく(名)　欒肉、ししむら、きりたるにく
れんにく(名)　蓮肉、はすのみ
れんにや(名)　練若(蘭若に同じ、佛寺を云ふ梵語)
れんぱ[する](自)　練歩、ねりあるく
れんぽ(名)。—する(自)　戀慕、こひしたふこと。ほれる、戀着、眷戀
れんぱう(名)　連峯、つづきみね、みねつづき(山脈の)
れんぺい(名)　練兵、調練、演武、いくさげいこ
れんぺいじよ(名)　練兵所、てうれんば
れんどう(名)　變童、わかしゅ、かげま、れかまこぞう
れんち(名)　廉恥、はぢ、はづべきをはづること
れんちよく(形)　廉直、いさぎよくただしき、潔白、きよき(心術が)
れんちう(名)　簾中(公卿の妻を云ふ)
れんぢう[俗](名)　連中、なかま、くみ
れんぢやく[する](自)　戀着、戀慕、こひれもふ、ほれこむ
れんり　廉吏、いさぎよきつかさびと、潔白の官人
れんり　連理、あひれひ(二本の樹にして其木理相合して一となれるを謂ふ)
れんりぼく(名)　連理木、あひれひのき(連理を見よ)
れんりつ[する](自)　連立、つれたつ、ならびたつ(合併して立つ)
れんりのちぎり　連理契、あひれひのかたらひ(偕老同穴

の契約を謂ふ)
れんりさう(名)　山黧豆、山黎豆(植物)
れんりん[する](他)　憐憫、あはれむ
れんるゐ(名)　連累、かかりあひ、同類(罪惡の)
れんか　輦下、みやこ、れひざもと(天子の)
れんか(名)　連綿、まひぎれ、からさを(農具)
れんか　廉價、安直、下直、やすきあたひ
れんが(名)　連歌(二人にて上下の句を作る三十一文字の歌)
[れんから](名)　練絞、ねりぐり(絹布の名)
れんがふ(名)。—する(自)　連合、聯合、つらなりあふこと、合併。一致
れんがし(名)　連歌師、れんがをするひと、れんがにたけたるひと
れんよ(名)　輦輿、みこし(天子の)
れんたい(名)　聯隊(兵隊の區分の名)
れんたい(名形)　連帶、ともにすること。もろともに
れんだい(名)　輦轂、肩輿、かたにかつぐのりもの
れんだい(名)　蓮臺、はすのうてな、蓮花座(佛などの坐する)
れんだい(名)　簾内(簾中に同じ)
れんたつ(名)。—する(自)　練達、ねれあがり。ねれる、熟練
れんだう(名)　輦道、みゆきみち(天子の)
れんたく[する](他)　揀擇、にらむ、ゑりぬく
れんたん(名)　煉炭、ねりずみ、たどん
れんたん(名)　煉丹、ねりぐすり、ねりやく
れんれん(副)　漣漣(涙の流るる貌)、さめざめ
れんれん(形)　戀戀、ほれぼれ(女または男に戀焦る貌、また利慾に迷ふ貌)
れんぞく(名)。—する(自)　連續、つづき、つづく
れんねん　連年、しきりとし、比歳、多年、としどし
れんらく(名)。—する(自)　聯絡、連絡、つづき、つらなり。つらなる
れんらく(名)　煉酪、バタ、牛酪
れんらま(名)　款蘿蔴、かがみぐさ、白蘘、鵝抱蝿(植物)
れんう(名)　連雨、ながあめ、あまつづき
れんう(名)　蕷芋、えぐいも(植物)
れんく(名)　聯句、連句(一對の詩句)
れんくわ(名)　蓮花(れんげ)、はちすのはな
れんぐわ(名)　煉瓦、ねりがはら(土を煉て燒たる者)
れんぐわし(名)　欒花子、むくれんじ(植物)
れんぐわせき(名)　煉瓦石(土を燒て作れる者)
れんくわん(名)　連環、くさり、つづきわ
れんや　連夜、よなよな、毎夜
れんやく(名)　煉藥、ねりやく
れんやく(名)　煉磨、錬磨、ねりみがく(能力等を)
れんま[する](他)　練麻、ねりそ、ねりあさ
れんげ(名)　蓮花、はちすのはな(蓮華、荷玉環、又はちす(植物)
れんけい(他)　憐惠、あはれみめぐむ
れんげい(名)　蓮華衣(袈裟を謂ふ)
れんけいくわ(名)　蓮華花、さくらさう(植物)
れんげばな(名)　碎米薺、くさのを(植物)
れんけつ(形)　廉潔、いさぎよき、清淨潔白

れんげつ　連月、毎月、つきづき
れんげつつじ(名)　羊躑躅、きれんげつつじ、もちつつじ(毒ある草)羊不食草(植物)
れんげう(名)　連翹、あはくさ、いたちぐさ、連苕、異翹(植物)
れんげさい(名)　蓮花菜、くぐい(植物)
れんげさう(名)　紫雲英(植物)
れんげえ(名)　蓮華衣、れんげいげさ
れんげけん(名)　練絹、ねりぎぬ
れんご(名)　連語、つづきことば(單語に反す)
れんこう[する](自)　孿拘、ひきつる、ちぢまる(筋等が)
れんこく(名)　蜵穀、みくるま(天子の)又みや(天子の)
れんこくのもと　蜵穀之下、みやこ、れひざもと(天子の)
れんこん(名)　蓮根、はすのね、蓮藕、藕根、荷根
れんていせい(名)　廉貞星、北斗の第五星玉衡をいふ)
れんてう　連朝、毎朝、あさなあさな
れんでう(名)　鍊條、かねのくさり
れんぎ[する](自)　連坐、まきぞへになる(罪囚の)
れんさい[する](他)　鍊淬、きたふ、やきをかける
れんさい　連歲、毎歲、としどし
れんさく(名)　鏈索、くさり(金の)
れんざく(名)　簀債、(れんじやく)に同じ)
れんざん(名)　連山、つづきやまつづけるやま
れんぎ(名)　楝木、すりこぎ
れんきよ[する](他)　揀擧、にらみわぐる
れんきやく(名)　蠻脚、ちぢみあし、かがみあし、ひきつりあし
れんきふ[する](自)　連及、かかりわふ、まきぞへになる

れんきふ(名)　孿急、ひきつり、かがまり
れんきふざう(名)　連及草、白及、しらん(植物)
れんきん　煉金、ねりこがね、きたひこがね
れんめい　連名、なまへ、をならべしるす、連署。又もろともにすること
れんめい[する]　連盟、同盟、ちかひむすぶ
れんめん(副形)　連綿(長くつづく貌)聯綿、たえざるかたち
れんみん[する](他)　憐愍、あはれむ
れんし(名)　鍊師、ねれけもの、ものなれたるひと
れんし(名)　連枝(兄弟姉妹をいふ)はらから
れんし(名)　孿子、ふたご
れんし(副形)　漣洏(涙ながるる貌)、さめざめ
れんし(名)　櫺子、櫺子、櫺子、まどがうし、かうしまど、籠窓
れんしよ[する]　連署、連名(願書等に並で名を記るすをいふ)
れんじつ　連日、毎日、ひびれんじう[する]　鍊脩、ねりをさむる、つとめまなぶ修行
れんしや(名)　聾車、てぐるま
れんじやう(名)　戀情、戀慕心、こひ、あはれごころ
れんじやうばう　蓮生坊(熊谷直實の出家して名のりたる名號)
れんしやく　連借、わひがり(二三人合併連名にて金を借る事)
れんじやく(名)　簀債、連尺、連着(物を脊負ふに用ふる繩)

れんじやく(名)　練鵲、連雀(ささぎの屬)長尾三娘(動物)
れんじまど(名)　櫺子窓、籠窓、からしまど、からしまど、かうしまど
れんしゆ(名)　煉酒、ねりざけ
れんじゆつ[する](他)　憐恤、あはれむ、憐憫
れんじゆく[する](自)　練熟、なれこむ、たくみになる
れんしゆくわ(名)　聯珠果(林檎をいふ)(植物)
れんえふ　蓮葉、はすのは
れんひん(形)　廉貧、清貧、いさぎよくしてまづしき
れんびん(名)(形)—する(他)　憐憫、あはれみ、あはれむ
れんせい[する](他)　練精、ねりあげる、みがきあぐる
れんせつ(名)　廉節、いさぎよきこころがけ
れんせつせんだん　欒切千斷、ずたずたにきりきざむ、きりさいなむ
れんせう　連宵、毎晩、よひよひ
れんせん[する](他)　揀選、えりぬく、にらむ
れんせん　連戰、いくさごと、毎戰
れんせん(形)　連錢、せにをつらねたる(馬の毛色にいふ)、とらげなる、ぱつぱつある
れんせん(副)　漣然(涙の流るる貌)
れんせんう(名)　蓮禪芋、たはいも、はすいも、白芋(植物)
れんせんわしげ(名)　連錢鷲、れんせんがたのうま
れんせんさう(名)　連錢草、つぼぐさ。或ひしばかさぎぼし(植物)

(練鵲の圖)

そ

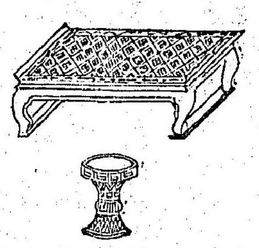
ソ、曾、蘇、素、十。ゾ、叙存　是は「す」の父音と「れ」の母韻と合して生ずる音にして五十韻の中にては第三行第五段に位す
そ(名)　祖、さきのおや、せんぞ。はじめのもや
そ(名)　十、とを、じふ(古語)
そ[する](自)　蘇、よみがへる
そ(名形)　素、もと、したぢ、したでしらへ。しろき、かざらぬ。もとよりの
そ(形)　粗、あらき、そまつ、麁
そ(形)　疎、うとき、したしからぬ
そ(名)　芋、と、おさ。おさいと
そ(名)　衣、ころも、きもの
そ(名)　祚、くらゐ、あまつひつぎ(天子の位)
そ(名)　酥(牛乳より製したる食物)。あまざけ
そい(名)　素意、もとよりのねもひ、かねてののぞみ、素志、宿願
そい　疎意、うとうとしきこころ
そい　麁衣、そまつのきもの、粗服、あしききもの
そいつ[俗](代名詞)　其奴、そのやつ、かやつ、きやつ
そいう(名)　遡遊、ふなあそび(川に溯りなどして遊ぶ事)
そろ(形)　粗鹵、ぶてつ、あらつぱしい
そろばん(名)　算盤、算馬、十露盤、數量盤(顆にて物を算ふる器)
そろへる(他)　揃、整、排列、そろはせる

そろりと〔俗〕〔副〕　緩、そろそろ、しづしづ、しづかに
そろそろ〔副〕　徐徐、しづしづ、いそがずに、れもむろに
ぞろぞろ〔俗〕〔副〕　絡繹、ひきつづきて、接踵、比肩
ぞろぞろみづ　小流水、こながれ、ちよびちよびながれ
そろう〔形〕　粗陋、あらき、そまつ
そろう〔形〕　疎漏、おろそか、そまつ
ぞろびき〔名〕　曳後、長裾曳地（衣裳の裾の長く地に曳ける者また之を曳く事）
そは〔名〕　崖、陀、嶮曲、阻、峻険、けはしきところ（山の）、がけ
そは〔副〕　蓋、それは、いかにとなれば
そは〔名〕　素波、さざなみ、しらなみ
そば〔名〕　傍側、かたへ、かたはら
そば〔名〕　蕎麦、烏麦、甜麦（此粉を捏て切りて食物を製す）（植物）
そはい　鼠輩、かずにもわらぬものども、いやしきやつばら
そばいうひつ〔名〕　侍史、れくいうひつ、秘書
そばばら〔形〕　妾腹、めかけばら（妾の産める）
そばへる〔自〕　妲嬖、なれなれしくなる。わまへる（そばえるとも書く）
そばを〔名〕　傍夫、私夫、密夫、まをとこ、みそかを
そばをしさ〔名〕　鼯鼠、むささび（動物）
そはか　娑婆訶（梵語の呪文の末に云ふ詞、また薩婆訶、莎嚧訶等と書く誠に然りと謂ふが如し）
そばがは〔名〕　半面（はんめん）
そばがら〔名〕　蕎麦殻、そばのから（磨にひきたる後の）
そばかき〔名〕　蕎麦掻、黒見、河漏、粗麪（蕎麦粉とねりたる食物）
そばかす〔名〕　雀斑、飼面、黔皰、雀子斑（面に生ずるふすべ）
そばかすがは　雀斑面、ふすべだらけのかは
そばだつ〔自〕　峙、そびえたつ、たかくそびゆる（山等が）
そばだてる〔他〕　欹側、かたむける（耳、枕等を）
そはそは〔形〕　碾磑、碾礰、碾礰、たひらかならぬ、たかひくがある。ごろつく
そばそばしき〔形〕　疎疎敬、うとうとしき、したしからぬ
そはつ　梳髪、かみをくしけづる、かみをとかす
そはつ〔する〕〔他〕　狙撃、ねらひはなつ（銃砲を）
そばづかへ〔名〕　侍臣、侍児、侍者（そばちかくめしつかはるるもの）。れもとびと、侍女、こしもと
そばつく〔自〕　屹立、そびえたつ、たかくそびゆる
そばつく〔自〕　狎遊、そばへる、そばえる、なれなれしくする。ふざける
そばつゑ〔名〕　傍杖（傍に居て人とともに打たるる事）、つゑのしやうばん
そばむ〔自〕　傍視、かたはらよりみる
そばう〔名〕　素望、かねてののぞみ、宿願
そばう〔形〕　粗暴、麁暴、あらあらしき、てわらき、疎暴、疎妄
そばうり〔名〕　棱瓜、胡瓜、黄瓜（植物）
そばのき〔名〕　柧棱、きのな（植物）
そはく〔形〕　素白、しろき。かざりせぬ
そはく〔する〕〔自〕　訴白、いひひらきする
そばや〔名〕　蕎麦屋、蕎麦店、蕎麦商、分茶店、そばうるいへ
そはやり〔名〕　魚條、すはやり
そばきり〔名〕　蕎麦麺、河漏、そば（食物）

そばめ〔名〕　傍婦、傍妻、嬖女、妾、めかけ、てかけ、をんなめ
そばめる〔他〕　側、そばだてる、よこにする、よこさまにする（身、目等を）
そばめづかひ〔名〕　天弔眼、そらをみるめつかひ、偸視、竊視
そはみち〔名〕　嶮路、がけみち、けはしきみち
そばえる〔自〕　妲嬖、なれなれしくなる。たはむる、ふざける
そはん　麁飯、そまつなめし、おしきめし
そにどり〔名〕　鳩鳥（動物）
そにん〔名〕　訴人、原告、うつたへにん
そは〔形〕　赤、あかき丹
そぼ〔名〕　祖母、ばば（父母の母）
そほに〔名〕　赭土、あかつち
そぼぬれる〔自〕　透濡、ぬれわたる
そほづ〔名〕　柴山子、かがし、とりおどし
そぼつ〔自〕　添雫、しただる。ぬれかへる
そほう〔名〕　疎縫、あらぬひ、しつけぬひ
そほう〔名〕　素封（爵祿なけれども富たりて王侯にも比すべき者をしか謂ふ）
そぼく〔形〕　素朴、素樸、きのまま、かざらぬ。しつぼく
そぼふる〔自〕　霡霂、しよぼしよぼふる、たにずふる、しつぱりふる（雨が）
そへぼし〔名〕　補星、そひぼし、つきそふほし（月の地球に於るが如し）
そへお〔名〕　添乳（共に臥して乳をのまする事）
そへる〔他〕　添、副、つけそへる、くはへる
そへがき〔名〕　添書、つけたしがき、なはながき。又人を紹介する時等與へる書状、薦書。また信用書（銀行にて渡す）
そへがみ〔名〕　添髪、假髪、髢、髲、つけがみ、かもじ
そへかん〔名〕　添簡、そへぶみ、そへてがみ、薦書
そへつかひ〔名〕　副使（ふくし）、たすけのつかひ
そべう〔名〕　祖廟（先祖の靈を祀れる處）、れたまや
そへうま〔名〕　駿（車の轅の外につける馬をいふ）・又のりかへうま
そへぐるま〔名〕　厮車、副車、のりかへぐるま、つきそひぐるま
そへふぐり或そひふぐり〔名〕　癪疝、せんきのたぐひ（病名）
そへふで〔名〕　贅筆、そへがき、かきそへ
そへぶみ〔名〕　副書、添書、そへがき、そへかん
そへき　粗壁、あらかべ
そへじやう〔名〕　添状、そへてがみ、そへぶみ
そへもの〔名〕　副器、つけそへもの、つきもの、附屬物
そと〔名〕　外、ほか、れもてがは
そど〔名〕　鼠聲、ねずみれどし
そとば〔名〕　窣堵婆、卒塔婆（經文を書て墓場に立る木片また方墳などをいふ）
そとばり〔名〕　外濠、外壕（城の外の濠）
そとべ〔名〕　外方、そとのかた
そとべい〔名〕　外塀、外障、そとがこひ、そとのへい
そとがは〔名〕　外側、そとべ、そとのかた
そとがまへ〔名〕　外構、そとのつくり

そとう(名)　俎豆、そなへもの(祭器)
そとうぎょ(名)　鼠頭魚、しらぎす、あをぎす(動物)
そとうみ(名)　外洋、外海(大海をいふ、入海に對す)
そとのり(名)　外法、外規、外面寸尺、そとのすんしやく
そどく(名)　素讀、すよみ、ただよみ(講義せずに只讀む事)
そとぐるわ(名)　外郭、そとのまち(城の)、羅城
そとぐるま(名)　外車(燕巢船の車の船外に附きたる者)
そとくるぶし(名)　外踝、あしくびのそとがは
そとぎぬ(名)　外套、外衣、うはぎ、はれるきもの
そとも(名)　外面、背面、うしろおもて、そとがは
そち　曾雌(氏)
そち(代名詞)　彼、そこ、かしこ、其方(そのはう)、れまへ
そち[する](他)　措置、わく、はからふ
そち(名)　疏地、あをものばたけ
そちよく(形)　素直、すなほ、しやうぢき
そちや　鹿茶、粗茶、そまつなちや、おしきちや
そちん[する](他)　訴陳、うつたへる、いひひらく
そり(名)　反、そりかへること、反張
そり(名)　鼠李、くろつばら、なべからし、れほくろむめもどき(植物)
そり(形)　疎離、まばら
そり(名)　橇、雪車、拖床、秧馬、ゆきぐるま(雪上を曳く車)

(俎豆の圖)



そり(名)　剃刀、かみそり
そりばな(名)　反鼻、鼢、わふむきばな(仰鼻)
そりはし(名)　反橋、輪橋、たいこばし
そりかへる(自)　反却、そりまがる
そりやく(形)　疎略、麁略、れろそか、そまつ、なげやり、かまはぬ
そりまち　反町(氏)
そる(自)　反、撓、歪、彎、咯曲、そりまがる
そとう(名)　狙翁、さるつかひ、さるひき、さるまはし
そわり(名)　楚割、魚條、すはやり、背割、せわり(魚の)
そわう(名)　素王(曾祿なけれども徳みちて自然に帝王に比す可き者孔子の如き是なり)
そが　蘇我、曾我、宗我(氏)
そかい[する](他)　疏解、まうしひらく、いひひらく、きりひらく、ときあかす
そかい[する]　疎開、かりこむ、疏開(枝を)、すかす
そがい(名)　阻礙、じやま、阻碍、さまたげ、さはり
そがべ(名)　曾我部(氏)
そかう　鹿肴、そまつなさかな
そかう[する](自)　殂薨(貴人の死するを云ふ)
そがう(形)　疎豪、あらあらしき、ほしいままなる、つつしまぬ
そがう　十河(氏)
そかく[する](他)　疎隔、うとむ、うとんずる、疏隔
そかく[する](自)　阻隔、かけへだたる
そかく[する](他)　沮格、とどむる、はばむ、ささへる
そがく(名)　租額、みつぎだか(租稅額)

そがふぼく(名)　蘇合木(植物)
そがふかう(名)　蘇合香(藥品)
そかふゆ(名)　蘇合油(蘇合木の油)
そがぎく(名)　承和菊(黃菊をいふ)、さぎく(植物)
そがひ(名)　背向、うしろむき
そがん　素顏、すがほ、れしろいぬらぬかほ、素面(すめん)
そよりと(副)　輕輕、そよそよ
そよかぜ(名)　微風、輕風、そよそよふくかぜ、すこしのかぜ
そよそよ(副)　輕輕、習習(風の少しづつ吹く貌)
そよそよかぜ(名)　輕風、微風、そよそよふくかぜ。ちひさきかぜ
そよう(形)　疎慵、ぶしやう、ものうき
そよぐ(自)　戰、そよそようごく(木葉が)、蕭條
そよや　驚破、すはや(驚歎の詞)
そよふく(自)　戰吹、そよそよふく(風が)習習吹
そよめく(自)　微動、そよぐ、そよふく
そよみ(名)　素誦、すよみ、そどく
そだ(名)　麤朶、粗朶、柴枠、柴、しば、たきぎ
そだに　曾谷(氏)
そだつ[する](他)　楚撻、うちたたく、むちうつ
そだつ(自)　生育、生長、育長、生立、發達、發生、發育、れひのびる、れはきくなりゆく
そたう(名)　素湯、さゆ、しらゆ、ただのゆ
そだう(名)　祖道、はなむけ、祖宴、おかれのさかもり
そだう(名)　祖堂(祖廟に同じ)
そたふ　訴答、うつたふるこたふる(訴訟答辨)
そだてる(他)　生育、養成、鞠育、撫育、やしなひあげる。培養(木と)
そだん[する]　嚏斷、かみるき、くひきる(齒にて)
それ(代名詞)　某(誰或何と名を言はずして指す詞)、ある(或)
それ(副)　夫(發語の詞)、さて
それい(形)　粗厲、あらき、あらあらしき
それい(名)　粗糲、そまつなめし、おしきくひもの、粗食
それる(自)　外、はづれる、逸逃
それがし(代名詞)　某(己の名を言はずして自ら指す詞)、われ。又なにがし
それたか(名)　逸鷹、逃鷹、にげたるたか、はなれだか
それや(名)　逸矢、それたるや。ながれや
それん(名)　素練、しろねり(絹にいふ)
それん(形)　素廉、いさぎよき、わたくしなき、潔白
そそ(形)　楚楚、きよらか、さつぱり
そそろに(副)　坐漫無端、はしなく、不覺、無故、なにとなく、わけもなく、れのづから
そぞろごと(名)　譫語、うはごと。獨語、とはずがたり
そぞろあるき(名)　漫行、遊行、逍遙、あそびあるき、散歩、散策、曳杖
そぞろさむき(形)　輕寒、なにとなくさむき
そそかしい[俗][形]　粗粗敷きをつけぬ、うつかりな
そそう[する](自)　鼠走、こそこそにげる
そそう(名)　祖宗(祖先を謂ふ)
そそのかす(他)　敎唆、唆、擽、をだてる、すすめこむ、煽動
そそく[する](自)　鰥息、よみがへる

そそぐ(他自)　灑、洒、濺、注、瀉、灌、漑、泛灑、注射、灌漑、灌注、浸灌、流灌、まきかける水を。ながれこむ。うちかかる
そぞく(形)　粗俗、ぶさはふ、ぶしつけ
そそくさん(名)　鼠足菌、ねずみたけ(植物)
そそやく(自)　耳語、囁、私語、ささやく
そそけばね(名)　鬆鬆、みだればね(鳥の羽の亂れたる者)
そそける　生毛、けばだつ
そつ(名)　帥(太宰府の長官)
そつ(名)　卒(兵士の最下等なる者)、わしがる
そつば[俗](名)　反齒、噛齒、齟齒、それるは、でつば
そつばう[俗](形)　卒放、ぶさはふ、ぶしつけ
そつばう(名)　卒亡、とんし(頓死)
そつと[俗](副)　柔、そろりと、しづかに、密、ひそかに
そつと(名)　卒土(全國を謂ふ)、あめがした
そつとのひん　卒土之濱、つづうらうら
そつとする[俗](自)　慄然、震慄、みぶるひする。又みにしみる(怖れて)
そつちう或そつちうぶう(名)　卒中、卒中風、にはかちうぶ(急に死ぬる病)
そつりやく(名)　率略、あらまし、概略
そつたう[する](自)　卒倒、ゆきだふれる、たちまちたふれる(急病などにて)
そつたく[する](自)　啐啄、ついばむ
そつそつ(副)　卒卒、いそがはしく。あはてて
そつう(名)　楚痛、うづくこと、いたみ
そつう[する](他)　疏通、ひらきとほす(湖水等を他に)
そつげふ(名)　卒業(學業を終る事)
そつげふしやうしよ(名)　卒業證書(學業を終りし證として與ふる證明書)
そつげふせい(名)　卒業生(卒業をなせる學生)
そつぷ(名)　肉汁、醬汁、湯菜、つゆもの
そつご(名)　卒伍、くみ(兵士の)
そつきよ[する](自)　卒去、しぬる、みまがる(貴人の)
そつし(名)　卒死、にはかじに、とんし
そつと(副)　卒時、すぐに、即刻
そつと(形副)　卒爾には、うちつけ。ゆくりなく、かるがるしく
そつせん[する](自)　卒先、さきだつ、さきにすすむ、先導
そつぜん(副)　卒然、にはかに、突然
そつする(自)　卒、しぬる、沒(貴人にいふ)
そね　曾祢、曾根(氏)
そねむ(他)　嫉、妬、ねたむ、妬忌
そねんさう(名)　鼠粘草、ねずみねやし(植物)
そなはる(自)　具、具備、そなへある。もちてをる、みにつきてある
そなへ(名)　備準備、豫備、設備、したく。豫防、ふせぎ。行伍、くみたて(兵の)
そなへる(他)　備、具、具備、完備、ととのへる、したくして置く。もちてとる。供、ささげる
そなた　其方、其許、そこもと
そなれまつ(名)　矮檜、ひばのたぐひ(植物)
そら(名)　空、天、霄、虚空、蒼穹、わをそらもまた[俗](形)まことならぬ、うその、佯、虚、僞、詐
そらいろ(名)　空色、天色、あをみどりいろ

そらとぼける(自)　詐惘、佯爲不知、しらぬかほする
そらどけ(名)　緩解、しやらどけ(絹の帶などが獨りにて自らとくるを謂ふ)
そらわらひ(名)　睨嘻咿嚅睨、巧笑(强て笑ふ事)、うそわらひ、つくりわらひ
そらよみ(名)　暗誦(あんしよう)、れぼえよみ(文字を見ずによむ事)
そらだき(名)　暗薫、空燒(香を焚く事)、かうくゆらし
そらつかふ[俗](自)　佯爲、そらとぼける、うそつく
そらつかひ[俗](名)　欺妄者、そらとぼけるもの。うそつき
そらつんぼ　佯聾、いつはりつんぼ
そらね(名)　浮根、あがりね(樹の)
そらね(名)　假聲、うそのこわいろ
そらね(名)　佯寐、そらねむり、うそねむり、僞寢、貉睡、たぬきねいり
そらねむり或そらねぶり(名)　陽睡、そらね、ねむりたるまね
そらなき(名)　佯泣、うそなき。なきまね
そらう(名)　鼠狼、いたち(動物)
そらうたがひ(名)　狐疑、まどひ
そらく[する](自)　殂落、かみあがり(天子の崩御をいふ)
そらまけ　僞負、うそまけ、佯敗
そらまめ(名)　蠶豆、胡豆、元修菜、雪割豆、ねはきなるまめのな(植物)
そらごと(名)　妄言、虚言、空言、虚談、浮言、流言、むだごと、あだしごと、うそごと、いつはりごと
そらごころ(名)　僞心、いつはりごころ
そらぢや(名)　虚鞘、うそざや(刀身よりも長くしたる鞘)
そらめ(名)　僞目、空視、上視、ものみるまね、うそみ。また誤視、みあやまり
そらめつかふ　虚視、盲視、うそにものをみる、みるまねする
そらみみ(名)　僞聽(聽かぬ事を聽きしと思ふ事)、そらぎき
そらひじり(名)　僞聖、にせひじり。なまぐさばうず
そらす(他)　外、はづす、それしむる
そらん(形)　疎懶、ぶしやう、ものぐさき
そらんずる(他)　諳、暗記、暗誦、こころにたぼえる
そむく(自)　背、負、畔、乖、倒、忤、戻、違、違反、乖戻、孤負、乖叛、悖戻、もとる。叛、むほんする
そう[する](他)　奏、まうしあぐる(天子に)。れてなふ(音樂を)
そう(形)　總、すべての、みなの、のこらずの
そう(名)　嫂、あによめ
そう(名)　叟(老人を謂ふ)、翁、おきな
そう(名)　僧、ばうず、法師、ふとし、よすてびと
そう(名)　層、かさね、へ(一重二重の)
そう(名)　鰺、いしもち(動物)
そう(名)　楚鳥、はしぶとがらす(動物)
ぞう(他形)　贈、れくる。れくれる
そうい(名)　僧衣、ばうずのころも、僧服
そうい(他)　贈賄、れくる、やる
そうね[する](他)　贈遺、れくりやる
ぞうね　贈位、くらゐをれくる。又れくれるくらゐ(共に死

後に用ふ）

そうろ(名)　走路、にげみち
そうろう(名)　層樓、にかい、かさなれるま(屋の)
そうろく(名)　總錄(座頭盲人の長)
そうろん(名)　總論(書籍の最初に掲げる全體の概論)
そうば(名)　竈馬(竈雞、こほろぎ(動物)
そうはつ[俗][自]　惣髪(月代「さかやき」を剃らざる頭)
そうはつ(名)　髪髪、つけがみ、いれげ、かもじ
そうばな(俗)　總纏頭(家の内の人一同へ殘らず與ふる纏頭)
そうばう(形)　怱忙、慌忙、いそがはしき
そうばう(名)　僧坊、てら、庵、あん)
そうはく[する][他]　奏白、まうしあげる(天子に)
そうはく(名)　叢薄(草木のまじり茂る所、くさむら
そうはくこん(名)　葱白根、ねぎのしろね
そうに　僧尼、ばうず及あま
そうにん(名)　奏任(勅任の下にして天子に奏請して任ずる官)
そうほ[する][他]　增補、ふやす、ねぎなひます
そうほん(名)　送本(書物を送り遣る事)
そうへい(名)　甑箆、こしきのす
そうべつ[俗][副]　總別、そうたい(總體、れほよそ
そうべつ(名)　送別、わかれをれくること、遠行する人を送る事)
そうべう(名)　宗廟先祖の靈を祭る處、れたまや
そうべん(名)　總鞭、いしもち(動物)
[そうと](名)　宗徒、ひねと臣下の中の重だてる者)
そうと(名)　僧徒、ばうずども
そうとう[する][自]　蹭蹬、たふれる
そうとう[する][他]　總統、すべくくる、つかさどる
そうとう(名)　葱頭、ねぎのたま
そうとう(名)　蹭豆、きつねまめ、のあづき(植物)
そうとく(名)　總督、かしら、つかさ、をさ
そうとく[する][他]　捜得(しうとく)、さがしうる
そうどしより(名)　惣年寄(町村の惣長)
そうち[する][他]　送致、れくりやる
そうちょう(名)　叢塚、無緣塚、やぶづか
そうちょう(名)　層重、かさね、かさなり
ぞうちう　增註、かさくはへたるちうしやく
そうちやう(名)　總長(總理する長官)
ぞうちやう[する][自他]　增長、ましつのる。ましくはへる。[俗]をごりたかぶる
そうり(名)—する(他)　總理、つかさどるひと。すべくくる
そうり(名)　勝理、さめ(鬲肉の)
そうり[する]　綜理、すべくくる、つかさどる、すべる(事務を)
そうりよ(名)　僧侶浮屠師、ばうず
そうりだいじん　總理大臣(內閣の長官)
そうりやう(名)　總領、嫡子、長男、あにむすこ
そうりやうじ(名)　總領事(領事の長)
そうりん(名)　叢林、檀林(寺院をいふ)
そうりんたふ(名)　層輪塔(佛寺に建る一種の塔)
そうるゐ(名)　層累、かさなり、かさね
ぞうを[する](他)　憎惡、にくむ

そうか(名)　宗家(本家をいふ也「そうけ」をみよ)
そうか(名)　僧家(僧侶の居る家また僧)
ぞうか[する][他自]　增加、くはへる、ます。くはる
そうかう(名)　惣珩、あをだま(寶玉の名)
そうかう(名)　僧綱(僧正、僧都、律師等を云ふ)
そうがう(名)　僧號(僧の名稱)
ぞうがう(名)　贈號、たくりな
そうかく(名)　總角、あげまき、つのまき
そうかく(名)　窓格、まどがうし
そうがく　奏樂(音樂を奏する)
そうがく　總額、そうだか、しめだか
そうがふ(形)。—[する][他]　總合、ひとつにおはする
そうがふ[する][自他]　湊合、おつまる、よりおつまる。ひとつにおつめる、くくる
そうかん[する][他]　奏諫、いさめをまうしあぐる(天子に)
ぞうよ[する][他]　贈與、れくりあたふる
そうよく(名)　窓翼、まどとびら
そうよめ(名)　總嫁、そうりやうのよめ(長子の妻)
そうだ(名)　曹達(藥品)
そうたい(名副)　總體、全体、すべて
そうたい[する][自]　層堆、たかくつもる、うづだかくある
そうだい(名)　總代、そうがはり
そうだいしやう　總大將、そうがしら
そうたつ[する][他]　奏達、まうしあぐる(天子に)
そうたつ[する][他]　送達、れくりやる
そうたふ(名)　層塔、かさねのたふ、かさなれるたふ
ぞうたふ　贈答、やりとり、とりやり
そうだん(名)　叢談、いろいろのはなし、あつめばなし
そうれふ(名)　髻鬆、たてがみ
そうそ(名)　曾祖、祖父母の親を云ふ、ひれや
そうそ(名)　奏疏、のぼしぶみ、上奏書(天子への)
そうそつ(形)　怱卒、にはか、いそぎ
そうぞく(名)　宗族、やから、いちぞく
そうぞく　僧俗(僧侶と俗人)
そうそふ(名)　曾祖父、れはれぢ、ひぢぢ
そうそん(名)　曾孫、ひまご(孫の孫)
ぞうそん　增損(增減に同じ)
そうづ(名)　僧都(僧の位階にして僧正の下に位す)
そうつゐほし(名)　總追捕使(源の頼朝此職に補して諸國の守護地頭と管領せり)
そうらん(名)　層巒、かさなるやま、層岳
そううん(名)　叢雲、むらくも、むらがるくも(空に)
そうくわ(名)　葱花、ぎばうし(植物)
そうくわい(名)　顱會、ひよめき
そうくわつ[する][他]　總括、すべくくる。つかさどる
そうくわん(名)　總官、かしらやく
そうくわん　送款、よしみをれくる(敵に)
ぞうくわん(名)　贈官、死後に贈れる官)
そうけ(名)　宗家、本家(先祖代代相續の家)
そうけ(名)　僧家(僧侶の居處)
そうけい(名)　竈雞、竈馬、こほろぎ(動物)
そうけい(名)　宗系(本家の血統)
そうけい(名形)　聰慧、さとり、さとき、かしこき

そうけい[する][他]　崇敬、たふとみわがめる
そうけい(名)　總計、そうじめ、しめだか、しめ、そうかんぢやう
そうけう(名)　繒繻、いぐるみ
そうげき(形)　怱劇にはか。いそがはしき
そうげん(名)　宗源、みなもと
ぞうげん　増減、かげん、ましへらし
そうふ[する][他]　送付、わたくりつける
ぞうふ(名)　贈賻、かうでん、わたくりもの(死者の家への)
そうご(名)　聰悟、さとり、かしこさ
そうこう(名)　惣荇、ひともじ(植物)
そうこう　奏功、なしとげる、おしをへる
そうてい(名)　潦渟、水の淀りて深き處、みづあひ
ぞうわい　憎愛、にくむいつくしむ
そうさい(名)　總裁、をさ、つかさ、かしら、すべつかさどるひと
そうざい[俗](名)　惣菜、一家一同に食ふ通例のおかず
そうさう(名)　送葬、のべおくり、とむらひ、はうむり
そうさく(名)　甑貲、こしきのす
そうさく[する][他]　捜索(しうさく)、さがしもとめる、たづねる
そうさくしや(名)　走索者、つなわたり、かるわざし
そうさふ(名)　層級、かさなり、だん
ぞうきふ　増給(給料を増し加ふる)
そうきん　送金、かねをわたくる
そうめい(形名)　聰明、さとき、かしこき。かしこさ
そうめん(名)　素麺、線麪、縷麪、ひやむぎ(食品)
そうみ[俗]　總身(そうしん)、全身、からだぢう
そうみやう(名)　總名(一般の通稱)
そうみやうたい　總名代、そうだいり(大衆一般の代理人)
そうし(名)　宗師、しうしやう(師とあがむべき人)
そうし(名)　叢祠、ほこら、こやしろ
そうと(名)　嫂姒、あによめ(兄の妻)
そうと　聰耳、はやみみ、とみみ
そうしばいばい(名)　走私賣買、ひそかうりかひ、密貿易、ばばん
そうしよく(名)　棕色、くろとびいろ
そうしつ(名)　宗室、本家(ほんけ)、宗家
そうしつ(名)　僧室、てら、僧房
そうしつ[する][他]　憎疾、にくむ
そうしや(名)　僧舍、てら、僧室
そうじや(名)　總社(一地方の諸神社の最も上なる者)
そうしやう(名)　宗匠(和歌連俳茶の湯等の達人をいふ)
そうじやう[する][他]　奏上、まうしあぐる(天子に)
そうじやう(名)　僧正(僧侶の位階の最高き者)
ぞうじやうまん(名)　増上慢、たかぶり、かうまん
ぞうしやく(名)　贈爵(死後に爵位を贈る事また是の如き位)
そうしふ[する][他]　綜緝、あつむる
そうしふくわい　總集會、そうわつまり、みなのよりあひ
そうして[俗][副]　總而ずべて、全體
そうしゆ(名)　宗主、ほんけのあるじ(宗室の主)をさ、かしら
そうじゆ(名)　奏授(天子に奏して位階を授くる事、奏任を

見あはせよ)
そうじめ[俗](名)　總計、そうかんぢやう、しめくくり
そうしん(名)　宗親、いちぞく、やから
そうしん　惣身、全身、渾身、からだぢう
そうじん(名)　竈神、かまどのかみ
ぞうしん[する][他]　贈進、わたくりまゐらする(禮物等と)
ぞうしん[する][他自]　増進、ましすすめる。ましすすむ
ぞうえき[する][他自]　増益、ます、ふやす。ふえる
そうひつ　走筆、ふでをはしらす
ぞうもつ(名)　贈物、わたくりもの
そうもん(名)　顯門、ひよめき
そうもん[する][他]　奏聞、まうしあぐる(天子國王に)
そうせい[する][自]　叢生、むらがりはえる
そうせい[する][他]　奏請、まうしあげこふ(天子へ)
そうせふ(名)　寵妾、めしたき、みづしめ、わさん
そうせき(名)　踪迹、あとかた、あと
そうせき(名)　送籍(人の人別書を他に送る事)
そうせん(名)　走線、つなわたり、かるわざ
そうせん(名)　送錢、贈錢、はなむけ
そうすい(形)　惣率、あをうをしたる(草木の、みどり
そうすね(名)　滄水(水の落ち合ふ所)、みづあひ
その　園(氏)
その(名)　園圃、苑、には、はなそのはなやしき。はたけ
その(形)　其、厥(物事を指す詞)、それの、それなる
そのいけ　園池(氏)
そのはう　其方、かのかた。又[俗]そなた、そなたへ
そのべ　園部(氏)
そのとき　其時、爾時、當下、當時
そのかみ(副)　昔日、昔年、往時、往代、曩時、上世、宿昔、當初、當年、當時、むかし
そのだ　園田(氏)
そのむかし　昔日、往昔、古昔、往年、疇昔、曩日、いにしへ、そのかみ
そのうへ(副)　且、また
そののち　其後、自後、厥后、爾後、そのときよりのち
そのまま　其儘、もとのまま。依然
そのふ(名)　園生、はやし(竹などの叢生する處)
そのご　其後、爾來、爾后、そののち
そのみぎり　其砌、其刻、そのをり、そのとき
そのひ　其日、當日、それのひ
そのもと　其許、そこもと、おまへ
そく(名)　束、たば、たばね。また手寬てはば(弓に云ふ也十五束三伏などの如し)
そぐ(名)　殺、うすくきりとる。減殺
そぐ(名)　疏處、疎虞、ゆだん(油斷)
ぞく(名)　族、やから、親族
ぞく(名)[—する(自)]　屬、たぐひ、やから。つく、かかる、つきしたがふ
ぞく(名形)　俗、ならはし、ふうぞく(風俗)。ただのひと(僧に非ざる)。いやしき、みやびやかならぬ
ぞく(名)[—する(他)]　賊、わるもの。ぬすびと。そこなふ
そくい(名)　觸衣、なれぎぬ、ふんどし
そくね(名)　即位、くらゐにつくこと(天子の)。登極
そくいひ(名)　續飯、粘飯、めしのり

そくいん(名)　惻隠、いたましくれもふこと
そくろ(名)　側路、わきみち
そくろをかふ　與蹺路、まひなひする
そくろう(名)　側陋、いやしきひと、卑賤
そくはつ(名)　束髪、たばねがみ(西洋風の)
そくはく(名)　側柏、このてがしは(植物)
そくはく[する](他)　掘迫、せきたてる、うながす
そくばく[する](他)　束縛、しばる、くくる、ゆはへる
そくほ[する](他)　促捕、とらへる
そくほ(名)　足拇、あしのたはこさき
ぞくほう　賊鋒、ぞくのほこさき
ぞくへい(名)　賊兵、ぞくのつはもの(逆賊の兵)
ぞくへい(名)　俗弊、俗習陋習、いやしきならはし
ぞくへん(名)　續編、つづきもの、第二編
ぞくど(名)　賊徒、わるものども。むほんにんども
ぞくど(名)　屬奴、しもべ、けらい
そくとう(名)　喞筒、みづでつぱう、ポンプ
そくむすめ(名)　息女、むすめ、むすめご(他人の)
そくちう(名)　側註、かたはらちう、傍註
そくちう(名)　束柱、つかばしら
そくちやう(名)　側聽、たちぎき
そくぢやう(名)　觸杖(東司の具)
ぞくちやう　賊長、ぞくのかしら、賊首
ぞくぢん(名)　俗塵、よのちり、よのわづらひ、世事(世俗の事務)
ぞくり(名)　屬吏、したやくにん
ぞくり(名)　俗吏(算筆の小吏)、いやしきやくにん

そくたい(名)　束帶、しやうぞく、よそはひ
ぞくたい(名)　俗體、ただのなり(僧體ならぬを謂ふ)
そくたつ(形)　側怛、かなしむ、かなしき、あはれ
そくたう[する](自)　觸當、わたる、ふれる
そくたう　即當、すぐさま、そくざ
ぞくたう(名)　俗套、よのならはし
ぞくたう(名)　族黨、やから、ともがら
そくたく[する](他)　測度、はかる(長さ廣さ等又は人の意を)
ぞくたく[する](他)　屬託、囑托、たのむ、ゆだねる
そくたふ　即答、すぐさまのこたへ
そくだん(名)　息男、むすこ(他人の)、せがれ
ぞくだん　俗談、よのなかのはなし。また俗語
ぞくだん(名)　續斷、薯斷、薯をどりこさう(植物)
ぞくれい(名)。—する(自)　屬隷、しもべ。つきしたがふ
そくそ(名)　蟾蜍、うじ(動物)
そくそく(名副)　唧唧(虫の鳴く聲を云ふ)
そくそく(形副)　惻惻、いたましき
そくそく(形副)　測測、するどき。又ふかき
ぞくぞく(副)　續續、ひきつづきて
ぞくぞく(副)　簇簇、むらがりて
ぞくぞくする(自)　悪寒、悪慄、さむけだつ
そくづ(名)　蒴藋(植物)
そくなん(名)　息男、せがれ
ぞくらしき(形)　俗數、野鄙、みやびならぬ、よのつねなる
ぞくむ　俗務、よのなかのつとめ
ぞくわい　賊魁、ぞくのかしら(盗賊の張本)
ぞくくわう　屬纊、くわうをぞくす(死去するを謂ふ)
ぞくぐん(名)　賊軍(逆賊の軍兵)
そくけつ(名)　即決、すぐにさばくこと
そくけつのくわん　即闕官(太政大臣を云ふ是其人なければ即ち闕きおくが故なり)
そくけん　側肩、かたをそばだてる、かたをそびやかす
ぞくげん(名)　俗言、はなしのことば、俗語
そくふ(名)　瘟鬼、わまにし、こぶ、いぼ
ぞくぶん　俗文(俗語の文章)
ぞくご(名)　俗語、はなしのことば。つねのことば、俗言
そくこう　即功、すぐにきめあること
そくこく(副)　即刻、すぐさま、卒刻、即時、たちどころに
ぞくこく(名)　屬國、ふぞくする くに、附庸
そくこん(副)　即今、ただいま、いますぐに
そくてい[する]　測定、はかりさだめる
そくさい(形)　息災、まめ、わざはひなき
ぞくさい(名)　屬儕、したやくども
そくざに(副)　即座、ただちに。すぐに
ぞくざう(名)　賊贓、わるものども
ぞくさう(名)　賊巢、わるもののすみか
ぞくさんこく　粟散國(日本を指して云ふ)
そくぎ(名)　捉鼈、めをぢ、めかくしあそび
そくきよ(名)　東炬、たいまつ
ぞくきよ[する](自)　簇居、むれゐる、あつまりをる
そくぎん(名)　息銀(利息の金)、利金
ぞくめいろう(名)　續命縷、くすだま
そくめいざう(名)　捉迷藏、めかくしあそび、めんないちど

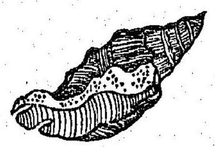
そくめつ〔する〕〔自〕 熄滅、きえる(火が)
そくめう(名) 即妙 直に頓智の出るを謂ふ)
ぞくみやう(名) 俗名、よのつねのな(釋名道名等に對す)
そくし〔する〕〔他〕 捉拭、にぎりつぶす、つかみひしぐ
そくし(名) 喞子、みづあげ、みづでつばう
そくし(名) 即死、そのばにしぬる、ただちにしぬる
そくじ 仄字(四聲の中上去入の三聲の字を謂ふ)
ぞくじ(名) 俗事、よのなかのこと、世俗之事
ぞくじ 屬辭(文章を作る)屬文
そくじに(副) 即時、そのとき、ただちに、卽刻
そくしよ(名) 蝍蛆、むかで(動物)
ぞくしよう(名) 續松、たいまつ、ついまつ
そくしよく(名) 促織、はたれり、蟋蟀、きりぎりす(動物)
そくじつ 即日、そのひ、當日
そくしう(名) 東脩(弟子が師の門に入る時に携ふる進物、昔は乾肉を〔支那にては〕用ひたりと云ふ今は金子を用ふ)
ぞくしう 俗臭、ぞくなるところ、みやびならぬところ
ぞくしや(名) 屬車、そへぐるま、副車
ぞくしやう〔する〕〔他〕 嗾奨、けしかける(犬等を)
そくしよふ(名) 喞噪、ねずみなき
ぞくしふ(名) 俗習、よのならはし
そくしゆ 束手、てをつかぬる
ぞくしゆ(名) 賊首、ぬすびとがしら、賊長、賊主
そくしん(名) 足心、あしのうら、蹠
そくしん〔する〕〔他〕 促進、うながしすすむる
そくしん(名) 束薪、つかねまき、まきたば
そくじん 卽燼、もえつきる(燭などが)
そくしん(名) 賊臣、わしきけらい
そくじん(名) 俗人、ただびと、凡人
そくゑ 觸穢、けがれにふれる(喪に在るを謂ふ)
ぞくえい 賊營、賊徒の陣營)
ぞくえん(名) 俗緣、よのちなみ
ぞくえん 賊焔、賊徒の氣焰勢力)
そくひ 足痺、あしのしびれ
そくひ(名) 即焔螢、ほたる(動物)
そくび(名) 外頸、くび(頸を罵り言ふに用ふ)
ぞくひつ 俗筆、俗らしき書き方)
ぞくひじり(名) 俗聖、僧に非ずして僧道と行ふ人)
そくもく 觸目、めにふれる
そくせい〔する〕〔自〕 惻悽、かなしみいたむ
そくせい 仄聲(四聲の中上去入の三聲を仄といふ)
ぞくせい 俗姓、俗人たるの姓氏にして釋氏に對す)
ぞくせつ(名) 俗說、世俗の話)
ぞくせつくわ(名) 族節花、くりんさう(植物)
そくせき(形) 即席、すぐそのば、たちどころ
ぞくせき(名) 屬籍、人別の屬する所といふ、族籍、みぶん
そくせきれうり 即席料理、ただちにするれうり
そくせん(名) 燭剪、しんきり
ぞくせん 賊船、わるものぶね、ぬすびとぶね
そくせんちう(名) 即線蟲、あしまとひ(動物)
ぞくすゐし(名) 續隨子、はるとのき(植物)
そや 曾谷(氏)

そや(名) 征箭、征矢、いくさや、いくさにもちふるや
そや(形) 粗野、あらき、あらつぽい
そや(名) 初夜(しよや)、ひくれ、初更
そやしたてる(他) 奨起、はげます、れだてる
そま(名) 樵夫、柮人、きこり、やまびと
そまい(名) 租米、みつぎごめ、租稅米
そまる(自) 染、しみる、つく、なれる
そまがは 柮河(氏)
そまつ(形) 粗末、麁末、わるい、あらい
そまやま(名) 柮山(材木を伐り出す山)
そまぎ(名) 柮木、材木(山にて斫りたる)
そまびと(名) 柮人、樵人、きこり
そまん(形) 疎慢、粗慢、おろそか、ゆるかせ
そげる(自) 殺、刮、剜、批、そがれる
そげつ〔する〕〔他〕 齟齬、かむ(齒にて)
そげき(名)。—する(他) 狙撃、ねらひうち。ねらひうつ
そげきたい(名) 狙撃隊、ねらひうちするくみ
そけん(名) 訴權、うつたへるけんり
そけん(名) 素絹、しらぎぬ(僧等の着る白き絹の服)
そげん 遡源、もとをたづぬる、みなもとにさかのぼる
そげん(名) 鼠弦、ねずみわな
そふ(名) 祖父、ぢぢ(父の父)
そふ(名) 姐夫、わねむこ(姉婿)
そふ(名) 鼠婦、蛸蟢、地虱、ねずみのめ、わらじむし、をめむし(動物)
そふ 麁布、ふとぬの、あらぬの
そふ(自) 添、偶、配、つれあひになる。又そはる

そふ(自) 沿、よりそふ、そひゆく(河などに)
そふ(名) 地漬(植物)
そぶり〔俗〕(名) 小態、態度、ふうつき、ありさま
そぶつ 粗物、麁物(粗末の物、しなあしきもの
そふく 麁服、そまつのきもの、粗服、麁衣
そふえ 祖父江(氏)
そこ 其處、そのところ。彼處、かしこ。其方、そなた
そこ(名) 底、心、當、したのねさへ、下地
そこ(名) 塞、さい(國境の要害をいふ)
そこ(名) 祖姑、ねはねば
そご〔する〕〔自〕 齟齬、くひちがふ、いりちがふ、牴牾
そこい〔俗〕(名) 底意、したごころ
そこはかとなく 無何處、なにとなく。どことなく
そこばく 若干(じやくかん)幾何、いくらか(未定の數)
そこり(名) 干潮、しほひ、ひきしほ
そこぬけ(形) 底拔、そこのぬけたる
そこそこに(副) 忽卒、いそぎて
そこつ(形) 粗忽、てぬけ、うつかり、そそう、疎忽
そこつ(名) 底津石根、そこのいはのね
そこつき(形) 底付、有底、そこある
そこづみ(名) 底積船の底に積む荷物)
そこねる(自) 損、そこなふ、あやまる
そこなふ(他) 損、殘、毀害、傷、虐、戕毀損、毀壞、傷害、暴、あらす、いためる、こはす
そこら 其邊、そのあたり
そこう(名) 狙公、さる(動物)
そこう(名) 租貢、みつぎ

そこう[する][自]　殂喪貴人の死するを云ふ)
そこく　租穀(年貢米)租米
そこまめ(名)　底豆、底痘(足の蹠等に生ずる堅き豆狀の腫物)
そこきみ(名)　底氣味、こころもち
そこひ(名)　內障、かきめくら(眼病の名)
そこひ(名)　限界、かぎり、はて、をはり
そこもと　其許、其元、足下、そなた、なんぢ
そごん　粗言、あらきことば
そで(名)　袖衣が手をおほふ所)披膊、肩巾(鎧の)
そでい(名)　粗泥、あらかべ、あらぬり、粗泥
そでへり(名)　袖端、袖邊、襟、そでのふち
そでどけい(名)　袖時計、たもとどけい
そでぬれぐさ(名)　袖濡草、翟麥、とこなつ、なでしこ(植物)
そでかうろ(名)　袖香爐、香毬(袖中に携ふる小香爐)、またはりかうろ
そでがさ(名)　袖笠(袖をかざして笠とせる者)
そでがき(名)　袖籬、女牆、埴堄、こがきね、ひめがき
そでがひ(名)　袖貝、袖介(蜘蛛貝の類)(動物)
そてつ(名)　蘇鐵、鐵蕉、火焦、鳳尾蕉(鐵を好む水)(植物)
そでなし(名)　褡、無袖衣(袖のなき衣服)

(袖の貝の圖)



そでなしばたり(名)　無袖羽織、また背心(はひしん)
そてう(名)　租調、みつぎ、租稅
そでうつし(名)　袖移(袖より袖に移して密に與る事)
そでくち(名)　袖口、襟口、袂、そでのへり
そでまくら(名)　袖枕(袖を枕とする事)
そでごひ(名)　袖乞、こじきすること、ものもらひ
そでじるし(名)　袖標(袖につくる印章)
そあく(形)　粗惡、そまつ(粗末)、わしき
そさい　麁細、あらきこまかき、細大
そさい(名)　素祭(猶太敎にて粉等を獻ぐる祭の名)
そさい(名)　蔬菜、わをもの
そさう[俗][形名]　粗相、ぶしつけ、そまつ、そこつ、あやまり
そざう(形)　粗造、あらき、そまつ、麁糙
そざう(名)　塑像、つちにんぎやう、つちぼとけ
そさのをのみこと　素盞烏尊(日神の弟なりと云ふ)
そさん(名)　素餐、むだめしくひ、くひつぶし(無職にして俸給を受くる事)
そざん[する][自]　鼠竄、こつそりにげかくるる
そぎいた(名)　殺板、そぎてつくれるいた
そきよ[する][自]　殂去(貴人の死するを云ふ)
そきくさう(名)　鼠麴草、ははこぐさ(植物)
そきやう(名)　鼠涼、ねずみわな
そめいろ(名)　染色、そめたるいろあひ
そめいろのやま　蘇迷盧山(須彌山[しゆみせん]に同じ)
そめどの(名)　染殿、そめものどころ(禁殿)
そめる(他)　染物に色を付くるを云ふ)着色
そめる(自)　始まじまる
そめがは(名)　染革、そめたるなめしがは

そめかへす(他)　染反、染返、そめなほす、潤色
そめがみ(名)　染紙、そめたるかみ(神祇式の忌詞に佛經としか云ふ)
そめつけ(形)　染付、そめてやきつけたる(陶器に)
そめつけせともの　花磁、呉をそめつけたるすゑもの
そめくさ(名)　染草、染料(染るに用ふる物品)
そめき(名)　挑織、さわぎあそび
そめぎぬ(名)　染衣、そめたるきもの
そめもの(名)　染物、そめたるもの又そめること
そめものや(名)　染物屋、紺屋、染工、染匠、染肆、こうや
そめん　素面(すめん)、すがほ
そみかくだ(名)　蘇民書札(山伏或は行脚の修驗者を云ふ)
そみつ　疏密、まばらこまか
そし(名)　鼠梓、ねずみもち(植物)
そし(名)　素志、かねてのこころざし、素意、素望、宿志、宿願
そし(名)　祖師(宗敎の創立者或は相傳者)
そし[する]　沮止、ゆきとどまる
そし[する][他]　沮止、ばばむ、とどむる
そじ(名)　訴事、うつたへごと、くじ
そしい　麁食、疏食、わしきくひもの、そまつのくひもの
そしろだ　十代田(氏)
そしる(他)　謗誹、訕譏、譏譖、わしくいふ、しこづる
そしよう(名)　訴訟、くじ、うつたへ
そしよう(形)　粗粗、ばらばら
そしよう(名)　鼠背、ねずみたけ(植物)
そしようよう　訴訟用、うつたへにもちふる
そしよく　疏食、素食、麁食、そしい、そまつのくひもの
そしらぬかほ　乾顏、佯爲不知之面、うらとぼけがほ
そしや[する][他]　措捨、すてれく
そじやう(名)　訴狀、うつたへがき、訴牒
そしやく[する][他]　咀嚼、くらふ、ついばむ
そしき(名)　組織、くみたて
そじき　粗食(そしよくに及そしいを見よ)
そしきがく(名)　組織學(身體の組織を研究する學)
そしゆ　措手、てをさしれく、かまはぬ
そしゆ　素手、すて、からて、むて、又しろきて
そしゆ　麁酒、あしきさけ、魯酒
そしゆくぼ(名)　祖叔母、ひをば(祖父の姉妹)
そしゆひつ(名)　鼠鬚筆、ねずみひげのふで
そじん(名)　臏、脇、脇、むねわきのにく(獸の)
そしん(名)　素心、こころね、かねてのねがひ
そじん(名)　素人、しろうと
そぞつ(形)　疏越、きよらか、ほがらか(音樂などが)
そにう(名)　楚腰、ほそごし、細腰、やなぎごし
そえん(名)　祖筵、はなむけのさかもり、祖道
そえん　訴寃、むしつをうつたへる
そぞん(形)　疎遠、うとき、とほざかりしき
そひ(名)　粗粗、いぬがや(植物)
そひ或そひぶくり(名)　陰癪、せんきのたぐひのやまひ、まへのやまひ(男の)
そび(名)　翠鳥、鵐、みづとりのな(動物)
そひぼし(名)　添星、衛星、ともなふほし、つきそふほし(月が地球に添ふ如きを謂ふ)、また房星、天馬(二十八宿の一)

そひつ(名)　素韈、いろ、素服、ものごろも、喪服
そひね(名)　添寝、副寝、薦枕、同衾、ひとつね、ともね
そびら(名)　背、せ、せなか
そびく(他)　傍率、かたはらへひく、わきへひく。また引、ひきよせる。また誘引、さそふ、いざなふ
そひぐるま(名)　副車、のりかへぐるま
そびやかす(他)　聳、そびにしむる、うへしたへうごかす
そひぶね(名)　副舟、のりかへぶね
そひぶし(名)　添臥、そひね、ともね、ひとつね、同衾
そびさう(名)　鼠尾草、みそはぎ、みづかけぐさ、千屈菜(植物)
そひもの(名)　添物、つきもの、附屬物
そひん　鹿品、わるきしな
そもたら　蘇門荅剌(南洋の一嶋)
そもそも　抑さて(發語の詞)
そもこ(名)　紵麻布(「そはか」に同じ)
そもさん　什麼生、いかが(如何と同じ、多く禪家にて用ふ)
そもじ　其方、そなた(婦に向て言ふ)
そせい　粗製、あらづくり、そまつのこしらへ
そせい[する](自)　蘇生、蘇甦、いきかへる、よみがへる
そせい(名)　詛誓、かごと、のろひ
そせい(名)　租稅、ねんぐ、みつぎ、ものなり
そせいし(名)　粗生絲、ひびそ、あらききぬいと。ふしいと
そせつくたう　鼠竊狗盜、こそこそぬすびと、こぬすびと
そせう[する](他)　咀嚼、くらふ、くふ、たべる
そせき(名)　祖席、はなむけのさかもり、祖筵
そせき[する](他)　疎斥、うとむ、とほざくる

そせん(名)　祖先、せんぞ、祖宗、とほつれや
そすゐ　疏水、みづをはかする(地を堀て)
そん(名)　孫、まご(子の子)
そん(形)　尊、たふとき、貴
そん(名)　樽、樽、たる
そん(名)。—する(他自)　損、へり、そこなひ。そこなふ。なくなる、へる
そんい　尊意、尊慮、貴意(他人の意を尊稱する詞)、きみがおぼしめし
そんゐ(名)　尊威、ゐくわう、いきほひ
そんい[俗](名)　存意、ぞんじより、こころもち
そんばい　存廢、存しれくか廢しすつるか)
そんばう[する](他)　損亡、そんまう、うしなふ、なくする
そんばう　存亡、ながらふるとほろぶる、安危
そんばん　尊藩(他藩を尊んで云ふ詞)
そんとく　損得、まうけるうしなふ
そんとん[する](自)　遜遁、のがる
そんちよ[する](他)　存貯、たくはふ、しまつてれく
そんちやう[する](他)　尊重、たふとびれもんずる
そんちやう(名)　村長、むらをさ、なぬし
そんちやう(名)　尊長、めうへ、うへのひと
そんり(名)　村里、むらざと、村閭
そんりよ　尊慮、きみのおぼしめし、高意、貴慮、他人の意と云ふ
そんとう(名)　村翁、ゐなかおやぢ
そんわう　尊王、尊皇(天皇を尊むをいふ)
そんか(名)　村家、いなかや

そんがい　尊骸(天皇の死體を謂ふ)
そんがい(名)　損害、さはり、そんしつ
そんがう　尊號(尊みて呼ぶ名にして多く天子に云ふ)
そんかん　尊翰、おてがみ、朶雲、玉章、貴墨(他人の手紙をいふ)
そんがん　尊顏(他人の面をたふとびて言ふ詞)
そんたい　尊體(人の體を尊びて云ふ詞)
そんだい(形)　尊大、おほふう、たかぶり
そんたいじん　尊大人(人の父をあがめて言ふ詞)
そんたく[する](他)　忖度、はかる、かんがへはかる
そんたふ　尊答(他人の返答をいふ)
そんれう(名)　損料、かしちん、つかひれう
そんれうや(名)　損料屋、かしちんとり(衣衾器具等の)
そんそう(名)　邨嫂、ゐなかよめ
そんそう[する](他)　尊崇、あがめる、うやまふ
ぞんねん[俗](名)　存念、ぞんじより、かんがへ
そんな[俗]　其樣、そのやうなる、かくのごとき
そんらう(名)　村醪、ゐなかざけ
そんらく(名)　村落、むら、むらざと
[そんう](名)　村雨(假字)、むらさめ、むらしぐれ、時雨、白雨
そんくわい[する](他)　損壞、そこなふ、やぶる
ぞんぐわい(形)　存外、おもひのほか
そんくん(名)　尊君(人を尊みて云ふ詞)、きみ
そんや(名)　村野、ひな、ゐなか
そんまう(名)　損毛、そんしつ、そん、損耗、損失
そんけい(名)。—する(他)　尊敬、うやまひ。うやまひたふとぶ
そんぷ　尊父(人の父を指して云ふ)
そんぷう(名)　巽風、いなさ、たつみかぜ
そんふうし(名)　村夫子、ゐなかものしり(田舍の學者)
そんぶん(名)　存問、きげんうかがひ(人の安否を問ふ事)
ぞんぶん[俗](名)　存分、おもふところ、かんがへ。又(副)おもふままに、おもふかぎり、じふぶん
そんこう　尊公(人を尊みて云ふ詞)、きみ、あなた
そんこん　尊閫(人の妻を尊びて云ふ詞)
そんおう(名)　村媼、ゐなかばば
そんざい(名)。—する(自)　存在、ある事。ある、います
ぞんざい[俗](形)　粗畧、そさう、ぶしつけ
そんさつ　尊札、尊翰(他人の書狀を言ふ)
そんきよ(名)　村居、むらずまひ、ゐなかずまひ
そんきよ[する](自)　蹲踞、あぐらかく、おしくむ
そんぎよ(名)　巽魚、ます(動物)
そんきよう(名)　遜恭、へりくだり
そんきやう　尊敬(そんけい)をみよ)
そんきん　損金、うしなひがね
そんめい　尊命、貴命(人の言を尊びいふ詞)
そんめい(名)　村岩、ばんちや、柯茶、おしきちや
ぞんめい(名)　存命、いのちながらへること
そんし　尊師(師を尊びて呼ぶ詞)
そんじ(名)　巽二、かぜのかみ(風神)
ぞんじがけない[俗](形)　無存掛、おもひかけぬ、ふいの
そんしよ　尊書、おてがみ、尊翰(他人の書狀をいふ)
ぞんじより[俗](名)　存寄、かんがへ、おもひ
ぞんじよらず[俗](副)　不存寄、おもひかけず、おもひまう

けず

そんしょう　尊稱、たふとびてよぶとなへ
そんしつ(名)　損失、損亡、うしなひ、つひえ、そん
そんしゃ(名)　村社、むらやしろ(神社の格式の一)
そんじゃ(名)　尊者、たふときもの(佛僧の尊稱に用ふ)
そんしゃう(名)　村莊、むらざと、むら、鄉村
そんじゃう(名)　遜讓ゆづり、へりくだり、けんそん
そんしゃう(名)　存省、きげんをたづぬること、きげんうかがひ
ぞんじゃう(名)　存生、ながらふること、存命
そんじゅ(名)　村儒、ゐなかじゅしや、村夫子
そんしん[する](他)　尊信、あがめしんずる、たふとぶ
そんえき　損益、そんとく、うしなふうる
そんび　尊卑、たかきひくき、たふときいやしき
そんび　存否、あるなし、有無、のこすすつる
そんせつ(名)　樽節、つつしみ、ひかへめ、たしなみ
そんする(自)　存、ある、存在、物が在るを謂ふ)
ぞんずる[俗](自)　存、たもふ、こころにる、しる

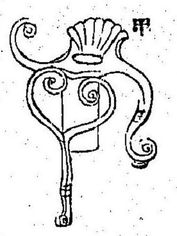
つ

つ　ッ、都津。ヅ、頭「圖　是は「つ」の父音と「う」の母韻と合して生ずる音にして五十韻中に在て第四行第三段に位す

つ(名)　津(船の出入する港を云ふ)、みなと
つ(名)　津、つばき(口中の液を云ふ)、唾、津液
づ(名)　豆、まめ
づ(名)。—する(他)　圖、ゑづ(地圖書圖等を謂ふ)、ゑづひく
づ(名)　頭、あたま、かしら、つむり
つい(名)　對、ならび(二つ並ぶ者)
ついはり(名)　支柱、つっぱり、ささへぎ、遊樹
つゐばつ[する](他)　退伐、れひうつ
ついばむ(他)　啄、啅、喙、啀、咀噉、ひろひくらふ(鳥が)、ひろふ
つゐはう(名)。—する(他)　追放、れひはらふこと、しまながし、れひはらふ
ついはふ(名)　呑法、つきあげ(米を呑く事)
つゐほ[する](他)　追捕、れひとらふる、からめとる
つゐぼ[する](他)　追慕、れひしたふ、れもひこがれる
つゐへい(名)　追兵、れつてのぐんせい、れふつはもの
ついち[する]　追擬、れひはぐ(死後に官位を奪ふ)
ついお(名)　築墻、磚墻、ついがき(土瓦をもて築きし垣)
つゐぢ[する]　追治、おとよりつみする(前罪を)
ついおがはら(名)　墻瓦(築墻等に用ふる瓦)
つゐちょう[する](他)　追徵、おとよりとりたてる(不足稅額を)
つゐちく[する](他)　追逐、れひはらふ
ついり(名)　梅雨、つゆ、黴雨(入梅の雨また梅雨の候に入る日)
つゐれく[する](自)　追憶、おとよりれもふ、れひれもふ、追想
つゐか(名)。—する(他)　追加、れひくはへ。おとよりつけくはふる
つゐか[する](他)　縋下、つりさげる(繩紐にて高き處より)。

ついかさね(名)　衝重(重箱を云ふ)
ついがき(名)　築垣、築墻、つきがき、ついぢ(土を以て練塀の如く築きたる垣)
ついたち(名)　朔日、上日(一月の最初の日)
つゐたう[する](他)　追討、れひうつ
つゐたう[する]　追悼、れひいたむ(死人を)、おとよりかなしむ
ついたて(名)　衝立、歩障、掩障、室内等に立て隔とする具、つきたて
つゐたん[する]　追探、れひさぐる、追究
つゐそ[する]　追訴、れひそしょうする、おとよりまたうったへる
つゐそう[する]　追贈、死後に官位等をれくるを謂ふ)
つゐねん[する](自)　追念、れひれもふ、おとよりれもひだす、追想
つゐな(名)　追儺、れにやらひ、ならひ(節分に豆まきなどして惡鬼を追はらふ事)
ついく(名)　對句、對偶(二つ相並ぶ文句)
つゐく[する](自)　追驅、れひかける(馬にて)
ついひぢ(名)　築墻、ついぢ、つちにてきづきたるかき
つゐくわん[する](自)　追願、れひねがひする
ついまつ(名)　續松、松明、たいまつ、炬火
つゐけい(名)　追啓、追申、れひがき、なほなほがき、かきそへ
つゐげき[する](他)　追擊、れひうつ(逃る敵を)
ついふく(名)　對幅、双軸、ならぶるかけもの
つゐふく(名)　追福、冥福、死後の幸福)、法事
[つゐふく](俗)(名)　追腹、れひばら(主君の死後に屠腹して之に殉ずる事)
ついこう(名)　堆紅、堆朱(ついしゅ)
ついこく(名)　堆黑、堆朱の形に黑く塗たる者)
ついで(名)　序、叙、次、次序、秩序、順序、じゅん(上下の次第)
ついで(名)　機會をり、幸便、さいはひのをり
ついてい(名)　碓樘、はろし(下白の鉄軸)
ついでる(他)　叙、除、にんずる、つける(位階などに)
つゐさう[する](自)　追想、れひれもふ、追懐、おとよりれもひだす
つゐしん(名)　追申(追啓に同じ)、れひがき
つゐび[する](自)　追尾、おとをれふ、おとつける
ついひぢ(名)　築墻、ついぢ、つちにてきづきたるかき
つゐせふ[する](自)　追蹤、れふ、れひかける(下を見よ)
つゐせき[する](自)　追跡、追蹤、追隨、追逐、追從、おとをれふ
つゐせき[する](自)　追惜、れひをしむ、おとよりをしむ
つゐせん(名)　追善、追薦(冥福追福に同じ)、法事
づろ(名)　頭顱、あたまのはち。

づろう〔俗〕〔形名〕 緩怠、をこたり、なげやり
つば(名) 唾、つばき、つ
つば(名) 鍔、鐔(刀劍に附けて受止むる用にする者にて形種種あり甲圖は大坂商家西村庄兵衛藏義政公の用ひし所、乙圖は大和國吉野山櫻本坊藏村上彦四郎の用ひし所)


甲

乙

(鍔の圖)

つばいもち(名) 椿餅(「つばきもち」を見よ)
つばいもも(名) 油桃、つばきもも、李桃(植物)
つはり(名) 煩阻、妊病、擇食、悪食阻病、病鬼、悪孕、はらみやまひ
つはる(自) 發悪阻、はらみやまひある、しよくぎらひする。又熟漬、うみつぶれる(菓が)
つばた 津幡氏)
つばな(名) 蕨、茅針、茅花、秀茅、白茅、かやのはな(植物)
つばくろぐち(名) 書甕、ほんづつみ
つばくら(名) 燕、つばめ(動物)
つはぶき(名) 款冬(植物)
つばさ(名) 翼、はね、翅、翎
つばき(名) 山茶、椿(植物)
つばき〔或つば〕(名) 唾、口津、口液、口沫、つばぎは(名) 鍔際、つばもと、つばのところ(刀劍の)
つばきはく 唾、啡、つばきする
つばきあぶら 山茶子油、椿油(椿の實より取る油)
つばきもち(名) 椿餅、つばいもち(椿の葉に包める餅)
つばめ(名) 燕、つばくら、玄鳥、乙鳥、游波、鷰鴳(動物)
つばめうを(名) 黄鰭魚、鰭(首は燕に似て身は魚なる者。又曰く黄身にて角あり能く飛び踊る魚)(動物)
つばめぐち(名) 燕口(器具の名)、つばくろぐち
つばめぐさ(名) 蛇含草(植物)
つばもと(名) 鍔元、つばのそば、つばぎは
つはもの(名) 兵、軍人、軍士甲士、戰士、兵士、いくさびと
つぼ(名) 坪(六尺四方を一坪といふ)
つぼ(名) 壺(小く深き器)
つぼ(名) 壺(宮殿中の通路を云ふ)、には
つぼ(名) 局、つぼね、をんなべや(貴族の)
つぼ(名) 目的、めがけどころ
つぼいり(名) 壺煮、壺炙、つぼやき
つぼね(名) 局、丙舍(女官の殿舍を謂ふ)、つぼ。へや、れへや。又女官の稱
つぼなげ(名) 投壺、つぼうち(壺の内に玉を投げこむ戲)
つぼむ(自) 萼、つぼまる、とぢる(花などか)
づぼうとう(名) 甘草糖(甘草の粉を錬乾かしたる者)(藥物)
つぼうち 坪内(氏)
つぼうち(名) 投壺、つぼなげ(遊戲の名。此圖に見ゆる者は此遊びに用ふる具なり)

(投壺の圖)

つぼのいしぶみ(名) 壺碑(陸前宮城郡多賀城の古碑の名)
つぼのみ(名) 壺鑿、捲鑿、まるのみ
つぼぐち(名) 壺口、哨壺の如く細くせる口)
つぼくさ(名) 積雪草、連錢草(植物)
つぼやなぐひ(名) 靫、靫胡籙、ゆき、えびら
つぼやき(名) 壺炙、壺燒、つぼいり(榮螺等を貝のまま燒く事又斯く燒たる者)
つぼまる(自) 合閉、つぼむ、とぢる。また凋、しぼむ
つぼわぶみ 壺鐙(古の馬具、(此圖なるは大和國法隆寺藏)
つぼみ(名) 莟、蓓蕾(花の未だ開かざる者)

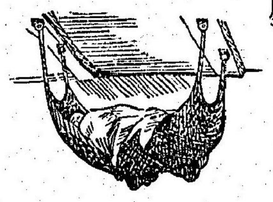
(壺鐙の圖)

つぼし(名) 圖星、まと、ねらひさき
つぼすみれ(名) 箭頭菜、葦菜の一種)(植物)
つぼん(名) 股引、股衣、ももひき、だんぶくろ
つぼんつり(名) 十字帶、吊袴帶、ももひきつるしひも
つべた(名) 光螺、かひのたぐひ(動物)
つと(名) 蟬蛻、びんづら、びんたぼ
つと(名) 晨、夙旦、早朝、早旦、始旦、はやきあさ
つと(名) 苞、わらまき、苞苴、つつみもの
つど〔俗〕 都度、たびごと、毎毎
つとに(副) 夙、早朝、あさまだき、あさはやく
つとへる(他) 集、あつめる、よびあつめる、召集。ひとつによせる
づどり(名) 圖取、圖形、畫圖、ゑづめん
つどつど 都度都度、たびごと
つどふ(自) 會集、聚湊、輻湊、群集、蝟集、集合、醵集、あつまる、よりあつまる
つとめる(他自) 務勤、勉力、勉強、强務、勉力、勤勉、努力、勤務、孜孜、盡力、竭力、粉骨、勤勞、はげみれこなふ
つち(名) 穉、椎、たたくもの(さいづち、かなづち等)
つち(名) 地、土、土地。坤
つちばつた(名) 土蝗、ばつたのたぐひ(動物)
つちはらひ(名) 乘泥、どろよけ(車の)
つちはし(名) 圮、土橋(どばし)
つちにんぎやう 土人形、泥塑人、土偶人、泥人、つちのひとがた
つちぼとけ(名) 土佛塑像、つちにてつくれるほとけ
つちほたる(名) 土螢、蛄螢、宵行、ひかるむし(螢の類にして飛ばぬ者)(動物)
つちほこり(名) 塵、塵風、埃風(風に飛ぶ土塵)
つちど(名) 土戶、土扇、土にて塗て作れる戶)
つちどの(名) 土殿、土室、ぬりや、ぬりどの
つちわり(名) 椓、つちわるうつは(農夫が)
つちがへる(名) 蝦蟇、ひきがへる(動物)
つちかふ(自) 培、養、培養、培土、つちをもつ(木の根に)
つちかご(名) 畚、ふご(土運ぶ籠の類)
つちがき(名) 馬勃、めつぶれだけ(植物)
つちかぜ(名) 土風、旋風、颱、颶、つちはこりあぐるつむじかぜ
つちたけ(名) 土菌、きのこのたぐひ(植物)
つちねずみ(名) 土鼠、つちにすむねずみ(動物)
つちな(名) 翻白草(植物)

つちなべ(名)　土鍋、塙、どなべ
つちならし(名)　壓塊器(農具の名)
つちらう(名)　土牢、土窖、營窟、地牢(土窟の牢獄)
つちむろ(名)　窖、あなぐら、窖窟
つちのと(名)　己(十干の一)
つちのあぶら　石油、石腦油、くさうず、せきたんあぶら
つちのえ(名)　戊(十干の一)
つちのひとや　地牢、土窟、つちらう
つちくれ(名)　塊塿、土圀、つちのかたまり
つちくればと(名)　斑鳩、じゆずかけばと、いかるが(動物)
つちぐら(名)　土藏(どぞう)、ぬりごめぐら
つちぐも(名)　土蜘蛛、つちにをるくも、蠷蟷、蚖蝪、顛頭虫(草木の根部に巢を作る蜘蛛 又上古の穴居の族を然か稱せり)(動物)
つちや　土屋(氏)
つちや(名)　窟、いはや、ほら、土窟
づちやう(名)　頭頂、かしらのいただき
つちやまもち(名)　列當の一種(植物)
つちふるひ(名)　土篩(土のかたまりを除く篩)
つちぶね(名)　土船、土舟、つちつむふね。又つちづくりのふね
つちぶに(名)　燻陶製の笛の類にて支那の古樂器)
つちこれ(名)　坊者、かべぬるひと
つちでく(名)　土偶人、泥塑人、つちにんぎやう
つちわけび(名)　山珊瑚(植物)
つちみかどてんわう　土御門天皇(人皇第八十三代の帝)
つちもち　土持(氏)

つちすり(名)　朐魚の腹下の肥たる所を云ふ)
つり(名)　拘摯、ひきつり、痙攣(身體の)
つり(名)　鈎錢、貼錢、かへりせに
つり(名)　釣、つること、うをつるわざ
つりいと(名)　綸、釣糸、うをつりいと
つりばり(名)　釣鈎、魚鈎、曲鈎、うをつるはり
つりばし(名)　吊橋、つるしばし、はねばし。鐵纜橋、てつにてつれるはし
つりばしご(名)　吊梯、つるしばしご、はねばしこ
つりはひちやう(名)　繭蠅帳、つるしはひよけ
つりぼり(名)　釣堀、つりするいけ(重に料理店などに属す)
つりどうろう(名)　吊燈籠、つるしどうろう
つりどの(名)　釣殿(池上に建かけたる御殿)
つりどこ(名)　吊床(長さ六英尺幅三英尺許の麻布を以て製したる臥床にて其四隅を索にて吊る)

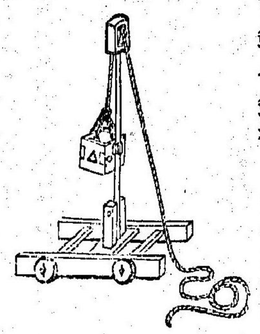
(吊床の圖)



つりちやうちん(名)　吊提燈、つるしともしび
つりがね(名)　鐘、つきがね、華鯨(寺等にわる大鐘)
つりがねにんじん(名)　沙參、
つりがねさう(名)　吊鐘花(植物)
つりがねさう(名)　沙參、つりがねにんじん(植物)
つりがんな(名)　釣鉋、まるがんな
つりよせる(他)　餌寄、餌誘、をびきよせる、誘引

つりだい(名)　吊臺、つるしだい(物を載せて吊るし往く臺)
つりだうぐ(名)　釣道具、うをつりうつは
つりだす(他)　釣出、つりていだす。餌出、をびきだす
つりなは(名)　釣絲、つりいと、うをつるいと
つりらんぷ(名)　吊洋燈、つるしランプ
つりふね(名)　釣舟、釣艇、うをつりぶね
つりこむ(他)　釣込、餌入、誘入、だましこむ
つりて(名)　吊手、吊緒、つるしひも、つりを
つりあはせる(他)　對稱、ひとしくならしむる
つりあげる(他)　釣上、うをつりばりにてひきあぐる。また吊上、つるしあげる
つりあひ(名)　對稱、權衡、平衡、ひとしくたひらなるありさま
つりざを(名)　釣竿、漁竹、うをつりざを
つりさげる(他)　吊下、つるしれろず。縋、つるしさげる
つりびと(名)　釣客、釣叟、釣徒、釣人、釣者、うをつるひと
つりせいろう(名)　縋井樓、巢車(人を入れて縋りあげて敵陣を窺はしめし具)

(縋井樓の圖)

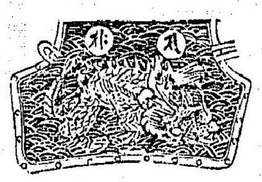


づぬけ(形)　頭拔、ぬきんでたる、ひいでたる
つる(他)　釣、つりばりにてひきわぐる、うをつる
つる(他)　吊、つるす、たれさぐる
つる(名)　鶴、丹頂、九皐、たづ、仙骨(動物)
つる(名)　弦、いと(弓の緒。又なべのつる、鉉
つる(自)　擧、ひきつる、かがむ、痙攣
つる(名)　蔓(草の)藤、ふぢのつる。蔓、からまるくき(草木の)

(鶴の圖)

つるい(俗)(形)　緩怠、のろい、れそき。また狡、わるがしこき、わうちやく
つるいちご(名)　蓬蘽、蛇苺、まるばふゆいちご(植物)
つるはくか(名)　積雪草、くさのな(植物)
つるはぎ(名)　鶴脛、脩脛、つるのあし(長き脛を謂ふ、又徒渉のために裾を高く揭げたる脛を謂ふ)
つるばみ(名)　橡、橡斗、皂斗、かしのみ、かしのきのみ。又こきねずみいろ
つるばし(名)　鶴嘴、つるのくちばし。又つるばしがたのくは(堅き土を穿つ鶴嘴形の鋤)
つるばしり(名)　弦走(鎧甲の名所。此圖に見るは安藝國嚴島神社藏大內義隆卿所用)

(弦走の圖)



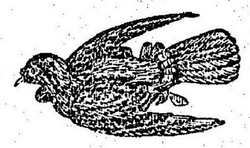
つるはじき(名)　決拾、ゆごて(弓射る時の手袋)
つるにがな(名)　剪刀股、おしばり(植物)
つるにんじん(名)　羊乳(桔梗科)(植物)

つかはれよばろ（名）　等の一。
つかひ（名）　仕丁、ちやうち直丁、こつかひ官署
つかはす（他）　みじかき柄の短き柱の上の短き柱
つがひ（名）　異柱兼梯桁たりがたはりのうへの
つかへ（名）　支望間、ふはる。落を防ぐ胸腹等がつかへる（自）　事、つかへたてまつる、つかへる神父
つかへ（名）　事仕、事つかふること、つとめ、奉公
つかへ（名）　遊物、仕奉事、つかはりなくまた落瀕なはり胸の病
つかへ（名）　支、さしつかへ。また落瀕なはり胸の病
つかへ（名）　遊物、仕奉事、つかはりなくまた落瀕なはり胸の病
つがに（名）　毛蟹、かにのたぐひ（動物）
つかはす（他）　遣派遣、派出、やる。だく。興あたへ
つかはれよばろ（名）　仕丁、ちやうち直丁、こつかひ官署
つかはれよばろ（名）　掌川氏
つかはれねる（他）　薄金（氏）
つかがれる（自）　波瀬徳厳徳、波瀬、波動、俊厳俊、俊よわる
つかがね（名）　塚田（氏）
つかがね（名）　津憲氏また地名
つかがね（名）　寝湖水にひたる（自）
つかがり（名）　桑片をかりくらう植物
　卑者主などに奉事、仕
つかへ（名）　事仕、仕奉事、つかへまつること、つかへる神父
つかへ（名）　支望間、ふはる。落を防ぐ胸腹等がつかへる（自）
つかへ（名）　遊物、仕奉事、つかはりなくまた落瀕なはり胸の病
つかへ（名）　支、さしつかへ。また落瀕なはり胸の病
つかへ（名）　遊物、仕奉事、つかはりなくまた落瀕なはり胸の病
つがに（名）　毛蟹、かにのたぐひ（動物）
つかはす（他）　遣派遣、派出、やる。だく。興あたへ
　みじかき柄の短き柱の上の短き柱
つかはら（名）　東柱兼梯桁たりがたはりのうへの
　等の一。
つかはれよばろ（名）　仕丁、ちやうち直丁、こつかひ官署
つかはれねばろ（名）　仕丁、ちやうち直丁、こつかひ官署
つかはれねばろ（名）　掌川氏
つかはす（他）　薄金（氏）
つかがれる（自）　波瀬徳厳徳、波瀬、波動、俊厳俊、俊よわる
つかがね（名）　塚田（氏）
つかがね（名）　津憲氏また地名
つかがり（名）　桑片をかりくらう植物
つかがり（名）　寝湖水にひたる（自）
つかがね（名）　東たばぬる権
つかがな（名）　蔓耕わらじさもの、ねこ、わらだたみ類
つかがみ

るるひと

つがひ(名)　番、雙、對、ならび、つい
つがひ(名)　雌雄、つい、めすをす(鳥の)
つがひ(名)　交尾、掌尾、まじはり(鳥獣の)
つがひ(名)　節、骨節關節、ふし
つかひばと(名)　使鴿、傳書鳩(近來歐洲にて軍機を報ずるの用に供し又我邦にても泉州堺の相場師が物價の高低を報ずるに用ひし事あり但此の圖は鷲鷹抔の寄り附かざる爲めに小なる竹の笛を附けたるものなり)

(傳書鳩の圖)



つかひばん(名)　使番、大名の臣下の役名)
つかひかた(名)　使用法、もちひかた
つかひなれる(自)　使慣、慣使用、もちひなれる
つかひやう(名)　使樣、用法、もちひかた
つかひこなす(他)　使用馴、もちひならす
つかひて(名)　使用者、もちひて
つかひめ(名)　使女、はしため、しもべをんな
つがひめ(名)　番目、關節、ふしめ、あはせめ
つかひみち(名)　使用道、もちひかた、用法。もちひべきところ
つかひびと(名)　奴婢、はしたもの、めしつかひ
つかひもの(名)　遣物、贈物、れくりもの、進物、禮物
つかもと　塚本(氏)
づかん(名)　頭寒、あたまかせ(病名)
つかんまつる(自)　事(つかへまつるに同じ)

つよき(形)　強、剛、勁、勇猛、剛勇、剛毅、ちからある。たけき
つよきかぜ(名)　強風、勁風、烈風、猛風、大風、疾風、はやかぜ
つよきあめ(名)　迅雨、猛雨、甚雨、大雨、覆盆、にはわめ
つよきさけ(名)　勁酒、濃酒、醇酒、こきさけ
つよゆみ(名)　強弓、張弩、勁弓、つよきゆみ
つた(名)　蔦、地錦、からまるつるぐさ、蘿薜荔、薜蘿(植物)
つた(名)　沙洲、すた(壁土に和する稿麻等)
つだ　津田(氏)
づだ(名)　頭陀、杜多(梵語にて僧を謂ふ)
つたはるやまひ(名)　傳染病、うつりやまひ
つたへる(他)　傳、きかせる、はなす。わたす、のこす(後に)
つたへさづける(他)　傳授、でんじゆする、をしへつぐる
つたへきく　傳聞、流聞、うはさにきく、ひとよりきく
つたかづら(名)　葛藟、蘿藤、蘿(植物)
づたづた(形)　段段、分分、すすきだき、きれぎれ
づたづたに(副)　すすきれぎれに
つたなき(形)　拙劣、拙陋、屑劣、怯懦、たくみならぬ、かしこからぬ
つたうるし(名)　野葛、くさのな(植物)
つたのはかつら(名)　漢防己、くさのな(植物)
づだけ(名)　律管(十二律を謂ふ)、なりものくだ
づだぶくろ(名)　頭陀袋、三衣袋(行脚僧の携ふる袋)
つたき　蔦木(氏)
つだみ(名)　喨、吐乳、ちちをもどすこと、ちちをあますこと(小兒の吐乳を謂ふ)
つだし(名)　津出、つみだし、輸出(貨物の)
つれ(名)　夥伴、同夥、同侶、伴侶、ともづれる(自)　携伴、ともなふ、たづさふる事、ひつさげる
つれだつ(自)　連立、同伴、列立、ともなひゆく、同行
つれそふ(自)　連添、配耦、夫婦と成る、めをとになる
つれづれ(名形)　徒然、無爲、無事、無聊、たいくつ、さびしき
つれなき(形)　強顏、無情、なさけなき、あはれみなき、むごき
つれぶし(名)　齊唱、齊聲(一同に聲を合せて歌ふ事)
つれこ(名)　假子、連兒、携子(妻がつれきたれる先夫の子)
つれあひ(名)　配偶、匹偶、つま或をつと、つれそふひと
つれゆく(他)　帶行、同伴、同道、ともなひゆく、引致、拉行、ひきつれゆく(官署に)
つれびき(名)　連彈(一同に三絃琴等を彈く事)
つつ(名)　筒、くだ、管
つつ(接續詞)　乍ながら
つづ(名)　十九。または十、とを
づつ(副)　宛、充、あて、あてがひ、あたり
つつゐ　筒井(氏)
つついか(名)　鎖管、きざみいか
つつはき(名)　砲筒、つつはらひばうき(大砲の)
つつばり(名)　支柱、支撐、撐柱、ささへぎ、れさへぎ
つつばる(俗)(自)　突張、つきはる。ばりいづる
つつどり(名)　鵯、蛟母鳥、吐蛟鳥(黑色黃斑大嘴の水鳥にして此鳥の居る所には蛟多し故に俗此鳥をもて蛟を吐く者と爲す因て此名あり)(動物)
つづり(名)　綴、編、とぢあはせ、又つなぎ(文字の)
つづりあはせる(他)　綴合、とぢあはする
つづる(他)　綴、つなぎつくる。あむ、編

つつが(名)　恙、さはり、わざはひ、やまひ
つつがなく(副)　無恙、さはりなく
つつかひぼう(俗)(名)　支柱、ささへぎ、撐柱
つつだい(名)　筒臺、銃床(銃砲を載る臺)
つつたつ(自)　突立、たちわがる
づづだま或ずずだま(名)　鶉豆、また鶉以仁(鳩麥の類)(植物及其實)
つつだけ(名)　筒竹、たけのつつ、つつにしたるたけ
つつれ(名)　濫褸、ぼろ、やぶれぎぬ、補衣、弊神衣、はりめぎぬ
つつれにしき(名)　破錦、ぼろにしき
つつれごろも(名)　弊衣、破衣、やれごろも
つつそで(名)　牽袖、ほそきそで
つづら(名)　葛籠、柳箱、藤籠、やなぎごり。竹箱
つづら(名)　葛藟、つるぐさ
つづらいし(名)　鍾乳石、つららいし(氷柱の如く垂れ下れる石)
つづらをり(名)　互折、羊腸、九折、曲折、たかひくみち、ななまがり
つづらふぢ(名)　木防己、防己(植物)
つつむ(他)　裹、包、韜、包住、括、包含、包裝、くるむ、いれこめる。纏。また隱匿、かくす、ひめる
づつう(名)　頭痛、頭疾、頭病、あたまいたみ。酸痟(春の日にする)
つつく(他)　啄、つく(鳥が嘴にて)。ついばむ
つづく(自)　續、連續、綿聯、連綿、つらなる、たにぬ
つつぐち(名)　筒口、ずぐち(銃砲の)。又つつもののくち

つつやはたち　十九二十
つつやく(自)　囁嘯、ささめく、ひそひそいふ
つつやみ(名)　眞黒暗、まつくらやみ
つづまり(名)　約、縮少、ちぢまり、つまり。また結局、まとまり、をはり、とぢめ
つつまる(自)　被裹、つつまれる。つつまれてある
つづまる(自)　約、つまる。縮、ちぢまる
つづまやか(形)　約、儉約、節用、減費、節減、つめたる、をごらぬ
つつましからぬ(形)　不羞、はづかしからぬ、はぢぬ、はばからぬ
つつましき(形)　包敢、愼惶、沈潛、緘默、うちとけぬ、こころをゐく、うちわけぬ
つつましき(形)　含羞、はづかしき、はばかる
つつまもり(名)　筒衛護、かけまもり(身に掛る守護札)
つづける(他)　續、連接、つらぬる、つづかする
つづけうち(名)　連發、つるべうち(銃砲を引つづきて放ちだす事)
つつこむ[俗](他)　突入、つつきこむ。雜糅、まぜわはせる
つづき　都筑(氏)
つづき(他)　續、連續、つらなり、たえまなきこと。又續篇、つぎのまき
つづきもの(名)　續物、長篇、ながくつづくもの(書物小說等に謂ふ)
つつめく(自)　囁嘯、つつやく、ささめく、ひそひそいふ
つつみ(名)　堤塘、陂、堤防、掃堤、塘陂、どて、みづせき
つつみ(名)　包、つつみもの、つつめるもの

つつみ　堤(氏)
つつみ(名)　鼓、胡鼓(樂器の名)
つつみゐ(名)　柵井、やらひをまはせるゐど(四方を柵にて圍める井戸)
つつみいひ(名)　屯食(木の葉などに包みて下々の人に與ふる食物)
つつみがはら(名)　疏瓦、かぶせるかはら、まるくてはそきかはら(かはらの下に圖あり見るべし)
つつみがみ(名)　包紙(物を包む紙)
つつみくひ(名)　屯食、つつみいひ
つつみやき(名)　魚魚等の包燒、まるやき
つづみひも(名)　鼓紐(鼓に纏ふ絲)
つつじ(名)　躑躅、山柘榴、あきつつじ。映山紅、きりしま。杜鵑花、さつき(植物)
つづしろふ(他)　竪噭、つづしる
つづしりうた(名)　口吟歌、くちずさむうた
つづしる(名)　竪噭、ずする(口にて)又くちずさむ
つつしむ(自)　愼、慤、謹、肅、欽、讌、祇、謹愼、虔敬、祇敬、敬慄、肅莊、端莊、ひかへめにする、うやうやしくする、はしいまゝならぬ
つつしんでまうす　謹言、讌言、敬白、うやまひていふ
つつえる(名)　囁、うじつく
つつね(名形)　常、常經、常道、わたりまへ。庸、經、なみ、よのつね。平常、ふだん、平生
つねに(副)　恒、常居、常、平常、恆常、每常、平生、たにす、つねづね
つねる(他)　捻、つめる、ひねる(爪にて)、捫

つねをか　恒岡(氏)
つねかは　恒川(氏)
つねつ(名)　頭熱、あたまねつ。かしらのねつき
つねづね(副)　常常、つねに、ふだん、平生
つねならぬ(形)　不常、なみならぬ、非常、異常
つねのごとき　如常、自若、つねにかはらぬ、どうせぬ、從容
つねぎ(名)　褻衣、褻服、つねのきもの、ふだんぎ
つねびと(名)　庸人、凡人、凡夫、常人、なみのひと
つな(名)　綱、繩、組索、なは、ひも。縄、縛つるべなは
つなぬき(名)　貫履、釘靴、釘鞋(足に穿く鞋の類)
つなわたり(名)　綱渡、繩組、履索、高組、戲繩、走線、かるわざ
つなわたりし(名)　走索者、かるわざし
つながる(自)　連續、つづく、つらなる
つなぐ(他)　繫、縛、繰、縻、繫、絆、維、羈縛、繫縛、繫縻、紲絆、しばる、ゆはひる
つなで(名)　牽紱、拉纜(挽船の綱等を謂ふ)、ひきふねづな。れはづな
つなぎ(名)　寸莎、つた瑠土の中に切こむ藁麻等をいふ)
つなぎ(名)　繫、しばり、むすび
つなぎばしら(名)　繫柱、杣馬杣(馬を繫ぐ柱)
つなぎなは(名)　繫繩、しばりなは、つな
つなぎうま(名)　繫馬、つなげるうま
つなみ(名)　洪波、高潮、たかなみ、海溢、海嘯、滔潮、逆浪、突波(陸に遠く打あげ來る大波)
つなし(形)　無情、つれなき、なさけしらぬ
つなし(名)　蜘うをのなちひさきこのしろ(動物)
つづなし(形副)　無頭、このうへなし

つなひき(名)　綱曳(陸に居て川の船を曳き進むる事、又二人力くらべに綱を曳く事。又二人して人力車を引くにも云ふ)
つら(名)　連、聯、つらね、つい(對)
つら(名)　面、れもて、顏、頰、かほ、顏臉
つら(名)　弦、つる(重に弓の緒)
つら(名)　列、つらなること、ならび。そなへ
つらにくき(形)　顏憎、にくらしき
つらぼね(名)　頰骨、かほのほね、顴骨。輔骨、つらかまち、はほぼね
つらぬく(他)　撰貫、串、徹底、貫徹、とほす、つきぬく。いぬく
つらぬきさう(名)　獨用將軍(植物)
つらがまへ(名)　面構、面格、かほのかたち、面想
つらがまち(名)　輔骨、顴頰車、ほほぼね。ほほげた
つらよごし[俗](名)　面汚、面穢、はぢ、ちじよく
つらだましひ(名)　面魂、面相、かほつき
つらつら(副)　熟、倩、くはしく、こまかに
つらつくり(名)　作顏、つくりがほ、みせかけるかほつき
つらつき(名)　面貌、かほつき、かほのさま、顏貌、面相
つらづゑ(名)　支頤、頰杖、ほほづゑ(顏を手掌にて支へをる事)
つらねる(他)　列、聯、陳、陳列、排列、敷列、ならぶる、そなへる。又連、つづける
つらねうた(名)　連歌、れんが(二人にて上下の句を別に作りて合する歌)
つらねこ(名)　鼬鼠(小鼠にして行く時は前後互に尾を銜

で歩くを常とす(動物)
つらなる(自)　連、聯、絡繹、連綿、つづく。ひきつづく。また列、班列、ならぶ、かたをならべる
つらら(名)　氷筍、氷筋、氷條、氷柱、汗、たるひ。さがりこほり(氷が物より垂れ乍ら凍れる者)
つららいし(名)　鍾乳石、氷柱[つらら]の如く岩の下等に垂るる石)
つらのかは　面皮、かはのかは
つらのかはのあつい(形)　厚顔、鐵面皮、あつかましき、はぢしらぬ
つらけん(名)　面拳(面にて種種の形を爲して先に笑ふ者を負けとする戲)
つらぶち(名)　面扶持、あたまぶち(一家の人の數に循ひて與ふる俸給)
つらさ(名)　辛酸、苦患、くるしさ
つらき(形)　辛酸、辛苦、からさ、くるしき
つらき(名)　列樹、なみき、ならびうゑたるき
つむ(他)　積、重疊、かさねれく、たくはふ、蓄積
つむ(名)　錘、紡錘、絲纏いとまとりぐるまの針)
つむ(他)　摘、つみとる(茶及菜等を)。陣(綿を)。摘
つむ(自)　蝕敗死、まけしぬる(將棊にいふ)
つむり(名)　頭、首、かしら、あたま
つむりのさら(名)　腦蓋、あたまのはち
つむがた(名)　紡錘形、つむのかたち、三角塔形
つむれ(名)　培壙、つくね、附墓田の中の小高き所)、壟
つむぐ(他)　紡、紡績、いとをとる
つむぎ(名)　紬、綿平紬(絹の名)

つむぎて(名)　紡工、いとをとりて
つむじ(名)　旋毛蟲動物に寄生する毛髮の如き蟲(動物)
つむじ(名)　旋風、つじかぜ、つむじかぜ(下を見よ)。又うづまき
つむじかぜ(名)　旋風、回風、回颷、ふきまはしかぜ、つじかぜ
つう(名形)　通、とほり。まき(書狀一二通の)。粹(通人なる)
つういうせい(名)　通有性(諸物に通じて共に具はる性質)
つういん[する](他)　痛飲、鯨飲、れはざけのむ、いたくのむ
つうろ(名)　通路、かよひぢ、とほりみち
つうろん(名)　通論、公論、確論、たしかなるいひさだめ
つうはう(名)。—する(他)　通報、しらせ、報知、たより。しらせる
つうはふ(名)　通法、通義、あまねくとほるみち(一般の大道)
つうぼう　通謀、はかりごとをかよはす、いひあはする(敵と)
つうべん(名)　通辯、通事、譯士、舌官、舌人、象胥(外國語を翻譯して通ずる人また其事)
つうち[する](他)　報知、しらせる、さたする
つうちやう(名)　通帳、通賬、かよひちやう
つうりやう(名)　通梁(下水に同じ)、どぶ
つうりき(名)　通力、神通力、ふしぎのちから
つうかい(名)　通街、通衢、とほりすぢ、ちまた
つうかう(名)。—する(自)　通行、とほりゆく、わるく
つうよう(名)。—する(自)　通用、とほること(金銀等が)。とほる、ゆこなはる

つうだつ[する](他)　通達、いひきこかる、通知
つうだう(名)　通道、大道、とほりみち
つうたん[する](自)　痛嘆、いたくなげく
つうれい(形副)　通例、なみの、ありふれたる、よのつねの。なべて、よなみに
つうれいさう(名)　通靈草(植物)
つうそ(名)　痛楚、いたみ、くるしみ
つうぞく(形)　通俗、わかりやすき
づづうしい[俗](形)　圖圖敷、わうちやくな、れくめんなし、わつかましい、狡。不知恥
つうねうき(名)　通尿器(小便を通せしむる器)
つううん(名)　通運、もちはこび(陸上の)、運搬
つうく(名)　通衢、街道、とほりすぢ、れはどほり、通街、大道、ちまた
つうく(名)　痛苦、いたみくるしむこと
づうくに[俗]　同國(どうく)、れなじくに
つうくわ[する](自)　通過、とほりすぐる
つうくわ(名)　通貨(通用金銀貨幣を云ふ)
つうくわい(形)　痛快、こころよき、こころよき
つうくわん　通款、よしみをかよはす(敵に)
つうくわん　通患、れしなべてのうれへ(一般の弊害)
つうや　通夜、よもすがら、ひとよさ。又つや
つうやう　病痒、いたさかゆさ(利害の關係などを指す)
つうやく[する](他)　通譯(外國語を翻譯するを謂ふ)。つうす
つうけい(名副)　通計、合計、しめだか。わはせて
つうけう[する](自)　通曉、さとりいる
つうけん(名)　通券、とほりてがた、通行免狀
つうげん(名)　通言、とほりことば(一般相信じ相通ずる言)
つうふう(名)　病風、はねぶしのいたむやまひ、ルウマチス(病名)
つうこく　通國、國中、全國、くにぢう
つうこく[する](自)　痛哭、いたくなげく
つうてつ[する](自)　通徹、とほる、しみわたる
つうさう(名)　薏草、通草、あけびかつら(植物)
づうづうしい[俗](形)　通櫃、かよひびつ、をかもち
つうき(名)　通義(一般に行はれて人の信ずる道)
つうじ(名)　通事、通辯(つうべん)、譯語者
つうしよう(名)　通稱、とほりな(人の)、あざな
つうしやう[する](自)　通商、わきなひする(外國と)
つうじやう(名)　通情(天下一般の情理を謂ふ)
つうじやう(形副)　通常、わたりまへ、なみ、よのつね
つうしん(名)　通神(錢の異名)、れわし、かね
つうしん[する](自)　痛心、こころをいたむる
つうしん(名)　通信、たより、報知
つうせつ(形)　痛切、いとせちなる、適切、よくあたる
つうせう　通宵、よもすがら、通夜
つうせき[する](自)　痛惜、いたみをしむ
つうせんさう(名)　通泉草、はせ、さぎごけ(植物)
つの(名)　角(獸の頭に在る堅き者)。觸、觸、またづの
つのばし(名)　角箸(角にて作れる箸)
つのへら(名)　角篦(角にて作れる篦)
つのる(他自)　募、募集、召募、醵集、めしあつむる、あつむる。

つくりばなし　名　小説ものがたり稗説
つくりぶし　名　作歌（他）作歌して年貢を出さずに皆已れに取る事
つくりぬき　名　盈沼さんざよばちのたぐひいぬまのかた
つくりをや　名　假親（親を賴みて親をしたる人にて眞實の親に非ざる者）
つくりわらひ　名　作笑（他）作笑ひ、そらわらひ、いつわりわらひ
つくりかは　名　黃鞣なめしがは柔皮
つくりかたな　名　構造法製作法製造法構成、こしらへかた
つくりつけ　形　作付こしらへつけ取離されぬ據に其物
つくりばなす　他　偽名虛稱ついはりそのなを作らずしてほかをいふ
つくりやまひ　名　作病虛病佯病いつはりやまひ
つくりごと　名　作言造言虛言詐言妖言說言偽言說
つくりごゑ　名　糊聲作慮ついはりごゑにせごゑ假慮
つくりわらひ　名　作笑（他）作笑ひ

つくりばなし　名　造花作花紙花絹花彩花數彩數勝ことごとく
つくりかた　名　作製造作つくりかた
つくりがら　名　鸚鵡のせ動物
つくりばなす　他　偽名虛稱ついはりそのなを作らずしてほかをいふ
つくりぶし　名　作歌（他）作歌して年貢を出さずに皆已れに取る事
つくりぬき　名　盈沼さんざよばちのたぐひいぬまのかた
つくりをや　名　假親（親を賴みて親をしたる人にて眞實の親に非ざる者）
つくりわらひ　名　作笑（他）作笑ひ、そらわらひ、いつわりわらひ
つくりかは　名　黃鞣なめしがは柔皮
つくりかた　名　構造法製作法製造法構成、こしらへかた
つくりつけ　形　作付こしらへつけ取離されぬ據に其物
つくりかたなる　名　偽名虛稱ついはりそのなを作らずしてほかをいふ
つくりやまひ　名　作病虛病佯病いつはりやまひ
つくりごと　名　作言造言虛言詐言妖言說言偽言說
つくりごゑ　名　糊聲作慮ついはりごゑにせごゑ假慮
つくりわらひ　名　作笑（他）作笑ひ、そらわらひ、いつわりわらひ

つくりばなし　名　小說ものがたり稗說

つくのふ(自)　客作ばたらく、やとはれてはたらく
つぐのふ(他)　償償却、償還、たぎなひかへす、うめる
つぐのあした　詰朝、翌朝、嗣朝、わくるあさ、つぐあさ
つぐのひ(名)　賠償(物を損じ又は害を及ぼしたる爲に金等を出して補ふ事)
つぐのひ　翌日、あけのひ、わくるひ、詰日、嗣日
つぐのひきん(名)　償金、たぎなひかへすかね(損害を)
つくのひびと(名)　客作兒、傭人、ひようかせぎびと、やとはれてはたらくひと
づくてつ(名)　鐵磚、鐵塊、鐵の未だ鍛錬を經ざる者)
つくぎ(名)　頭衡木、幕標、まくぐし、まくばしら
つぐみ(名)　鶫(鶫鶇動物)
つくみのいびね(名)　白英、まるばのほろし、ひよどりじやうご(植物)
つくし　筑紫(西海道の古名)
つくゑ(名)　案卓、机、また俎(祭品を載る)
つくもどころ(名)　作物所(禁中工作所にて金銀等の器を作る場)
つくもがみ(名)　九十九髪、蓬髪、蓬頭、ねどろがみ、みだれがみ、海藻髪、亂髪、指響髪
つくもぐさ(名)　江浦草、くさのな(植物)
つくす(他)　削滅、殄滅、殲殪、ころしたやす
つくす(他)　盡、悉、竭、殫、ちからをこめてする、いたす、ことごとくいたすのこりなくする
つや(名)　通夜、よあかし(神社佛寺に籠りて終夜祈念するを謂ふ)
つや(名)　津屋、ふなどんや
つや(名)　光澤、艶てり、ひかり、髪(髪の)
つや(名)　邸家、たびや、旅籠屋、はたごや
つやつや(副)　一切、一向、つゆずこしも
つややか(形)　有光澤、艶美、ひかりかがやく、涎涎
つややめく(自)　有艶色、つややか、さらさらする(木葉などが)
つま(名)　調味、交、あひて(肉類等に合せ食ふ菜蔬等をいふ)
つま(名)　帷裾、褄、もすそ、すそ(衣の)、裳も
つま(名)　妻、主婦、つれそふをんな、又夫、とつと、つれあひ
つま(名)　縁、てがかり、ゆかり
つまいり(名)　蹄蹣、蹄漏(牛の蹄の病の名)
つまばらみ(名)　代脂甲疽、ゆびばれもの、瘭疽
つまばさむ　掬、つまどる、もすそをかかげる、褰裙
つまはじき(名)　彈指、爪彈(爪にてはじき忌む事)
つまど(名)　妻戸(厚き板戸にして帶ある者。又のきのと、いりくちのと)
つまどる(他)　襜(つまばさむに同じ)
つまり(副名)　結局、結句、畢竟、なりはて
つまる(自)　塞、ふさがる。また壅、逼、短、みじかくなる
つまれぼに(名)　爪甲(琴ひく道をれぼにたる事)
つまれと(名)　爪音、つめのねと、ことをひくねと
つまをりがさ(名)　端折傘(縁を折こみたる笠)
つまをりびやうぶ(名)　端折屏風(屏風の一種)
つまがけ(名)　爪掛(足の指先にはむる足袋様の物)
つまよる(他)　爪撼、爪搖(指先にて弓の矢等をひねくりまはし見るをいふ)

つまだてる(他)　爪立、蹠(足の指先にて立つ、企、くはだてる)
つまづく(自)　蹉跎、けわたる、躓、蹶跌、跲蹶、蹉躓(足を物に當つる)
つまらぬ(俗)(形)　不足言、くだらぬ
つまむ(他)　摘、撮、指先にてつかむ)
つまぐろ(名)　綽黒、ふちぐろ(矢の羽の名)
つまぐる(他)　捐、つめにてまはす、珠數を)
つまくれなゐ(名)　鳳仙花、ほうせんくわ(植物)
つまやうじ(名)　爪楊枝、こやうじ、はをほじるやうじ
つまやしろ(名)　辻社(山道または路傍などに在る小さき神の宮)、つじほこら
つまこ　妻子、めこ、にようぼうこども、妻孥
つまごと(名)　爪琴、瑤箏、つめにてひくこと(樂器)
つまさき(名)　爪先、足尖甲尖、ゆびさき
つまぎ(名)　爪木(薪の細き者を謂ふ)、しば、そだ
つまぎ　妻木(氏)
つまきり(名)　爪剪、つめきるもの、つめきりはさみ
つまみ(名)　鈕、とつて、もつところ、鼻鈕(印等の)
つまみな(名)　雞毛菜、ちひさきな(植物)
つまじろ(名)　爪白、騮、騮蹄白(蹄の白き馬)
つまじるし(名)　爪印、つめいん
つまびらか(形)　詳、審、委曲、詳悉、委詳、委細、審詳、明細、諦詳、くはしき、逐一、一一
つまびき(名)　爪彈(琴を彈くを謂ふ)
つけ(俗)(名)　勘定書、かきつけ(料理屋の)
つげ(名)　柘、黄楊、柞木、きのな(植物)

つげ(名)　告、諭、告知、つげしらせ、また訃、訃音(死亡の報)
つける(自)　附入、つづきいる、きりこむ、づにのる
つけいし(名)　試金石(金の善惡を試むるに用ふる石)、かねつけいし
つけばな(名)　假鼻、つくりばな
つけとどけ(名)　附屆、扶助、たすけやしなふこと
つけどころ(名)　附處、あはせどころ
つけぢゑ(名)　數智慧、そへぢゑ、助智
つける(他)　漬浸、醃、ひたす、又鹽藏、しほづけにする
つける(他)　貼、はりつくる(藥を)、施、ほどこす
つける(他)　付附着、くつつける、登記、登錄、かきのする
つげる(他)　告、いひきかする、告白、告語、申告
つけがけ(名)　過記、濫開數目、過求(餘分に勘定を書き出す事)
つけがみ(名)　假髪、かもじ、いれげ
つけがみ(名)　附箋、紙簽、はりがみ、さげがみ
つけたり(名副)　附加附錄、つけくはへ、附添
つけたけ(名)　火竹、發燭、つけぎ
つけづまひ(名)　屬強、あとしざりてすすまぬこと(馬に云ふ)
つけね(名)　附根、つらなるところ、關節、つがひ
つけね(名)　附直(客より言いだす直段)
つけねだん　附直段、つけね(上を見よ)
つけな(名)　漬菜(鹽に漬たる菜)、しほづけな
つけうり(名)　漬瓜、しほづけうり
つけうめ(名)　鹽藏梅實、うめづけ、うめぼし
つげぐち(名)　告口、いひつけぐち

つげぐし(名)　黄楊櫛、つげのくし、つげにてつくれるくし
つけぐすり(名)　附薬、ぬりぐすり
つけやき(形名)　附焼(醤油等つけて焼く事また其物)
つけやきば(名)　附焼刃(假燗文、みせかけば(刀等の)。又いればともそはりちゐ
つけふだ(名)　附札、附箋、さげふだ
つけこむ(自)　付込、つけいる。乗、乗機、づにのる
つげさとす(他)　告諭、ときしめす
つけぎ(名)　發燭、引光、ゆわうぎ、火柴、焠兒、火寸、引火奴、火奴。又まつち、洋取燈
つけぎや(名)　發燭工、つけぎつくり。つけぎうるいへ
つけじろ(名)　附城、でまる、外城、そとのこじろ
つけび(名)　放火、ひをはなつこと、ひつけのわざ
つけひげ　假髭、つくりひげ
つけびん　假鬢、つくりびん、かづら
つけもの(名)　漬物、菹(鹽等にて蓄へたる青物類)
つぶ(名)　海螺、甲螺、へたなりのかひ、かひからのかひ(動物)
つぶ(名)　顆、たま、丸き物を數ふる詞。また粒(米穀にいふ)
づぶろく[俗](副)　圖部六、まるで、十分(酒に醉ふに謂ふ)
づぶとい[俗](形)　圖太、きもふとい
つぶり(名)　頭、つむり、かしら、首、かうべ、くび
づぶぬれ　渾濕、全濕、まるぬれ
つぶれね(名)　曾井、からね、うづまれるねど
つぶれる(自)　潰、隤、塡、壞、頽、くだける。刋、囘、禿、まるくなる、さきがにぶくなる。眊、盲(目が)、瞽(非に云ふ)
つぶつぶ(形)　圓圓、まるまる、まるくふとれる、つぶらか

つぶね(名)　奴僕、雑頭、しもべ、めしつかひ、皂隷
つぶねぐさ(名)　及已草、つきねぐさ(植物)
つぶなき(名)　躁、くるぶしのところ
つぶら(名)　郛、腎、とりで
つぶらか(形)　圓圓、まるくふとれる、ふつくりしたる、つぶつぶ
つぶふう(名)　頭風、あたまかせ
つぶのへた(名)　甲香、かひかう、へたなり、香螺
つぶのき(名)　木槵樹、もくげんじ(植物)
つぶのみ(名)　木槵子、もくげんじ(植物)
つぶやく(自)　呟、出怨言、讒(俗字)、こごといふ、くどくどいふ、うらみかこつ
つぶて(名)　礫、小石、こいし
つぶさに(副)　具、備、悉、詳、くはしく
つぶし[俗](形名)　潰(金銀などの器を潰ぶした者を云ふ)
つぶしきん(名)　潰金、つぶしたるこがね
つごもり(名)　晦日、つもごり、みそか、朔日(舊曆にて月の終の日)
つて(名)　蔦繰、えんぴき、てづる。たより
づてんだう　頭顛倒(たふるる貌また音)
づさう(名)　頭瘡、かしらがさ(病名)
づざん(名)　杜撰、みだりにつくれること、妄作
つき(名)　杯、さかづき、たかつき
つき(名)　月、太陰、玉兎、氷鏡、玉蟾、素娥、嫦娥、玄兎、氷輪、金精、宵徳、金樞、桂輪、桂月、蟾輪、団(唐武后の製字)、朏(月の東方に見ゆるを云ふ)、朓(月の西方に見ゆるを云ふ)。又一箇月、ひとつき

つき(名)　月經、つきのさはり
つき(名)　紅鶴、朱鷺、とき、桃花鳥、たうのとり(動物)
つき(名)　交際、つきあひ、まじらひ
つぎ(名)　次、のち、にきたるもの、後
つきいる(自)　突入、つきよる。きりこむ
つきいれる(他)　衝入、つきこむ
つきいでる(自)　突出、ついてすすみいづ(城などより)。又やりもてすすむ
つぎば(名)　繼場、宿場、つぎたてば(宿驛の)
つきはなす(他)　突放、つきとばす
つきばらひ(名)　月拂、つきづきのはらひ。月賦
つきはてる(自)　盡果、たにはてる、なくなる
つぎはし(名)　繼橋(幾つも繼ぎて架けたる橋)
つきばん(名)　月番(其月の役に當る事また者)
つぎほ(名)　接頭、接穗、つぎき、つぎあはせたるき
つきとほす(他)　衝通、つきつらぬく、突通
つきとめる(他)　衝留、つきあてる(鎗等にて)
つきぢ(名)　築地、うめたてち(海沼などを埋めたる處)
つきぬく(他)　衝拔、つきとほす
つきぬく(他)　搗拔、よくかてる(餅等を)
つきる(自)　盡、殫、悉、罄盡、空竭、空乏、消耗、消散、涣散、たゆる、なくなる
つきれとす(他)　突落、衝落(高き所より強く推して落す)
つきをか　月岡(氏)
つぎれくり(名)　遞送、遞運、傳遞、傳送、郵送、通運、しくつぎれくり(荷物の)

つきかへす(他)　搥翻、突反、衝反、つきもどす
つきかかる(自)　突掛、つきあたる。衝入、つきむかふ
つきかげ(名)　月影、つきのひかり
つきかけ(名)　月掛、つきづきにいだすこと(金子を)、月賦
つきがき(名)　築垣、ついがき、つちにてきづけるかき
つきがせ　月瀬(氏)
つきがんな(名)　斲鉋、推刀、曲刀、つきけづるかんな
つきよ(名)　月夜、つきあかりのよる
つぎだい(名)　接臺、ふみだい、ふみつぎ
つきたらず(形)　月不足、不熟胎(胎兒が十月みたざるに生るるを謂ふ)
つきたふす(他)　突倒、つきころばす
つきたて(名)　衝立(「ついたて」を見よ)
つきたてる(他)　突立、衝立、つきさす
つぎたす(他)　繼足、わぎなひたす
つきだす(他)　突出、わしだす
つきそふ(自)　付添、侍坐、扈從、ともする、はべりつかふる
つきそひ(名)　付添、ともびと、從者。又こしもと、侍女、腰、よめつかひ
つきづき　月月、毎月
つぎつぎ　次次、順次、だんだん、そのつぎそのつぎ
つきづき(副)　刺痛(ちくちく痛む心地に云ふ)
つきづきしく(副)　方便、たよりよく、相應、につかはしく、ふさはしく
つきねぐさ(名)　及已草(植物)
つきなみ(形)　月次、月並、月毎、つきごとの
つきなし(形)　不應、にあはぬ、につかはしからぬ

つきうるし(名)　漆、ものをつぐうるし
つきうす(名)　舂臼、からうす
つきのわき(名)　月老、月下氷人、つきひとをとこ(婚嫁の神といふ)
つきのわ(名)　熊白(熊の咽喉の下の白毛ありて皮うすき所にて急處と信せらる)
つきのわ(名)　月輪(僧家の袈裟の輪)
つきのかつら(名)　月桂(月中に在るといふ桂の樹にて文學の表)、また陰魄、かつらをとこ、つきのひかり
つきのかさ　月暈(月の周圍に見ゆる事ある輪)
つきのかみ　月神、月弓尊、月讀尊、月夜見尊(素盞男尊を謂ふ)
つきのねずみ(名)　月鼠(月を鼠にたとへたる者)
つきのさはり(名)　月水、つき、めぐり、月經、天癸、經水、紅潮(婦人が月月躰の汚れる事)
つきのき(名)　槻、けやき、欅(植物)
つきのしづく　月雫、つゆ、又葡萄を砂糖にて包める菓子)
つきのえん　月宴、つきみのさかもり
つぎのひ　翌日、詰旦、嗣日、あくるひ、明日
つきのひかり　月光、素暉、つきのあかり、つきかげ
つきのもの(名)　月水、紅潮、つきのさはりのもの、天癸
つきくだく(他)　搗摧、かててこなにする
つきくづす(他)　突崩、つきてやぶる(敵を)
つきくさ(名)　鴨跖草、翠蝴蝶、鴨頭草、ばうしばな、つゆくさ、あねばな、竹節菜、淡竹葉、笹竹花、かまつか(此圖は「つゆくさの下に在り」植物)
つきや(名)　舂屋、こめつきや
つきやとひ(名)　月雇、つきとばす
つきやく(他)　突放、つきとばす
つきやく(俗)(名)　月役、めぐり(「つきのさはり」を見よ)
つきやま(名)　築山、假山、こしらへやま
つきやぶる(他)　突破、衝破、つきてこはす
つきまはり　月廻、つきのばん
つきまとふ(自)　着纏、跟尾、つきそふ
つきまち(名)　月待(月の上るを待つ事、又つきのまつり)
つきまたぎ(形)　月跨、交月(此月より彼月にわたる事)
つきげうま(名)　月毛馬、桃花馬、赭白馬、かはらげ(動物)
つきぶん(俗)(名)　月賦(げつぷ)、つきがけ
つきぶね(名)　擋艦(敵艦を擋く船)
つきふせる(他)　衝伏、つきころばす
つきごろひごろ　月來日來、ひながく、ひひさしく
つきころす(他)　衝殺、擋殺、刺殺、さしころす
つきこむ(他)　突込、衝入、さしこむ
つぎて(名)　接縫、縫痕、ぬひめ、ぬひあと
つきでつぱう(名)　突鐵砲(小兒の玩具)
つきてあて(名)　月俸、月給、つきぎふさん
つぎあはせる(他)　繼合、續接、つづけあはせる
つきあかり(名)　月明、つきのひかり、月影、つきかげ
つきあたる(自)　觸擋、抵觸、擋着、ふれあふ、ぶつつかる
つきあげる(他)　突上、はげしくれしめぐる
つぎあてる　補綴、ぬひつぐ
つぎあし(名)　義脚、假脚、つけあし
つきあひ(名)　交際、まじはり、交通、往來
つきさす(他)　衝刺、つきとほす

つぎき(名)　接木、接樹、騙樹、接枝、つぎはつぎきり(名)　圓錐、まるぎり
つぎぎね(名)　搗杵、かてぎね
つきゆみ(名)　槻弓、つきのゆみ(水弓)
つぎめ(名)　節關節、ふし(骨に云ふ)、接處、接痕、續目、あはせめ
つきみ(名)　月見(月を眺むる事)
つきしろ(名)　月代、さかやき
つきしたがふ(自)　服從屬從、附屬、率服屬從、順從、ともする、扈從
つきひ　月日、つきとひ、二鼠、光陰
つきひと(名)　姮娥、かうが、嫦娥(月中の婦)
つきひが(名)　月日貝(動物)
つきひたひのうま　白頭馬、ひたいじろ、戴星馬、月額馬、鶴駁騮(馬物)
つきもどす(他)　突戻、つきかへす
つきもの(名)　憑鬼、鬼痙、邪魅、邪祟、もののけ、たたりもの
つぎもの(名)　補綴物、補綻物、ぬひつぎもの
つきやど(名)　月末、月季、月盡、月抄、月尾、つきのをはり
つきん(名)　頭巾、かしらづつみ
つゆ(名)　露、陰液、露水(空氣の中の水分が夜中凍て凝りて水の玉となる者にて脆き事暫時なる事などの譬に用ふ)
つゆ(名)　汁醬、おつもの、しる、れつけ
つゆはらひ(名)　露拂(草葉の露を拂ひ落す事)、さきだち、さきばしりびと
つゆむし(名)　草蟲、草蟲、くさむし(動物)
つゆのいり　入梅梅雨の時候に入る日、ついり
つゆのいのち　露命、はかなきいのち
つゆのま　暫時之間、しばしのま
つゆくさ(名)　鴨跖草、竹葉草、鴨頭草(つきくさの下を見よ)(植物)
つゆけき(形)　露多、滴然、
つゆつゆ　濃濃、霪霖、つゆつゆのねはい、つゆのわけ(名)　送梅、出梅(梅雨の候の終る日)
つめ(名)　詰、裝入、つめこみ
つめ(名)　端、はし、はて、はしのところ
つめ(名)　爪子、つかみ、まがりくぎ
つめ(名)　塞、栓(せん)
つめ(名)　螯、はさみ(蟹の)
つめ(名)　爪(手足の指の上の甲)、爪甲、また橋甲、はしのもと、又鉤鈎、いかりかぎ
つめいん(名)　爪印、つめはん、つまじるし(下をみよ)
つめはん(名)　爪判、つめいん、爪印、つまじるし
つめばん(名)　詰番、當直、當番、つめびばんび(官吏の)
つめどころ(名)　守房、守兵房、つめしよ(番兵などの出て勤むる處)
つめる(他)　打嚴、衝王殺、ころす、まかす(將棊にいふ)
つめる(他)　捻つねる、ひねる
つめる(他)　裝塡充、塡塞、つめこむ、みたす
つめよせる(自)　詰寄せまる、ちかよる

（鴨跖草の圖）

つめたがひ(名)　蝸螺、とべたがひ(動物)
つめたき(形)　冷涼、ひややか、こほりのごとき
つめれんげ(名)　唯薬何草(植物)
つめらう(名)　迫牢、せまきひとや
つめくふ(自)　爪食、はおらふ、はおてをる、つめをかみてをる、ゆびをくはひてをる
つめくさ(名)　爪草、しろつめぐさ、れんだげんげ(植物)
つめくさ(名)　漆姑草、爪槌草、たかのつめ(植物)
つめこむ(他)　詰込、裝入、たしこむ
つめあと　爪痕、つめかきのあと
つめあひ(他)　詰合(役所に出勤して居る事)
つめきり(名)　爪剪、剪爪刀、つめきりばさみ、つまきり
つめしよ(名)　詰所、役所、つめどころ
つめもの(名)　裝入物、つめこみもの
つみ(名)　罪、犯罪、罪辜、罪戾、罪罰、罪科、罪過、辜
つみ(名)　雀鷂、鵰、鷲、すずめだか(動物)
つみに(名)　戴貨、積荷(船の荷物)
つみほろぼし　罪滅、懺悔、くいあらため
つみをこふ　請罪(刑罰を待つ)
つみをさだむる　定罪、擬律、議、つみをいひわたす
つみわう(名)　咀王、輸王、まけたるわう(將棊の)
つみかへす(他)　積返、載回、つみもどす(船にて)
つみかさねる(他)　積重、累積、つみわぐる
つみだか(名)　艙量、積高(積荷の量)、噸數
つみたてる(他)　積立、つみきんする
つみたてきん(名)　積立金、つみきん
つみなふ(他)　刑、つみする、ころす(罪人を)

つみくさ(名)　摘草、くさつみ(野原等にてする)
つみこむ(他)　積込、つみいれる(船に)
つみごやし(名)　堆肥、つみごえ、こやしつみ
つみあげる(他)　積上、堆起、たかくかさぬる
つみきる(他)　摘切、摘截、爪斷、つまみきる
つみきん(名)　積金、つみたてきん
つみびと(名)　罪人、つみあるひと、とがにん
つじ(名)　辻、十字街、よつかどみち
づし(名)　厨子、づくゑ(祭祀の)
づし(名)　厨子花龍、禪龍(佛像を安置する小室)
つじばん(名)　辻番(町の辻の見張人)
づしどころ(名)　厨子所(天子の供御の物を調じ、し處)、きよどころ
つじがため(名)　辻固(町の四辻の警備)
つじがうしやく(名)　辻講釋、大道講釋、そとがうしやく
づしよ(名)　圖書、ゑづかきもの
づしよくわん(名)　圖書館、としよくわん、書籍館
つじだう(名)　辻堂(路傍の小堂)
つじうり(名)　辻賣(大道にて物を賣る事)
つじうら(名)　辻占(町の辻にて行ふ占又凡て歌の語等にて吉凶を見る事)
づじやう　頭上、あたまのうへ
つじやうじ(名)　通障子(大なる障子に簾を掛けたる者を昔しか呼べり)
つしま　對馬(西端の國名)
つじげ(名)　旋毛、まきげ、ちぢれけ
つじぎり(名)　辻切、衝斬(路等にて通行人を試し斬る事)

つじぎみ(名)　辻君、夜發、ひつぱり、密賣淫女
つじみせ(名)　街店、やたいみせ
づしん(名)　圖識、みくじ
つゑ(名)　杖、笻(たけづゑ)、策(道歩く時に携ふる棒)
つゑつく　杖策、棒筑、つゑによる
つゑつきむし(名)　尺蠖、歩屈、しやくとりむし(動物)
つゑのき(名)　椐(杖に用ふる木)
つぴ(名)　陰戸、陰門、女陰(婦人の前陰)、まへ、かくしどころ
つひに(副)　遂、終、竟、卒、をはりに、到底、とても
つひのみち(名)　終道、死出の旅(死ぬる事を謂ふ)
つひのすみか(名)　終栖(冥府、よみ、めいど)
づびきがみ(名)　圖引紙、ゑづひくかみ
つひえ(名)　費、耗、費用、消費、費途、費額、いりめ、入用、つひやしだか、弊、わしきところ、潰、やぶれ
つもり(名)　概算、計算、意見、みつもり、預算
つもり　津守(氏)
つもりがき(名)　計算書、概算書、預算書、みつもりがき
つもりすごす(他)　過計、たかくつもる
つもる(自)　積、疊積、かさなる、れはくなる
つもる(他)　計算、概算、はかりみる
づんばい(名)　飄石、いしなげ、投石、間碌礫、礫、塹、ふりづんばい、ふんだし
つんぼ(名形)　聾、みみしひ、聾者、重聽、みみきこえぬ
つんぼさしき或つんぼ(名)　聾桟敷(劇場の前面の方に舞臺に向けて設けたる桟敷にて最も遠ければ役者の聲も聞えぬ故に然か名く)
づんと[俗](副)　甚大、極、たいさう、たはきに

つんとした(形)　無愛相(ぶあいさう)、たかぶる、昂然
つんざく(他)　劈裂、劈、さく、わる

ね

ね　子、禰、根　是は、ぬの父音と、え、の母韻と合して生ずる音にして五十韻の中に於て第五行第四段に位す
ね(名)　直、あたひ、ねだん
ね(名)　根(草木が土中に生ずる枝、又もと(本)
ね(名)　音、ねと、こゑ
ね(名)　鰷、やじり、やのね
ねい(名)　子(十二支の一にして鼠に當る)
ねいろ(名)　音色、こゑのやうす、こわね(聲音)、こわいろ
ねいぼ(名)　蠣母、はるのせみ、せみのたぐひ(動物)
ねいべん(形)　佞辯、くちかしこき、へつらひとりいる(奸臣の如く)
ねいりばな(名)　寐入端、ねむりはじめ、酣睡時
ねいる(俗)(自)　寐入、就眠、睡、寢、眠、ねむる、ねこむ
ねいかん(形)　佞姦、わるがしこき、佞辯
[ねいらく]　寧樂、なら(平安城の稱)、奈良
ねいく　寧苦、やすきくるしき、苦樂
ねいけつ(名)　鷸鴕、さざき(動物)
ねいてん(名)　佞諂、へつらひ、追從(つゐしよう)
ねいさい　寧歲、やすきとし(平和の年)
ねいき(名)　寐息、呿(俗)、鼾息、ねひりたるいきづかひ、いびき
ねいきよ[する]　寧居、やすんじをる、安處

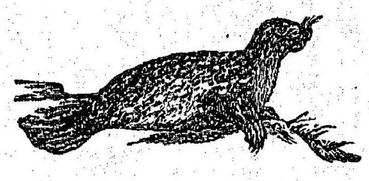
ねいゆ(名)　佞諛、へつらひ、ねべつか、佞辯
ねいしよ[する]　寧處、やすんじをる安居
ねいしつ　寧日、やすきひ、やすらかなるひ(平安無事の日)
ねいしや(名)　佞者、ねぢけもの、わるがしこきもの、佞辯者
ねいしん(名)　寧親、さとがへり(女が嫁して後に親の許を訪ふ事)
ねいしん　佞臣(佞辯の臣)
ねいじん(名)　佞人、ねぢけびと、佞者
ねいび(名形)　佞媚、へつらひ、こびへつらひ、ねべつか
ねいも(名)　根芋、いもののかね
ねいせい(形)　寧靜、やすくしづか(國家が)
ねばり(名)　盤根、ねのはりたるさま(山にも云ふ)
ねばり(名)　粘着、ねばること、ねばりけ
ねばりぢ　粘地、ねばつちぢ
ねばりづよき(形)　粘强、つよくねばる
ねばりつく(自)　粘着、膠漆、くつつく
ねばりけ(名)　粘氣、ねばるきみ
ねばりもろき(形)　粘脆、つよくねばらぬ
ねばる(自)　粘、粘着、膠漆、ねばつく
ねはだ(名)　鮫肌、ねむりたるひとのはだへ
ねばつち(名)　粘土、埴、はに、へなつち壤、粘泥、やきものづち
ねばつつじ(名)　山躑躅(植物)
ねばう[俗](名)　寢坊、よくねむるもの
ねばうさう(名)　白薇、ふなばらさう(植物)
ねばき(形)　粘、ねばる、粘着、ねばつく

ねぢがねさう(名)　綬草(植物)
ねぢかけ(名)　螺旋器、ねぢるうつは、ねぢをかくるうつは
ねぢたふす(他)　捩倒、捽扢、ひねりころばす
ねぢれる(自)　捩捻、よれる、ひねりまがる
ねぢぐわし(名)　捻頭、ねぢりたるくわし
ねぢくぎ(名)　螺釘、ねぢれたるくぎ
ねぢくび(名)　扭拔頭、捩頸、ねぢりきりたるくび
ねぢまはし(名)　轉螺旋、螺旋を廻はす器)
ねぢまはす(他)　捩廻、ひねりめぐらす(「ねぢる」を見よ)
ねぢまげる(他)　捩轉、捻曲、ひねりまげる
ねぢふせる(他)　捩伏、ひねりたふす
ねぢこむ(他)　捩込、ひねりいれる
ねぢあやめ(名)　馬藺、かきつばた(植物)
ねぢあける(他)　捩開、扭開、ひねりひらく(戸等を)、こぢわ
ねぢわふ　捩合、ひねりわふ(相摸等が)
ねぢきり(名)　螺旋錐、ねぢまはすきり
ねぢきる(他)　捩斷、ひねりとる、扭斷
ねぢしかけ(名)　螺旋機、ねぢからくり
ねぢもどす(他)　扭戻、ねぢりかへす
ねり(名)　型幅(農具の名)
ねり(形)　脫毛、はぬけ(鳥の)、はねがはり
ねり(名)　緩歩、遨、ねり、そろそろあるき(行列等の)
ねり(名)　練、ねること、又光澤、ねりぎぬ
ねりいろ(名)　練色、つやあるいろ、つやつやしきいろ
ねりべい(名)　煉塀、墻、土墻(瓦等を重ねて石灰にて堅めし墻)
ねりぬの(名)　練布、ねりたるぬの
ねりがね　錬金、きたひがね
ねりかす(自)　反噛、再噛(牛駱駝等が腹内に藏めたる草を口に出して再び噛むをいふ)、にれかむ、嘲齝(牛の)。齝(羊の)
ねりがき(名)　練柿、しぶぬきがき、たるがき
ねりそ(名)　練麻、ねりたるあさ
ねりぐり(名)　練繰、練綾(絹の名)
ねりやうかん(名)　煉羊羹(菓子の名)
ねりやく(名)　煉藥、丹藥、ねりてつくれるくすり
ねりこ(名)　捏扮、こねたるこな(麵麭等を作る)
ねりあるく(自)　遨歩、緩歩、そろそろすすむ(行列等の)、ねる
ねりざけ(名)　煉酒、白酒、白醪、しろざけ、こきざけ
ねりぎぬ(名)　練衣、練絹、光素、熟絹、ねりたるきぬ
ねりきたへる(他)　鍛練、うちきたへる(金鐵を)
ねりひばり(名)　脫毛雲雀、はぬけひばり。又遂鶵(動物)
ねりもの(名)　練物、ねりてつくれるもの、擬珊瑚青玉の如き物)
ねりもの(名)　遨物(祭禮の笠矛など種々の飾り物を謂ふ是ねりあるきて引くか故なり)
ねりものし(名)　遨物師(遨物の人形を造る者)
ねりすゐしやう(名)　練水晶、ねりてつくれるにせすゐしやう
ねる(自)　遨遊歩、緩歩、徐行(行列等の如く)、そろそろあるく
ねる(自)　寢寐、臥、いぬる、ふす(床に)

ねる(他)　練、もむ。つやをだす。又練達、鍛練、たんれんする
ねる(他)　煉、これあはする、捏、こねる(藥或は粉等を)
ねる(他)　錬、きたへる、やきよめる(金屬を)
ねを(名)　根緒、さげひも、ひも
ねを　根尾(氏)
ねをわげる　貴價昂直、昂騰、騰貴、ねをたかくする
ねをさげる　低價、低廉、減價、折價、下直、ねをまける
ねおき(名)　寢起、寐起、めさめ、ねむりのさむること、おきること
ねをびねる(自)　寢驚、寐悔、うなされる、ねむりねてれそる(魘され等して)
ねわけ(名)　根分、分栽(樹の根を他に分ち移す事)
ねわすれる(自)　寢忘、寢過、ねすごす、おきるをわすれる
ねがへり(名)　寢反、反側、顚轉、ねがへること。又ころがはり(男女の間に云ふ)
ねがへる(自)　寐反、反側(床に臥し居て向きかへる)
ねかた(名)　根盤、ねまはり(木の)
ねがね(名)　休銀、不用金、もちひぬかね、ねかしがね
ねがらみ(名)　根絡、ねのはびこること(木の)
ねがけ(名)　根掛(婦人の髷の根にかくる飾物)
ねがみ(名)　宿紙、ふるびたるかみ、古紙
ねかしもの(名)　滯貨、不印品(ふじるしじな)、うれぬしなもの、ねさもの
ねがひ(名)　願望、志願、希望、のぞみ、悃願、情願、請願、歎願、こひねがふこと
ねがひさげ(名)　願下、解訟(訟訴の和解)
ねがひしよ(名)　願書、ねがひがき(官府に呈する)

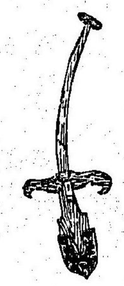
ねだ(名)　牀下の横木)
ねだい(名)　寢臺、臥榻、ねるだい、高臥牀
ねだいた(名)　牀板、牀板、ゆかいた
ねだば(名)　寢刃、やいば、つるぎのは、利刃
ねだる〔俗〕(他)　強請、煩請、しひてもとむる
ねたらぬ(形)　寢不足、渴睡(十分眠らぬを云ふ)
ねたむ(他)　妬、嫉、嫉妬、妬猜、嫌猜、妬忌、怨望、そねむ
ねだうぐ〔俗〕(名)　寢道具、臥具、夜具、ねるにもちふるもの
ねたやし(名)　根絶、まつたくたやすこと、斷絶、まるだやし
ねたげ(名)　妬氣、ねたましげ、ねたきありさま
ねたき(形)　可妬、嫉妬、ねたましき
ねだん(名)　直段、價格、定價、市價、時價、價値、あたひ
ねれけもの(名)　老練者、なれたるもの、巧者
ねそこなふ(自)　失寐、ねそびれる
ねそびれる(自)　失寐、ねむりそこなふ、ねむられぬ
ねつ(名)　熱、あつさ。火氣、暑熱、また熱病
ねづ　禰津、根津(氏また地名)
ねつい〔俗〕(形)　愚しわい、しわんぼうなる、鄙吝、りんしよく
ねつばう〔する〕(他)　熱望、ふかくのぞむ、渴望
ねつちう(名)。—する(自)　熱中、熱心、熱情、あつきこころ
ねづく　あつくなる
ねづり(名)　根艮(馬具)
ねつがん(名)　熱燗、あつがん酒の)
ねづよき(形)　根強、かたくねざせる、根聲
ねつたい(名)　熱帶(太陽直下の部)

ねつたう　熱湯、にえゆ、あつゆ、百沸湯、大和湯
ねつく(自)　寢着、ねむりいる、就寢
ねつくわい　熱灰、あつばひ、あつさはひ
ねつけ(名)　根附、懸錘(煙草入等の紐に附くる飾り物)
ねつけつ　熱血、あつきち
ねつぶ(名)　海豹、水豹、わざらし(北海に居る者)(動物)
ねつふつさう(名)　熱沸瘡、わせぼ、あせいも
ねつぷう　熱風、あつきかぜ
ねつこ〔俗〕(名)　根榾(切りたる木の根の方を言ふ)、きりかぶ。また根柢、ね
ねつこ　根子(氏)
ねつこく　熱國、あつきくに、熱帶國
ねつてつ　熱鐵、あつきくろがね。又わかしたるくろがね
ねつぎう〔する〕(他)　捏造、つくりこしらふる(小說わるひは傳記などを造り出すを謂ふ)
ねつさまし(名)　熱醒、ねつさますこと。又ねつとるくすり
ねつき(名)　熱氣、あつき(火等の)。暑氣(氣候の)
ねつき(名)　根木、ねつこ(木の)
ねつぎ(名)　根續(柱等の下の方を新に繼ぐ事)
ねつしよく(名)　涅色、くりいろ、くろいろ
ねつしれい(名)　涅齒蛉、ねはぐろとんぼ(動物)
ねつしつ(名)　熱室、あつきへや、むろ
ねつしん(名)　熱心、あつきこころ、熱中


(豹海の圖)

ねつびやう(名)　熱病、からだあつきやまひ
ねづもり(名)　評價、估價、評估、評値、あたひづもり(賣る物の)
ねなしかづら(名)　菟絲子(とこし)、菟蘇、菟縷、菟蘆、金線草、火焔草(植物)
ねなしぐさ(名)　佛甲草、つめれんげ(植物)
ねなしごと(名)　無根語、流言、りうげん、つくりごと、妄語、詭言
ねらふ(他)　狙、覘、正視、覗、眇着(鉄砲に云ふ)、ねらひをつける。覬、覦、うかがふ、めがける、つけねらふ
ねらひ(名)　狙、窺、ねらふこと
ねらひうち(名)　狙撃(そげき)、ねらひをさだめてうつこと(鐵砲にて)
ねむい〔俗〕(形)　思睡、感睡、ねむりたき、ねむたい
ねむろ　根室(北海道の一國)
ねむり或ねぶり(名)　睡眠、ねむること。又しぬること
ねむりぐさ(名)　含羞草(豆科に屬す)(植物)
ねむりめ(名)　睡眼、眙、ねむれるまなこ。ねむたいまなこ
ねむる或ねぶる(自)　睡眠、睡眠、交睫、いぬる、ねいる、睡臥
ねむたい(形)　眠度、思眠、ねむい、ねむりたい
ねむらさき(名)　根紫、紫草(むらさき)を見よ(植物)
ねむのき(名)　合歡木(かふかのき)、夜合花、アラビアゴムのたぐひ(植物)
ねうはち(名)　銚鉢、銚鈸(佛寺其他にて兩手にて打ならす金の樂器)、にうはち
ねうち(名)　價直、あたひ、估價、估値、料估、ねづもり
ねうだう(名)　尿道(小便の出る管)、尿管

ねうさん(名)　尿酸、アンモニア(諸毋尼亞)
ねうし(名)　饒磁、青磁(陶器の一種)
ねうえ(する)(他)　繞回、めぐる、まはる
ねうぜつ(名)　饒舌、ことばおほきこと、多言、おしやべり
ねのね　根井(氏)
ねのはし(名)　北極星、極星、紐星(北辰を謂ふ)
ねのくに(名)　根國、月世界。また陰府、よみ
ねのこ(名)　子子(舊十月初亥の次の日を謂ふ)
ねのこく　子刻(三更(中夜を謂ふ)、よなか、十二時、よは、夜半
ねのひ　子日(十二支の子に當る日)
ねのび(名)　臥伸、いねてからだをのばすこと
ねのひすき(名)　子日鋤(此鋤は東大寺正倉院に藏し往古孝謙天皇の天平寶字二年正月三日の子日に用ひさせたまひし儀式鋤なり)

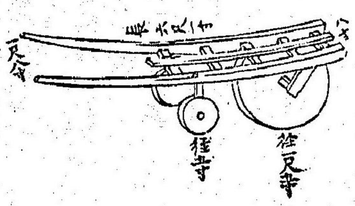


(圖の)

ねぐるふ(自)　狎戲、なれたはむる(男女が)。妍(俗此字を用ふ)
ねぐるみ(名)　繳宿鳥を射て取る事)弋射、いぐるみ
ねぐるみ(副)　幷根、ねもろとも、ねながら、ねごめ、ねともに(根と一處に)
ねぐるしき(形)　寢苦敷、寢難、ねがてぬる、ねがたき、ねにくき、ねづらい
ねくたれる(自)　寢亂、ねてみだれる(髮が)、しをれたるる
ねくたれがみ(名)　寢亂髮(「ねみだれがみ」に同じ)
ねぐら(名)　塒、棲、とや、とまりどころ(鳥の)。す、巢、窠
ねぐさる(自)　寢腐、むれくさる。過眠、ねむりにふける
ねぐさき(形)　饐、すえくさき、餿、餲、宿腐、すえたる。寢臭、ねむりいきくさき(寢室内が)
ねくび(名)　寢首(夜眠れる人の首)
ねや(名)　閨、臥房、寢室、ねま、ねどころ。寢殿(帝王等の)
ねやごと(名)　房事(ばうじ)、交合、夫婦の交
ねやす(他)　埏、粘、黏、ねる、こねる、膃、ねばらす、ねばるやうにする
ねやす(形)　直安、安直、下直(げぢき)、賤價、廉價、やすき
ねやすき(形)　寢安、よくねむらるる、ねごころよき
ねやはり(名)　根盤、ねくばり(樹木の)、ねのはりかた
ねまどふ(自)　寢惑、とまどひする、ねばける
ねまち(名)　寢待、いねてまつこと。又(俗)ねること
ねまちのつき　寢待月(太陰曆にて十九日の夜の月を云ふ)
ねまりたで(名)　馬蓼、いぬたで(「ばれう」と見よ)(植物)
ねまる(名)　杜父魚、ちんこう(動物)
ねまる(自)　踞、蹲踞、つくばふ、すわる、うづくまる
ねまる(自)　寢臥、ねふす、ねる
ねまつり　子祭(甲子の日の祭祀を謂ふ)
ねまき(名)　寢卷、寢卷、被、ふすま、睡衣、寢衣、さるきもの
ねまし(名)　直增、加價、あたひまし、ねあげ
ねぶと(名)　癤、かたね、できもの
ねぶる(他)　舐、咶、舔、醐、なめる、なめづる
ねぶか(名)　根深、葱、茎、葱、ひともじ、ねぎ(植物)
ねぶかはいし(名)　根府川石(相摸足柄郡より出づる石)

ねぶたき(形)　欲睡、ねむたい、睡、ねむい
ねぶみ(名)　評價、ねづもり、估價
ねふす(自)　寢臥、いねよこたはる、ねころぶ
ねこ(名)　猫、貓(家に養ふ動物)、狸奴、家貍、蒙貴、烏圓、如虎、似虎(動物)
ねごろ　根來(氏また地名)
ねころぶ(自)　寢臥、いねてよこたはる、ねふす
ねこはぎ(名)　猫萩、はぎのたぐひ(植物)
ねごと(名)　寢言、譫語、寐語、寢語(寐りの中の詞)
ねこわに(名)　狗沙魚、ねこざめ(動物)
ねこかぶる(自)　蒙猫、糊處女、をとなしきさまをする、をとめらしくする(淫奔の女が處女の態をなすなどに云ふ)
ねこだ(名)　蘭藉、わらにきもの、つかなみ
ねこそげ(副)　根共、ねぐるみ、ねもろとも
ねこなでごゑ(名)　絮語、酣語、やさしきことば、やはらかきことば
ねこむ(自)　就寢、ねいる、就眠熟睡、よくねむる
ねこのめさう(名)　猫兒睛眼草(虎耳草科(植物)
ねこぐるま(名)　猫車、孤輪車(此車は運用極めて便利にして一人にて三四拾貫目の物を運搬するも容易なり)

(猫車の圖)



ねこぐさ(名)　白頭翁、わさなぐさ、しやぐまさいこ(植物)
ねこまた(名)　猫魔、金花猫、金葉猫、やまねこ(或云ふ猫の化たる者)
ねこける(自)　睡顚、睡倒、ねむりてたふれる
ねこご(名)　猫兒、小猫。こねこ(動物)
ねこあし(名)　猫脚(膳臺等の脚の猫脚の形なる物)、局脚
ねござ(名)　臥蓙、蒲席、臥薦、ねるござ、ござぶとん
ねこざめ(名)　虎頭沙魚(猫の如き頭の鮫にて背は褐色にして斑紋あり)(動物)
ねごめ(名)　根共、ねながら、ねこそげ
ねこせ(名)　猫背、せむし、せぶんこ
ねあがりまつ(名)　根顯松、黃山松(根の地上に顯はれたる松)(植物)
ねあげ(名)　直上(直段を上げる事)
ねあきる(自)　寢厭、ねむりくたびれる
ねあせ(名)　寢汗、寐汗、盜汗(夜睡り居る間に出る汗)
ねざとき(形)　寢聰、めざとき、はやくめさます
ねざらし(名)　露根(樹根を地上に露はす事)
ねざむる(自)　寢覺、ねむりをさます
ねざう[俗](名)　寢相、ねすがた、ねやう、ねざま
ねざま(名)　寢樣、ねすがた、ねやう
ねさげ(名)　直下(直段を下る事)
ねざけ(名)　寢酒、ねるときのむさけ、ねざはにのむさけ
ねざさ(名)　根篠、千里竹、越王竹、龍絲竹、めだけ、をんなだけ、しの(植物)
ねざめ(名)　寢覺、めさますこと、めざめ
ねざし(名)　根發、ねばり(樹木の)、ねをはること

ねぎす(自)　根蔓、ねとはる(樹木の)、つく蔓
ねぎ(名)　禰宜神官、かんぬし、廟祝、はふり
ねぎ(名)　願、ねぎごと、ねがひごと。又労犒、ねぎらひごと
ねぎ(名)　葱青葱、根葱、ねぶか、ひともじ(植物)
ねきりむし(名)　蝨蝨、蚤虱(草根を喰切る虫)(動物)
ねぎる(他)　摧直、折價、こぎる(直段を)
ねぎたなき(形)　貪眠、欲睡、いぎたなき、ねむがる
ねぎらふ(他)　勞、犒、いたはる、ほねをりをしやする
ねきむし(名)　蚯蚓、いなご(動物)
ねぎごと(名)　願事、祈事、いのり、ねがひごと
ねぎし　根岸(氏また地名)
ねきもの(名)　滯貨、廢貨、なぐれもの、すたりしなもの
ねめる(他)　疾視、睚眦、白眼、にらむ(下を見よ)
ねめつける(他)　疾視、嗔目、瞪目、にらみつける(上を見よ)
ねみだれがみ(名)　寢亂髪、ねくたれがみ(寢て亂れたる髪)
ねみづ(名)　宿水、くみおきみづ
ねみみ(名)　寢耳、ねむれるひとのみみ
ねじろ(名)　根城、牙城、本城、本丸(ほんまる)
ねしろくさ(名)　根白草、せり(植物)
ねしづまる(自)　寢沈、沈眠、ねむりしづまる
ねじめ(名)　根締樹の根を衝き堅むる事)
ねじめ(名)　音締(音曲の音聲の緩緊を調ふ)
ねびる(名)　山蒜、ひるのたぐひ(植物)
ねびき(名)　直引、減價(直段を減く事)
ねびえ(名)　寢冷(寢て寒さに感ずる事)
ねもと(名)　根元、根許、ねぎは、ねつこ
ねものがたり(名)　寐物語、寢談(夫婦等が床の中に在てする談話)
ねもごろ(形)　懇、慇懃、ねんごろ
ねせり(名)　根芹、せりのたぐひ(植物)
ねせうべん(名)　寢小便、よつばり、遺尿、屎床、臥便利(睡りて床の上に小便する事)
ねず(名)　杜松、むろ(植物)
ねずばしり(名)　梢、鼠走(鴨居の上邊を謂ふ)、横梁
ねずり(形)　根摺(古昔草根にて衣服等を紫に染たるを謂ふ)、根磨
ねすりごと(名)　佞言、へつらひごと、諛言
ねずを(名)　根助緒(鷹に鈴を附る繩)、繋緒
ねずつぼ(名)　牛尾魚(動物)
ねずなき(名)　鼠鳴、嗅嗅(鼠の如く鳴く事)、ねずみなき、ちうちうごゑ
ねずのばん(名)　不寢番、よばん、夜守(徹夜の番)
ねずまひ(名)　首鼠、ためらひ、狐疑、いうよ
ねすぎる(自)　寢過、あまりねぼくねむる
ねずゆ(名)　檜、水樹檜(いぼた)の類にして蠟を出す木、らふのき(植物)
ねずみ(名)　鼠、社君、家鹿(動物)
ねずみいろ(名)　鼠色、黝色、灰色、正墨色、黯黒色
ねずみはなび(名)　鼠花火、はしりまはるはなび、はしりはなび
ねずみはしり(名)　鼠走(「ねずはしり」に同じ)
ねずみとり(名)　捕鼠器、鼠弩、ねずみれとし、又ねずころし

ねずみちや(名)　灰褐色(色の名)、ねずみがかれるちやいろ
ねずみれとし(名)　鼠穽、捕鼠器、ねずみとり
ねずみかべ(名)　黝壁(鼠色の壁)
ねずみがや(名)　鼠茅、くさのな(植物)
ねずみよもぎ(名)　茵蔯(植物)
ねずみたけ(名)　鼠足菌、鼠茸、鶏蹴(植物)
ねずみつかひ(名)　鼠遣、ねずみをつかふみせものし。戯
ねずみねやし(名)　鼠粘草、きたさす(植物)
ねずみのを(名)　鼠鳴、卽噦(「ねずなき」に同じ)
ねずみのて(名)　鼠手(肌の類)
ねずみのめ(名)　鼠婦、卽蛜、地虱(動物)
ねずみくひへび(名)　黄頷蛇(動物)
ねずみげ(名)　鼠毛、ねずみのけ
ねずみげのうま(名)　騅馬(動物)
ねずみけのふで　鼠鬚筆、ねずみひげのふで、鼠心毫筆、ねずみけのふで
ねずみころし(名)　鼠殺、鼠毒、礬石、亜砒酸(毒石の名)。又ねずみとりぐすり
ねずみこぶ(名)　鼠瘤、いぼ
ねずみもち(名)　女貞、蠟樹、冬青、楔、ひめつばき、楔鼠梓(植物)
ねん(名)　年、稔、とし、歳
ねんいれ(名)　念入、注意、精覈、精密、精細、用意、周到
ねんぱい(名)　年輩、としのころ、としわひ、としかつかふ
ねんばらし(名)　念晴、れもひはらし、披鬱、洩憤
ねんばう(名)　年報、としどしのしらせ
ねんばう(名)　念望、望願、のぞみ、ねがひ、志願
ねんはん(名)　粘飯、そくいひ
ねんばん(名)　年番、としのやくをつとむること又ひと(町村等の事務の)、直番、としのたうばん、ねんよ
ねんぱ(名)　年甫、としはじめ
ねんぼ(名)　年暮、としのくれ、歳暮
ねんぽう(名)　年俸、年給(一年として受る給金)
ねんべう(名)　年表(年代記)
ねんど(名)　粘土、へなつち、ねばつち
ねんど(名)　年度、としあたり
ねんとう(名)　年頭、としのはじめ(俗に年頭の禮を直に年頭と謂ふ)
ねんとう(名)　念頭、れもひ、心頭、こころ
ねんちう　年中(一年の間を謂ふ)
ねんちやく(する)(自)　粘着、ねばりつく、こべりつく
ねんりよ(名)　念慮、れもひ、れもんばかり
ねんりき(名)　念力、れもひのちから
ねんが(名)　年賀、としのよろこび(新年の慶賀を謂ふ)
ねんがう(名)　年號(年の名にて慶應明治の如きを謂ふ)
ねんよ(名)　年預、ねんばん、直歳
ねんだい(名)　年代、としよ、じたい(時代)
ねんだいき(名)　年代記、年表(古代よりの年年の記事)
ねんれい(名)　年禮、賀歳、年賀(年の初の祝賀)、としのいはひ、拜年
ねんれい(名)　年齢、とし、よはひ、としごろ
ねんれいいちやう(名)　年禮賑、賀簿、年始の賀に來る人が各

々その名を記るし行く爲に出したる白紙簿）
ねんれき（名）年暦、としのこよみ
ねんね［俗］（名）嬰兒、みどりご（小兒の語）
ねんねん　念念（一念一念をいふ）毎念
ねんねん（副）年年、としどし、歳歳
ねんらい（形）年來、としごろの、としひさしき（從來
ねんらう（名）年老、としより
ねんぐ（名）年貢、租稅、みつぎ、貢租（政府に納る）
ねんぐとりたてやく（名）年貢取立役、收稅官、徵稅官
ねんくわう（名）年光、としよはひ、年華
ねんぐめん（名）念願、願望、ねがひのぞみ
ねんぐまい（名）年貢米、租米、貢米、上納米、みつぎごめ（政府への）
ねんまつ（名）年末、歳暮、歳杪、としのすゑ、くれ
ねんまく（名）粘膜、ねばりかは（體中の）
ねんげ　拈華、はなとひねる、はなをたむける
ねんげつ　年月、としつき
ねんげん（名）年限、期限、さだめのかぎり
ねんぷ（名）年賦、としわり、としがけ（年年に割りて借金等を返へす事）
ねんぶつ（名）念佛、ほとけをねんずること
ねんぶつどり（名）念佛鳥（動物）
ねんぶつだう（名）念佛堂（念佛を誦ふる爲の寺院、てら
ねんぶつこう（名）念佛講（念佛を誦ふる目的の集會）
ねんぶん（名副）年分、年度、一年分
ねんごろ（形）懇、鄭重、慇懃、叮嚀、丁寧、悃苦、親切（しんせつ）、懇篤、懇款、悃篤、ねもごろ

ねんこう（名）鯰公、なまづどの（鯰鰻を蓄ふる人を戲れに然か謂ふ）
ねんこさい（名）粘糊菜、豨簽（植物）
ねんでふ［する］（他）撚捻、ひねくる
ねんさい（名）年歳、とし、年歳
ねんさん（名）年算、よはひ、とし（人の）
ねんき（名）年紀、とし、よはひ、年齡、また年代
ねんき（名）年季、としのすゑ
ねんき（名）年期、としぎはめ（奉公人弟子等が年月を限りて主人に事ふる其間を謂ふ）
ねんき（名）粘氣、ねばりけ、ねばるちから
ねんき（名）年忌、周忌、ひとまはりのいみ（死人の）
ねんきぼうこう（名）年期奉公（年期を定めて弟子入奉公する事）
ねんきぼうこうもの（名）年期奉公者、ねんきぼうこうするもの、ねんきもの
ねんぎよ（名）年魚、あゆ、わい（動物）
［ねんぎよく］（名）年玉、としだま（新年の贈物）
ねんぎやうに（名）年行事、年番役人（町村組合等の）、排年、ねんよのやくにん
ねんきふ（名）年給、年俸（一年の給料）
ねんきもの（名）年期者（年期を定めて奉公する者）。隨身。
ねんきん（名）年金（年年賜はる恩給金）
ねんし（名）年齒、よはひ、よし、年齡
ねんし（名）年始、としのはじめ（俗年始の賀を直に年始と謂ふ）
ねんし（名）撚絲、よりいと

ねんしよ（名）年初、としのはじめ、年首
ねんじや（名）念者（ていねいもの（物事に念を入る人）
ねんしさう（名）粘刺草、はまささげ（植物）
ねんしゆ（名）年首、年始、としはじめ
ねんじゆ［する］（他）念誦、ねんじとなへる（佛名等を）
ねんじゆ（名）念珠、珠數、じゆず、念數（佛を念する時に爪にてくる者）
ねんじん（名）念人（念者に同じ）
ねんにき（名）粘液、ねばしる、ねばるみづ（身體中の）
ねんび（名）年尾、年末、としのすゑ
ねんせい（名）年稅、としごとのみつぎ
ねんせい（名）年筮（陰陽家にて一年間の吉凶を占考するを謂ふ）
ねんせう（名）年杪、としのくれ、年暮
ねんせう（形）年少、としわか、としのいかぬ
ねんせんしや（名）撚線車、いとよりぐるま
ねんすう（名）年數、としかず

な

な　十、奈、那、名　是は「ぬ」の父音と「あ」の母韻と合して生ずる音にして五十韻の中に在ては第五行第一段に位す
な（名）名、號、なまへ、よびな、稱、となへ、稱號
な（名）菜、蔬、おを（植物）
な（代名詞）汝、なんぢ［古語］
な（名）儺、追儺、ついなやらひ、ななやらひ
な（名）魚、うを（古語）
な（命令詞）勿、なかれ［古語或は俗］
ない（形）無、ないまへ、もつての、ひそかの
ない［俗］（自形）無、ない、なし
なゐ（名）地震（ぢしん）、地動、ちのふるふこと
ない（名）內意、ないのかんがへ
ない（名）內醫（內科の醫）
ない（名）內衣、ゆかた、ゆかたびら
ない（名）內憂、うちうちのうれひ（國內の騷動等をいふ）
ないはう（名）內方、うちかた、內儀、內室、わかみさん
ないばくげばく　內縛外縛、かなしばり（魔法にて縛られたるを謂ふ）
ないへい（名）內變、きにいり、內寵
ないへん（名）內變、うちもめ（內部の變動）
ないべん（名）內辨（叙位除目の時公事を行ふ官人）
ないとう　內藤（氏）
ないぢ（名）內治（內部の治療又國內の政治）
ないぢよう（名）內痔（病名）
ないちよう（名）內寵、うちのきにいり（君主の內嬖）
ないちよく（名）內勅、ひそかのれふせ（天子の）
ないちん［する］　內陳、ひそかにまうす（己れの意見等を）
ないり（名）奈利、泥犂（梵語にて地獄をいふ）
ないをう（代名詞）乃翁、れやぢ、ちちおや
ないれう［する］（自）內應、うらぎりする（敵に內通する）
ないをん（名）泥洹（涅槃に同じ）、ねはん
ないかく（名）內閣（政府の最重要の會議所）

ないかくそうりだいじん　内閣總理大臣（政府内の最高の官人にして内閣の事務を督す）
ないかくこもん（名）　内閣顧問（内閣の相談役）
ないがま（名）　薙鎌、長鎌、なぎがま（武器）
ないがしろにする（他）　蔑無、閑、輕蔑、かろんずる、かろしめる
ないよう（名）　内癰、できもの、はれもの
ないだいじん（名）　内大臣（高貴の官名）
ないだん（名）　内談、私談、まへもつてのうちあはせ
ないそ（名）　乃祖、せんぞ、祖先
ないそう［する］（他）　内奏、ないないまうしあぐる、密奏
ないそん（名）　内損（身内の盛衰）
ないつう（名）　内通（味方の事を敵に密に通ずる事）、内應
ないねつ（名）　内熱（熱病の身内に在る者）
ないない（副）　内内、みつみつ、ひそかに
ないら（名）　内羅、内勞、内爛（馬の息ぎれする病）
ないらん［する］　内覽、うちうちにみる、内見、ないないみる
ないらん（名）　内亂、うちうちのさわぎ（國内の騒亂）
ないむだいじん（名）　内務大臣（内務の長官）
ないむしやう（名）　内務省（内國の事務を監督する官衙）
ないくわ（名）　内科（身内の治療をする醫術）
ないくわ（名）　内踝、うちくるぶし
ないぐわい　内外、うちそと、また内國外國、中外
ないくわん（名）　内官、そばやく、そばづかへ、れそば
ないぐう（名）　内宮（伊勢國度會郡に在る大神宮をいふ）
ないくん（名）　内訓（官局にて長官より手下の官吏に内々に諭し戒むる事を謂ふ）
ないくん（名）　内君、つま、細君、妻
ないやう（名）　内洋、うちうみ、内海
ないやく（名）　内藥、のみぐすり、内服藥
ないやく（名）　内約、うちうちのやくそく
ないまく（名）　内膜（身内の薄皮）
ないけん（名）　内檢、うちうちのしらべ（官府の）
ないけん［する］　内見、うちうちにみる、内覽
ないふ　内府（内大臣の稱）
ないふ［する］（自）　内附、つきしたがふ
ないぶ（名）　内部、はらのうち、うちのかた、うち
ないぶつ（名）　内佛（家の内に安置する佛像をいふ）
ないふく［俗］（形）　内福、うちがふくぶくしい、かねがれはくわる
ないふく［する］（他）　内服、うちにのむ（藥にいふ）
ないぶん［俗］（形）　内分、うちうち、ひそか、ないしよ
ないこう（名）　内訌、うちはもめ、内亂
ないこう代名詞）　乃公、迺公、われ（父親或は貴顯者自ら言ふ詞）
ないこう［する］（自）　内攻、れひこむ（疥癬等が）
ないこく（名）　内國、うちのくに（外國に對す）
ないこく（副）　迺刻即刻、そのとき
ないこん（名）　内壺、れくむき、閨閫
ないてい（名）　内庭、うちのには
ないてん（名）　内典（釋敎の書をいふ、外典即ち儒書に對す）
ないでん（名）　内殿、れくどの、れくのみや

ないさい［俗］（名）　内濟、私和、ないないですますこと
ないさい（名）　内省、まがしら
ないざう（名）　内臟（身内の五臟）
ないき（名）　内機（腹内の機關を謂ふ）
ないき（名）　内記（書官名にて書記官の類）
ないぎ（名）　内儀、つま、内室、わかみさん（他人の妻をいふ）
ないきやく（名）　内客、うちうちのきやく
ないめん（名）　内面、うちがは
ないみつ（形）　内密、こつそり、ないしよ、ひそか
ないし（接續詞）　乃至、あるひは、または
ないじ（名）　乃時、迺時、そのとき、即時、そのころ
ないしどころ（名）　内侍所、かしこどころ、賢所（南殿の東にて三種の神器の一なる神鏡の在りし所の室。また其神鏡をいふ）
ないしどころのかがみ　内侍所神鏡（三種の神器の一にて八咫の鏡也）
ないしよ［俗］（形）　内證、内密、ないない、ひそか
ないじよ（名）　内助、つま、内室、内儀、つれあひ
ないしよく（名）　内職、私業、わきでまのしごと、ないしよしごと
ないしよく（名）　内職（皇妃の職事をいふ）
ないしよご［俗］　私子、かくしご、私生兒、野合子
ないしつ（名）　内室、つま（紳士の妻）、内助、内儀、かみさん
ないじつ（名副）　内實、うちのまこと、うちまく
ないしのじよう　掌侍（女官の名）
ないしや（副）　乃者、このごろ、ちかごろ
ないしやう　内傷、うちのきず
ないしやう（名）　内相、つま、内室、内儀
ないじやう（名）　内情、うちのわけ、まことのわけ
ないしやうがん（名）　内障眼、そこひ、おきめくら（眼病の名）
ないしやく　内借、ないしよがり
ないしやくり（名）　噦噦、なきしやくり、ずすりなき
ないしん（名）　内心、こころのうち、したごころ
ないしんわう（名）　内親王、うちのひめみこ（天子の姉妹及び皇女をいふ）
ないつ（名）　内謁、ないしよのめどほり
ないにん（名）　内宴、うちうちのさかもり
ないひそ　莫言、勿謂、いふなかれ
ないひやう（名）　内評、ひそかのひやうぎ
ないせき（名）　内戚、ちちかた（父方の親戚）
ないせん（名）　内膳、ごぜんやく（天子の御膳役）
ないせんづかさ（名）　内膳司、ごぜんやくのつかさ（天子の）
なは　那波（氏また地名）
なは（名）　索繩、しばるもの、なひたるもの、ひも、を
なはばり（名）　繩張、なはをはること、又なはをはれるところ（營繕等の爲に）經始
なはばし（名）　繩橋、笧橋、なはのはし（繩を以て橋となせる者）
なはばしご（名）　繩梯子、なはにてつくれるはしご
なはとはし（名）　索針、なはをとほすはり
なはつき（形）　繩付、しばられをる、縛
なはなふ　綯索、なはをよる

なはのび(名)　繩延(量り索を長く伸して地を量る事)
なはて(名)　畷、たみち、畛(田間の路)
なはめ(名)　縲紲、しばること、しばり、繋縛
なはしろ(名)　苗代、秧田、秧疇、苗床、秧稿、なへどこ(稻の苗をつくる處)
なはしろいちご(名)　蕪田薦(植物)
なはしろぐみ(名)　胡頽子、酸棗(植物)
なに(代名詞)　何、いかなる、いづれ
なには　浪華、浪速、難波、波花(攝津國東生郡に在り今の大坂の地)
なにとぞ(副)　何卒、どうぞ、せひ
なにとなく(副)　無何、無大小、どこやら
なにとて(副)　何辿、いかなれば、何如何
なにれん(形)　負名、なのごとき、なだかき
なにをもつて(副)　何以、詎庸、奚爲、いかなれば
なにか　何、あるもの
なにかと　何、かれこれ、とかう
なにがな　何、なにかあるもの
なにがし(代名詞)　某、それがし(名をいはずして人を指す詞)
なにら(形)　何等、いかなる、なんら
なにくれ　何是、かれこれ、あれやこれ
なにやう(俗)　何樣、なにさま、いかさま
なにげなく(副)　無何氣、なにもれもはず
なにぶん(俗)(副)　何分、いかにも
なにごころなく(副)　無何心、なにもれもふことなく(「なにげなく」を見よ)
なにさま(副)　何樣、いかにも(「なにやう」を見よ)
なにしれふ(形)　名負、なにあるごとく(「なにれふ」に同じ)
なにびと　何人、いかなるひと
なにもの　何物、いかなるしな、何者、なにびと
なほ(副)　尙、まだ、いまだ、猶、ちやうど、あたかも
なほる(自)　癒、痊快、平愈、いゆる(病の)
なほなほ(副)　尙尙、そのうへ、まだまだ
なほなほがき(名)　尙尙書、追書(手紙の終に書そへたる詞)
なほらぬ(形)　不治、難治、不可醫、いはぬ(病が)
なほらひ(名)　直會、けがれわけ、ぶくわき
なほらひどの(名)　直會殿、きよめどの
なほく(副)　直、まつすぐに、ただしく
なほまた(副)　尙又、そのうへまた
なほざり(形)　等閑、倫間、うちすてれく
なほさら(副)　尙更、そのうへまた、ことにまた
なほき(形)　直、まつすぐなる、ただしき、正直、又すなほ、質直
なほし(名)　直衣、禰衫、禰衣、ひたたれのたぐひ
なほし(俗)(名)　皮鞋、補靴者、くつなほし、せつたなほし、でいでいや
なほしためる(他)　矯揉、ためてなほくする
なほしのころも(名)　直衣、なほし
なほびのかみ　直日神、さひはひするかみ(善神の名)
なほもつて(副)　尙以、ことさらに、なほさら
なほす(他)　治療、いやす、癒療治、よくする(病を)、矯正、あらためただす

なへ(名)　苗、わかいね、わかば(草木の)
なべ(名)　鍋、鐺(物を煮る鐵の器)
なべいかけや(名)　補鍋匠、なべつくろひ、いかけや
なへに(後置詞)　叙、つひでに
なへどこ(名)　苗床(苗を作り育る場。なはしろなへる(自)　痩、およなよする(「なよる」に同じ)
なべかね(名)　生鐵、づくてつ、きたへぬくろがね
なべた　鍋田(氏)
なべつり(名)　鍍鉤、なべをつるすもの、なべのつる
なべつる(名)　鍋鉤、なべつるすもの
なべづる(名)　灰鶴(動物)
なへな(名)　山芹菜、くさのな(植物)
なへゞ(自)　窶、なへる、なえる
なべやき(名)　鍋燒、なべにやけるもの
なべぶた(名)　鍋蓋、鍍蓋、なべのふた、なべのれはひ
なべて(副)　並、物体、通例、すべて、むしなべて
なべしま　鍋島(氏)
なべせん(名)　鎞、鉛鐵、びたせん(鐵の鐵)
なべすみ(名)　鍋煤、なべじりのすみ
など　等(とう)、なんど(物の數を一一に擧げずに畧して顯はす詞)ども、ら
なとりがは　名取川(陸前國名取郡に在る有名の川)
なとりぐさ(名)　名取草、牡丹、はつかぐさ、ふかみぐさ(植物)
などか(副)　奈何、何等、なぜて、いかで
などころ(名)　名所(名の附けてある所、また名のある處)。又めいしよ
なちぐろ(名)　試金石、かねつけいし
なり(名)　形像、貌、かたち、形容、像貌、容貌、容躰、形狀、形態、姿態、容姿
なり(名)　鳴、なるにと。なること
なり　也、にてあり、である、矣、分、焉(語末に用る詞)
なり(名)　癩病人、かったい、癩子、天刑病者。また癩病
なりはためく(自)　雷碾、なりひびく(雷が)、殷鳴
なりはて(名)　成果、なりゆき、をはり
なりはひ(名)　業、活計、活業、家業、渡世、商賣、すぎはひ、くらしわざ
なりどよめく(自)　鳴叫、なりひびく(人の聲が)
なりわたる(自)　鳴渡、ひびきわたる
なりかはる(自)　成替、爲代、かはりになる(人の)、みがはりになる
なりかたち(名)　容貌、かはかたち(「かたち」を見よ)、すがた形象
なりた　成田(氏また地名)
なりたち(名)　成立、かたち、でき。また生長、れひたち
なりなんとす　垂向、將、ならんとする、なりかかる
なりくだる(自)　零落、なりさがる、いやしくなる
なりふり(名)　形振、容態、態姿、すがた、かたち
なりあがりもの(名)　上達者、へあがれるもの(卑賤より富貴に上れる者)
なりあがる(自)　成上、へあがる、上達、昇進
なりさがる(自)　成下、たちくだる(卑賤に)、なりくだる
なりさま(俗)　成相、なるありさま、なるやう
なりゆき(名)　成行、ゆくすゑ、はて、なりはて、結局、末路

なりひさご(名)　壺蘆子、生瓢子、瓠瓜、匏瓜(植物)
なりひびく(自)　鳴響、れとしてひびきわたる
なりもの(名)　果物、生物、くだもの、このみ
なりもの(名)　鳴物、樂器、ならすもの
なりんぼう[俗](名)　癲病人、なり、かつたい、癲者
なぬか(名)　七日(第七の日、また六に一つ加へたる日)、また八日(正月の七日)
なぬかのよ　七日夜、七夕(舊曆の七月七日の夜を七夕といふ)
なぬかび(名)　人日(正月の七日をいふ)
なぬし(名)　名主、村司、里長、むらをさ、しやうや
なる(自)　成、成就、落成、できあがる、とげる。爲、造、作、かたちをとる(他の)。生、結、むすぶ(果實等が)
なる(自)　鳴、れとする、鐘鼓
なるはじかみ(名)　蜀椒(植物)
なるほど[俗](副)　成程、いかにも、もつとも
なると(名)　鳴門、うみのうづまき(阿波の沖に在る者の如くがはがはと鳴る渦巻)
なるとだい(名)　鳴門鯛、たひ、まことのたひ(動物)
なるかみ(名)　鳴神、雷神、雷公、燶神、かみなり、いかづち
なるたけ[俗](副)　成丈、可成的、可及的、できるだけ
なるこ(名)　鳴子(鳥を驚かす具。又人を呼ぶ器)
なるこゆり(名)　黃精、黃精、れはばわうせい(植物)
なるみしぼり(名)　鳴海絞(尾張國鳴海の産の布正)
なるせ　鳴瀬、成瀬(氏)
なをれ(名)　名折、はぢ、恥辱、瑕瑾、きず(家の)
なれや(名)　名父(他人の子に名を與ふる人)

なわ　名和、那和(氏)
なか　那珂(氏また地名)
なか(名形)　中、なかほど、なかごろ。中央、まんなか。又うち、内
なか(名)　交際、まじはり。なからひ、關係
なか[俗](名)　廓内、くるわうち(遊女の在る地をいふ)、北里
なかね(名)　中居、なかねをんな
ながね(名)　長居ながくをること。又ながくはなしをること(他人の家にて)、ながつちり(ながしり)、長坐
ながね　長井、永井(氏)
なかいちにちおき　隔日、いちにちおき
なかいちねんおき　隔年、いちねんおとび
なかいり(名)　中入、なかやすみ、こやすみ、少憩(演劇、寄席、相撲等の)
なかをんな(名)　中居女(遊女屋の婢)。なかどん
なかいれ(名)　袈、なかにいれたるわた。又なかわた
ながいき(形名)　長生、長命、眉壽、長壽、ながくいくる。いのちながきこと
ながいも(名)　薯蕷、長命、山藥、やまいも(植物)
なかば(名)　半、半途、中央、中、仲、まんなか。なかごろ、途中
ながばおり(名)　長羽織、長外衣、ながきはおり
ながばかま(名)　長袴、ながきはかま
ながばなし　長話、長談、ながものがたり
ながはまちりめん(名)　長濱縮緬(近江國坂田郡長濱より出づ)
ながはまかや(名)　長濱蚊帳(蚊厨の類)
なかに(副)　於中、うちに、うちにも、なかにも、なかんづく、

就中
なかには(名)　中庭(家の眞中にある庭)
なかにし　中西(氏)
なかにし(名)　香螺、流螺、かひのな(動物)
なかにも(副)　于中、なかんづく、就中、殊、ことに
なかばど(名)　中程、なかば、なかばみち
ながぼり(名)　長塹、ながきほり(城の)
ながへ(名)　名替、なをかへること
ながと　長門(山陽道中の國名)
なかとみ　中臣(氏)
なかとみのはらひ　中臣祓(昔中臣の人が人人の罪を祓ふ爲に誦へし祈禱文にして後世神官等之を神前に誦す)
ながち(名)　帶下、赤瀝、崩漏、赤瀝下(婦人の病にして月經の長く下りて止まざる者)、血漏、ちろう
ながぢ　長路、ながきみち
ながぬま　長沼(氏)
ながを　長尾(氏)
ながをか　長岡(氏)
なかわた(名)　綿胎、絮綿、ふるわた、おしきわた
ながわきざし(名)　長脇指、ながきわきざし。又ながわきざしさすひと、ばくちうち、をとこだて
なかがは　中川(氏)
なかがみ(名)　中神(天一神の一名なり十二將神の中央に居るが故に然か云ふ)
なかがひ(名)　仲買、接買、牙商、牙行、牙儈、さいとり、なかつぎがひ

ながよ　長夜、永夜、ながきよ、脩夜
ながよき(形)　和好、したしき
なかよし　中吉(氏)
ながた　長田、永田(氏また地名)
なかだち(名)　媒妁、眞媒、媒介、紹介、氷人、執柯、掌判、なかうど(夫婦を合はするに周旋する者)
ながたち　長太刀、ながきかたな
なかだか(名形)　凸、なかたかき、垤
なかたがひ(名)　間違、中違、不和、絶交、まじはりをたつこと
ながたな(名)　柴刀、なきりばうちやう
ながたらしき(形)　長敷、冗長、優長、優柔、ながながしき、のろい
ながだうぐ(名)　長道具、ながきいくさだうぐ、長兵
なかたえる(自)　中絶、とぎれる、間隔
ながだんぎ　長談義、ながせつけう(長說教)
なかれ(命令詞)　勿、莫、毋、無、靡、な(禁ずる詞)
ながれ(名)　流、ながること。かは。流水、溪、川、瀝液
ながれにさかのぼる　遡洄、洑、かはかみにのぼる
ながれぼし(名)　流星、飛星、奔星、よばひぼし
ながれる(自)　流、汚、みづゆく、はしりゆく(水が)。それる、なぐれる(矢等が)。つぶされる(質物が)
ながれをくむ　挹流、かはみづをくむ。したがひのつとる(他人の流義等に從ふをいふ)
ながれわたる(自)　流渡、ただよひわたる
ながれのみ　流身、うきかはたけ(遊女の身をいふ)
ながれくわんぢやう(名)　流灌頂、水流會、無緣者の爲に川

にて水を灌ぎ手向くる事）
ながれや（名）流矢、それや、よこにそれたるや。
ながれざん（名）流産（りうざん）、はんさん（中途にして生れ出づる事）
なかぞり（名）中剃（頭の中の剃りたる處）
なかぞら（名）半天、中天、半空、半霄、そらなか
なかぞの　中園（氏）
ながつぼね（名）長局（諸侯が寵する女等を置く室）、をんなべや
ながつか　長束（氏）
なかつかさ（名）中務（古の官名）
なかつかみ（名）豹（へう）、とらのごときけもの（動物）
なかつぎ（名）中次、さいとり、なかがひ、牙商
ながつき（名）長月、玄月、菊月（舊暦の九月をいふ）
なかね　中根（氏）
なかなほり（名）中直、和解、復和、釋恨、和熟、ふたたびなかよくなること、調停、講和
なかなか［俗］（副）中中、よほど、よういに、なまじひに
ながなが（形）長長、永永
ながなき　長鳴、ながくなくこと（鳥などが）。また嗟小兒の泣て止まざるを云ふ
ながなすび（名）水茄（植物）
ながら（後置詞）乍、つつ、するあひだに
なからゐ　半井（氏）
なからば（名）半、なかば
ながらへる（自）存命、存生、生存、いきてをる
ながらく（副）永久、いくひさしく

なからひ（名）交際、なか、まじはり
なかむかし　中古（ちうこ）、中葉（上古と目今の間の時代）
なかむた　中牟田（氏）
なかうど（名）仲人、媒妁、媒介、氷人、なかだち、なかとりもち
ながうた（名）長歌（長篇の和歌）
なかの　中野（氏）
ながの　長野（氏また地名）
なかのゐん　中院（氏）
なかのばう　中坊（氏）
なかのとをか　中旬、中浣、中澣、月中（一月の眞中の十日）
ながのび（名）長延、ながくひまどること
ながく（副）長、ひさしく
なかくぼ（形名）凹、なかびく。なかくぼみ、坳
ながぐつ（名）長靴、ながきくつ、おめふりぐつ
なかくみ（名）中酌、酤醪、濁酒、酷、にごりさけ、こさぬさけ
ながや（名）長屋、ながくつづけるいへ（一軒建ならぬ家）
なかやま　中山（氏）
ながやまひ　長病、積痾、痼疾、宿痾、淹病、滯疾、だらだらやまひ、ながびくやまひ
なかやすみ（名）小頓、こやすみ、あひだのやすみ
なかま（名）仲間、同夥伴侶、合夥、社會、夥伴、黨與、夥計、夥伴、同盟、同黨、同社、同僚、くみ、くみあひ
ながふくべ（名）瓠、へうたん、ひさご（植物）
なかご（名）心、中心、なかのところ
なかご（名）鐵莖、鐵信（刀劍の身が柄の中に入りたる部分）、柄心、なかごみ、こめ。釘、やりのなかご

なかご（名）瓜心、うりのなかのみ
なかご（名）笥足、やのなかご（矢筈の元が矢幹に入りたる部分を謂ふ）
なかごろ（名）佛（忌詞にて佛をしか呼ぶ）
なかごろ（名）中葉、中古、中世（古と今の間の時代）
なかごろ（名）中頃、中途、中道、なかば
なかごぼし（名）心宿、心星（廿八宿の一なり、心［しん］を見よ）
なかごと（名）中言、かげごと、かげぞしり（此人を彼の人に悪くいふ如き事）
なかて（名）中稻、なかごろみのるいね（早稻と晩稻の中間に出來る稻）
なかて（名）長路、ながみち。ながきたび
なかでう　中條（氏）
ながわめ（名）霖雨、淫雨、霖漓、久雨、積雨、愁雨、苦雨、連雨、霪雨、淫霖、ふりつづくめ
なかわしき（形）不和、不相容、なかのよからぬ、すれあふ、したしからぬ
ながさ（名）長、ながきこと、たけ。延袤、ながくひろがれること
ながさ　長狹（氏）
ながざ　長坐、ながゐ、ながしり
ながさは　長澤（氏）
なかざと　中里（氏）
ながさか　長坂、遐坂、ながきさかみち。また（氏）
ながささげ（名）裙帶菜、十六豆（じふろくまめ）（植物）
なかざし（名）中簪（眞中にさす簪。なかかんざし

ながざしき　長坐敷、ちやうざ、ながゐ。ながざかもり
ながき（形）長、脩、たてにとほき。みぢかからぬ、悠。延長、とほくわたれる。永、永久、長久、ひさしき。とこしなへの。永日、ひながき
なかぎり　中吉（氏）
ながきれ（名）條片、ながきれ、長片、長布片
ながきねふり　長眠、ひさしくねむること。永眠、しぬること
ながきみじかき　長短。善惡、よしわし
ながきひ　永日、長日、遲日、畏日
ながぎもの　長服、ながきころも、長衣
なかゆび（名）中指、將指、まんなかのゆび、たけたかゆび、たかたかゆび
ながめ（名）眺望、ながむること。みはらし。けしき（景色）
ながめ（名）長形、ながきかたち
ながめる（他）詠、こゑをながくする。うたふ。よむ（歌を）
ながめる（他）眺望、のぞむ、みる。みはらす。みつめる、眺、瞻、遠望、はるかにみる
ながめる（他）長、ながくする
ながみち　長途、脩途、遠路、長路、長程、とほきみち、ながきみち
なかみかど　中御門（氏）
なかみかどてんわう　中御門天皇（人皇第百十四代の帝）
ながし（名）洗水槽、淨槽、ものあらふゆか（臺所の）
ながし（俗）（名）　淨洗（洗湯場にて身體を洗はする事）
ながしり（名形）　長尻、ながゐするひと。ながざする
ながしをとこ（名）　浴丁、さんすけ、ばんたう（湯屋の）

ながしま　永島(氏)
ながしめ(名)　流視、流眄、流睇、睥睨、邪睨、邪視、睨(斜に見る事)　よこめ
ながしもの(名)　流人、しまながしびと、配流人、遠島人
ながえ(名)　轅、ながきさを(車の前に施して馬をつなぐ長き木)
ながえ(名)　長柄、ながきえ、ながきもつところ(鎗薙等の)
ながえ(名)　長槍、やり、ながきやり
ながえごし(名)　腰輿、ながきえのつきたるこし
ながえもち(名)　傘夫、ながえのからかさもち(貴き人の後に従ひて長き傘を持つ者)
ながびつ(名)　長櫃、ながもち
ながびく(形)　中低、凹、なかくぼ
ながひじき(名)　虎柄茎(植物)
ながもち(名)　長持、長櫃、ながびつ、たけながきはこ
ながせ(名)　仲脊、倉脚夫、かつぎ、になひびと(倉より米俵などを擔ひ出る人足)
ながせる(他)　令啼、なみだをいださする。なげかする。くるしむる(人を)
なかせんだう　中仙道(東京より板橋を經て行く木曾路をいふ)
ながす(他)　流(水に浮べて遣る)、ながれゆかしむる
なかんづく(副)　就中、とりわけ、なかにも
なよたけ(名)　桃絲竹、四季作、たけのたぐひ(植物)
なよたけ(名)　幼竹、弱竹、廬竹、和竹、しなしなするたけ
なよし(名)　名吉、鰷、ぼら(動物)
なた(名)　鉈、鑿、彎刀、撩刀、小斧、山刀、やまがたな(木を斬る刀)
なだ(名)　洋灘、おらうみ
なだい(俗)(形)　名代、有名、顯名、顯著、なだかき、いちじるしき、なにれふ
なだい(名)　名代、名題、となへ、な、題號
なだいめん(名)　名對面、名謁(名を呼びて紹介し或は來訪を告ぐる事)
なだかき(形)　名高、有名、名、なのきこえたる、錚錚、盛名鼎鼎、名聲籍甚、顯達、昭顯、名噪、有名聲、望
なだれ(名)　頽雪、ゆきくづれ、山崩、落斜坡、やまくづれ
なたね(名)　菜種、あぶらなのたね
なたねな(名)　蕓薹、あぶらな、油菜(植物)
なだらか(形)　緩、平夷、たひらか、なめらか、きふならぬ
なたまめ(名)　刀豆、挾劍豆、白刀豆(植物)
なだめる(他)　宥寛、宥恕寛宥、ゆるくする。やはらぐる。かるくする
なれども(俗)　雖然、しかれども、されども
なれる(自)　馴、なじむ、狎、媟褻、私昵、昵近、なれなれしくなる。慣、つねになる、くせになる
なれそめる　馴初、なじみはじむる
なれなれしく(副)　昵昵敬、したしさうに。馴馴敬、なじみたるらしく
なれなれしき(形)　昵昵敬、したしさう。馴馴敬、なじみたるらしき
なれまをとこ(名)　和姦、姦夫姦婦が相和して通ずる事)
なれわひ(名形)　通合、共謀、同謀(共に謀りて悪事を爲すを謂ふ)

なれぎぬ(名)　褻衣、ふだんぎ、つねぎ、慣衣、きなれたるころもまた褌襠、觸衣、ふんどし、したれびなれしか(名)　馴鹿、となかい(樺太又は西伯里に産する鹿にて雪車を引くに用ふ)(動物)
なぞ(名)　謎、廋詞、謎語、隱語、かくしことば
なぞ(副)　何、如何、なにぞ、いかに
なぞ(名)　等、など、なんど(「など」を見よ)
なぞへ(形)　斜、ななめ、なせ、かたむける
なぞへる(他)　准、なぞらへる
なぞをかけるひと　擧謎者、なぞのかけてなぞらへる(他)　擬準、准、ひきくらべる。くらべる。たとへていふ
なつ(名)　夏(四季の一にして最も暑き氣候の時)
なついん　捺印、わしいん、わしたるはん
なつばおり　夏羽織(夏着る薄き外衣)
なつはぎ(名)　夏萩、歪頭菜、にははぎ(植物)
なつはじかみ(名)　蜀椒、さんせう(植物)
なつぼし(名)　軟癤、なつぶし
なつまと(名)　納豆、大豆豉、鹽豉、むれまめ、むらしまめ(食物)
なつまうまめ(名)　水豆、まめのたぐひ(植物)
なつまく[する](他)　納得、うけひく、うけがふ、承諾
なつかしき(形)　慈愛情、可眷戀、懷愛、したはしき。こひしき
なつだいこん(名)　夏蘿蔔(植物)
なつたで(名)　夏蓼、さなへたで、うづたで(植物)
なつねぎ(名)　漢葱、ねぎのたぐひ(植物)
なづな(名)　薺、東風菜、鵝毛菜、護生菜(植物)
なづむ(自)　驚、あしゆがむ、あるきにぬ(馬が重荷を負て)
なづむ(自)　厭、あきがくる。ばらにもつ(食物が)
なづむ(自)　泥、泥膠、拘泥、こりかたまる。かかはりすぎる
なつむめ(名)　木天蓼、またたび(植物)
なつのはなわらび(名)　蕨簀陰地蕨の類(植物)
なつのちやひきぐさ(名)　燕麥、雀麥「からすむぎ」の類(植物)
なつのひ　夏日、炎日、赫日
なつく(自)　懷、こころをよせる、歸附、依附、歸。馴得、したしみきたる、なれる
なつぐみ(名)　胡頽子、きのな(植物)
なつやせ(名)　夏瘦、注夏病、なつやせるやまひ、なつやせること
なつまめ(名)　梅豆(植物)
なづけ(名)　菜漬醃菜、閉甕菜、つけな、しほづけな
なづける(他)　號、名、命稱、なをつける。よぶ、となへる
なづける(他)　懷、令歸、したしまする、きせしむる。馴着なじませる。なれさする
なつぶし(名)　軟癤、ふきでもの、火癤子、あせぼ、あせいも
なつご(名)　原蠶、夏蠶、晩蠶、年に二度生ずる蠶(動物)
なつあづき(名)　夏小豆(植物)
なづさふ(自)　相携、あひともなふ。したしみあそぶ
なつぎ(名)　夏衣、暑衣、葛衣、なつのきもの
なつき(名)　腦、頭腦、なう、わたまのさら
なつぎく(名)　五月菊、なつはなさくぎく(植物)
なつゆき(名)　繊麻、くさのを(植物)

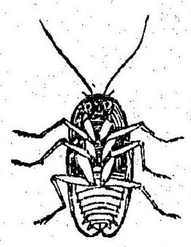
なつめ(名)　黒木合(茶の湯の茶を容るる黒塗りの器但し錫其他にても之を作るあり)
なつめ(名)　棗(植物及び其果)
なつめ　夏目(氏)
なつめむし(名)　棗猫(動物)
なつみかん(名)　盧橘、枇杷、びは(植物)
なつしよ(名)　納所(寺院内の飲食其他の雑務を掌る僧)、
　熟家、厨僧
なつすゐせん(名)　夏水仙、鉄色箭、客人草(植物)
なないろたうがらし　七味辛料(香料七味を和したる薬味)
ななりそ(名)　莫鳴菜、神馬藻、ほだはら、なのりそ(莫告藻)
　(植物)
ななかどたけ(名)　闔天竹(植物)
ななそ(名)　七十、しちじつ(古語)
ななそぢ　七十歳(しちじつさい)
ななそが　七曾我(音曲に云ふ所の調伏曾我、元服、小袖、夜討、切衆、禅師、伏木の七)
ななつ(名形)　七、しち(三と三に一を加へたる数)
ななつだうぐ(名)　七道具(刀、長刀、槌、鋸、斧、鎌、鋸と云ふ)
ななつげ(名)　聚毛、胲(手足の指の毛ある處をいふ)
ななつさがり(形名)　晡後、ななつどぎののち。下晡時(晩六つの前の時刻を謂ひて又物の古びたるを言ふにも用ふ)
ななぬか　四十九日(人死して後の七週日を云ふ)
ななくさ或あきのななくさ　七艸(秋花さきて人に愛せらるる七種の草すなはち桔梗、苅萱、女郎花、藤袴、葛の花、薄、尾花)
ななくさ(名)　七艸(正月の七日を云ふ、また其時食ふ七種の蔬菜)
ななくさのわかな　七種若菜(芹「せり」、薺「なづな」、五行「ごぎやう」、繁蔞「はこべら」、佛座「ほとけのざ」、鈴菜「すずな」鈴代「すずしろ」の七種にて一月の七日に雑羹につくりて食ふ者)
ななくさのかゆ　七種粥(正月七日に食ふ七種の菜「上を見よ」を和したる粥をいふ)
ななくさのたから　七種寶(金、銀、瑠璃、頗梨、車渠、馬瑙、真珠を云ふ)
ななふし(名)　七節、たけのふしむし(動物)
ななこ(名)　斜子、七股絹絲を七股によりて織れる物)
ななこ(名)　鯛子(刀剣の飾に云ふ所)
ななころびやをき　七轉八興(人生は禍多けれども又終に福にも至るの義をいふ)
ななこまち　七小町(音曲に云ふ所の草紙洗通、鸚鵡、關寺、清水、山本、卒堵婆)
ななこぎぬ　斜子絹、七股絹、ななこ
ななめ(形)　斜邪、膠戻、かたむきたる、なそへ、なせ。ずぢかひ、すぢむかひ
ななめならず　不斜、ひたくに、ひたいにはかたならず。
ななしゆび(名)　無名指、べにつけゆび、くすりゆび(手の第四の指)
なら　奈良、平城、諧楽(大和國添上郡の地名にして古の都の地)
なら(名)　楢、柏、青岡樹(植物)

ならい(名)　艮風、うしとらのかぜ、東北風
ならばやし　楢林(氏)
ならはし(名)　風俗、習俗、風儀、慣習、慣俗、しきたり。くせ
ならはす(他)　演習、けいこさせる
ならべる(他)　並、陳列、排列、並列、つらねる、ならべたてる
ならべせに(名)　連錢、れんせん(錢を多く並べたる如き模様)
ならたけ(名)　櫟、櫪、枹、朶、きのこのな(植物)
ならづけ(名)　奈良漬、糟藏瓜、しろうりのかすづけ
ならづけうり(名)　糟藏越瓜、かすづけしろうり
ならなくに　不爲、ならぬに、ならざるに
ならく(名)　捺落(地獄の梵語)、ぢごく、泥梨ないり)
ならげ　楢下(氏)
ならふ(自)　習講、學、まなぶ。倣、擬、まねる、まねする
ならぶ(自)　雙、双、幷、比、駢、ともにたつ。あひそふてある
ならざき　楢崎(氏)
ならし(名)　鏟剗、鍛冶の用ふる具)
ならしいふ(他)　鳴言、聲言、いひあらはす、くちにあげていふ
ならして(名)　鳴者、ならすもの
ならにんてん(名)　那羅延天(梵語にして天界の名)
ならひ(名)　習慣、しくせ、ならへること、習
ならびに(副)　並、幷、あはせて
ならびれこなはれる　並行、ともにれこなはれる
ならひこむ(他)　演習、熟學、熟煉、じゆくれんする
ならす(他)　鳴、れとさする。琅(鼓と)。鏘(鐘を)。轟(釜を)。筒(手足の節を)。聲(不平等を)
ならす(他)　平均、均一、平等、平權、ひとしくする、たひらにする
ならずもの[俗](名)　無頼者、破落戸、だうらくもの。あしきもの
なむ　南無、那謨、曩謨、南摩、納慕(梵音にして敬從或は皈命するの意なり)
なむさんばう　南無三寶(事を誤りて歎息する詞)
なむし(名)　蠋、螟蛉(菜にをる青蟲)動物)
なう(名)　腦、頭腦(頭の頂に在る精神運動の主府)
なうろう(名)　腦漏(腦漿の流れ出る病)
なうり(名)　賣菜者、なをうるひと
なうがい(名)　腦蓋、あたまのはち、なづき
なうがいこつ(名)　腦蓋骨、なづき、あたまのはちぼね
なうだい　曩代、むかしのよ、曩世
なうそ(名)　曩祖、乃祖、せんぞ、ほつれや
なうそ(名)　腦痕、くびきれちやう(病名)
なうなう　喃喃(人に向ひて呼び又くどくに用ふる詞)
なうらん[する](自)　惱亂、くるひみだれる(精神が)
なうまく(名)　腦膜、なづきのかは(腦を蔽ふ薄皮)
なうまく　曩謨(なむ)を見よ)
なうて(形)　有名、なある、なにれふ、なだかき
なうてん(名)　腦巔、腦頂、かしらのいただき
なうわう[する](自)　惱懊、なやむ、くるしむ
なうさつ[する]　惱殺、なやましころす(美人等が人の心を蕩かすに借り用ふ)
なうきんしよう(名)　腦漿衝(腦の病)
なうみそ[俗](名)　腦味噌、腦漿(頭腦の體質を謂ふ)

なうし(名副)　曩時、むかし、そのかみ、さきに
なうじつ(名副)　曩日、むかし、昔日、さきに
なうじつけつ(名)　腦充血、あたまのれもくなるやまひ(病名)
なうしや(副)　曩者、まへかた、さきに、むかし
なうしやう(名)　腦漿、なうみそ
なうびやう(名)　腦病(頭腦の痛む病)
なうずゐ(名)　腦瞶、づなう、なづき
なのり(名)　實名諱、いみな(通稱に非る名)
なのりそ(名)　莫告藻、神馬藻、莫鳴菜、ほだはら、ななりそ、うみぐさのな(植物)
なのりわふ　名告合、互告其名、なをつげわふ
なのる(自他)　名告、なをいふ、名、なづくる
なのみ　名而已、有名無實、なばかり
なく(自)　啼泣、なみだをいだす。哭、なげく。慟いたむ。鴟、鳴、呱(鳥等が)。唧(虫が)すだく
なぐ(他)　薙、よこにきりはらふ。かる(薙)
なぐ(自)　和、なだやかになる(海の波が)
なくほど(名)　鵜鴉、とりのな(動物)
なぐるみ(名)　呉桃、くるみのな(植物)
なぐれる(自)　閉門、斜行、それる、そける、よこへきれる
なぐれもの(名)　滯貨、廢貨、ねきもの、ろうづもの、うれぬもの
なくなる(自)　無成、皆盡、絶、たえる、つきる。歿、沒、死、しぬる
なくなく(副)　泣泣、なきつつ
なぐら　名倉(氏)

なぐらど(名)　名倉砥(三河國設樂郡より出る所の砥石)
なぐや(名)　投箭、なげや、なげつけるや
なぐさめる(他)　慰、慰藉、たのしませる。散(酵を)、慰勞、いたはる
なや(名)　納屋、ものおき、こや
なや(名)　魚屋、さかなや、魚牙子、うをどんや
なやらふ(自)　退儸、おににやらひする
なやらひ(名)　退儸、おにやらひ
なやむ(自)　惱、懊、難、辛苦、艱難、劬勞、斃斲、くるしむ、うれへもだへる
なやましき(形)　惱敷、うれはしき、くるしき、辛苦、わつらはしき
なやます(他)　惱、なやみをれこす。煩勞、わづらはす(人を)
なやす(他)　鍛、きたへる、ねる、うちかためる(金屬と)
なやす[俗](他)　痿、なにさする、なへしむる
なま(形名)　生、にぬ(不煑。鮮魚の)。青、みじゆく
なまいき(形)　半生、なかばしぬる(半死)
なまいき[俗](形)　虛誇、いきそぎ、ものしりがほする
なまにに(形)　生煑、よくにぬ。半烹、半熟(はんじゆく)
なまへ(名)　名前、なとなへ、名稱
なまち　生血、鮮血、いきち(生物の身より出る血)
なまり(名)　鉛、黑錫、やはらかきかね、青金、金公
なまり(名)　白鑞、ひやくらふ、すずなまり
なまり(名)　方言、ゐなかことば
なまりだま(名)　鉛子、鉛丸(鉄砲の)
なまりぶし(名)　生經節、かつをのなまぼし
なまる(自)　訛、よこなまる、あやまる(言語が)、轉訛、譌

なまをんな(名)　青女、あををんな(宮廷に仕ふる婦人)
なまわかき(形)　生嫩、まだわかき、こわかい、うらわかき
なまかべ　生壁、まだかわかぬかべ
なまがね(名)　鐳鐵、鋌(鉄の輭なる者)
なまがくもん　生學問、半學、半面學、なまぎき、未熟
なまがてん[俗]　生合點、半領解、はやのみこみ、よくわからぬこと
なまよひ(形名)　半醉、なかばよひたる、また酒風漢、さけにゑひたるひと、なまゑひ
なまたまご　生卵、うでぬたまご
なまづ(名)　鯰、鰋魚、ひげあるうを(動物)
なまつば[き](名)　生唾(酸き物等を見て口より頻りに出る唾)
なまづむし(名)　鯰虫(「かつぱむし」を見よ)
なまづめ(名)　生爪、いきづめ、しなざるつめ
なまなり(名)　青生(假面に云ふ所)
なまなか[俗](副)　生中、あまじひに、すこしばかり
なまなれ(形)　半熟、なかばなれたる、まだよくなれぬ(食物に云ふ)
なまなま(形)　生生、なまらしき、あたらしげなる
なまなましき(形)　生生敷、いとなまらしき。未熟、いたらぬ
なまうを(名)　生魚、鮮魚、生鮮、腥魚、なまざかな
なまぐわし(名)　生菓子、むしぐわし、もちぐわし



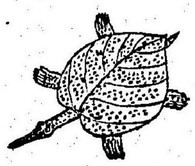
(圖)

なまくら[俗](形)　鈍、にぶき、きれぬ(刃物が)
なまぐさき(形)　腥、羶臊、なまざかなくさき。又なまちのにはひある
なまやけ(形)　生燒、よくやけぬ、なかばやけたる(肉が)
なまける[俗](自)　懶惰、懈怠、怠惰、ものうげなるけるなまこ(名)　海參、海鼠、沙噀、土肉、蚶(動物)
なまごろし(形)　生殺、半殺、はんごろし、ころしきらぬ
なまこかべ(名)　海鼠壁、なまこがたのかべ
なまざかな(名)　生魚、腥魚、鮮魚、なまのさかな、あたらしきさかな
なまざむらひ(名)　青侍、みじくのさむらひ。又わとざむらひ(宮廷に仕へし士)
なまき　生木、いきたるき、生樹
なまぎき(形)　半開、青開、はんぎき。よくきかぬ。よくならはぬ、半學
なまめぼし(名)　壁星(二十八宿の一。壁[へき]を見よ)
なまめく(自)　婀娜、呈媚、婉冶、あだつぽくある。うつくしくある(美しき花または女に云ふ)
なまみ　生身、いきみ、いけるみ
なまじろき(形)　生白、うすじろき
なまじつか[俗](副)　慇懃、なまじひに
なまじひに(副)　慇懃、なまなか、すこしばかり、ちつとやそつと
なまゑひ(形名)　生醉、なまよひ、はんよひ。醉漢、よつばらひ
なまび(形)　生干、なまがわき、よくかわかぬ
なまひやうはふ　生兵法(少しく兵法を知る事)。なまもの

じり

なまもの(名)　生鮮物、なまのもの(煮焼せぬ物)
なまものじり(形名)　生物知、半面學、なまぎき、なままな
　びみじくもの
なます(名)　膾、鱠(魚を細にきりて青物に和して酢につけ
　し者)
なまず(名)　瘧風、頑癬、癜瘡。白斑風、しろなまづ(皮膚病に
　して皮の上に白き斑を生ず)
なげ　如無、なささう、なきごとく
なげいれる(他)　投入、ほうりこむ、なげこむ
なげる[俗](他)　投、擲、なげうつ、ほうる、なげだす
なげおろす(他)　投下、なげくだす、ほうりおとす
なげかはしき(形)　歎敷、可歎、かなしき、ざんねんなる
なげがうろ(名)　鋼、香毬、そでがうろ(逆にしても灰のこ
　ぼれぬ香爐)
なげがま(名)　投鎌、なげつくるかま(兵器)
なげだす(他)　投出、ほうりだす、なげうつ
なげつるべ(名)　犀斗、犀桶(繩つけて投こみて水を汲む
　桶)、かへをけ
なげつける(他)　投着、なげてやる、なげかける
なげうつ(他)　擲、抛、投打、なげすてる、なげだす
なげく(自)　歎、愾嗟、慨、慷慨、歎嗟、悲嘆、愁嘆、杳嗟、感慨、悲
　憤、慨歎、ためいきつく。かなしむ
なげぐし(名)　投櫛、擲櫛、くしなぐること(不吉の事とす)
なげやり(名)　投鎗、なげつけるやり(戰に)
なげやり[俗](形)　投遣、等閑、なほざり
なげこむ(他)　投込、なげいれる、投入
なげこす(他)　投越、なげてとびこえさする(物の上と)
なげわげる(他)　投上、抛上、ほうりあげる、うへになげる
なげき(名)　長息、嘆息、悲歎、なげくこと(「なげく」をみよ)
なげし(名)　承塵、長押(家屋内の壁上に横はる所の横木、
　かもゐのうへのよこぎ
なげすてる(他)　投棄、うつちやる、ほかしすてる
なふ(他)　綯、よる(繩を)縒
なふいん(名)　納音、かへりねん(韻切に言ふ所にて字音の
　歸する所を指す例へば伊呉の二字の納まる所は因な
　るが如し、尚「かへし」の下を見よ)
なふへい(名)　納幣、たくりもの。ささげもの(神社への)
なふべつ(名)　納籠(通常の龜と
　異にして頭足とも縮まらぬ
　者(動物)
なぶりむち(名)　擲策(鷹遣の具)
なふりやう(名)　納涼、すずみ(夏
　日の)ゆふすずみ
なぶりころす(他)　弄殺、いつす
　んだめしにする、さりさいなむ
なぶりきる(他)　弄斬、いつすんだめしにきる
なぶる(他)　翫、嘲弄、戯弄、愚弄、欺謾、嫉、ちやかす、あざけ
　る
なふかん　納諫、いさめをいれる
なふだ(名)　名札、名刺、刺、名帖(名を書きたる札)
なふそ　納所(氏)
なふげん　納言、いさめをいれる、納諫
なふさい(名)　納采、ゆひいれ、結納、ゆひなふ(婚姻の

（圖の籠納）



なふきん(名)　納金、をさめがね(政府等への)
なふみだ(名)　名簿(めいぼ)、なまへがき
なふじつ(名)　納日、いりひ、沒日
なふじゆ[する](他)　納受、うけをさめる
なふせい　納稅、みつぎををさめる
なご(名)　海市、蜃樓、迷景、しんきろう
なごり(名)　餘波、のこるなみ(岸邊に)。名殘、殘懷、こころの
　こり。わかれ、わかれのつらさ
なこそのせき　勿來關(磐城國菊多郡に在りし關門)
なごらん(名)　名護屋(植物)
なごや　名越(氏)
なごや　名古屋(尾張國愛知郡の都會)
なごや　名護屋(肥前國小城郡の一驛)
なごやか(形)　和、靜、穩、だやか、しづか
なごめる(他)　靜、和、やはらぐる、なだむる
なごし(名)　夏越、なつをこすこと(下を見よ)
なごしのはらひ(名)　名越祓(六月の晦日の大祓をいふ)、
　和儺
なごん(名)　納言(古昔の高官の名、大中小の三等あり)
なでる(他)　撫拊、摩擦、さする(手にて)
なでつける(他)　撫着、髪髪、くしけづる
なでう(副形)　何條、なんでう、いかで。又いかなる、いかさ
　まの
なでうことなき(形)　無何條事、なにごともなき、平凡、な
　みなみの、よのつねの
なであげる(他)　撫上、うへへなでる、さすりあげる
なでさする(他)　摩挲、按摩、あんまする
なでぎり(名)　撫斬、よこなぎにきること
なでしこ(名)　撫子、瞿麥、洛陽花、南天竺草、むぎなでしこ、
　とこなつ(石竹も此一種(植物)
なでもの(名)　撫物(人の形の紙にして人の罪を負はせて
　棄るに用ふ)
なでん(名)　南殿、紫宸殿を謂ふ、なんでん
なあて(名)　名宛、あてな、ところがき
なさけ(名)　情、あはれごころ。もののあはれ、こひ
なさけなき(形)　無情、蔑情、蔑愛、むごたらしい、むごい殘
　忍、酷薄、きびしき
なき或なし(動形)　無、莫、无、ない、おらぬ(不有)
なき(形)　亡、しにたる、うせたる
なぎ(名)　竹柏、梛、梛、仙動木(植物)
なぎ(名)　和、和波、靜海、しづまり(海波の)
なきはは　亡母、先妣、しにたるはは
なぎはらふ(他)　薙拂、よこにうちはらふ
なきはらす(他)　啼腫、泣腫、なみだにてふやかす(目と)
なきどよむ(自)　啼叫、うたひさわがす(鳥が)
なきちち　亡父、先考、しにたるちち
なきりばうちやう(名)　菜切庖丁、だいどころばうちやう
　(菜蔬を切る刀)
なきを(名)　翅、をぶさ(鳥の尾の上の長き毛)
なきをんな(名)　哭婦、泣女、なきめ(葬式の時雇はれて哭
　く婦人)
なきがら(名)　亡體、死骸、しかばね、しにがら、死體
なきたま(名)　亡魂、亡靈、死靈(死人の靈魂)
なぎたふす(他)　薙倒、よこにはらひたふす

なぎたてる(他)　薙立、よこにはらふ。うちちらす
なきつら(名)　泣面、なきがほ
なきな(名)　寇名、むじつのな。あだのな
なぎなた(名)　長刀、薙刀(長き柄の太刀にて横になぐ者)(圖)

(長刀)

なぎなたかうじゅ(名)　薙刀香蔷薇(植物)
なぎふせる(他)　薙伏、はらひたふす
なきふす(自)　泣伏、ないてうつぶす
なきごゑ(名)　啼聲、啼泣之聲、なくれと
なきあと(名)　亡迹、しにたるあと、死後
なきあかす(他)　啼明、なきてよをあかす、よどうなく
なぎさ(名)　渚、汀、澳、沙嘴、みぎは、みづぎは、きしべ
なきさわぐ(自)　啼騒、なげきてさわぐ、わわなきあるく
なきさけぶ(自)　號泣、號哭、なげきよばはる
なきめ(名)　泣婦(「なきをんな」を見よ)
なきしをれる(自)　啼萎、なきてうなだれる
なきしたふ(自)　啼慕、こひてなく
なきひと(名)　亡人、亡者、冥籍、死人、しねるひと
なきもだへる(自)　哭悶、なげきなやむ
なぎすゑる(他)　薙居、よこにはらひてすわらする
なゆみ(名)　楢、ねずみをいるうつは
なめ(名)　飛脊、はだつけ(馬具にて鞍の下にあてる物)
なめ(名)　鍰(錢の背にて文なき所をいふ)
なめ(形名)　無禮、いやなき、不敬、失禮、失敬、粗暴

なめ(名)　痢病、滑屎、なめはら、どろどろくだるやまひ。赤痢、わかなめ。白痢、しろなめ
なめはら(名)　白痢(「なめ」をみよ)
なめる(他)　並、ならべる、並列
なめる(他)　舐、醍、嘗、ねぶる。嚥、咕、くちにてあぢはふ
なめかた　行方(氏また地名)
なめらか(形)　滑、滑澤、圓滑、光滑、すべこい、すべすべしたるずべる。つやつやしき
なめくじり或なめくじ(名)　蛞蝓、蜒蚰、括胎蟲、鼻涕蟲、陵螺、土蝸(動物)
なめくじうを(名)　蛞蝓魚(「くわつゆぎよ」を見よ)(動物)
なめげ(名)　無禮、しつれい、ぶさはふ、しつけい、いやなさ
なめし(名)　菜飯(菜をまぜて作れる飯)
なめしかは(名)　滑革、韋革、柔革、柔皮、つくりがは
なめす(他)　醃、熟、消皮、柔滑、つくる(皮を)
なめずる「俗」(他)　舐、銛、なめる、ねぶる
なめすすき(名)　滑薄瘦葦の一名(植物)
なみ(名)　次序、次第、ならび、列
なみ(名)　次、きまり。あたり(月次、つきなみ)など用ふ)
なみ(形)　常、凡、並、よのつね
なみ(名)　波、濤、浪、瀾、波瀾(海水の風に動搖する者)
なみゐる(自)　列居、列坐、並居、班列、ならびとる、つらなる
なみぢ(名)　波路(海上の通路。又ふなぢ
なみよけ(名)　波除、水堤、堤防、つつみ、みづふせぎ
なみよけぐひ(名)　除波杙、みづふせぎぐひ
なみだ(名)　泪、淚、眼水、淡、涕、珠淚(目より泣く時等に出る水)

なみだをながす　流涕、落淚、なみだをこぼす
なみだたれる　淚滴、漣洏、沈瀾、酸鼻
なみだたつ(自)　淚立、なみがたちあがる
なみだぐむ(自)　含淚、なみだをもつ、なみだをふくむ、むせぶ潜然
なみなみ(形)　並並、ひとしほり、よのつね、平凡、平平凡凡
なみなみ(形)　濟濟(衆多の貌)、むらがる。又盈盈、たつぷり
なみうちぎは(名)　波打際(海波の打寄する岸)、なみよせぎは
なみのかみ(名)　陽侯(大波の神)
なみのうね　波隴、起倒波、なみのしは
なみのこ(名)　浪子(蛤の屬にて安房國より出づ)(動物)
なみのこがひ(名)　浪子貝(上に同じ)(動物)
なみのひと　凡人、庸人、ただうど、よのつねのひと、尋常人
なみき(名)　波間、なみのあひだ
なみまつ(名)　列松、ならびまつ、なみきまつ、まつなみき
なみまくら(名)　波枕(海上に夜をあかす事にいふ)
なみき(名)　並樹、並木、列樹、行樹、ならびはえたるき(道路の兩傍等に)
なみき　並木、次樹(氏)
なみする(他)　無、蔑、ないがしろにする、かろしむる
なし　無、あらず(「なき」とみよ)
なし(名)　梨、玉乳、ありのみ(植物)
なしぢ(名)　梨地、洒金、灑金、撒金(梨色地の漆に金粉を散じたる者、描金
なしりとふ(他)　詰問、とひつめる
なじる(他)　詰、とひつめる。せめる
なしれくれる(自)　倣後、することがれくれる
なじむ(自)　馴、馴染、熟、なれる、したしくなる
なしくづし「俗」(名)　濟崩、だんだんがへし(借財を數月あるひは數年にわりて還へすを謂ふ)
なじませる(他)　令馴染、なれさせる、したしませる
なしもの(名)　鱠、魚醬。鹽辛魚の腸を鹽に藏めたる者、しほから
なに(名)　陰痿、陰莖の立ぬと謂ふ)、不起、じんきよ
なにる(自)　痿、萎、軟、なよなよとなる、きかなくなる(手足等が)ぐにやぐにやする、不仁、癱瘓、攤緩
なにわし(名)　蹇蹙、なにたるわし
なびろめ(名)　名披露(藝人などが我が名と得意さきへ披露する事)
なびかす(他)　令靡、ひらひらせしむる(風に)したがはする
なびく(自)　靡、飄颻、搖擺、倚靡、嫋娜、搆旎、ひらつく、ひらひらする(風に)又したがふ、歸服
なもみ(名)　菜耳、蒼耳、めなもみ、をなもみ(植物)
なせ(名)　夫君、をつと、せのきみ(古語)
なせ「俗」(副)　何、なにゆゑ、いかなれば、なにとて
なす　那須(氏)
なす(名)　茄、茄子、なすび(植物)
なす(他)　爲、作、做、行、れてなふ、いたす。又かへす、もどす、還、濟
なす(他)　產、生、うむ(子を)
なすりつける(他)　擦貼、ぬりつける。又歸、れはせる(罪を人に)

なする(他)　擦ぬる、こする
なすづけ(名)　茄漬、つけなす、つけたるなすび
なずらへる(他)　准視(「なぞらへる」に同じ)
なすげ(名)　莎草、香附子、水香稜(植物)
なずさふ(自)　馴傍、ともにしたしみをる、つれだちをる
なすび(名)　茄子、紫茄、紫瓜、落酥、落蘇、崑崙瓜(植物)
なすび(名)　陰挺(婦人陰戸に物の茄子の形にて垂れさがれる者を謂ひて五不女の一とす)、角、茄病、なすびつびなすびがね(名)　鈇金(金を鈇或は茄子の如くに成したる者と云ふ)、金錠
なすびつび(名)　茄陰、陰挺、なすび(五不女の一)
なすびでんかく(名)　茄子田樂、茄串、なすのしぎやき
なすびせんなり(名)　龍葵、いぬほほづき(植物)
なん(副)　何(「なに」の促音)
なん(名形)　南、みなみ、離
なん(形)　軟、せん、だん、柔、輭、しなやか
なん(形)　難、かたき、むづかしき
なん(名形)　男、をとこ、をのこ
なんい　難易、むづかしきたやすき
なんいん(名)　男陰、男根、陰莖、玉莖、人勢、屌、屌男子の生殖器)
なんろん[する](他)　難論、なじりいひあらそふ
なんば(名)—する(自)　難破、なんせん、破船。ふねがこはれる(海にて)
なんば　難波、なには(攝津國東生郡の地名)
なんば　難波(氏)
なんば　南場(氏)

なんぢ(代名詞)　汝等、爾曹、汝曹、爾等、なまへがた(なんぢら)の複數)、卿等、卿曹、きみたち
なんかい(形)　難解、げしがたき、さとりにくき
なんかいだう　南海道(日本八道の一)
なんかいさい(名)　南芥菜、はたざを(植物)
なんかう(名)　軟膏、からやく
なんだい(名)　難題、むづかしきだい(歌の)。又[俗]むづかしきいひがかり
なんれう(名)　南鐐、鎭鋌、銀錠(銀子をいふ)
なんぞ(副)　何、奚、那、奈、いかんぞ、いかで
なんなく(副)　無難、ぶなんに、さはりなく
なんなん(形)　諤諤、くどくど(談話の聲の繁きを謂ふ)
なんなんとする(自)　垂、向、方、將、まさにならんとする
なんら　何等、いかなる、なにら
なんの(代名詞)　何、なにの、いかなる
なんく　難句、むづかしきもんく
なんくわ(形)　軟和、やはらかき
なんくわ[する](自)　軟化、やはらかになる
なんくわ　南瓜、かぼちや、たうなす、ぼうぶら(植物)
なんくせ[俗](名)　難癖、非難、きず、わしきこと(人に蒙らする)
なんげん(名)　軟言、やはらかきことば、温言
なんぶ　南部(氏また奥州の地名)
なんぶつ(名)　難物、やつかいもの、もてあましもの
なんぷう　南風、みなみかぜ
なんぷう(名)　難風、れはかせ、わしきかぜ、暴風
[なんぷうはくふう]　南風北風、かけつかへしつ、わしつかへしつ
なんぶじま　南部縞(南部より織出す絹)
なんぶん[俗](副)　何分、いかにも、どんと
なんこ(名)　藏鉤(手に物を握りて其數をあてて勝負を決する戲)、猜拳
なんこつ(名)　軟骨、やはらかきはね
なんごみし(名)　南五味子、びなんかづら(植物)
なんこん(名)　南根、うまのすず(植物)
なんこん(名)　男根、そばしら、陰莖(男陰をも見よ)
なんてい(名)　男丁、をとこ、さかりのをとこ、をとな。又よはろ
なんてう　南朝(建武の亂の後皇統南北に分れたる其南の方にして正朝とたてらる)
なんでう(副形)　何條、いかで、どうして、なでう」をみよ)
なんでう　南條(氏)
なんでも[俗]　諸物、各物、なにものにても
なんてん(名)　南天、南燭、南天竹、三葉樹、烏飯草(植物)
なんでん(名)　南殿、なでん(禁裏に昔し設けありし紫宸殿を謂ふ)、ししいでん、ししんでん
なんてんぎり(名)　歪頭菜、さきのゆかむな(植物)
なんてんぎり(名)　椅、きりのたぐひ(植物)
なんてんしよく(名)　南天燭、なんてん(植物)
なんざん(名)　難産、れもきさん(婦人の)
なんぎ[俗](名)—する(自)　難儀、なやみ、くるしみ。なやむ
なんきよく(名)　南極(地軸の南端即ち地球の極南端の處)
なんきよくせい(名)　南極星、らうじんせい(星の名)
なんぎやう(名)　難行、苦行、くるしきおこなひ(僧徒等の爲す)

なんきん　南京支那の一都府
なんきんいばら(名)　南京棘、金櫻子、なにはいばら(植物)
なんきんいちご(名)　南京覆盆、懸鈎子(植物)
なんきんはぜ(名)　烏臼木、たうはぜ(植物)
なんきんどんす　南京緞子、雲絹(織物の名)
なんきんわた　南京綿(支那より來る綿、唐綿
なんきんむし(名)　南京虫(とこじらみ)を見よ)
なんきんうり(名)　南京瓜(植物)
なんきんうさぎ(名)　南京兎、白兎、熟兎、家兎(動物)
なんきんうめ(名)　南京梅、臙梅(らふばい)を見よ)、からうめ(植物)
なんきんやき(名)　白瓷、からつやき(陶器の製に云ふ)
なんきんまめ(名)　南京豆、鵝豆、落花生(らくくわせい)、眉兒豆(植物)
なんめん[する]　南面、みなみにむかふこと(天子は南に向て坐し給ふに因て南面するは天下に王たるの義を顯す)
なんし(名)　男子、をとこのこ、をのこ、をとこ、男兒
なんじ　何時、なんどき、いくとき
なんじ(名)　難事、むづかしきこと、かたきこと
なんじ　雛鮮、むづかしきことば
なんじょ(名)　難所、かたきところ、けはしきところ
なんしょく(名)　南燭(南天に同じ)(植物)
なんしょく　男色、わかまの雞姦(雞色、尾姦、男風、衆道、非道、押瓶
なんしょくか(名)　男色家、わかまするひと、雞姦者。失頭

魚

なんしや(名)　軟紗、やはらかきしや
なんじゃく(形)　軟弱、よわき、よわよわしき
なんじふ(形)　難澁、こむづかしき。[俗]名動)困難、こまり、びんばふ。こまる
なんえんぶだい　南閻浮提(南贍部の轉音にて此娑婆世界を云ふ)[佛語]
なんぴ[俗](名)　難非、なんくせ
なんぴと　何人、なにびと、いかなるひと
なんひょうやう　南氷洋(五大洋の一にして南極に接す)
なんびやう　難病、れもさやまひ
なんもん(名)　南門、みなみのもん、午門
なんもん(名)　難問、むづかしきとひ、難題
なんせい(名)　南星、馬勃の一名)、めつぶれたけ(植物)
なんせい(名)　男性、をとこのたち(言語文字等にも云ふ)
なんせん[俗](名)—する(自)　難船、なんば、破船、くつがへりこはれる(船が海にて)
なんぜんぶしう　南贍部州(「なんえんぶだい」に同じ)
なんずる(他)　難ず、なじる、せめる
なんすれぞ(副)　胡爲、何爲、奚爲、いかにして、いかんぞ

ら

ら、羅、眞　是は「る」の父音と「あ」の母韻と合して生ずる音にして五十韻の中に於て第九行第一段に位す、此音を以て始まる純粋の日本語は殆どあること無し(形)　裸、躶、はだか(無衣)

ら等、ども、たち、など(複數の時に語尾に添る詞)
ら(名)　騾、うさぎうま(驢と牝馬の間に生れし獸)(動物)
ら(名)　羅、うすもの、紗
ら(名)　螺、蠃、ほらがひ。又蓋の一枚なる貝の總稱)
ら(名)　羅、男根、をとこのもの、をばしら
らい(名)　籟、ふきもの(樂器)。又なりものと風竹等の)
らい(名)　雷、いかづち、かみなり、雷公
らい　賴(氏)
らい(名)　信天翁、わはうどり(動物)
らい(名)　蘿衣、こけごろも(樹にまとふ蘚苔)
らいろくわ(名)　來路花、さるひや(植物)
らいはい(名)。—する(他)　禮拜、をがみ。をがむ(神佛等を)
らいはいだう(名)　禮拜堂、敎會堂、てら、みや、會堂
らいはる[俗]　來春らいしゅん、きたるはる、わくるはる、明春
らいはう(名)。—する(自)　來訪、とひたづね、みまひ、來問。とひたづぬる
らいばん(名)　禮盤、ばん
らいぼく(名)　擂木、すりこぎ、れんぎ
らいぼん(名)　雷盆、すりばち
らいへい[する]　來聘、外國より來りて禮問するをいふ)
らいどう[する](自)　雷同(妄りに他人の說等に一致するをいふ、また前說と同じき事を幾度もくりかへし云ふを然か云ふ)
らいちゃく[する](自)　來着、きたりつく、到着
らいりん[する](自)　來臨、きたりのぞむ(貴客等の)
らいわう[する]　來往(ゆきさする)
らいが　來駕、きたること、來車、來臨(他人の來訪を謂ふ)
らいかう[する](目)　來航(外國より船にて來る)
らいかう[する]　來港、みなとにつく(船が)
らいがう[する](他)　來迎、きたりむかへる(佛等が)
らいかく[する](自)　來格、きたりいたる(神明等が)、來降
らいかく　來客(らいきゃく)、きたるきゃくじん、來賓
らいがく[する]　來學、きたりまなぶ
らいよけ(名)　雷除、避雷針、かみなりよけ
らいだ或らんだ(形)　懶惰、なまける、ねこたる
らいたい(形)　蹂躙、まつくろ、くろき
らいだう(名)　禮堂、きゃくでん(客間)
らいだん[する]　來談、きたりはなす、來語
らいれき(名)　來歷、へたるあと、しだい、由來、履歷、歷史
らいそ(名)　鼷鼠(鼷鼠、むささび、ももんぐは(動物)
らいそん(名)　來孫、しそん、すゑ
らいねん(名)　來年、わくるとし、來歲、明年
らいらう(名)　雷碌、なりはためくこと(雷電の)
らいらく(形動)　磊落、ものにかかわらぬ、ほしいままなる。又ただしくいさぎよき
らいう(名)　雷雨、かみなりあめ、ゆふだち
らいくわ(名)　雷火、かみなりのひ、かみなりよりたこるひ
らいくわい[する]　來會、きたりわふ、會合、よりあふ
らいくわう(名)　雷光、いなびかり、電光
らいくわん(名)　雷管、かんどんどろ(鐵砲の發火藥管)
らいやう　來陽、らいはる(來春)明春
らいげつ(名)　來月、きたるつき、翌月、つぎのつき
らいげき(名)　雷擊、かみなりうち(電の疏く事また落る

事）

らいふ(名)　雷斧、石斧(土中より出る上古の石斧)

らいふく[する][自]　來復、きたりかへる、ふたたびもどる

らいふく(名)　蒺藜、蘿蔔、だいこん、れはね(植物)

らいふせき(名)　雷防、霹靂礎、かみなりよけ、らいよけ

らいこ(名)　雷鼓、はちめんつづみ、又かみなりのつづみ

らいこう(名)　雷公、なるかみ、いかづち、かみなり

らいこう[する]　來貢、きたりてみつぎたてまつる(他國の人が)

らいこん(名形)　來今、いま、いまよりのとき

らいてい(名)　雷霆、いなづま、いなびかり

らいてつ　來哲(將來の智者)

らいてう[する]　來朝(外國の使臣等が來りて聘問するをいふ)

らいてう(名)　雷鳥、松鷄(褐繡色にして冬に至れば白色に變ずる鳥にて處處の高山に居る)(動物)

らいでん(名)　蠟田、うるつけぬた(休め田)

らいでん(名)　雷電、いなづま、いなびかり

らいさん(名)　禮贊(祭文の類)

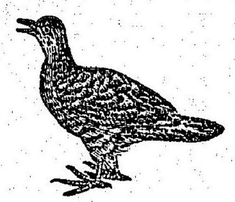
らいき　禮記(五經の一にて支那の周禮を誌る書)

らいぎ[俗](名)　來儀、來訪、來臨、とひきたること

らいぎょ(名)　雷魚、はたはた、うをのな(動物)

らいきゃく(名)　來客、きたるきゃくじん、まらうど、來賓

（圖の鳥雷）



らいゆ(名)　來由、わけがら、ゆらい(由來)

らいゆ(名)　來諭、きたれるさとし(他人の書翰を謂ふ)

らいめい　雷名、とどろくな(高名を謂ふ)

らいめい(名)　雷鳴、はたがみ、なるかみ、いかづちなること

らいめい　來命、きたれるをはせ(其義來諭に同じ)

らいし(名)　罌子(盆の類)

らいし(名)　罌紙、副簀紙、禮紙、あまりかみ(書狀の初に遣す白紙)

らいしょ　來書、きたれるてがみ(他人の遣れる書狀)

らいじつ　來日、きたるひ、あくるひ、明日

らいじう(名)　雷獸、貂鼠、かみなりげもの(雷を好むといふ獸にて實は貂の類)(動物)

らいしや　來車(來駕に同じ)

らいしや(名)　癩者、かったい、なりんぼ、癩病人

らいしゅん　來春、あくるはる、明春

らいじん　雷神、いかづちがみ

らいじん　來人、きたるひと、來客

らいせい(名)　來奇遠孫、すゑ遠き子孫)

らいせつ[する]　來謁、めみえ、きたりまみゆる

らいえん[する]　來援、きたりたすくる、かせいにくる

らいびやう(名)　癩病、かったい、天刑病、はたけ

らいひん　來賓、來客に同じ)

らいびん　來便、きたれるたより(人より來る書狀等をいふ)

らいせい　來世、のちのよ、未來

らいせいきん(名)　雷霹靂、かみなりたけ(植物)

らいせき(名)　霰石、くりいし、じゃり

らいろく(名)　羅勒、めばうき、えあらぎ(植物)

らば(名)　騾馬、うさぎうま(驢馬と牝馬の間に生れたる獸)(動物)

らはい(名)　螺杯、れうむさかづき

らはつ(名)　螺髪、ちぢれけ(佛の頭の如き)

らばん(名)　羅盤、はうばり(方針)、羅針盤、じしやく(船中に用ふる磁石の類)

らへい(名)　邏兵、みまはりつはもの、番兵

らとう(名)　羅篷、あみがさ

らち(名)　埒(馬場などの周圍にまうくる低き柵にして處々に柱樣の物を建てて其上に横に木竹葦などを束ねて渉したる者、やらい、柵、行馬

らちう(名)　裸蟲、はだかむし(人類等を支那にて然か言へるあり)

らちう(名)　螺柱、ねぢばしら

らちあかぬ(形)　不埒明、きまりがつかぬ、てぬるき、きつばりせぬ

らちあく　埒明、ことがわかる、きまりがつく、はやくすむ

らりよう　羅綾、うすもの及あや

らる(副)　覩縷、こまごま、こまかに、くはしく

らる　被、見遭、所、觀、蒙(文法の被動体に用ふる漢字)

らをたけ(名)　煙管竹、きせるだけ

らかつ(名)　蘿蔔、つたかづら(植物)

らかつ[する]　拉行、とらへゆく、つかまへゆく

らかん(名)　臘乾(猪肉の鹽漬)、鹽豚

らかん(名)　羅漢(梵語にして菩薩の類の稱)

らかんはく(名)　羅漢柏、ひば、あすなろ(植物)

らかんしょう(名)　羅漢松、まき、いぬまき、仙柏(植物)

らたい(名)　羅帶、うすぎぬのれび

らたい(名)　裸體、まるはだか、おかはだか

らたん[する]　裸袒、はだぬぐ

られつ[する][自他]　羅列、ならぶ。ならぶる、つらぬる、臚列

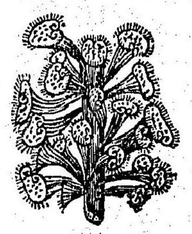
らそ(名)　羅蘇、海荷(はくか)(植物)

らそつ(名)　邏卒、みまはりやく、巡邏兵、また巡査

らつば(名)　喇叭、獣角、ふきもの、又ちやるめら(樂器)

らつばちう(名)　喇叭蟲(圓錐形の海中動物にして游泳する時は卵形をなし他物に吸着く時は喇叭の形を成す故に此名あり)

（圖の蟲叭喇）



らつばたい(名)　喇叭隊、吹角隊(軍隊中の喇叭方)

らつばくわん(名)　喇叭管(婦人の卵巢より子宮に達する管)

らつばふき(名)　喇叭吹、吹角手、喇叭手(喇叭を吹く人)

らつか(名)　辣斫、たうがらし(植物)

らつくわせい(名)　落花生(らくくわしやう)、南京豆、番豆、なんきんまめ(植物)

らつぷ(名)　乱舞、のうのまひ、能舞

らつこ(名)　蜊蛤、れくりかんきり(動物)

らつこ(名)　臘虎、獺虎、北海の獺にして其皮珍重せる(動物)

らつこせき(名)　蝋石、れくりかんきり(ざりがにの)分泌する石塊にして制酸の功ありとて藥用に供せられたり

らつきよ(名)　蕗子、らつきやう(植物)

らつきやう(名)　辣薑、薤白薤晶子、やぶにら、にんにくのたぐひ(植物)

らつし(名)　鬙次(年功の順序)。次第、次序、ついで

らつしもなき(形)　無鬙次、混雑、みだれたる、わけのわからぬ

らつせうこく(名)　辣椒殻、たうがらし(植物)

ららく(する)(自)　羅絡、まとひつく(蔦等が)

らう(名)　郎(男子の美稱)。とのご。又をつと、つま

らう(名)　牢、ひとや、らうや、獄、獄舎、囹圄、監倉、監房

らう或らを(名)　刺竿、煙管、煙筒、喇管、させるのらを、させるだけ

らう(名)　廊、はそとの、わたどの(家屋の内又は外に設る細く長き建物にして通路の用に供す)

らう(名)　狼、れはかみ、豺狼(動物)

らう(名)。—する(自他)　勞、ほねをり、しごと。ほねをる、つとめる。はたらかす、つからす

らうい(名)　老翁、れにつばな(植物)

らうどう(名)　郎等、けらい、臣僕、臣下

らうとく(他)　撈得、かきさがしうる(水中に在る物等を)

らうとく(する)(他)　朗讀、よみあげる、はがらかによむ

らうぢよ(名)　老女、れいたるをんな。(又大名貴紳等の内に仕ふる上役の婦女)

らうぢう(名)　老中、國老(幕府執政官の稱)

らうちやう(名)　老長、をとな、としうへ

らうりよく(名)。—する(自)　勞力、ほねをり、勞動、力役。はねをりする

らうるゐ(する)　老羸、老衰、れいよわる

らうをう(名)　老翁、おきな、としよりびと、老叟、老人

らうか(名)　廊架、廊下、歩廊、回廊、はそとの、わたりどの(廊の下を見よ)

らうがい(名)　蝮蠎、れがに、むしのな(動物)

らうがい(名)　癆瘵、れとろへやまひ、癆瘵、癆症、肺病(病名)

らうかばし(名)　廊架橋、閣道、わたりばし(家の此より彼に渡す高き路)

らうがはしき(形)　濫雑、みだりがはしき

らうかう(する)(自)　狠抗、ひとにたてつく、抗抵、さからふ

らうかく(名)　浪客、さすらひびと(浪人を見よ)

らうがこひ(名)　牢圄(牢のまはりの柵)

らうがさ(名)　牢瘡、ひとやがさ(牢内に發する悪き吹出物)

らうかん(名)　瑯玕、おとだま(寶石また珊瑚の類)

らうがん(名)　老眼、老人の眼、れいめ、よはれるまなこ

らうよ(名)　牢輿、らうごし

らうたい　老体、れいのすがた、老軀、老身

らうたう(名)　萇楚、れはとりぐさ(植物)

らうたう(形)　潦倒、しだらなき、みだりなる(禮貌をたもたざる貌)。又れたちぶれたる

らうだけ(名)　喇竿竹、烟管竹、無節竹、させるだけ(植物)

らうれう(名)　粮料、かて、食料

らうれん(形)　老練、よくなれたる、老功、熟達

らうそ　老鼠、れはねずみ、たやねずみ、碩鼠

らうそ(名)　萇楚、たびらこ(植物)

らうそう　老僧、老法師、としよりばうず

らうそく　老足(老たる人の脚)

らうねん　老年、れいたるよはひ

らうなぬし(名)　牢名主、老囚徒(獄中にて最も權力ある囚人)

らうらう(形)　浪浪、さまよふ、さすらふ

らうらう(形副)　朗朗、あきらか、ほがらか

らうらう(形副)　琅琅(玉等の鳴る音)

らうらく(する)(自)　牢落、れちぶれる

らうらん(形)　老嫺、れいてものうき

らうらく(名)。—する(自)　勞苦、ほねをり。つとめはたらく

らうくわ(名)　狼火、のろし、狼烟

らうくわう(名)　朗光、蛔蜆、さるぼう(貝の名)(動物)

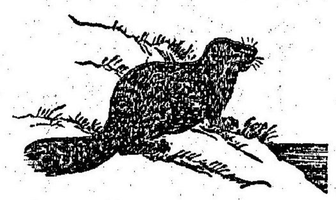
らうくつ(する)(自)　老屈、れいかがむ

らうくん　郎君、とのご、きみ(婦人より言ふ男子の美稱。をつと

らうや(俗)(名)　牢屋、囹圄、ひとや、牢獄(「らう」を見よ)

らうや　老爺、れやぢ、老父、れいたるちち

らうやがかり(名)　牢屋掛、司獄官吏、看守、獄丁、押丁、獄吏

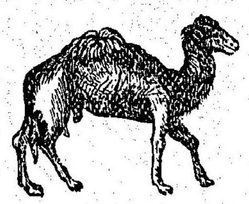


（圖の虎臘）

らうやぶり（名）　牢破、破牢、破獄、反獄、越獄、脱監、ひとやぶり
らうまい（名）　粮米、かて、糧食。また兵粮
らうまう［する］（自）　老耄、れいぼれる、老眛
らうまけう（名）　羅馬教、耶蘇舊教、天主教
らうげつ　朗月、ほがらかなるつき
らうげさう（名）、狼牙草、こまつなぎ（植物）
らうげき［する］（他）　浪撃、めつたうちする、やたらにうつ
らうけん［する］（自）　朗見、ほがらかにみゆる
らうふ　老父、ちち、れやぢ、老爺
らうふ（名）　老婦、ばば、老婆
らうふ　老夫、としより、老翁、老人
らうぶち（名）　牢扶持、囚糧（囚徒の食料）
らうぶつ　老仏（老子と釋迦）
らうぶぎやう（名）　牢奉行（牢を掌どる官吏）
らうこ　老狐、ふるぎつね、たうめ
らうこ（形）　牢固、かたき、堅固。つよき（城等が）
らうご（名）　浪語、むだことば、むだくち
らうご　老後、としよりてののち、れいさき
らうこう（形）　老功、老練、老成、熟練、なれたる、たくみなる
らうごく（名）　牢獄、ひとや、囹圄、獄屋
らうごし（名）　牢輿、囚輿、囚車、檻車（囚徒を護送する車）
らうこしゆ（名）　老虎鬚、ひらぎさう（植物）
らうこん（名）　老棍、ふるさわるもの
らうてつ［する］（自）　朗徹、すきとほる（水晶清水等が）
らうてつ［する］（自）　老耄、れいぼれる
らうてう［する］（自）　浪跳、をどりあがる、とびあがる
らうてん　朗天、ほがらかなるひより、晴天
らうでん　浪傳、たしかならぬはなし、みだりのうはさ
らうある（形）　有藴（功あるを謂ふ）
らうあう（名）　老媼、老婆、れいたるをんな
らうわくわ（名）　老鴉瓜、からすうり（植物）
らうわさん（名）　老鴉蒜、てんがいばな（植物）
らうさい（名）　癆瘵、癆疾、らうしやう、肺病
らうさう（形）　眼瞼、よろめく、ひよろつく
らうさう（名）　牢瘡、らうがさ、牢内に流行する悪瘡）
らうきう［する］（自）　老朽、れいくちる、れいばれる
らうめい（形）　朗明、ほがらか、おきらか
らうし　老死、れいじに（天然の死を謂ふ）
らうし　牢死（牢屋にて死する事）
らうし　老子（姓李名は耳支那の古聖人）
らうし（名）　浪士、らうにん（浪人）、無主無住の士、さすらひびと
らうじつ（形）　老實、りちぎ、正直、まめやか
らうじう（名）　郎従、つきびと、郎等、けらい
らうしや（名）　老者、としより、れいびと
らうしや（名）　牢舎、れしこめ、ひとやにいること、入牢、禁錮
らうじやく　老若、老少、老弱、れいたるわかき
らうしゆ　老酒、ひねざけ、古酒
らうしゆ（名）　老手、なれたるひと、てだれ、熟練家、てなれ
らうじゆ　老樹、れいき、古木
らうじゆ　老儒、宿儒、れいたるものしり（老年の儒者）
らうじん（名）　老身、れいのみ、老體

らうしん　勞神、勞心、こころをつからす、きをもむ、痛心
らうじん（名）　老人、としより、れいびと
らうせい（名）　朗詠（聲あげて詩歌を歌ふを謂ふ）、朗唫
らうにう　老幼、れいたるをさなき老少
らうにき（名）　勞役、はたらき、勞力
らうにん（名）　狼烟、のろし、狼火
らうびやう（名）　老病、れいのやまひ、としやみ
らうせい（形）　老成、老練、よくなれたる（「老功」を見よ）
らうせい（形）　牢晴、よくはれたる（天氣が）
らうせい（名）　老青、やんま、とんぼ（動物）
らうせつ（名）　浪説、流言、浮説、うはさ
らうせう　老少、老若、れいたるわかき、としよりこども
らうせうふぢやう　老少不定（人壽の定らぬ事を謂ふ）
らうせき（形名）　狼藉、とりみだしたる、亂雜。また亂暴、みだれさわぐこと
らうすい［する］（自）　老衰、れいれとろへる、としよりやつれる
らうすゐ（名）　潦水、わまみづのたまり
らく（名）　樂、たのしみ。又［俗］（形）やさしき、たやすき
らく（名）　酪（牛乳等の油質分を謂ふ）
らくいん（名）　落胤（貴人か卑婦等に産ませし子を謂ふ）
らくいんきよ（名）　樂隱居（世を子に讓りて閑靜に暮す事）
らくば（名）　駱馬、かはらげのうま（動物）
らくば　落、馬うまよりおつる
らくばい（名）　落梅、れつるうめ（笛の異名として用ふ）
らくはつ［する］　落髪、かみをそる、薙髪
らくはう［する］（他）　絡包、からげる、まとふ
らくはく［する］（自）　落魄、落薄、おちぶれる、零落、流離、漂泊
らくはく［する］（自）　落剝、おちはげる、塗物などが
らくばく［する］（他）　絡縛、しばる、ゆはひる
らくはん（名）　絡板、いとまき、絲絡、絲捲
らくぼ（名）　酪母、さけのもと
らくと（名）　樂土、たのしきくに、極樂土
らくとう（名）　洛東（京都鴨川の東の市街を云ふ）
らくちう　洛中、みやこのうち、禁轂下
らくちやく［する］（自）　落着、おちつく
らくるゐ［する］　落涙、なみだをおとす
らくか（名）　落痂、かさぶた（腫物の）
らくか（名）　落霞、ゆふがすみ（琴の異名として用ふ）
らくがき（名）　樂書、むだがき、漫漶（壁等にする）戯書
らくがん（名）　落鴈、おりるかりがね（祕中等に）。また炒米餻（菓子の名）
らくだ［する］（自）　落墮、おつる。わるくなりさがる（僧の還俗等にも云ふ）
らくだ（名）　駱駝（南方亞細亞及び亞非利加に生する大獸にして人類の用をなすこと馬の如し）（動物）
らくたい（名）　落帶（毬琶の異名）
らくだい（名）。—する（自）　落第

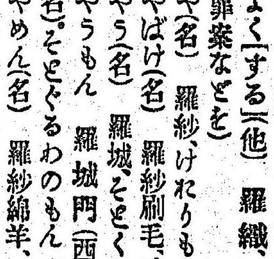
（圖の駱駝）



ら　らくだい　らくたん　らくつい　らくね　らくらい　らくらく　らくらく　らくくわ　らくくわい　らくくわせい　らくくわん　らくやう　らくやう　らくやき　らくけい　らくげつ　らくけつにき　らくご　らくご　らくごか　らくこく　らくこく　らくてつ　らくてふ　らくてふ　らくてふ　らくてん　らくてん　らくてん

らし(名)　螺螄、にな(動物)
らしよく[する](他)　羅織、ねりなす、つくる、こしらへる(罪案などを)
らしや(名)　羅紗、けれりもの、羅絨、毯氈
らしやばけ(名)　羅紗刷毛、ほこりれとし、ブラシ
らじやう(名)　羅城、そとくるわ、外廓
らしやうもん　羅城門(西京九條東寺の西にありし門の名)、そとくるわのもん
らしやめん(名)　羅紗綿羊、綿羊、ひつじ(其毛を績て織物に用ふ可し)(動物)
らしん　裸身、はだかみ
らしん(名)　羅針、はうばり(船中に用る)
らしんばん(名)　羅針盤、はうばりきかい、磁石(船中に用る)
らにんさう(名)　螺鬢草、つるまさき(植物)
らびやう[俗](名)　刺病(虎列剌病の畧)
らびす(名)　青金(拉甸語にして藥石の名)
らせいた(名)　羅脊板、喱支緞、けれりもののたぐひ
らせつ(名)　羅剌、れに、羅剌鬼(佛經語)
らせつもの(名)　羅切者、寺人、淨身男子、らせつしたるをとこ(下を見よ)
らせつする　羅切、割勢(男根或は陰嚢を切る)
らせさば　裸脊馬、はだかうま
らせん(名)　裸跣、はだし、すあし
らせん(名)　螺旋、ねぢ、ねぢれたるもの
らせん(名)　羅甸、靴甸(厚毛織の敷物の名)
らすい(名)　螺錐、ねぢぎり、ねぢれたるきり

らん(名)。—する(他)　覽、みること、一覽、一見、一目
らん(名)　鸞、鸞雞(狀ち孔雀より小さく雉より大きく彩毛孔雀に似たり)。又青鳳(鳳凰類にして寓言の鳥)(動物)


(鸞の圖)

らん(名)　蘭、ふぢばかま、わらび、幽蘭、幽芳、庭草、香草(植物)
らん(名)　濫、みだりなる、わまりなる、すぎたる
らん(名形)　亂、みだれ(治の反對)。みだれたる
らんい(名)　濫衣、やぶれぎぬ
らんばつ[する](他)　亂發、みだれうちする(銃砲を)
らんばつ　亂髮、みだれがみ、散髮
らんばう　亂邦、みだれぐに、亂國
らんばう(名)。—する(他)　亂暴、あれちらし、暴行
らんばこ(名)　覽箱、宣旨を入れて將軍に賜はる者)
らんばん(形)　爛斑、諸の色の雜れるを謂ふ)
らんにふ[する](自)　亂入、闖入、みだれいる、闖入、れしこむ
らんちう(名)　鸞臣(金魚の異名)(動物)
らんちやう　爛腸、れもひをくだく、焦思
らんちき[俗](形)　亂的、混雜、いりみだれ
らんり(名)　亂離、みだれ、いくさ、騷亂
らんりよく(名)　藍綠、あをらふ(藍蠅)
らんる(名)　濫縷、ぼろ、つづれ
らんれう[する]　亂毆、めつたうちする、亂擊

らんか(名)　蘭架、けんだい(書物を載て讀む臺)
らんが(名)　鸞駕(天子の御車をいふ)
らんかい　亂階、みだれのもと
らんかう　亂行、みだりがはしきおこなひ
らんかう(名)　蘭交、なかよきまじはり
らんかく(名)　欄格(欄杆の格子)
らんがく(名)　欄額、はしらぬき
らんがく(名)　諤學(阿蘭陀學問)
らんかん(名)　欄杆、てすり、欄檻、ねばしま
らんよ(名)　籃輿、かご、かくかご
らんよ(名)　鸞輿、みこし(天子の御乘物)
らんよう(形)　懶慵、ぶしやう、ものぐさき
らんよう(名)。—する(他)　濫用、妄用。みだりにつかふ
らんだ(形)　懶惰、なまける、ものぐさき(上を見よ)
らんだい(名)　蘭臺(蘭省)[らんしやう]を見よ)
らんだう　亂道、みだりなることば、濫言
らんたふ(名)　卵塔、蘭塔、亂墳、たふば、卒塔婆(そとば)
らんたふば(名)　卵塔婆、たふば(寺院の墓場に立る者)。又はかば、墓地
らんそ　濫訴、みだりにうつたへること
らんそ[する](他)　攔阻、さまたぐる、じやまする、ささへる
らんそう[する]　亂搜(らんしう)、やたらさがしする
らんない　欄內、わくうち(書物新聞紙等の欄畫の內)
らんらん(副形)　爛爛、ひかりかがやく
らんくわい(名)　嬾惰、なまけ、ものぐさき(上を見よ)
らんたい(名)　蘭臺(蘭省)[らんしやう]を見よ)
らんだう　亂道、みだりなることば、濫言
らんたふ(名)　卵塔、蘭塔、亂墳、たふば、卒塔婆(そとば)
らんたふば(名)　卵塔婆、たふば(寺院の墓場に立る者)。又はかば、墓地
らんそ　濫訴、みだりにうつたへること
らんそ[する](他)　攔阻、さまたぐる、じやまする、ささへる
らんそう[する]　亂搜(らんしう)、やたらさがしする
らんない　欄內、わくうち(書物新聞紙等の欄畫の內)
らんらん(副形)　爛爛、ひかりかがやく
らんくわい　欄外、わくそと(欄內に反す)
らんくわん　濫官、冗官(無用の官を謂ふ)
らんくわん　嬾官、むさぼるやくにん(貪婪官吏)
らんぐひ(名)　亂杙、亂抗、亂橛(戰爭の時敵を拒ぐ爲に地に打つ杭を謂ふ)、鹿角
らんぐひば[俗](名)　亂杭齒、そろはぬは
らんぐん　亂軍、みだれいくさ
らんや(名)　闌夜、よなか、よふけ
らんま(形)　亂麻、いりみだれ(麻の如く亂れたる)
らんま(名)　欄間(鴨居の上部を云ふ)
らんまん(形副)　爛熳(花の紅白咲亂れたる貌、みごとなる。又わらはなる爛熳)
らんけい(名)　鸞鷄(鸞を見よ)(動物)
らんけい(名)　蘭桂、だも、やまにつけい(植物)
らんけい(名)　卵形、たまごなり。たまごのかたちなる
らんげつ(名)　蘭月(舊曆の七月を謂ふ)
らんげき[する]　亂擊、めつたうちする
らんふ(名)　襤布、ぼろ、襤褸、やれぎぬ
らんぷ(名)　洋燈、石油を燃す器(英語)
らんぶ[する]　亂舞、みだれまふ(多人數が)。また(名)能舞、のうのまひ
らんぷがさ(名)　洋燈蓋(ランプ)の光を集むる爲の蓋)
らんぷだい(名)　洋燈架(ランプ)を載る臺)
らんぷつり(名)　洋燈吊(ランプ)を吊る金の棒)
らんぷじん(名)　洋燈心(ランプ)に用ふる布燈心)
らんこう(名)　藍釭、あをつぼ(藍を入れて蓄る具)
らんこく　亂國、みだれたるくに

らんてん(名)　藍靛、あゐぞみ、あゐだま、藍蛺
らんでん　闌殿(皇后の宮と謂ふ)
らんでん(名)　藍澱、あゐだま、藍靛
らんてんちく(名)　闌天竹、ななかどたけ(植物)
らんざ[する]　亂坐、うちまじりてすわる
らんざつ(形)　亂雜、いりまじる、混雜
らんさう(名)　闌草、ふぢばかま(植物)
らんさう[する]　亂噪、みだれさわぐ
らんさう(名)　卵巢、たまごのす(子宮の傍に在りて卵を蓄る所)
らんさん(名)　襴衫、なほし、ひたたれのたぐひ
らんさん(副形)　爛燦、かがやきてうるはしき(燦爛に同じ)
らんき(名)　亂氣、きちがひ、狂氣
らんぎょ(名)　纜魚、いか(動物)
らんきょく　亂曲(調子のそろはぬ歌曲)
らんぎく(名)　闌菊、だんぎく(植物)
らんきやく[する](自)　爛却、ただれかへる
らんぎやく(名)　亂逆、ひはん、叛逆
らんめん(名)　卵麵、たまごそば
らんみやく[俗](形)　亂脈、いりみだれ、混雜
らんし(名)　爛紙、ほごすたりがみ
らんし[する](他)　爛死、やけしぬ、ただれしぬ
らんし　亂絲、みだれいと、こごれたるいと
らんし[する]　濫施、みだりにほどこす
らんし[する](他)　欄止、さゝへとどむる、さまたぐる
らんしょ　闌書、れらんだぶみ(阿蘭陀國の書)

らんしょ　亂緒、みだれいとぐち、らんのはじめ
らんしょく(名)　藍色、あゐいろ
らんじゃ(名)　闌闍、かをりもの
らんじゃたい(名)　闌若、てら、佛寺、精舍(梵語)
らんじゃたい(名)　闌奢待(名香木の名にして又黃熟香とも云ふ南都東大寺の寶庫に在り即ち伽羅の類也)
らんしゃう(名)　闌省、闌臺(天子の御書齋)
らんしゃう[する]　濫賞、みだりにほむる(强弱有功無功等を論ぜずに濫りに賞するをいふ)
らんしゃう(名)　濫觴、はじまり、起原、根本
らんしゅつ[する](自他)　濫出、みだりにでる(貨幣等が外國へ)
らんしゅん(名)　欄楯、かいだて(楯にて假に作れる胸壁)
らんしん(名)　亂心、きちがひ、失心、狂氣
らんしん(名)　亂臣(不忠の臣)
らんじん(名)　亂人、亂暴者、無法者、あばれもの
らんじんさい(名)　蠟人菜、にら(植物)
らんしんもの[俗](名)　亂心者、風癲人、風子、きちがひ、きのくるへるひと
らんぴ　濫費、みだりにつひやすこと(無用の費耗)
らんぴつ　亂筆、みだれがき
らんびき(名)　蒸餾器、蒸露罐(物の精を蒸て取る器)
らんせい　亂世、みだれよ
らんせい(形)　卵生、たまごにてうまるる(鳥魚の如く卵となりて生るるをいふ)
らんせい　濫製、粗造、みだりなるつくりかた
らんせい　濫政、みだりなるまつりごと、惡政

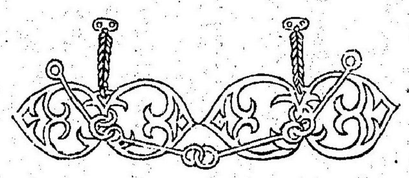
らんせう(名)　闌焦、だんどく、くさのを(植物)
らんせき(名)　闌夕、よふけ、深夜
らんせきくわう(名)　卵石黃、だんごいし
らんせん(副形)　爛然、あきらか、かがやく
らんせん(副形)　瀾然、はらはら、潸潸(涙降る貌)
らんすい[する](自)　爛醉、ゑひつぶれる、いたくよふ

む

む　ん、無、牟　是は「む」の父音と「う」の母韻と合して生ずる音にして五十韻の中にては第七行第三段に位すむ或ぶ(名形)　無、无、なきこと(又詞の上に冠らせて無きの意を表す例へば無煙炭、無理等の如し)
む(名)　霧、きり
む(名)　夢、ゆめ、いめ
むね　無爲、することなき、寂滅(佛敎の意)又れのづから、自然(天下の治まる事等に云ふ)
むね　無位、くらゐなき
むいちもつ　無一物、ひとつのものもなき(何も無きを謂ふ)
むいか　六日(第六の日或は六箇の日)
むろ(名)　室、いへ、窩窖、あなぐら、暖室、温室、熱室、煖室、あたたかきいへ或へや
むろ(名)　蔭室、ぬりものぶろ(漆ぬりたる物を乾かす室)
むろ(名)　夢路、ゆめぢ、ゆめ
むろ(形)　無漏(佛敎にて諸の煩惱を脫したるを謂ふ)
むろ(名)　杜松、ねず(植物)

むろが　室賀(氏)
むろづみ　室積(氏)
むろうじ(名)　無漏子、そてつのみ
むろく(形)　無祿、ふちなし
むろざき(形)　暖室開(暖室にて開きたるをいふ)
むろざきばな　暖室花(暖室にて咲かせたる花)
むろん(副)　無論、勿論、いふまでもなく、もちろん
むばら(名)　棘、荊棘、茨、いばら、ねどろ
むばらやつは(名)　蔾蘘衙(馬衙の一種)(本圖なるは大和國奈良正倉院の所藏)
むばう(形)　無望、のぞみなき
むはふ(形)　無法、暴戾、無道、らんばう
むに(形)　無二、ならびなき、ふたつなき
むにむざんに(副)　無二無三、むやみに、どこまでも
むにする(他)　無、むだにする、むなしくする
むぼう(形)　無謀、むやみ、かんがへなき
むぼく(名)　夢卜、ゆめうらなひ、ゆめはんじ
むほん(名)　謀叛、不軌、非望、謀反、反逆、ぼんぎやく(君主に叛く事)
むほんしんわう　無品親王(敍品の宣下なき王子を云ふ)
むべ(名)　野木瓜、むべかづら
むべ(形)　宜、もつとも、しかるべき、當然

(蔾蘘衙の圖)



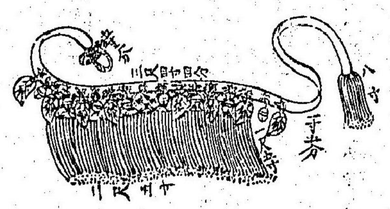
むべかづら(名)　野瓜、野木瓜、蘭子、郁子、假茘枝、ときはあけび(植物)
むへん(形)　無邊、かぎりなき、はてしなき、無限
むへんりう　無邊流(鎗術の一流)
むと(形)　無圖、かんがへなき
むとう　武藤(氏)
むとくしん[俗](形)　無得心、ふしようち、うけひかぬ
むとせ　六年、六歳、としむつ
むち(形)　無智、ちゑなき、れろか
むち(名)　鞭(馬を打つ具)、策、鑓、たたくぼう
むぢ(形)　無地(織物の縞なきを云ふ)
むちづゑ(名)　笞杖、笞、しもと(罪人を打つ杖)
むちう(形)　夢中、ゆめのうち、ゆめのごとき、又無感覺、れぼれなき
むぢう(形)　無住(寺にて住職なきを云ふ)
むちうを(名)　馬鞭魚、うをのな(動物)
むちうつ(他)　鞭、むちにてうつ、鞭撻、笞杖、鞭通、鑓策、うつ、たたく
むちや(名)　鞭屋、鞭子匠、うまのむちをつくるひと
むちや[俗](形)　亂雜、すぢだたぬ、わけのわからぬ
むちやむちやに[俗](副)　無茶無茶、亂雜、むちやくちやに
むちやくちや[俗](形)　無茶苦茶、無次序、錯雜、らんばう、こんざつ、いりみだれたる
むぢんし(名)　無塵子、ほつす
むり(形)　無理、ことわりにもとる、わりなき、非理
むり　夢裡、ゆめのうち
むりどり[俗](名)　強奪、掠奪、勒索、勒要、しひてうばふこと、かすめどり
むりよ(副)　無慮、すくなくも、大凡、それほどよそ
むりよく(形)　無力、ちからなき(金子なきにも謂ふ)
むりそく(形)　無利息、りそくをとらぬ
むりやう(形)　無量、はかりなき、かぎりなき
むるゐ(形)　無類、ならびなき
むが(形)　無我、わたくしなき
むかゐ　向井(氏)
むかば(名)　板歯、むかふば、まへば
むかはり(名)　一周、ひとめぐり(歳月に云ふ地下を見よ)
むかはりどし(名)　再忌日(一周忌を謂ふ)
むかはりどし(名)　期年、期歳、周年、ひととしまはり(一年目の廻り來るを謂ふ)
むかはりづき(名)　期月、ひとめぐりづき(一箇月目のめぐり來るを云ふ)
むかばらたつ[俗](自)　忽怒、易怒、いかりやすくある
むかばき(名)　行縢、行膝、鞊、はばき(脛をおほふ具)
むかへ(名)　迎、迎接、いでむかふこと
むかへいれる(他)　迎入、いでむかふ
むかへる(自)　迎(來る人に行きて出であふ事をいふ)、邀、逆
むかへかご(名)　迎輿、むかへにきたるのりもの
むかへぶね(名)　迎船、むかへにゆくふね
むかへび(名)　迎火(舊七月十三日の夜に焚きて死者の靈を迎ふる火)
むかづく(自)　煩嘔はきけをもよふす、はきたくなる
むかむか(副)　煩嘔、煩悩(吐き氣を催す貌)

むかう(形)　無効、しるしなき、やくにたたぬ
むかうのさと　無何有之鄉(莊子が設けたる寓言の國)
むがく(形)　無學、がくもんなき(又佛道にては尋常に超越したる佛徒を然か謂ふ)
むかふ(自)　向、嚮對、かほをむける、かほあはする
むかふば(名)　板歯、むかば、まへば
むかふがし　向河岸、對岸、前岸、かはむかふ、むかふのきし
むかふかせ(名)　面風、まへよりふくかぜ、さからふかぜ、逆風、頽風
むかふづら[俗](名)　向頬、かほ、むかへるかほ
むかふきず(名)　胸面傷(前に受けたる傷なり逃傷に對す)、むかひきず
むかふみず[俗](形)　向不見、粗暴、輕躁、さきみず、暴虎馮河
むかふぶね(名)　膞、肋骨、はぎのまへぼね、すね
むかご(名)　零餘子、ぬかご、やまいものみ
むかで(名)　蜈蚣、百足、百脚、蝍蛆、蜘蛆(動物)
むかさ　向笠、六笠(氏)
むかし(名副)　昔、往昔、往古、宿昔、昔時、曩時、在貴、往年、昔年、いにしへ、すぎにしとき
むかしばなし(名)　昔話、むかしのものがたり、古事談
むかしがたり(名)　昔話、むかしばなし、古事談、小說
むかしかたき(形)　古頑、質直、いつはりなき(古風の純朴なるをいふ)
むかひばらのこ(名)　當腹子、本妻の子を謂ふ)
むかひかせ(名)　逆風、さからふかせ
むかひけ(名)　嘔氣、はきけ、はきたきこころもち
むかひわふ(自)　對面、さしむかふ(二人にて)
むかひきず(名)　向傷、むかふきず
むかひめ(名)　正妃、まことのきさき(王者の正室、王妃
むかんかく(形)　無感覺、かんじなき、かまひつけぬ
むよう(形)　無用、ようなき、いらぬ、又よからず、べからず
むよく(形)　無慾、よくなき、むさぼらぬ
むだ[俗](形)　徒、いたづら、無益、贅、冗、よけい
むたい[俗](形)　無體、むり(無理)
むだばなし(名)　閑話、せけんばなし、閑談、白話(用事にあらざる話)
むだづかひ(名)　浪費、徒費、花費、冗費、濫費、粧費、いたづらにつひやすこと(金等を)
むたう(形)　無刀、かたなをれびず、まるごし
むだう(形)　無道、みちならぬ、非道
むだうしん　無道心(宗教を信ぜざる心を謂ふ)、無信心
むたぐち　牟田口(氏)
むだくち(名)　空談、むだばなし、いたづらばなし、無用談
むだぐひ(名)　徒食、いたづらぐひ、あひだぐひ
むだごと(名)　浮事、徒事、あだごと、やくにたたぬこと、いたづらごと
むだもの(名)　長物、贅物、冗物、よけいもの、いらぬもの
むたん(副)　無端、はしなく、ゆくりなく
むれ(名)　群、むらがり、族
むれ　牟禮(氏)
むれゐる(自)　群居、群集、族居、屯集、麕集、むらがりをる
むれる(自)　蒸鬱醞、むされてねくさる
むれう(形)　無聊、たのしみなき、れもしろからぬ

むれくひたか(名)　白鷹、鶻(動物)
むれさぎ(名)　振鷺(動物)
むれすずめ(名)　錦雀兒、攅菌花(植物)
むそぢ　六十歳(六十年の齢)
むぞむぞする(目)　覺痒また足心酸澁、むずむずする
むぞく(形)　無厭、ぞくするところなき。したがふところなき
むつ(形名)　六(三と三を合せたる數)
むつ(形)　睦、したしき、むつむ
むつ　陸奥(東山道の舊國名今の陸前陸中陸奥を兼ぬ)
むつ(名)　鯥、鰳、鰳花魚、石鮫魚(動物)
むつと[俗](形)　憤然、やつきと(怒る貌)
むづと[俗](形)　無手(相執へひきくむ貌)
むづかる(自)　怒じれる、ねこるばらたつ(小兒等が)
むづがゆき(形)　鈍痒、むづむづかゆい
むづかしき(形)　六ヶ敷、めんだう。かたき。あやうき危篤
むつれる(自)　睦語、艶話、むつみかたる、むつごとをいふ。又たはむれる、ふざける(男女または蝶に云ふ)
むつつり[俗](形)　沈着、たちつきたる。又ことばすくなき
むつのはな(名)　六出花、ゆき(雪)。又菓子の名
むつくり[俗](副)　巽(膀くれふとれる貌)
むつまじき(形)　睦親、親密、親昵、和睦、和親、なかよき、したしき
むつごと(名)　睦語、かたらひごと(男女の)
むつき(名)　襁褓(小兒を負ふ衣服)、褓衣
むつき(名)　睦月(正月の異名)
むつゆび(名)　跰拇(親指の二本に成れるを謂ふ)、枝生指、枝指
むね(名)　背、せなか(刀の)
むね(名)　前甲(鎧の前の方)
むね(名)　棟、枌、屋樑(屋背の眞中の最も高き所)
むね(名)　旨、意、こころ。わけ。又かなめ(肝要の點)
むね(名)　胸、心膺臆、こころのうち
むねいたみ(名)　胸痛、心痛、むねいたのいたみ、むねのいたみ
むねと(形)　宗徒、宗、もだてるもの(主君の臣下に云ふ)
むねとのつはもの(名)　宗徒兵卒、宗兵、もだてるつはもの
むねとのもの(名)　宗徒者、もだてるけらい
むねをこがす　心焦、焦慮、ふかくれもふ、こがれる
むねわるき(形)　胸惡、疚、はきけをもよほす。又こころざまあしき、ばらあしき
むねつち　無熟地(印度香山の南大雪山の北に在り周圍八百里といふ)
むねうち(名)　刀脊打(刀の脊にて打つ事)
むねぐるしき(形)　煩鬱、むねがもやもやする。むねがいたむ
むねやけ(名)　酸敗、むねのやくること
むねあげ(名)　上梁、上棟(棟を造り構へる事。また家を組たてたる時に行ふ式)
むねあて(名)　胸當、むねよろひ(胸を護る武具)
むねん[俗](形)　無念、ざんねん、くやしき
むねんぐ(形)　無年貢、ねんぐをとらぬ、無稅(地所に云ふ)
むないた(名)　胸板、胸膛、むねのはね。又むなあて

むなはせ(名)　空馳、むなしくはすること(競馬などにて勝負のためならず徒らに先づ馳る事)
むなぼね(名)　胸骨、鳩尾骨、むねのほね
むなれひ(名)　鳩尾骨、むなぼね
むながはら(名)　棟瓦、甑、むねのかはら(屋背の棟の上を蓋ふ瓦)
むなかた　宗像(氏)
むなかざり(名)　胸飾、むねのかざりもの(衣服の)
むながひ(名)　鞅、胸掛、當胸、靭、鉤膺、胸懸(牛馬の胸にかくる具)、うまのむねあて(此圖なるは尾張國熱田神社飾馬具)
むなづかへ(名)　胸塞、むねふさがり
むなづもり(名)　臆計、心計、心算、胸算、臆算、胸圖、推量、むねにてはかること、れしづもり
むなうち(名)　刀背擊、むねうち
むなぐら(名)　胸倉、胸襟、むねぐきもののむね
むなげ(名)　胸毛、むねのけ、むなひげ
むなふだ(名)　棟札、棟牌(棟にかけて年代等を示す札)
むなて(形)　空手、むなしで、そで、からて、てぶら、空拳
むなあげ(名)　上梁、むねあげ
むなあて(名)　胸當、胸甲、護心、鐵掩心、むねあてよろひ

(鞅の圖)



むなさわぎ(名)　胸騒、悚慄、心動、心驚、驚慄、むねのとどろき、むねのどきどきすること
むなさき(名)　胸先、心坎、心下、みづおち
むなさんよう[俗]　胸算用、むなづもり、むなかんぢやう
むなぎ(名)　棟木、脊木(屋根の眞中の上に横はる木)
むなしで(形)　空手(「むなて」をみよ)
むなしき(形)　空、曠、虚、なにもなき、から。荒唐、いつはりなる
むなひれ(名)　胸鰭、むねのひれ(魚の)
むなひげ(名)　胸毛、むねのけ、むなげ
むら(名)　村、邨、聚、村閭、村落、村里、農民等の群居の所)
むら(名)　群、むれ、よりあつまり、むらがり
むら(名)　偏、かたより、物の平等ならずして一方に偏するに云ふ)
むらぼし(名)　昴宿(廿八宿の一にして南方にあり、昴「ばう」の下を見よ)
むらと(名)　腎、じんのぞう
むらとり(名)　群鳥、蠭、むらがるとり
むらをか　村岡(氏)
むらをさ(名)　村長、なぬし、しやうや
むらがり(名)　群、簇、叢、驟、あつまりをること
むらがりをる　群居、むれゐる、かたまりをる
むらがりあつまる　群集、むれあつまる、よりあつまる
むらがらす(名)　群鴉、群烏、むらがれるからす
むらかみ　村上(氏)
むらかみてんわう　村上天皇(人皇第六十二代の帝)
むらたち(名)　救火草、こやすのき、おぶらちやん(植物)

むらだつ(自)　群立、むれたつ、よりあつまる
むらむら(副)　群群、簇簇、層層(むらがる貌)
むらくも　叢雲、かたまれるくも
むらこじき(名)　村乞食(村内の大貧者)
むらざと(名)　村里、村莊、むら、ゐなかのさと
むらさき(形名)　紫(紺の赤味を含める色)
むらさき(名)　紫草、落蔡、茈草、鴉銜草(此根を以て紫色に染む可し)(植物)
むらさきはこべ(名)　鷄腸草(植物)
むらさきれもと(名)　青紫蘘鳴跖草科(植物)
むらさきがひ(名)　紫貝、砑螯(動物)
むらさきな(名)　紫菘(植物)
むらさきうぐひす(名)　紫鶯(動物)
むらさきの　紫野(山城國葛野郡に在り一休禪師の住せし大德寺の在る所)
むらさきのり(名)　紫菜、紫薬、石髮、紫苔(植物)
むらさきごけ(名)　紫苔、紫衣(植物)
むらさきしきぶ(名)　紫珠、牛諸子、やぶむらさき、みむらさき(植物)
むらさめ(名)　村雨、暴雨、過雨、急雨、白雨、ゆふだち
むらき　村木(氏)
むらぎ　僻氣(一方に偏する心)
むらきみ(名)　漁翁、漁人、うをとり、すなどりしれふし
むらじ　連(上古の官名にて大臣の如き者)
むらしぐれ(名)　村時雨、村雨、むらさめ
むらせ　村瀬(氏)
むらすずめ(名)　群雀、むらがるすずめ

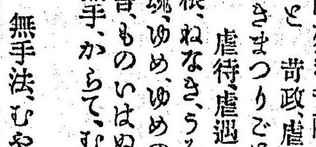
むう(名)　霧雨、きりさめ、きりわめ
むのう(形)　無能、はたらきなき、ちゑなき、又無藝
むのうりよくしや(名)　無能力者(風癲、白痴、幼者等をいふ)
むく(他)　剝、はぐ、へぐ(皮等を)
むく(自)　向、むかふ
むく(形)　無垢、純、まじりなき(金等にいふ)又わかつかぬ、わかじみぬ
むく(名)　木工、もく、だいく、たくみ
むく(名)　椋、糙葉樹、加條木(植物)
むく(名)　鵰(動物)
むく(名)　獷、むくいぬ(動物)
むくい(名)　報、むくゆること、返報、報酬
むくいぬ(名)　尨犬、獷犬、獅犬、獅狗、けながいぬ、むくむくしたるいぬ(動物)
むくいる(他)　報、酬復、酧、報勞、報恩、報酬。かへす、しかへす、はうずる
むくろ(名)　軀、み、からだ、身体
むくろじ(名)　欒、むくれんじ、木欒實、無患子、無患樹、菩提子(植物)
むくどり(名)　椋鳥、白頭翁(椋の實を食ふ故に然かいふ)(動物)
むくち[俗](形)　無口、ことばすくなき、ものいはぬ、むつつりしたる

(圖の白頭翁)
むくり(名)　蒙古、もうこ(亞細亞洲の一國)

むぐり(名)　潜水潜鳥、むぐりて。又密商、ひそかにわきなひするもの。また密夫淫女、ぢごく
むぐりて(名)　潜水者、かつぎ(水中に沈みて事をする者)
むぐる(他)　剝、むく、はぐ
むぐる(自)　潜、しづむ(水中等に)
むくわ(名)　無花菓、いちじく(植物)
むくわん　無官、やくなき、れはやけづとめなき
むくわんのたいふ　無官太夫(公卿の子の未だ元服せざる者の稱)
むくれる(自)　脫、むける(皮などが)、はげる
むくれんじ(名)　欒花子(「むくろじ」を見よ)(植物)
むくつけき(形)　多毳、鬚髭など多くはえて野鄙なる貌)
むぐら(名)　葎、萊菔草、葛勒草、猪殃殃、かなむぐら(植物)
むぐらもち(名)　土龍、鼴鼠、鼹鼠、うぐろもち(動物)
むくむ(自)　水腫、脹滿、はれる(水氣にて)
むくむく(副)　柔厚(綿等にてふくれたる貌)
むくむく(副)　蠢蠢(うごめく貌)
むくげ(名)　柔毛、やはらかきけ
むくげ(名)　木槿、きのな(植物)
むくげざる(名)　狨猴、けながざる(動物)
むくきん[俗](名)　無垢金、純金、まぜものなきこがね
むくめく(自)　蠢蠕、うごめく、うごく(蟲等が)
むくひつじ(名)　綿羊、けをきるひつじ(動物)
むやう(形)　無恙、つつがなき、たつしや
むやく(形)　無益、むだ、にきなき、ためにならぬ

むやく(形)　無役、非役、やくなき
むやくや[俗](名副)　懊儂(もやくや)、わづらひ、なやみ。わづらはしく、なやましく
むやみ[俗](形)　軽軽、躁妄、暴虎、躁率、つつしみなき。むかふみず、かるがるしき
むま(名)　馬。うま。凡て此假名の字は「うま」の假名の處に就て見るべし(動物)
むやい(形)　無聲、ねなき、うそ、無根、そら
むやい(形)　無形、かたちなき、無質、靈
むやい(形)　無藝、げいなき、わざなき
むやに(形)　無下、いたく、ひどく
むける(他)　向、むかはせる
むける(自)　剝、はげる、へげる。むくれる
むける(他)　平、たひらげる、せめしたがへる(敵を)[古語]
むけかへる(他)　向替、むけなほす、むきをかへる、轉方向
むけなほす(他)　向直、むけかへる
むげん(形)　無限、かぎりなき、無邊
むげんはうえい　夢幻泡影、ゆめまぼろしわわかげ(はかなきに譬ふ)
むけんぢごく(名)　無間地獄、わびぢごく(地獄の最も苦しき者)
むぶん(形)　無文、あやなき。また文學なき
むふんべつ(形)　無分別、かんがへなき、わきまへなき
むふんみやう(形)　無分明、はつきりせぬ、あきらかならぬ
むこ(名)　聟、壻、女壻(己の女子の夫。また只をつと)
むこ(形)　無幸、つみなき、無罪
むことり(名)　聟取(夫を迎ふる事)

むごたらしい〔俗〕〔形〕　酷虐敷、むごさ、なさけなき
むごき〔形〕　殘酷、殘忍、苛酷、酷虐、慘酷、苛、なさけなき
むごきまつりごと　苛政、虐政、暴政、專政、抑壓、壓制、苛法、わらわらしきまつりごと
むごきあしらひ　虐待、虐遇
むこん〔形〕　無根、ねなき、うそなる、まことならぬ、無稽
むこん〔名〕　夢魂、ゆめ、ゆめのうちのたましひ
むごん〔形〕　無言、ものいはぬ、ことばなき
むて〔俗〕〔形〕　無手、からて、むなて、すで、なにももたぬてぶら
むてつぱふ〔形〕　無手法、むやみ、かんがへなき
むてう〔名〕　霧鳥、ふうてう(其毛羽甚美麗にして歐洲にては婦人の頭飾に用ふ)(動物)
むてん〔形〕　無點漢文に反り點なきを謂ふ)
むさい〔形〕　無妻、つまなき、ひとり
むさい或むざえ〔形〕　無才、ちゑなき、にろか
むさい〔俗〕〔形〕　汚穢、穢陋、汗濱、汗醜、濱、きたない、みぐるしき
むざい〔形〕　無罪、つみなき、無辜
むさぼる〔他〕　貪、婪、鑒、貪冒、貪慳、ほしがる。かすめとる
むさむさ〔形〕　蒙茸多毛、けぶかき、けむくじら
むさう〔名〕　夢想、ゆめじらせ(夢に異像を見る事)
むさう〔形〕　無操、みさをなき。又くみわひたる
むさう〔形〕　無雙(ぶさう)、ならびなき、ふたつなき
むさうとだな〔名〕　無雙戸棚(戸棚の一種)
むさうまくら〔名〕　無雙枕(枕の一種)
むざうさ〔俗〕〔形〕　無造作、わけもなき、たやすき
むさくるしい〔俗〕〔形〕　陋苦(「むさい」を見よ)
むさます　武佐升(物を量る升の一種)
むささび〔名〕　鼯鼠、鼺鼠、飛生鳥、鵯のふすま、そばれしさ(動物)
むさし　武藏(東海道の國名にして東京其中にあり)
むさし〔名〕　八格戲(將棊の如き遊戲の具)、馬城
むさしわぶみ〔名〕　由跋(植物)
むざえ〔形〕　無才、さいなき、不才(古風の讀法)
むさん〔形〕　無產、產業また財產のなきをいふ。無業
むさん〔形〕　無算、かずしれぬ、かぎりなき
むざん〔形〕　無慚、はぢしらぬ、はぢなき
むき〔形〕　無記、しるしなき
むき〔形〕　無期、はてしなき、かぎりなき
むき〔形〕　無機、からくりなき(金石の類の如く機關を具へざるを謂ふ)
むき〔名〕　向、方向、方面、目的、目途、むかひかた
むぎ　牟岐(氏)
むぎ〔名〕　麥(植物)
むぎいた〔名〕　麥盤、麥板(飢饉うつ板)
むぎばたけ〔名〕　麥田、麥畦(麥を作れる田園)
むぎとほし〔名〕　麥籠、むぎふるひ、羅斗、麥篩(麥粉を篩ふ具)
むきとけい　無期徒刑、はてしなきちようにき、終身懲役
むぎとき〔名〕　麥侯、むぎのみのりどき、むぎわき

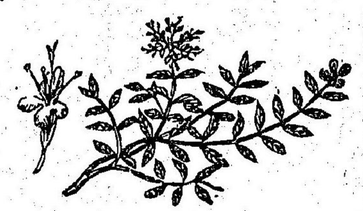

(鼯鼠の圖)

むきりうけい　無期流刑、はてしなきしまながし
むきれし〔名〕　麥杖、麥棒、めんぼう(飢饉を打つ棒)
むぎわりめし〔名〕　麥割飯、ひきわりめし
むぎわら〔名〕　麥藁、麥稈、むぎのくき、稍、むぎのから
むぎわらばうし〔名〕　麥藁帽、むぎわらづくりのかぶりもの
むぎがた〔名〕　捻頭(食菓の名)
むぎがらとんぼ〔名〕　麥蓳蜻蛉(動物)
むきだし〔形〕　露出、剝出、わらはなる。つつみかくしなき、わらは、無封(手紙などの)
むぎなは〔名〕　麥繩、索餅、そうめん(さうめん)、索麵(食物)
むぎなでしこ〔名〕　瞿麥、なでしこ(植物)
むきむき　向向、それぞれのむかひかた
むきう〔形〕　無窮、さはまりなき、かぎりなき
むきうちば〔名〕　打麥場、禾場、むぎのほをうちれとすどころ、むぎこなしば
むぎのくろぼ〔或むぎのくろんぼ〕〔名〕　麥奴(麥病の一種にして麥の穗の黑くなれる者)
むきくち〔名〕　向口、むかひくち、うれくち
むきくわがく　無機化學(生命を具せざる諸物体を講ずる分析學)
むきやう〔形〕　無疆、かぎりなき、無限
むぎまきどり〔名〕　鶺鴒、いしたたき、にはたたき(動物)
むきふ〔形〕　無給(給料を取る事も與ふる事もなきをいふ)
むぎふるひ〔名〕　麥篩、羅斗、むぎとほし
むぎこ〔名〕　麥粉、麥麩、麵、むぎのこな
むぎこがし〔名〕　麨菓子、麥炒(麥を煎りて粉となしたる者にて菓子として食ふ)、むぎのこ
むぎこなしば〔名〕　打麥場、むぎうちば(麥を打れとす處)
むぎてふ〔名〕　麥蛾(動物)
むきあふ〔自〕　向合、むかひあふ
むぎわき〔名〕　麥秋、むぎのみのりどき、むぎかりどき
むぎゆ〔名〕　麥湯、麥をせんじたる湯)
むきめい〔形〕　無記名、なをしるさぬ(證券等に所有主の名を記さぬを謂ふ)
むぎめし〔名〕　麥飯、むぎのくひもの
むきみ〔名〕　剝身(貝の殼を去りたる者)
むぎもち〔名〕　麥餅、麨麩、むぎごしらへのもち
むぎもやし〔名〕　麥蘖、麥にて作れるもやし)
むぎす〔名〕　麥酢(麥にて作れる酢)
むめい〔形〕　無名、なき。なのわらぬ
むめい〔形〕　無銘、しるしなき、なをしるさぬ
むめいし〔名〕　無名指、べにつけゆび、くすりゆび
[むめん]〔形〕　無面、れもなき、はづかしき、めんぼくなき
むみ〔形〕　無味、あぢなき、あぢはひわらぬ。うまみなき
むみやう〔形〕　無明、くらき、ひかりなき、やみ
むみやうい〔名〕　無名異、あいだま(石上に生ずる黑石灰の如き者)(藥品)
むし〔名〕　蒸、むすこと
むし〔形〕　無私、わたくしなき、わだかまりなき
むし〔名形〕　無始、とはきさき、かぎりなききさき。又はじめなき
むし〔名〕　蟲、虫、豕(動物)
むしろ〔副〕　寧、無乃、いつそ、かへつて

むしろ(名)　席、莚、蒲席、草席、しきもの
むしろぼね(名)　莚帆、むしろの様(船の)、席帆
むしろど(名)　席門、むしろのと、むしろをとにもちひたるもの、蓬戸
むしば(名)　虫歯、齲歯、蛀牙、むしくひば、くちば
むしばむ(形)　蠹、蝕、蠹、蛀、むしがくふ、しみくふ、魚食
むしばみ(名形)　蝕食、むしくひ、魚食
むしぼし(名)　蟲曝(夏日衣服書籍等を乾す事)
むしりつく(自)　掏付、しがみつく
むしる(他)　掏、つかみとる。ひきぬく。笔ぬきとる(羽毛などを)。茎根を)
むしれさへ(名)　蟲押、むしぐすり
むしかご(名)　蟲籠(夏の日に鳴く蟲を入るる籠)、稽籠、むしこ
むしよ(名)　墓處、はかば、はかち
むしよく(形)　無職、しごとなき、無業
むしよくげふ(形)　無職業、しごとなき、てわざなき
むしよけ(名)　蟲除、むしはらひ
むしつ(形)　無失、無實、無辜、つみなき
むじつのつみ　無實之罪、冤枉、冤罪、冤抑、ぬれぎぬ
むじな(名)　貉(狼、たぬき、まみ(動物)
むしなべ(名)　蒸鍋、むしものなべ
むしのぼる(自)　蒸騰(天日に蒸れて上る)
むしのから(名)　蛻、蛻皮、ぬけがら、もぬけがら、蟬蛻
むしぐわし(名)　蒸菓子、もちぐわし、なまぐわし(柔かき菓子)
むしくそ(名)　蟲糞、蛀末、むしのくそ

むしくさ(名)　蚊母草、むしのわつまるくさ(植物)
むしくひ(名)　巧婦鳥、工雀、女匠、巧匠、鵐、さざき(動物)
むしくひ(名形)　蟲食、むしばみ、むしのくひたる、むしばみたる、蠹蝕、魚食(書畫の)
むしくひば(名)　齲歯、むしば、くさりば
むしくひだか(名)　白鷺、たかのたくひ(動物)
むしや(名)　武者、つはもの、いくさびと
むしやべつ(形)　無差別、けじめなき、わきまへなき
むしやどころ(名)　武者所(院の御所下北面の伺候する所)
むしやりんぞう　武者龍膽、せんらん(藥材となし又菓子を製し肉を烹る等の藥味となす)
むしやだまり(名)　武者屯(城門の中騎卒の屯まる所)
むしやう(形)　無上、このうへなき、うへなき
むじやう(形)　無狀、いやなき、無禮

（武者龍膽の圖）



むじやう(形)　無常、つねなき、はかなき
むじやう(形)　無情、なさけなき、つれなき、むごき。又こころなき(草木などに云ふ)
むしやうに(俗)(副)　無正、むやみに
むじやうそん　無上尊、うへなくたふとき(釋迦佛等を謂ふ)
むじやうてう(名)　無常鳥(子規の一名)(動物)
むしやのこうぢ　武者小路(氏)

むしやしゅぎやう(名)　武者修行(武術を練磨する爲めに諸國を遍歴するを云ふ)
むしけ(名)　蟲氣、はらいたみ
むしぶろ(名)　蒸浴室、ふろふき(湯氣の蒸發する所に居て身を洗ふ事)
むしぶな(名)　魚鰤、たびらこ(動物)
むしこ(名)　蟲籠、むしかご、稽籠
むしころし(名)　穉車、穉耳香、香草の名(植物)
むしこもる　蟄虫が冬日穴中にこもる)
むしあつき(形)　蒸暑、濕暑、むしてあつくるしき、鬱燠、煩源
むしき(形)　無識、ちしきなき、がくもんなき。さとりなき
むしき(形)　無色、いろなき、すきとほる
むしゆち　無主地、ぬしなきち
むしゆく(形)　無宿、やどなし(罪人に云ふ)
むしやう(形)　無病、やまひなき、無疾
むしめがね(名)　顯微鏡(微き物を大きく見る目鏡)
むじひ(形)　無慈悲、なさけなき、わはれみなき、むごき
むしもち(名)　餛飩、むしぐわし
むしもの(名)　蒸物、むしぐわし
むしず(名)　蟲酢、吐酸(喉に上り來る酸氣)、酸敗液
むしん(俗)(名)　無心(金錢等を借る事)
むしん(形)　無心、こころなき、うつかり。たくむことなき
むじん(形)　無盡、つくるなき
むじんとう(名)　無盡燈、ありあけのともしび
むしんをいふ　請借金子、かねをかりたしといふ

むしやしゅぎやう(名)　武者修行(武術を練磨する爲めに諸國を遍歴するを云ふ)
むしけ(名)　蟲氣、はらいたみ
むしぶろ(名)　蒸浴室、ふろふき(湯氣の蒸發する所に居て身を洗ふ事)
むしぶな(名)　魚鰤、たびらこ(動物)
むしこ(名)　蟲籠、むしかご、稽籠
むしころし(名)　穉車、穉耳香、香草の名(植物)
むしこもる　蟄虫が冬日穴中にこもる)
むしあつき(形)　蒸暑、濕暑、むしてあつくるしき、鬱燠、煩源
むしき(形)　無識、ちしきなき、がくもんなき。さとりなき
むしき(形)　無色、いろなき、すきとほる
むしゆち　無主地、ぬしなきち
むしゆく(形)　無宿、やどなし(罪人に云ふ)
むしやう(形)　無病、やまひなき、無疾
むしめがね(名)　顯微鏡(微き物を大きく見る目鏡)
むじひ(形)　無慈悲、なさけなき、わはれみなき、むごき
むしもち(名)　餛飩、むしぐわし
むしもの(名)　蒸物、むしぐわし
むしず(名)　蟲酢、吐酸(喉に上り來る酸氣)、酸敗液
むしん(俗)(名)　無心(金錢等を借る事)
むしん(形)　無心、こころなき、うつかり。たくむことなき
むじん(形)　無盡、つくるなき
むじんとう(名)　無盡燈、ありあけのともしび
むしんをいふ　請借金子、かねをかりたしといふ

むしんけい(形)　無神經、かんじなき、無感覺
むしんこう(名)　無盡講、頼母子講(たのもしこう)
むしんさう(名)　苗薯、しゅんぎく、きくな(植物)
むしんざう　無盡藏、つくることなきくら(天地の如きをいふ)
むにき(形)　無益、むだ、やくにたたぬ、むやく
むえん(名)　夢魘、ゆめにれそはるること、れそはれ
むえん(形)　無緣、ゆかりなき。ちなみなき
むえんたん(名)　無烟炭(堅くして燃るに煙なき石炭)
むえんづか(名)　無緣塚、義塚(親戚朋友の吊ふ者なき死者の爲に設けたる墓)
むえんせきたん(名)　無烟石炭(無烟炭と見よ)
むひ(形)　無比、ならびなき、無類、たぐひなき
むひだう(俗)(形)　無非道、みちならぬ。むごい
むひつ(形)　無筆(文字を書き得ぬをいふ、文盲)
むびやう(形)　無病、やまひなき、無疾
むもん(形)　無紋(衣服等の紋のなきを云ふ)
むぜい(形)　無稅、みつぎなき。うんじやうとらぬ
むせいばい(形)　無成敗(裁判にわづからぬ)、はうめんせらるる
むせいふ(形)　無政府(政府なくして亂るるをいふ)
むせいふたう(名)　無政府黨(政府を顚覆せんと務むる人)
むせる(自)　噎、咽返、嗚咽、咽哽、嗌噦、むせぶ
むせる(自)　炎燕、むす、むしわつくわる
むせつちく(名)　無節竹、らうだけ
むせき(形)　無籍、やどなし、流浪
むせん(俗)(形)　無詮、せんかたなき

むせん(名)　夢占、ゆめうら、ゆめうらなひ、ゆめはんじ、圓夢
むす(他自)　蒸(熱氣をもて燒く)。又炎蒸、むしあつくある
むす　人首(氏)
むすぼれる(自)　結、むすばる。鬱結、憩結、窈糾、きがふさぐ
むすむすする(自)　覺痒、かゆきこころもちする、かゆくれぼゆる。また足心酸澁(險しき處などに登り足の腋が不安の感覺を生ずるを謂ふ)
むすう(形)　無數、かずしれぬ、れびただしき
むすぶ(他)　結、結緊、緊着、絡緊、絣紐、締、絆、ゆふ。しばる。掬、すくふ(手掌にて)
むすぶのかみ(名)　結神、神媒、月老、月下翁(繰結びの神即ち婚姻の神を謂ふ)
むすこ(名)　男、息子、息男、をとこのこ
むすめ(名)　女、娘、孃、女子、息女、小女、女兒、をんなのこ
むすめのこ(名)　女子、どんなのこ
むすめご(名)　外孫、女子が他に嫁して生める子
むすび(名)　娘子、むすめのこ
むすびどめ(名)　結、むすぶこと。又むすびたるさま
むすびだま(名)　結頭、むすびめ、むすび
むすびつける(他)　纈、むすびめ
むすびぶみ(名)　結付、結着、ゆひつける
むすびき(名)　結文(封じる代りに結びたる書狀)
むすびめ(名)　黃瑞香、みつまた(植物)
むすびめ　結目、結、結頭、むすびたるところ(はなむすび及「こまむすび」或「まむすび」などの別あり)
むんむん(俗)(副)　想喞吐、むかむか(吐かんと欲する貌)

う

う　ウ、宇、紆、烏卯　是は五母韻の一にして五十韻の中には第一行第三段に位す。又「わをうゑを」の「う」も是と同音にして此中に擧す
う(名)　宇、のき。又あめがした。よ(天子の)
う(名形)　有、あるもの。ある。存在
う(他自)　得(「うる」をみよ)
う(名)　雨、あめ
う(名)　盂、はとぎ、ひらか、ぼん
う(形)　迂、まはりどほき、迂遠、うくわつ
う(副)　唯、しかり、はい、よろし(應へる聲)、をを
う(名)　卯(十二支の一にて東方の正位)
う(名)　羽、はね、つばさ
う(名形)　烏、からす、鴉(動物)。又くろき、黑
う(名)　鵜、鸕鷀(水鳥にして馴して魚を捕るに用ふ可し(動物)
う(名)　竽、盜竽(樂器)
うい(形)　憂(「うき」の轉)
うれはしき、かなしき　（圖の竽）
うい　烏衣(黑色の衣)、くろごろも
うい(名)　雨衣、あまがつば、あまぎ
うい(名)　雨意、あまけ、あまもよほし
うゐ　宇井(氏)
うゐ(名)　有爲、なすことあること(百般の動作等をいふ)
ういらう(名)　外郎(唐土の人外郎といふ人が日本に渡來

りて弘めし藥にて相州小田原に本舖あり)
ういらうもち(名)　外郎餅(食物の名)
ういう(名)　烏有、皆無、まつたくなくなること
ういやつ「俗」　優奴、かんしんなやつ(臣僕等を賞するに言ふ詞)
うゐてんぺん　有爲轉變(世間の事の移り替りて常なきを云ふ)
うゐきやう(名)　茴香、くれのゐも(植物)
うゐきやうゆ(名)　茴香油、うゐきやうあぶら
うゐきやうすゐ(名)　茴香水、うゐきやうみづ
うゐする(他)　煨(熱き炭の中にて燒く)
ういん(名)　烏陰、くもりぞら
うゐんな　維也納(澳地利の都府)
うろ　雨露、あめつゆ
うろ(名)　雨漏、あまもり
うろ(形)　有漏(煩惱の尙ほ身に纏はる事をいひて無漏に對す)
うろ(名)　空虛、孔、窩窟、うつろ、ほら、あな(地或は木の)
うろ(形)　空虛、うつろなる、からなる
うろ　迂路、まはりみち、まはりどほきみち
うろ　烏鷺、くろしろ、黑白(碁に云ふ)
うろぬく(他)　拔疎(多くの中より引拔く。まびく
うろたへる(自)　狼狽、周章、あわてさわぐ
うろつく(自)　狼狽、まごまごする、心神惑亂
うろうろ(自)　狼狽、うろつきて、うろたへて
うろくづ(名)　鱗魚、鱗類、うを、さかな、魚類
うろこ(名)　鱗(魚等の厚き片片の外皮)
うろん(形)　胡亂、うたがはしき、あやしむべき
うば(名)　祖母、おほば、ばば(父母の母)
うば(名)　乳母、乳媼、めのと、こそだてめ、ちちのますをんな又(だきうば)ともいふもあり)
うば(名)　姥嫗、婆嫗、としよりをんな、老女、老婆
うばい(名)　優婆夷(俗体の女僧)(梵語)
うばい(名)　烏梅(植物)
うはば(名)　上牙、上齒、うへのは
うはば(名)　上端、うへのはし
うはばり(名)　上蓋衣、うはぎ、うはれぼひごろも
うはばれ(名)　浮腫、うはぶくれ
うはばみ(名)　大蛇、おろち、蟒(動物)
うはに(名)　上荷(船内の上の方の荷積)、うはづみ
うはべ(名)　上邊、うへのかた。外觀、そとのみえ。表面、れもて
うはぬり(名)　上塗(壁等の上を塗る事)
うはを(名)　後夫、のちぞひ、のちのつま、のちのをつと
うはたそひ(名)　上襲、うはぎ
うはかは(名)　荷葦の莖甲即ち葉の外の皮)
うはかは(名)　表皮、れもてのかは
うはかは(名)　外面、そとがは。れもて
うばがつづら(名)　夜合藤、桃柳藤、九眞藤(植物)
うはがけ(名)　外套、うはれぼひ
うはがき(名)　表書、れもてがき(書信等の)。なわて
うはがみ(名)　上紙、うはつつみがみ
うばかひ(名)　右馬飼(氏)
うばたま(名)　烏羽玉(野干の實にして黑き豐に用ふ)

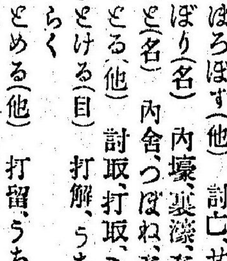
うばそく(名)　優婆塞(俗体の男僧)(梵語)
うはつ　烏髪、くろかみ、黒髪
うはつ(形)　有髪、かみある、かみのけある
うはづつみ(名)　上包、表包、れもてづつみ
うはつく(自)　浮輕、うはうはする
うはなり(名)　後妻、のちぞひをんな
うはなりうち(名)　後妻殿(昔の風俗にて後妻を先妻の親戚が來りて擊つ事)
うばら(名)　茨、いばら、荊、荊棘(植物)
うはむき(名)　上向うへのかたにむかふこと。たかくなること(直段が)
うばう(名)　烏鶏、うみすずめ(動物)
うはうは(形副)　浮浮、うきてれちつかぬ貌、さだまらぬ
うはうどう(名)　羽葆幢(五彩の羽をあつめて幢とせし物)
うはうちがみ(名)　覆背紙、うらうちがみ
うはのり(名)　上乗(荷物と共に船に乗りて之を監督し行く人)、又かるわざ
うはのそら(形)　浮空、上空、きながし、かけかまはぬ
うはくちびる(名)　上唇、上吻、うへのかたのくちびる
うはぐすり(名)　上藥、ぬりぐすり
うはやく(名)　上役、上官、めうへのやくにん
うはまへ(名)　上襟(衣服の前の上なる衽)、うへにかさなるえり
うはまへ〔俗〕(名)　上前、勒掛金、かすり、わけまへ
うはまぶた　上瞼、うへのまぶた
うばふ(他)　奪、奪取、しひてとる。簒、簒奪、覬奪、掠奪、搶奪、剝奪、剝、かすめる

うはずみ　上滑(液物の上の方の清みたる者)
うはに(名)　海膽、雲丹(はりせんぼんの類)(動物)
うにかうる(名)　一角魚(動物)
うにう(名)　膃肭、れつとせい、骨貂、海狗(動物)
うにこうる(名)　一角獣(動物)
うぼく(名)　烏木、黒檀(植物)
うへ(形名)　上、かみ、陽
うへ(名)　筌(魚を捕る具)、笥、やな(簀にて作れる者)
うべ(形)　宜、もつともむべ
うへはら　上原(氏)
うへわらべ(名)　上童(女官の稱)
うへだ　上田(氏また地名)
うへだじま(名)　上田縞(信濃國上田より織出せる絹)
うべなるかな　宜哉、もつともなるかな
うべなふ(自)　諾、がてんする、うけがふ、しようちする
うへの　上野(氏また地名)
うへやな(名)　筌、笥、すだれやな(魚を取る具)、うへすき　上杉(氏)
うと　烏兎(月日を云ふ即金烏玉兎の義)
うど(名)　獨活、うちたら、獨搖草、長生草(植物)
うどねり(名)　内舎人(禁中警衛の官にて武勇の士をもて任ず)
うとむ(他)　疎斥、跡隔、跡遠、うとんずる
うとう(名)　烏豆、くろまめ(植物)
うとう(名)　烏頭、かぶとぎく(植物)
うとう(名)　鳩善知鳥(動物)
うどう(名)　烏銅、にぐろめ(銅を黒くしたる者)

うどう　有動(氏)
うとうとしき(形)　疎疎敷、とほどほしき、したしからぬ
うどの　鵜殿(氏)
うどのよし(名)　碧蘆(植物)
うとく(形)　有徳(徳行あるを謂ふ)
うとく(形)　有得、しわはせよき
うとくじん(名)　有得人、しわはせよきひと、かねもち、物力戸
うとき(形)　疏疎、とほどほしき、したしからぬ。くらき、くはしからぬ
うどめ(名)　獨活芽、うどのめ
うどめづけ(名)　烏頭芽漬(山城國醍醐にて諸木の萌芽を鹽漬にせし者)
うどもどき(名)　羌活(獨活の紫色にして細く長き者)(植物)
うどん(名)　餛飩(食物)
うどんや(名)　餛飩屋、麪店、畢羅肆、うどんくはするいへ
うどんげ(名)　優曇花、優鉢羅花、靈瑞花(千年に一度花さくといふ想像樹)
うどんこ(名)　餛飩粉、こむぎのこな、むぎこ
うち(名及後置詞)　中、内、裏、なか
うぢ　宇治(氏また地名)
うぢ(名)　姓(源、平、藤原、菅原、清原、在原、紀、橘、大伴、小野の類。氏(人の屬する族の稱)
うちいる(自)　打入、討入、せめこむ
うちは(名)　團扇、氷納便面、まるわふぎ
うちば(形)　内端、うちき。ひかへめ

うちはたす(他)　打果、ころす
うちはらふ(他)　打拂、たたきはらふ、抖擻、攘、れひはらふ
うちはし(名)　打橋（殿中にて廊のとぎれに此より彼へ打渡したる橋）
うちはし(名)　圓扇匠、うちはつくり
うちはしらす(他)　擊走、せめてれひはらふ
うちばん(名)　打盤、擣砧、きぬたうつばん、うちだい
うちには(名)　內庭、なかには
うちはろぼす(他)　討亡、せめほろぼす
うちぼり(名)　內壕、裏濠、なかのほり（城の內濠）
うちと(名)　內舍、つぼね、ながつぼね、をんなべや
うちとる(他)　討取、打取、ころす、くびきる
うちとける(自)　打解、うちくつろぐ、開胸臆、こころをひらく
うちとめる(他)　打留、うちころす
うちちらす(他)　擊散、せめはしらす
うぢちや(名)　宇治茶（山城國宇治にて製する茶）
うちれとす(他)　打墜、打落、たたきれとす
うちわ(名)　內匈（內の方へ曲りたる脛また婦人の如く足の先を內の方へ曲ぐる事）
うちわ(名)　內綠、家族中、いへのもの
うちわに(名)　內戻脚（脛が內へ曲がりたるをいふ）
うちわる(他)　剖、掊、こはしさく
うちわた(名)　綿毳、ほうれいわた、うちわた
うちわれ(名)　內分、うちもめ、うちわわらそひ
うちわけ(名)　內譯、ことわけ、かどがき
うちがへ(名)　嚢（底なき袋にて食を納れて腰に帶る者）、たびぶくろ、こしぶくろ、無底嚢、行纏、行纏、たま襷袋（鷹の具に云ふ）助飼袋
うちかた(名)　痃癖、はやうちかた、けんぺき
うちかた(名)　令政（貴き人の妻を尊びて言ふ詞）
うちかつ(他)　打勝、かつ、まかす、制勝
うちがね(名)　火鷄、鷄頭（鐵砲のはじきがね）
うちがらくり(名)　藏機（內部に備へたる機關）
うちかけ(名)　胛、かひがらぼね
うちかけ(名)　桂衣、うちき、袿褶往昔婦人が衣服の上に纏ひし者）
うちかけ(名)　裲襠、そでなしのはれり（上下の上の如く袖のなき者にて男が禮儀の席にて着物の上に打かけたる者なり寛永の頃も行なはれしと太宰の獨話に見ゆ）

（圖）袿衣の



うちかぶと(名)　裏兜、かぶとのうら
うちかぎ(名)　撩鉤（戰船の用具にて敵船とひつかくる者）
うぢがみ(名)　氏神、うぶすながみ、ちんじゅ
うちがみし(名)　槌紙匠、きやうじや
うちよせる(自)　打寄、よせきたる、せめきたる
うちだ　內田（氏）
うちたふす(他)　打倒、うちころばす
うちだす(他)　打出、たたきいだす
うちだす(他)　丈出（田地を丈量して餘分の地面を見出す

うちだし(名)　零敲、うちだしたるぢめん、丈出田地
うちれげ(名)　絲毛、ちぢみげ、ちぢれげ
うちそと　內外、ほかうち、中外、表裏
うちつづく(自)　打續、ひきつづく
うちつけに(副)　明白、つつみかくしなく
うちつける(他)　打着、なげつける
うちならし(名)　銅磬、けい、きん（樂器）
うちう　雨中、あめふるなか
うちう〔する〕(自)　雨注、あめのごとくそそぐ（彈丸等が）
うちう(名)　宇宙（天地間をいふ）
うぢうど(名)　氏人、うぢこ
うちうども(名)　牛毛石花菜（植物）
うちうみ(名)　內海、裏海、內洋、いりうみ（地の內に入りたる海）
うちのちやうじや　氏長者（一族の長）
うちのり(名)　內規（器物等の內の寸法）、うちのひろさ、內寸尺、內部寸方
うちのもの　從者、とものもの、ともびと
うちぐるま(名)　嘈輪（漁船の車の外に見にぬをいふ）
うちくるぶし(名)　內踝、うちかたのくるぶし
うちくだく(他)　擊碎、うちこはす
うちくさ(名)　木蓼藍、みそなはし（植物）
うちやうてん(名)　有頂天（佛書にいふ高き天の名）
うちやま　內山（氏）
うちやぶる(他)　打破、破壞、破碎、粉碎、打毀、擊破、打碎、藘粉、摧壞、うちこはす
うちまはし(名)　鵜捉（船の帆檝に云ふ）撰子、無底升
うちまかせる(他)　委任、委托、推委、まかせたく
うちまた(名)　內股（股の內の方）
うちまたもの(名)　反側子（兩方にくつつく者）
うちまく(名)　內幕（幕內の樣子、家內の樣子等をいふ）
うちまける(自)　打負、敗北、まけをとる
うちまき(名)　糈米、くましね（神を祭る米）、散米
うちまめ(名)　打豆、扣菽、たたきつぶしまめ
うちけす(他)　打消、たたきけす、げす、いひけす
うちふせる(他)　打伏、たたきふせる
うぢこ(名)　氏子（氏神の下に在る民）、うぢがみにつくひと
うちころす(他)　打殺、格殺、毆殺、擊殺、たたきころす
うちこはす(他)　打毀、たたきやぶる
うちこむ(他)　打込、たたきいれる
うちごま(名)　打獨樂（こまを打合せて勝敗を決する遊戲）
うちて(名)　砲手、たいはうかた
うちでのこづち(名)　打出小鎚（用ひて地を打てば寶物の出現するといふ鎚）、金槌子
うちわはせ(名)　腿、內股、うちもも
うちわける(他)　打明（胸の思ひ等を）
うちあみ(名)　撒網、たうあみ、罷、まきあみ
うちわひ(名)　打合、たたきわひ、たたかひ
うちき(名)　內氣、うちばのきまへ
うちき(名)　袿（婦人の上衣、「うちかけ」を見よ）
うちぎり(名)　打錐（孔をあける錐）
うちきず(名)　打疵、打傷、撲損、撲傷、たたきず
うちみ(名)　打肉、打身、撲身（打て傷つけたる處）、うちきず

うちじに(名)　討死、戰死、戰沒、いくさにしぬること
うちしたがへる(他)　打從、うちなびける
うちしき(名)　打敷、卓圍、つくゑかけ
うちひ(名)　榷、あぶらしめ、醡、さけこし
うちび(名)　燧火、きりびうちだすひ
うちひらめる(他)　打平、打匾、たたきてひらたくする
うちひも(名)　打緒、打紐、細、扣、綿、くみひも
うちもらす(他)　打洩、討漏、ころしもらす
うちもの(名)　打物、かたな、たち、つるぎ、短兵、兵刃
うちもも(名)　胯、また、膀脾、內股
うちすゑる　打居、たたきふせる
うちすゐめ(名)　燈蛾(動物)
うり(名)　瓜(甜瓜、胡瓜の類の名)(植物)
うりいへ(名)　賣家、うるべきいへ
うりばたけ(名)　瓜田、うりのはたけ、うりをつくるはたけ
うりはらふ(他)　賣拂、てばなす
うりばひ(名)　蠅(瓜の葉を喰ふ虫)、守瓜(動物)
うりどき(名)　瓜期、うりのじゆくするとき
うりぬし(名)　賣主、うるもの、うりて
うりわたしがき　賣渡書、賣券、うりたるかきつけ、賣單、沽券
うりわたす(他)　賣渡、うりやる
うりかへる(他)　轉賣、ふたたびうる
うりかけきん(名)　賣掛金、うりかしがね、かけうりがね
うりかひ　賣買、うることかふこと
うりよね(名)　糶、うりごめ、うるこめ
うりだね(名)　瓜核、うりのたね、うりざね
うりだねがは(名)　瓜子臉、ほそながきかは、うりざねかは
うりだす(他)　賣出、發賣、販賣、いだしうる、發兌
うりのき(名)　八角楓、大空樹(植物)
うりくち(名)　賣口、うりどころ
うりふ(名)　瓜生、うりばたけ、又(氏)
うりこ(名)　沽兒、うりあるくもの
うりこむ(他)　賣込、うりいれる
うりて(名)　賣手、賣人、賣主、うりぬし
うりさばく(他)　賣捌、發賣、うる、ひさぐ
うりさばき(名)　賣捌、消售、うること、發賣
うりざね(名)　瓜核、瓜瓣(瓜の中の實)、うりだね
うりざねかは(名)　瓜核顏、うりだねがは、ほそながきかは
うりさき(名)　賣先、かひて
うりきれ(形)　賣切、皆賣了、のこらずうりたる
うりきれる(形)　賣切、皆賣了、みなうれをはる
うりしろ(名)　賣代、うるもののわたひ、又うること
うりひろめる(形)　賣弘、うりつたへる
うりもの(名)　賣物、賣品、商品、賣貨、うりしな
うりもみ(名)　瓜揉、胡瓜等を切りて作れる食物)
うりすゑ(名)　賣居、すゑおきてうること(家等を)
うりん(名)　羽林(左右近衛府の唐名)
うぬぼれ(俗)(名形)　自惚、自慢、自負、高慢、じまん、ひとりぼめ、てぼめ
うる(他)　得獲、占得、てにいれる、ゐる、わたす、能、よくする、できる
うる(他)　賣售、鬻、ひさぐ、沽、沽却、賣却、てばなす
うるはし(他)　爲美、以爲善、よくおもふ

うるはしき(形)　美麗、婵娟、艷麗、華美、美好、嬌艷、爛熳、姣好、靡曼、うつくしき
うるほふ(自)　滋、濡、潤、沾濡、潤澤、浸潤、厭泥、浸漬、ぬれる
うるほひ(名)　濕潤、ぬれ、又膏澤、ゆたかさ
うるち(名)　粳米、ただのこめ
うるりこ(名)　細魚(動物)
うるか(名)　江豚魚、いるか、鱘鱗(動物)
うるか(名)　鱒腸、しほづけうとのこ、はららご
うるむ(自)　痕、くろくなる(打傷が)、あざになる
うるむ(自)　潤、濕、うるほふ、みづをふくむ(目が涙にて潤ふをいふ)
うるまのくに　琉球國、りうきう、沖繩
うるふどし(名)　閏年(陰曆にて十三ヶ月ある年)
うるふづき(名)　閏月、歸餘(舊曆にて十二月の外に今一つある月をいふ)
うるごめ(名)　秔、うるしね、うるち、ただのこめ
うるあは(名)　粳粟、ねばらぬあは
うるさき(形)　煩、わづらはしき、厭煩
うるきぼし(名)　女宿(二十八宿の一にして西方に在り)
うるきび(名)　穆、ねばらぬきび、ただのきび
うるめ(名)　鰮、鮻、うその な(動物)
うるみしゆ(名)　黝朱(赤黑色をいふ)
うるし(名)　漆(木より取りたる脂にて物を塗るに用ふ)
うるしいし(名)　烏石、くろいし、からすいし
うるしばけ(名)　漆刷毛、鬃毫、うるしぬるはけ
うるしをけ(名)　漆桶、うるしいれをけ
うるしかぶれ(名)　漆瘡、うるしかせ、うるしふきで
うるしかき(名)　漆坂、うるしとり、漆戶、うるしをとるひと
うるしね(名)　秔、うるごめ、粳、うるち(植物)
うるしのき(名)　漆樹(植物)
うるしや(名)　漆屋、ぬしや、うるしぬるひと
うるしこし(名)　漆布、うるしこすぬの
うるもち(名)　餈、こめのもち、しんこ
うを(名)　魚、いを、さかな、うろくづ
うをいちば(名)　魚市場、さかないち
うをとり(名)　漁父、漁夫、漁翁、漁人、さかなとり、れふし、むらぎみ、漁子、魚竪
うをどひや(名)　魚問屋、魚牙、さかなどひや
うをかご(名)　魚籠、魚籃、さかなかご
うをがし(名)　魚河岸、さかながし
うをだな(名)　魚市、鮑魚市、さかなまち
うをつり(名)　釣徒、釣客、釣叟、釣人、釣者、つりびと
うをうり(名)　魚戶、賣魚人、さかなうり
うをのこ　魚子、鮴、鱖、鰷、さかなのこ、ばららご
うをのめ(名)　魚目、石魄、魚眼疣、疣目、鷄眼、まめ(身體に出る)
うをや(名)　魚屋、魚舖、さかなや
うをあきんど(名)　魚商、さかなや、さかなうり
うをあみ(名)　魚網、さかなあみ、うをとるあみ
うわ　宇和(氏)
うわる(自)　植、うゑてある
うわうさわう(副)　右往左往、あちらこちら
うか(名)　食、くひもの(古語)